

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成30年5月1日現在)

名城大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。
平成31年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成30年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]・脚注を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]・脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第3位を四捨五入して小数点第2位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号を付してください。
 - ・両面印刷して、加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況 2-1 在籍状況 2-2 学生受入状況 2-3 学籍異動状況 2-4 学士課程修了(卒業)状況	9
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOs に該当する科目	13
基礎資料 4	カリキュラム・マップ	109
基礎資料 5	語学教育の要素	116
基礎資料 6	実務実習事前学習のスケジュール	118
基礎資料 7	学生受入状況について（入学試験種類別）	121
基礎資料 8	教員・職員の数	122
基礎資料 9	専任教員の構成	123
基礎資料10	教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）	124
基礎資料11	卒業研究の配属状況および研究室の広さ	138
基礎資料12	講義室等の数と面積	139
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	141
基礎資料14	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	142
基礎資料15	専任教員の教育および研究活動の業績	143

		1 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(選)人間と環境	前期	134-139	2	273	コ	ベ・グ	ブ	2	
	(選)コンピュータリテラシー	前期	70-71	2	141	コ	演		2	
	(選)情報活用リテラシー	前期	64-68	2	132	コ	演		2	
	(選)心の科学	前期	134-138	2	272	コ			2	
	(選)経営と社会	前期	134-138	2	272	コ	演		2	
	(選)法と社会	前期	134-138	2	272	コ			2	
	(選)数と論理	後期	137-140	2	277	コ			2	
	(選)芸術文化論	後期	275	1	275	コ			2	
	(選)ジェンダーと社会	後期	276	1	276	コ	ベ・グ	ブ	2	
	(選)教養演習Ⅰ(薬学生のスタディスキル)	前期	32-36	8	273		演		2	
	(選)教養演習Ⅱ(医療英語入門)	後期	67-72	4	277	コ	演		2	
	(選)英語初級Ⅰ-Ⅰ(リーディング)	前期	27-31	2	58		演		1	
	(選)英語初級Ⅰ-Ⅱ(コミュニケーション)	前期	27-31	2	58		演		1	
	(選)英語初級Ⅰ-Ⅱ(リーディング)	後期	27-31	2	58		演		1	
	(選)英語初級Ⅰ-Ⅱ(コミュニケーション)	後期	27-31	2	58		演		1	
	(選)英語初級Ⅱ-Ⅰ(リーディング)	前期	24	2	48		ベ・グ	ブ	1	
	(選)英語初級Ⅱ-Ⅰ(コミュニケーション)	前期	24	2	48		演		1	
	(選)英語初級Ⅱ-Ⅱ(リーディング)	後期	25	2	50		ベ・グ	ブ	1	
	(選)英語初級Ⅱ-Ⅱ(コミュニケーション)	後期	25	2	50		演		1	
	(選)英語中級Ⅰ(リーディング)	前期	26-30	6	168	コ	演	ベ・グ	1	
	(選)英語中級Ⅰ(コミュニケーション)	前期	26-30	6	168		演	ベ・グ	1	
	(選)英語中級Ⅱ(リーディング)	後期	27-30	6	169	コ	演	ベ・グ	1	
	(選)英語中級Ⅱ(コミュニケーション)	後期	27-30	6	169		演	ベ・グ	1	
基礎物理	前期	135-140	2	275	コ			1.5		
基礎化学	前期	67-71	4	275	コ	演		1.5		
基礎生物	前期	134-142	2	276	コ	ベ・グ	ブ	1.5		
薬剤師の使命Ⅰ	前期	134-139	2	273	コ	S	ベ・グ	1.5		
薬剤師の使命Ⅱ	後期	277	1	277	コ	演	見・体	1.5		
薬学概論Ⅰ	前期	273	1	273	コ	演	ベ・グ	1		
薬学概論Ⅱ	後期	277	1	277	コ	ベ・グ		1		
コミュニケーション基礎	前期	273	1	273	コ	見・体	ベ・グ	1		
キャリア形成	後期	276	1	276	コ	ベ・グ	ブ	1		
健康・スポーツ科学Ⅰ	前期	51-88	4	273	コ	実		1		
健康・スポーツ科学Ⅱ	後期	52-88	4	277	コ	実		1		
(選)健康・スポーツ科学理論	前期	134-139	2	273	コ			2		
薬学専門教育	物理化学Ⅰ	後期	137-141	2	278	コ	演		1.5	
	基礎有機化学	後期	67-72	4	282	コ			1.5	
	機能形態学Ⅰ	前期	134-139	2	273	コ			1.5	
	機能形態学Ⅱ	後期	138-144	2	282	コ			1.5	
	生化学Ⅰ	後期	277	1	277	コ			1.5	
	生化学Ⅱ	後期	282	1	282	コ			1.5	
実習	入門実験	前期	67-70	4	273	コ	実		1	
演習	(選)基礎化学演習	後期	84-86	2	170		演		0.5	
	(選)基礎生物演習	後期	99	1	99		演		0.5	
	(選)基礎物理演習	後期	110	1	110		演		0.5	
	(選)機能形態学Ⅰ演習	後期	84	1	84		演		0.5	
単位数の合計								(必須科目)	23.5	
								(選択科目)	38	
								合計	61.5	

(凡例)			
講義=コ	PBL/SGD=S	ペアワーク・グループワーク=ベ・グ	
演習=演	実習=実	プレゼンテーション=ブ	
セミナー=セ	研究=研	見学・体験=見・体	

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。
 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

	2 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
学 育 教 育 教 育 語 教	(選)健康・スポーツ科学Ⅲ	前期	132-140	2	272	コ	実	1	
	(選)健康・スポーツ科学Ⅳ	前期集中	61	1	61	コ	実	1	
薬 学 専 門 教 育	物理化学Ⅱ	前期	139-146	2	285	コ	演	1.5	
	有機化学Ⅰ	前期	68-80	4	302	コ		1.5	
	有機化学Ⅱ	後期	70-76	4	297	コ	演	1.5	
	機能形態学Ⅲ	前期	138-147	2	285	コ		1.5	
	生化学Ⅲ	前期	143-153	2	296	コ		1.5	
	薬学英語Ⅰ	前期	140-145	2	285	コ		1.5	
	薬局方試験法	後期	303	1	303	コ		1.5	
	医薬資源化学	前期	139-150	2	289	コ		1.5	
	微生物学	前期	145-155	2	300	コ		1.5	
	分子生物学Ⅰ	前期	143-155	2	298	コ		1.5	
	分子生物学Ⅱ	後期	146-153	2	299	コ		1.5	
	社会保障と医療経済	前期	284	1	284	コ		1.5	
	薬用植物と生薬	前期	141-147	2	288	コ		1.5	
	構造解析学	後期	149-158	2	307	コ	演	1.5	
	免疫学	後期	147-159	2	306	コ		1.5	
	薬物動態学Ⅰ	後期	145-156	2	301	コ	ベ・グ	1.5	
	薬の作用	後期	147-156	2	303	コ		1.5	
	製剤学Ⅰ	後期	148-154	2	302	コ	演	1.5	
	分析化学	前期	143-152	2	295	コ		1.5	
	身体変化のメカニズム	後期	147	2	294	コ		1.5	
異常値のメカニズム	後期	145-149	2	294	コ		1.5		
環境科学	後期	143-148	2	291	コ	ブ	1.5		
(選)臨床心理・倫理学	前期	139-146	2	285	コ	ベ・グ ブ	1.5		
実 習	分析系基礎実習(分析化学)	前期	141-145	2	286	実	ブ	0.5	
	分析系基礎実習(生化学)	前期	141-146	2	287	実		0.5	
	化学系基礎実習(有機化学Ⅰ)	前期	138-145	2	283	実		0.5	
	化学系基礎実習(有機化学Ⅱ)	前期	138-145	2	283	実		0.5	
	生物系基礎実習(生理学)	後期	143-147	2	290	実		0.5	
	生物系基礎実習(微生物学)	後期	144-146	2	290	実		0.5	
	化学系応用実習(有機化学Ⅲ)	後期	143-146	2	289	実		0.5	
	化学系応用実習(天然物化学・生薬)	後期	143-146	2	289	実		0.5	
演 習	(選)物理化学Ⅰ 演習	前期	46	1	46	演		0.5	
	(選)物理化学Ⅱ 演習	後期	50	1	50	演		0.5	
	(選)基礎有機化学演習	前期	84-107	2	191	演		0.5	
	(選)有機化学Ⅰ 演習	後期	54-72	2	126	演		0.5	
	(選)機能形態学Ⅱ 演習	前期	92	1	92	演		0.5	
	(選)機能形態学Ⅲ 演習	後期	38	1	38	演		0.5	
	(選)生化学Ⅰ 演習	前期	10	1	10	演		0.5	
	(選)生化学Ⅱ 演習	前期	66	1	66	演		0.5	
	(選)生化学Ⅲ 演習	後期	107	1	107	演		0.5	
	(選)薬学英語Ⅰ 演習	後期	12	1	12	演		0.5	
	(選)医薬資源化学演習	後期	34	1	34	演		0.5	
	(選)微生物学演習	後期	86	1	86	演	ブ	0.5	
	(選)分子生物学Ⅰ 演習	後期	24	1	24	演	ベ・グ	0.5	
	(選)社会保障と医療経済演習	後期	5	1	5	演		0.5	
	(選)薬用植物と生薬演習	後期	44	1	44	演		0.5	
	(選)分析化学演習	後期	19	1	19	演		0.5	
	(選)応用演習1(機能形態学Ⅰ/Ⅱ)	前期	126	1	126	演		0.5	
	(選)応用演習2(生化学Ⅰ/Ⅱ)	前期	154	1	154	演		0.5	
	(選)応用演習3(物理化学Ⅰ/Ⅱ)	後期	46	1	46	演		0.5	
	(選)応用演習4(分析化学)	後期	6	1	6	演		0.5	
(選)応用演習5(医薬資源化学/薬用植物と生薬)	後期	171	1	171	演		0.5		
(選)応用演習6(基礎有機化学/有機薬学Ⅰ)	後期	49	1	49	演		0.5		
(選)応用演習7(機能形態学Ⅲ)	後期	138	1	138	演		0.5		
(選)応用演習8(生化学Ⅲ)	後期	101	1	101	演		0.5		
単 位 数 の 合 計							(必須科目)		37
							(選択科目)		15.5
							合計		52.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S ペアワーク・グループワーク=ベ・グ
 演習=演 実習=実 プレゼンテーション=ブ
 セミナー=セ 研究=研 見学・体験=見・体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。
 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加減し、記入してください。

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	有機薬化学Ⅲ	前期	60-76	4	267	コ	演		1.5
	薬学英語Ⅱ	後期	61-75	4	262		演		1.5
	薬物動態学Ⅱ	前期	266	1	266	コ			1.5
	製剤学Ⅱ	前期	128-133	2	261	コ			1.5
	生物有機化学	後期	137-139	2	276	コ			1.5
	感染予防学	前期	132-134	2	266	コ			1.5
	公衆衛生学	前期	129-133	2	262	コ	演	ベ・グ	1.5
	衛生化学Ⅰ	前期	124-132	2	256	コ	ベ・グ	ブ	1.5
	衛生化学Ⅱ	後期	137-138	2	275	コ			1.5
	薬理・病態Ⅰ	前期	128-135	2	263	コ	S		1.5
	薬理・病態Ⅱ	前期	125-133	2	258	コ			1.5
	薬理・病態Ⅲ	後期	125-129	2	266	コ			1.5
	薬理・病態Ⅳ	後期	125-129	2	254	コ			1.5
	薬理・病態Ⅴ	後期	138-139	2	277	コ			1.5
	薬理・病態Ⅵ	後期	137-139	2	276	コ			1.5
	薬剤学	前期	267	1	267	コ			1.5
	医薬品情報学	後期	126-135	2	261	コ	演		1.5
	製剤設計学	後期	266	1	266	コ			1.5
	医療法規	前期	125-132	2	257	コ			1.5
	(選)栄養学	後期	118-133	2	251	コ	見・体		1.5
(選)臨床コミュニケーション	後期	114-126	2	240	コ	見・体	ベ・グ	1.5	
実習	生物系応用実習(薬理1)	前期	132-124	2	256	実			0.5
	生物系応用実習(薬理2)	前期	132-124	2	256	実			0.5
	物理系基礎実習(物理化学)	前期	132-126	2	258	実			0.5
	物理系基礎実習(製剤)	前期	133-129	2	262	実			0.5
	分析系応用実習(環境科学)	後期	135-126	2	261	実	ブ		0.5
	分析系応用実習(衛生化学)	後期	135-131	2	266	実	見・体		0.5
	物理系応用実習(薬剤)	後期	136-126	2	262	実			0.5
	物理系応用実習(医薬品情報)	後期	135-126	2	261	実			0.5
演習	(選)有機薬化学Ⅱ演習	前期	21-54	2	75	演			0.5
	(選)有機薬化学Ⅲ演習	後期	18-33	2	51	演			0.5
	(選)薬局方試験法演習	前期	108	1	108	演	コ		0.5
	(選)分子生物学Ⅱ演習	前期	12	1	12	演			0.5
	(選)構造解析学演習	前期	24	1	24	演			0.5
	(選)免疫学演習	前期	31	1	31	演	ブ		0.5
	(選)薬物動態学Ⅰ演習	前期	72	1	72	演	ベ・グ		0.5
	(選)薬物動態学Ⅱ演習	後期	92	1	92	演	コ		0.5
	(選)薬の作用演習	前期	37	1	37	演	S		0.5
	(選)製剤学Ⅰ演習	前期	54	1	54	演			0.5
	(選)製剤学Ⅱ演習	後期	15	1	15	演			0.5
	(選)感染予防学演習	後期	41	1	41	演	ブ		0.5
	(選)公衆衛生学演習	後期	26	1	26	演	ベ・グ	ブ	0.5
	(選)衛生化学Ⅰ演習	後期	8	1	8	演			0.5
	(選)薬理・病態Ⅰ演習	後期	130	1	130	演			0.5
	(選)薬理・病態Ⅱ演習	後期	13	1	13	演			0.5
	(選)身体変化のメカニズム演習	前期	9	1	9	コ			0.5
	(選)異常値のメカニズム演習	前期	41	1	41	演			0.5
	(選)薬剤学演習	後期	40	1	40	演	コ		0.5
	(選)環境科学演習	前期	12	1	12	演			0.5
	(選)医療法規演習	後期	12	1	12	演			0.5
	(選)応用演習9(薬局方試験法/構造解析学)	前期	72	1	72	演			0.5
	(選)応用演習10(分子生物学Ⅰ/Ⅱ)	前期	50	1	50	演	コ		0.5
	(選)応用演習11(微生物学/免疫学)	前期	17	1	17	演	ブ		0.5
	(選)応用演習12(異常値/身体変化のメカニズム)	前期	149	1	149	演			0.5
	(選)応用演習13(有機薬化学Ⅱ/Ⅲ)	後期	22	1	22	演			0.5
	(選)応用演習14(環境科学/公衆衛生学)	後期	5	1	5	演	ベ・グ	ブ	0.5
(選)応用演習15(薬の作用/薬理・病態Ⅰ)	後期	50	1	50	演	S		0.5	
(選)応用演習16(薬物動態学Ⅰ/Ⅱ)	後期	60	1	60	演	コ	ベ・グ	0.5	
(選)応用演習17(製剤学Ⅰ/Ⅱ)	後期	127	1	127	演			0.5	
単位数の合計							(必須科目)		32.5
							(選択科目)		18
							合計		50.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S ベアワーク・グループワーク=ベ・グ
 演習=演 実習=実 プレゼンテーション=ブ
 セミナー=セ 研究=研 見学・体験=見・体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。
 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加減し、記入してください。

		4 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	和漢医薬学	前期	246	1	246	コ				1.5
	薬物投与設計	前期	246	1	246	コ	演			1.5
	セルフメディケーション・医療統計	後期	210	1	210	コ				1.5
	化学療法・緩和医療	後期	238	1	238	コ				1.5
	放射科学	前期	211	1	211	コ				1.5
	薬物治療マネジメント	前期	246	1	246	コ	S			10
	基礎薬学総論	後期	248	1	248	コ				3
	薬学卒業研究基礎	後期	1-14	25	246	セ				3
	実務実習事前講義・演習	後期	247	1	247	コ	演、実	S		4
	演習	(選)薬学英語Ⅱ演習	前期	15	1	15	演			
(選)生物有機化学演習		前期	54	1	54	演				0.5
(選)衛生化学Ⅱ演習		前期	37	1	37	演				0.5
(選)薬理・病態Ⅲ演習		前期	40	1	40	演				0.5
(選)薬理・病態Ⅳ演習		前期	67	1	67	コ				0.5
(選)薬理・病態Ⅴ演習		前期	125	1	125	コ				0.5
(選)薬理・病態Ⅵ演習		前期	32	1	32	演				0.5
(選)医薬品情報学演習		前期	2	1	2	演				0.5
(選)製剤設計学演習		前期	24	1	24	演				0.5
(選)応用演習18(生物有機化学/製剤設計学)		前期	109	1	109	演				0.5
(選)応用演習19(衛生化学Ⅰ/Ⅱ)		前期	90	1	90	演	S			0.5
(選)応用演習20(薬理・病態Ⅳ/感染予防学)		前期	15	1	15	演	コ	ブ		0.5
(選)応用演習21(薬剤学/医薬品情報学)		前期	87	1	87	演	コ			0.5
(選)応用演習22(薬理・病態Ⅱ/Ⅲ)		前期	107	1	107	コ				0.5
(選)応用演習23(薬理・病態Ⅴ/Ⅵ)		前期	20	1	20	演				0.5
単位数の合計								(必須科目)		27.5
								(選択科目)		7.5
								合計		35

(凡例)		
講義=コ	PBL/SGD=S	ペアワーク・グループワーク=ペ・グ
演習=演	実習=実	プレゼンテーション=プ
セミナー=セ	研究=研	見学・体験=見・体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-5) 学年別授業科目

	5年次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
薬学専門教育	(選)カルテを読む	前期	238	1	238	コ	S	ブ	1	
	(選)臨床薬局学 I	前期	242	1	242	コ			1	
	(選)臨床薬局学 II	前期	205	1	205	コ			1	
	(選)救命救急・院内感染予防	前期	226	1	226	コ	S	ベ・グ	1	
	(選)臨床栄養療法	前期	213	1	213	コ	演		1	
	(選)臨床薬剤学	前期	0	0	0		開講せず		1	
	(選)インターンシップ	前期	-	-	12	見・体			1	
	(選)機能分子探索化学	前期	0	0	0		開講せず		1	
	(選)機能分子合成化学	前期	228	1	228	コ	演		1	
	(選)薬用資源制御学	前期	158	1	158	コ	演		1	
	(選)臨床薬物治療学	前期	150	1	150	コ	演		1	
	(選)臨床薬物動態学	前期	88	1	88	コ	演		1	
	(選)臨床病態制御学	前期	48	1	48	コ			1	
	(選)薬物機能解析学	前期	105	1	105	コ			1	
	(選)環境生物制御学	前期	137	1	137	ブ	コ		1	
	(選)医療英語コミュニケーション	前期	50	1	50	演			1	
	(選)臨床医薬品情報学	前期	182	1	182	コ	演		1	
薬学卒業研究	集中	1-16	24	243	研	セ		6		
実習	実務実習 I	通年	64-94	3	243	実			10	
	実務実習 II	通年	64-94	3	243	実			10	
単位数の合計							(必須科目)			26
							(選択科目)			17
							合計			43

・「臨床栄養療法」「機能分子探索化学」は平成30年度は閉講。

(凡例)		
講義=コ	PBL/SGD=S	ペアワーク・グループワーク=ベ・グ
演習=演	実習=実	プレゼンテーション=プ
セミナー=セ	研究=研	見学・体験=見・体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

		6年次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	単位数	
薬学専門教育	(選)医療の最前線	後期	234	1	234	コ		1	
	(選)薬剤師と疾病予防	後期	0	0	0		開講せず	1	
	(選)社会と薬剤師	後期	0	0	0		開講せず	1	
	(選)薬剤師の専門性	後期	234	1	234	コ	S	1	
	(選)薬剤師をとりまく最近の話題	後期	0	0	0		開講せず	1	
	薬学特別講義	集中	234	1	234	コ		3	
	薬学卒業研究・演習	前期集中	1-16	24	233	研	セ	7	
単位数の合計								(必須科目)	10
								(選択科目)	5
								合計	15

・「薬剤師と疾病予防」「社会と薬剤師」「薬剤師をとりまく最近の話題」は平成30年度は開講。

(凡例)		
講義=コ	PBL/SGD=S	ペアワーク・グループワーク=ペ・グ
演習=演	実習=実	プレゼンテーション=プ
セミナー=セ	研究=研	見学・体験=見・体

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目 《平成27年度以降のカリキュラム》

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマンイズム教育・医療倫理教育	4	5
教養教育科目	19	31.5
語学教育科目	18	19
医療安全教育科目	3	3
生涯学習の意欲醸成科目	10	10
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	4	5

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	23.5	38	61.5
2 年 次	37	15.5	52.5
3 年 次	32.5	18	50.5
4 年 次	27.5	7.5	35
5 年 次	25	17.5	42.5
6 年 次	8	7	15
合計	153.5	103.5	257

(基礎資料1-7) 学年別授業科目 《平成26年度以前のカリキュラム》

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマンイズム教育・医療倫理教育	2	3
教養教育科目	15	24
語学教育科目	15	16
医療安全教育科目	6	6.5
生涯学習の意欲醸成科目	14	14
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	2	2.5

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	25	26	51
2 年 次	38.5	7	45.5
3 年 次	34	10	44
4 年 次	26.5	4	30.5
5 年 次	26	17	43
6 年 次	10	5	15
合計	160	69	229

(基礎資料2-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		265	265	250	250	250	250
入学時の学生数 ²⁾	A	274	292	269	285	278	296
在籍学生数 ³⁾	B	290	318	290	249	243	261
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	12	38	59	39	43	67
	休学による者 D	4	2	8	0	3	0
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	274	278	223	210	197	194
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	1.00	0.95	0.83	0.74	0.71	0.66
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	0.06	0.13	0.23	0.16	0.19	0.26

- 1)各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2)当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3)評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4)過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5)(在籍学生数) - {(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)}を記載してください。
ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
- 6)(ストレート在籍者数)/(入学時の学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。
- 7)(過年度在籍者数)/(在籍学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料2-2) 直近6年間の学生受入状況

入学年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均値 ⁵⁾
入学定員 A	250	250	250	250	265	265	
実入学者数 ¹⁾ B	296	278	285	269	292	274	282
入学定員充足率 ²⁾ B/A	1.18	1.11	1.14	1.08	1.10	1.03	1.11
編入学定員	0	0	0	0	0	0	
編入学者数 ³⁾ C+D+E	0	0	0	0	0	0	0
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料2-3) 評価実施年度の直近5年間における学年別の学籍異動状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	320	314	300	309	293
	休学者数 ²⁾	14	21	9	10	7
	退学者数 ²⁾	9	15	8	5	4
	留年者数 ²⁾	21	24	15	14	14
	進級率 ³⁾	0.86	0.81	0.89	0.91	0.91
2年次	在籍者数 ¹⁾	296	312	317	311	321
	休学者数 ²⁾	4	12	20	14	5
	退学者数 ²⁾	7	6	16	11	7
	留年者数 ²⁾	38	44	32	28	34
	進級率 ³⁾	0.83	0.80	0.79	0.83	0.86
3年次	在籍者数 ¹⁾	252	283	293	290	294
	休学者数 ²⁾	1	7	8	10	4
	退学者数 ²⁾	0	3	5	4	4
	留年者数 ²⁾	33	37	35	32	30
	進級率 ³⁾	0.87	0.83	0.84	0.84	0.87
4年次	在籍者数 ¹⁾	244	217	242	246	250
	休学者数 ²⁾	2	0	0	1	1
	退学者数 ²⁾	1	0	2	1	2
	留年者数 ²⁾	0	6	5	4	7
	進級率 ³⁾	0.99	0.97	0.97	0.98	0.96
5年次	在籍者数 ¹⁾	255	242	211	236	243
	休学者数 ²⁾	0	0	0	2	0
	退学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率 ³⁾	1	1	1	0.99	1

1) 在籍者数は、当該年度当初(4月1日)における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。

2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。
ただし、同一学生に複数の事象が発生した場合は、後の事象だけに算入してください。
なお、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は算入しないでください。

3) 進級率は、次式で計算した結果を、小数点以下第2位まで記入してください。

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / (\text{在籍者数})$$

(基礎資料2-4) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		260	255	243	211	235
学士課程修了(卒業)者数 B		236	216	208	184	223
卒業率 ²⁾ B/A		0.91	0.85	0.86	0.87	0.95
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	205	186	188	162	193
	7年	28	26	17	14	25
	8年	3	3	2	8	3
	9年以上	0	1	1	0	2
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		287	280	257	252	296
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		0.71	0.66	0.73	0.64	0.65

1) 9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた数字を記載してください。

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A) を小数点以下第2位まで記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D) を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目																							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																		
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ																								
(1) 生と死																								
【生命の尊厳】																								
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)																			薬学入門1					
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。																								
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。																								
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。																								
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)																								
【医療の目的】																								
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	薬学入門1																							
【先進医療と生命倫理】																								
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	薬学入門1																							
(2) 医療の担い手としてのこころ構え																								
【社会の期待】																								
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)													薬学入門2											
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)																								
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)																								
【医療行為に関わるこころ構え】																								
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	薬学入門1																							
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。																								
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。																								
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)																								
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)																								
【研究活動に求められるこころ構え】																								
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	薬学入門2																							
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)																								
3) 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)																								

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	薬学入門2					
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)	薬学入門2					
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)						
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	薬学入門2	臨床心理学	臨床コミュニケーション			
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	薬学入門2	臨床心理学	臨床コミュニケーション			
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)						
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)						
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	薬学入門2	臨床心理学	臨床コミュニケーション			
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)						
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)						
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。	薬学入門2		臨床コミュニケーション			
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)						
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	薬学入門2					
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)						
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学入門1					
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	薬学入門1 薬学入門2					
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。						
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。						
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	薬学入門1					
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	薬学入門1					
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。						
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学入門1					
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）						
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）						
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	薬学入門2					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）						
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）						
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）						
C 薬学専門教育						
【物理系薬学を学ぶ】						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	基礎化学1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 軌道の混成について説明できる。						
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。						
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。						
【分子間相互作用】						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 1	製剤学 1	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【原子・分子】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。						
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)						
6) 偏光および旋光性について説明できる。						
7) 散乱および干渉について説明できる。						
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。				基礎薬学総論 基礎薬学演習 7		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線の測定原理について説明できる。						
(2) 物質の状態 I						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。	物理化学 1 薬学入門II			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3) 仕事および熱の概念を説明できる。						
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6) 代表的な過程 (変化) における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)						
7) エンタルピーについて説明できる。						
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)						
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。						
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 1 薬学入門II			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)						
4) 熱力学第三法則について説明できる。						
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)						
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。						
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。	物理化学 1 薬学入門II	製剤学 1	物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一成分子系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。						
4) 物質の溶解平衡について説明できる。						
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。						
6) 界面における平衡について説明できる。						
7) 吸着平衡について説明できる。						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	物理化学 1 薬学入門II	物理化学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。						
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	物理化学 2	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 標準電極電位について説明できる。						
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。						
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。						
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	基礎物理学	製剤学 1 物理化学 2	物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。						
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。						
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。						
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。	製剤学 1 物理化学 2 物理化学 3		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 沈降現象について説明できる。						
3) 流動現象および粘度について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	薬学入門Ⅰ	物理化学2 分析化学 分析系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)						
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)						
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。						
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。						
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。						
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	薬学入門Ⅱ	物理化学2 分析化学	物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 沈殿平衡 (溶解度と溶解度積) について説明できる。						
3) 酸化還元電位について説明できる。						
4) 酸化還元平衡について説明できる。						
5) 分配平衡について説明できる。						
6) イオン交換について説明できる。						
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	薬学入門Ⅰ	薬局方試験法		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)	薬学入門Ⅰ	基礎薬学演習2 分析化学	物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。						
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 分析系基礎実習 基礎薬学演習2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
6) 電気滴定 (電位差滴定、電気伝導度滴定など) の原理、操作法および応用例を説明できる。						
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		薬局方試験法	分析系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。	薬学入門 1	医薬資源化学 基礎薬学演習 2 化学系基礎実習 分析化学	分析系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)						
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)			疾患と治療 2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			分析系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。						
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。						
9) 薬学領域で繁用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。						
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。				基礎薬学総論 基礎薬学演習 7		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)						
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		薬局方試験法 分析化学 基礎薬学演習2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。	薬学入門II	基礎化学2	生物有機化学 製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。						
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	薬学入門II		生物有機化学 製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。						
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						
C4 化学物質の性質と反応						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。						
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。						
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。						
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。						
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。						
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。						
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。						
2) キラリティーと光学活性を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明できる。						
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。						
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4) 錯体の安定定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。						
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	基礎化学2			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。						
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機薬化学1 基礎化学1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。						
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	化学系応用実習	有機化学2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	有機薬化学1 基礎化学2	化学系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)						
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎化学 1 有機薬化学 1	有機薬化学 2	有機薬化学 3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学 1	有機薬化学 2	有機薬化学 3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学 1	化学系応用実習	有機薬化学 3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機薬化学 1		有機薬化学 3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【マスペクトル】						
1) マスペクトルの概要と測定法を説明できる。		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明ができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマスペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)						
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		構造解析学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
C5 ターゲット分子の合成						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機薬化学 1	有機薬化学 II 化学系基礎実習 化学系応用実習	有機薬化学 3 基礎薬学演習 4	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。						
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。						
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。						
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)						
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	有機薬化学 1	有機薬化学 2 化学系基礎実習 化学系応用実習	有機薬化学 3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。						
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機薬化学 1	有機薬化学 2 疾患と治療 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	有機薬化学 I	有機薬化学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【光学活性化化合物】						
1) 光学活性化化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。		化学系応用実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)		化学系基礎実習 化学系応用実習	基礎薬学演習 4	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)						
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。	基礎化学2	医薬資源化学	医薬品化学 生物有機化学 基礎薬学演習6	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。						
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。	基礎化学2		医薬品化学 生物有機化学 基礎薬学演習6	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。						
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	基礎化学2		基礎薬学演習6 生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			基礎薬学演習6 生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。						
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。			医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬品化学 生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)						
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。						
3) β -ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。						
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	薬学入門 1	薬用植物と生薬		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生薬の歴史について概説できる。						
3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)		薬用植物と生薬 化学系応用実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。						
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)						
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		薬用植物と生薬		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		医薬資源化学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
【農薬、化粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。		薬用植物と生薬		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		薬用植物と生薬 化学系応用実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		医薬資源化学 薬用植物と生薬		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。						
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。						
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)		医薬資源化学 化学系応用実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。						
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。				基礎薬学総論 薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質 (ペニシリン、ストレプトマイシンなど) 生産の過程を概説できる。						
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。		微生物学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。	薬学入門1	化学系応用実習		基礎薬学総論 和漢医薬学		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方への応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。				基礎薬学総論 和漢医薬学		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
【生物系薬学を学ぶ】						
C8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	機能形態学1 機能形態学2	機能形態学3		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学1 機能形態学2			基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学1			基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学1 機能形態学2			基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学1	機能形態学3 分析系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学1	分析系基礎実習 機能形態学3		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学 1	機能形態学 3		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 肝臓、脾臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学 1	機能形態学 3		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【生殖系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学 1	機能形態学 3		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学 1	機能形態学 3		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学 1	機能形態学 3 分析系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【血液・造血系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学 1 機能形態学 2			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	基礎生物学	生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)						
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	基礎生物学 生化学 1 機能形態学 2	生化学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。						
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	基礎生物学			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	基礎生物学	分子生物学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	基礎生物学 機能形態学 2	生化学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	機能形態学 2		生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		分析系基礎実習 機能形態学 3	生物有機化学 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 血糖の調節機構を説明できる。						
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。	機能形態学 2	機能形態学 3 分析系基礎実習	生物有機化学 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。						
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。	機能形態学 2	機能形態学 3	生物有機化学 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。		機能形態学 3	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	機能形態学 2		生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。						
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学 生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) ウイルスの分類法について概説できる。						
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学 生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)						
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。						
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	基礎化学2 生化学1	生化学3	基礎薬学演習6 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	基礎化学2 生化学1	化学系応用実習	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	基礎化学2 生化学1	生化学3	基礎薬学演習6 生物有機化学 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【ビタミン】							
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。		生化学2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。							
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。							
(2) 生命情報を担う遺伝子							
【ヌクレオチドと核酸】							
1) 核酸塩基の代謝 (生合成と分解) を説明できる。		生化学3 分子生物学1	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) DNAの構造について説明できる。							
3) RNAの構造について説明できる。							
【遺伝情報を担う分子】							
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。		生化学2 分子生物学1 生物系基礎実習	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。							
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。							
4) 染色体の構造を説明できる。							
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。							
6) RNAの種類と働きについて説明できる。							
【転写と翻訳のメカニズム】							
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。		生化学2 分子生物学1	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。							
3) RNAのプロセシングについて説明できる。							
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。							
5) リボソームの構造と機能について説明できる。							
【遺伝子の複製・変異・修復】							
1) DNAの複製の過程について説明できる。		生化学2 分子生物学1 分子生物学2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 遺伝子の変異 (突然変異) について説明できる。							
3) DNAの修復の過程について説明できる。							
【遺伝子多型】							
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。		生化学2 分子生物学2 生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
(3) 生命活動を担うタンパク質							
【タンパク質の構造と機能】							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学 1	生化学 2	生物有機化学 基礎薬学演習 6	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生化学 1	分析系基礎実習	生物有機化学 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)						
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。	生化学 1	分子生物学 2 生化学 2 生化学 3	生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。						
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。						
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)	生化学 1		生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生化学 3		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【ATPの産生】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。		生化学3	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 解糖系について説明できる。						
3) クエン酸回路について説明できる。						
4) 電子伝達系 (酸化リン酸化) について説明できる。						
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。		生化学3		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 糖新生について説明できる。						
3) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。						
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。						
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理活性分子	基礎薬学演習3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オータコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	機能形態学2	医薬資源化学 生理活性分子 分子生物学2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。						
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の生合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンシン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	機能形態学 2	生理活性分子		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	機能形態学 2	生理活性分子 分子生物学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	機能形態学 2	生理活性分子 分子生物学 2 生化学 2	基礎薬学演習 6 基礎薬学演習 3 生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。						
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		分子生物学 2 生物系基礎実習	分析系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)						
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)						
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)						
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)						
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		分子生物学 2 生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞 (組織) における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		分子生物学2 生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
G10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
4) 免疫反応の特徴 (自己と非自己、特異性、記憶) を説明できる。						
5) クローン選択説を説明できる。						
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 (遺伝子再構成) を概説できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			感染予防学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主なワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。						
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。		免疫学 生物系基礎実習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)						
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		臨床心理学	衛生化学 1 病態栄養学 栄養学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			衛生化学 1 分析系応用実習 衛生化学 2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)						
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)						
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		微生物学	公衆衛生学 臨床微生物学 衛生化学 2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。						
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5) 化学物質 (重金属、残留農薬など) による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 人口静態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。						
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究 (コホート研究) の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マスキリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。			感染予防学 臨床微生物学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
G12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			衛生化学 2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			衛生化学 2 分析系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生化学 2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			衛生化学 2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)						
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。				基礎薬学総論 基礎薬学演習 7		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。			環境科学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。			環境科学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			環境科学 分析系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)						
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。			環境科学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)						
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			環境科学 分析系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 廃棄物の種類を列挙できる。			環境科学 感染予防学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)						
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			環境科学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
G13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		生体活性分子 薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物の代表的な投与方法 (剤形、投与経路) を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化 (崩壊、分散、溶解など) を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用 (有害作用)、毒性との関連について説明できる。		生体活性分子 薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
【動物実験】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)			生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方1 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。						
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方1	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)						
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方1 生物系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)						
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方1 医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方1	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。				基礎薬学総論 医薬品化学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(3) 薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬の効き方2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			医薬品化学 薬の効き方2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			医薬品化学 生物系応用実習 薬の効き方2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬の効き方2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			医薬品化学 生物系応用実習 薬の効き方2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬の効き方2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。				基礎薬学総論 医薬品化学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(4) 薬物の臓器への到達と消失						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。		薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散 (単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。		薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態 (血漿タンパク結合など) を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因 (血流量、タンパク結合性、分布容積など) について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)						
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的变化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。		薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因 (誘導、阻害、加齢、SNPsなど) について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。						
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。		薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 腎クリアランスについて説明できる。						
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。						
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。		薬物動態学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学 2 基礎薬学演習 6 物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)						
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)						
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)						
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。			物理系応用実習	基礎薬学総論 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)						
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。						
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)						
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい		疾患と治療 1				薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【症候と臨床検査値】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
1) 代表的な肝臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		分析系基礎実習	疾患と治療2 生物系応用実習 分析系応用実習			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 代表的な腎臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
3) 代表的な呼吸機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
4) 代表的な心臓機能検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べるることができる。							
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列举し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。							
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列举し、その検査値の臨床的意義を説明できる。							
11) 代表的なバイタルサインを列举できる。							
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)							
【薬物治療の位置づけ】							
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。			疾患と治療3	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)							
【心臓・血管系の疾患】							
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			医薬品化学 疾患と治療3	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック							
【血液・造血器の疾患】							
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療3	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。							
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓							
【消化器系疾患】							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 3 臨床微生物学	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 3	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 4	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症						
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 3 臨床微生物学	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 閉塞性気道疾患 (気管支喘息、肺気腫) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎 (かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。		生理活性分子	疾患と治療 3			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			医薬品化学 疾患と治療 3	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 3			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。		臨床心理学	医薬品化学 疾患と治療 4	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 4 臨床微生物学			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 4 臨床微生物学			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 4			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と治療 4 医薬品化学	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。			医薬品化学 疾患と治療 4 臨床微生物学			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 自己免疫疾患 (全身性エリテマトーデスなど) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と治療 4	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			疾患と治療 4			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			臨床微生物学			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			医薬品化学 臨床微生物学 感染予防学	薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			臨床微生物学			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			臨床微生物学 疾患と治療 4			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			臨床微生物学			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		微生物学	臨床微生物学			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				介護・看護・緩和医療 薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を挙げる。			基礎薬学演習6 医薬品化学	薬物治療学 介護・看護・緩和医療		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的なアルキル化薬を挙げる、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を挙げる、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を挙げる、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを挙げる、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を挙げる、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げる、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			医薬品化学	介護・看護・緩和医療 薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を挙げる、その症状を説明できる。						
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を挙げる。			医薬品情報	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品情報に関わっている職種を挙げる、その役割を説明できる。						
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を挙げる。						
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を挙げる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医薬品情報 物理系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を挙げる、それらの特徴を説明できる。						
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を挙げる、それらの特徴を説明できる。						
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を挙げる、その必要性を説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医薬品情報 物理系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)						
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)						
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報 物理系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)						
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)						
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医薬品情報	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						
3) 臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)						
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。						
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			医薬品情報 物理系応用実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)						
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報 物理系応用実習	基礎薬学総論 薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			医薬品情報 物理系応用実習	基礎薬学総論 薬物治療学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。 (知識・技能)						
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的要因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的要因について、例を挙げて説明できる。				基礎薬学総論 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的要因について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的要因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				基礎薬学総論 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				基礎薬学総論 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満など) に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				基礎薬学総論 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)				基礎薬学総論 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。		製剤学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。						
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。		製剤学 1		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。						
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		製剤学 1	物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末 X 線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)						
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。	薬学入門 1		製剤学 2 基礎薬学演習 6 製剤学 2 物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			製剤学2 物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			基礎薬学演習6 製剤学2 物理系基礎実習	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)						
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 腸溶剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。			製剤開発論 医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。			製剤開発論 医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品 (オーファンドラッグ) 開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			製剤開発論 医薬品化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。			製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			製剤開発論 製剤学2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。			製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品化学 製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。						
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			医薬品化学 製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			医薬品化学 製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について概説できる。						
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。			製剤設計学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。			製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
3) 治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。						
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。			製剤開発論	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。	基礎統計		医薬品情報	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。			医薬品情報	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。						
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)			医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。			医療法規 基礎薬学演習 7	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。		医療制度論	医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。		医療制度論	医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。		医療制度論	医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。			医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。			医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。			医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)			医療法規	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該当科目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	薬剤学	臨床倫理学 実務実習事前講義・演習	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。	薬剤学	実務実習事前講義・演習	
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)	薬剤学	実務実習事前講義・演習	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		実務実習事前講義・演習	
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		実務実習事前講義・演習	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	薬剤学 物理系応用実習 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。	薬剤学 基礎薬学演習6		
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	物理系応用実習 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3 年	4 年	5 年
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	薬剤学 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
8. 患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
9. 患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
11. 病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）	物理系応用実習 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	薬剤学 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。	薬剤学 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）	物理系応用実習 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
《疑義照会入門》			
5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
9. 疑義照会の流れを説明できる。	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
10. 疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）	基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
（４）医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		実務実習事前講義・演習	
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		実務実習事前講義・演習	
《特別な配慮を要する医薬品》			
3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	薬剤学	実務実習事前講義・演習	
4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。	薬剤学 基礎薬学演習6	実務実習事前講義・演習	
5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前講義・演習	
6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前講義・演習	
7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		実務実習事前講義・演習	
9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）	物理系応用実習	実務実習事前講義・演習	
10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		実務実習事前講義・演習	
《製剤化の基礎》			
12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習事前講義・演習	
13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習事前講義・演習	
14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）		実務実習事前講義・演習	
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）		実務実習事前講義・演習	
16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）		実務実習事前講義・演習	
《注射剤と輸液》			
17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）		実務実習事前講義・演習	
19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）		実務実習事前講義・演習	
《消毒薬》			
21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。		実務実習事前講義・演習	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
(5) リスクマネジメント			
《安全管理に注目する》			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列举し、その原因を説明できる。			
2. 誤りを生じやすい投薬例を列举できる。		実務実習事前講義・演習	
3. 院内感染の回避方法について説明できる。		実務実習事前講義・演習	
《副作用に注目する》			
4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務実習事前講義・演習	
《リスクマネジメント入門》			
5. 誤りを生じやすい調剤例を列举できる。		実務実習事前講義・演習	
6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）			
7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）		実務実習事前講義・演習	
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		実務実習事前講義・演習	
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列举できる。	物理系応用実習	実務実習事前講義・演習	
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列举できる。		実務実習事前講義・演習	
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）		実務実習事前講義・演習	
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）		実務実習事前講義・演習	
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）		実務実習事前講義・演習	
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列举できる。		実務実習事前講義・演習	
《患者情報の重要性に注目する》			
8. 服薬指導に必要な患者情報を列举できる。		実務実習事前講義・演習	
9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		実務実習事前講義・演習	
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		実務実習事前講義・演習	
《服薬指導入門》			
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		実務実習事前講義・演習	
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		実務実習事前講義・演習	
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		実務実習事前講義・演習	
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		実務実習事前講義・演習	
(7) 事前学習のまとめ			
		実務実習事前講義・演習	

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬剤師の使命2 薬学概論1					
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	キャリア形成					
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬剤師の使命2 薬学概論1 キャリア形成		臨床コミュニケーション			
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論2					
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬剤師の使命2 薬学概論1		臨床コミュニケーション			
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	キャリア形成					
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬剤師の使命1 薬剤師の使命2 薬学概論1 キャリア形成 コミュニケーション基礎 薬学概論2					
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。						
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬剤師の使命1 薬剤師の使命2					
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	薬学概論1					
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	キャリア形成					
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。						
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬剤師の使命1 薬剤師の使命2 薬学概論1 キャリア形成 薬学概論2					
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	薬剤師の使命1 薬剤師の使命2 薬学概論1 キャリア形成					
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)						
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。						
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。						
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	薬剤師の使命1 薬学概論1					
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬剤師の使命1 薬学概論1					
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	薬学概論2					
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬剤師の使命1					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論1					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	キャリア形成					
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)						
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)						
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学概論2	臨床心理・倫理学				
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	薬学概論2	臨床心理・倫理学	医療法規			
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。						
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。						
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学概論2	臨床心理・倫理学				
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。						
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。						
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)						
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学概論2	臨床心理・倫理学				
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度)						
【③情報関係の概要】						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	コミュニケーション基礎		臨床コミュニケーション			
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。						
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。						
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)						
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)						
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)						
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)						
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)						
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	コミュニケーション基礎		臨床コミュニケーション			
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	薬剤師の使命1 薬学概論2					
【④多職種連携協働とチーム医療】						カルテを読む
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	薬学概論1		臨床コミュニケーション	薬物治療マネジメント	カルテを読む	
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。						
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)						
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)						臨床コミュニケーション
【⑤自己研鑽と次世代を担う人材の育成】						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関する問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学概論1 キャリア形成		物理系応用実習(医薬品情報)	薬物治療マネジメント 薬学卒業研究基礎	薬学卒業研究1	薬学卒業研究2
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)						
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)						
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)						
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)						
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学概論1					
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)						
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学概論1 キャリア形成			薬学卒業研究基礎	薬学卒業研究1	薬学卒業研究2
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)						
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	薬学概論1			薬学卒業研究基礎	薬学卒業研究1	薬学卒業研究2
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	薬学概論 2		医療法規			
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)						
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)						
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)						
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)						
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	薬学概論 1 薬学概論 2		医療法規	基礎薬学総論		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。						
4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。						
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。						
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。						
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品)の定義について説明できる。	薬学概論 1 薬学概論 2		医療法規	基礎薬学総論		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。						
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。						
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。						
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。						
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。						
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。						
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。						
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。						
10) 健康被害救済制度について説明できる。						
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。						
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	薬学概論 2		医療法規	基礎薬学総論		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。						
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。						
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	社会保障と医療経済		医療法規	基礎薬学総論		
2) 医療保険制度について説明できる。						
3) 療養担当規則について説明できる。						
4) 公費負担医療制度について概説できる。						
5) 介護保険制度について概説できる。						
6) 薬価基準制度について概説できる。						
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。						
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	社会保障と医療経済		医薬品情報学	基礎薬学総論		
2) 国民医療費の動向について概説できる。						
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。						
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。						
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	薬剤師の使命 1 薬学概論 1			セルフメディケーション・医療統計 基礎薬学総論	セルフケア・介護	
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。						
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。						
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。						
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。						
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。	薬剤師の使命 1 薬学概論 1			基礎薬学総論		
2) 在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。						
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。						
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	基礎化学演習					
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	基礎化学			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	基礎化学					
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	基礎化学			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学 1	薬局方試験法		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。		薬局方試験法				
5) 光の散乱および干渉について説明できる。						
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。						
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射線について説明できる。				基礎薬学総論 放射科学		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射線核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。						
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。						
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 熱力学第三法則について説明できる。						
4) ギブズエネルギーについて説明できる。						
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。						
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物理化学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。						
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学 2				
4) 共役反応の原理について説明できる。						
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 相平衡と相律について説明できる。	物理化学 2 物理化学 2 演習					
3) 状態図について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	物理化学 1	物理化学 2 物理化学 2 演習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学 2 物理化学 2 演習 分析化学				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		物理化学 2 物理化学 2 演習				
4) イオン強度について説明できる。		物理化学 2 物理化学 2 演習 分析化学				
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理化学 2 物理化学 2 演習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		物理化学 2 物理化学 2 演習 分析化学				
【③物質の変化】						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学 2 演習 物理化学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)			物理系基礎実習 (物理化学)			
5) 代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。			物理化学 2 演習			
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。			物理化学 2 演習 物理化学 2			
7) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。			物理化学 2			
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	入門実験	分析系基礎実習 (分析化学)	物理系基礎実習 (物理化学)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)		分析系基礎実習 (生化学)	物理系基礎実習 (製剤) 物理系応用実習 (薬剤)			
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学	物理系基礎実習 (物理化学)			
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	基礎化学	分析系基礎実習 (分析化学) 物理化学 2 演習 分析化学 物理化学 2 薬局方試験法		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)		分析系基礎実習 (分析化学) 物理化学 2 演習 薬局方試験法 分析化学 分析化学演習 物理化学 2				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)		分析系基礎実習 (分析化学) 物理化学 2 演習 薬局方試験法 物理化学 2				
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。		物理化学 2 演習 分析化学 分析化学演習 物理化学 2				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	入門実験	分析系基礎実習 (分析化学)	物理系基礎実習 (物理化学)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 沈殿平衡について説明できる。		物理化学2	物理系基礎実習 (製剤)			
3) 酸化還元平衡について説明できる。		物理化学2				
4) 分配平衡について説明できる。		薬局方試験法 分析化学 物理化学2				
【(3) 化学物質の定性分析・定量分析】						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		薬局方試験法		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再)
2) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		薬局方試験法				薬学特別講義
【②定量分析 (容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析系基礎実習 (分析化学)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学				
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析系基礎実習 (分析化学)				
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析系基礎実習 (分析化学)				
5) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		分析化学				
6) 日本薬局方記載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析系基礎実習 (分析化学)				
7) 日本薬局方記載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		薬局方試験法				
【(4) 機器を用いる分析法】						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析系基礎実習 (分析化学)	構造解析学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学演習 構造解析学 分析化学				
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学演習 分析化学 薬局方試験法	構造解析学演習 分析系応用実習 (環境科学)			
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		構造解析学	構造解析学演習			
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		薬局方試験法	構造解析学演習			
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方記載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		構造解析学	構造解析学演習 物理系基礎実習 (製剤)			
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		構造解析学	構造解析学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		構造解析学 応用演習 4 (分析化学)	分析系応用実習 (環境科学) 構造解析学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再)
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。						薬学特別講義
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再)
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	入門実験	化学系基礎実習 (有機化学1) 分析化学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		化学系基礎実習 (有機化学1)				
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析系基礎実習 (分析化学) 分析化学演習 応用演習4 (分析化学) 分析化学				
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		応用演習4 (分析化学)				
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		分析系基礎実習 (分析化学) 分析系基礎実習 (生化学) 化学系基礎実習 (有機化学1) 化学系基礎実習 (有機化学2) 化学系応用実習 (有機化学3) 化学系応用実習 (天然物化学・生薬)	分析系応用実習 (環境科学)			
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		分析系基礎実習 (生化学)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析系基礎実習 (生化学) 異常値のメカニズム 応用演習4 (分析化学) 分析化学	応用演習12 (異常値/身体変化のメカニズム) 異常値のメカニズム演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		異常値のメカニズム 応用演習4 (分析化学) 分析化学	応用演習12 (異常値/身体変化のメカニズム)			
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		異常値のメカニズム 応用演習4 (分析化学)	異常値のメカニズム演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		分析系基礎実習 (生化学) 分析化学演習 異常値のメカニズム 応用演習4 (分析化学) 分析化学	異常値のメカニズム演習 応用演習12 (異常値/身体変化のメカニズム)			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		異常値のメカニズム 応用演習4 (分析化学)				
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		異常値のメカニズム	異常値のメカニズム演習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎有機化学	有機薬化学 1 化学系応用実習 (有機化学 3) 薬局方試験法	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。						
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	基礎化学演習 基礎化学	化学系応用実習 (有機化学 3)				
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。		化学系応用実習 (有機化学 3) 薬局方試験法				
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	基礎有機化学	化学系応用実習 (有機化学 3)				
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	基礎有機化学	化学系応用実習 (有機化学 3)				
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。		有機薬化学 1 化学系応用実習 (有機化学 3)				
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	基礎有機化学	化学系応用実習 (有機化学 3)				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	基礎化学演習 基礎化学 基礎有機化学	化学系応用実習 (有機化学 3)				
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	基礎有機化学	化学系応用実習 (有機化学 3)	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。		化学系応用実習 (有機化学 3)				
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。		応用演習 6 (基礎有機化学/ 有機薬化学 1)				
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。		化学系基礎実習 (有機化学 2) 応用演習 6 (基礎有機化学/ 有機薬化学 1)				
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)		化学系基礎実習 (有機化学 2)				
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。		化学系応用実習 (天然物化学・生薬)				
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)		応用演習 6 (基礎有機化学/ 有機薬化学 1)				
8) エタン、ブタン、プタンの立体配座とその安定性について説明できる。						
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	基礎有機化学	有機薬化学 1 応用演習 6 (基礎有機化学/ 有機薬化学 1)	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)						
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)		化学系基礎実習 (有機化学 2) 化学系応用実習 (天然物化学・生薬)				
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機薬化学 1 応用演習 6 (基礎有機化学/ 有機薬化学 1)	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機薬化学 1				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。						
2) 芳香族性の概念を説明できる。						
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機薬化学2	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	基礎有機化学	有機薬化学2	生物有機化学 有機薬化学3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		化学系基礎実習 (有機化学2)				
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	基礎有機化学	有機薬化学2 応用演習6 (基礎有機化学/ 有機薬化学1)	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 脱離反応の特徴について説明できる。		応用演習6 (基礎有機化学/ 有機薬化学1)				
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	有機薬化学2 薬局方試験法	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】			有機薬化学3			
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学1 有機薬化学2 薬局方試験法				
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学1	生物有機化学 有機薬化学3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学1 化学系基礎実習 (有機化学1) 薬局方試験法				
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			生物有機化学 有機薬化学3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		有機薬化学2	生物有機化学 有機薬化学3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎化学演習 基礎化学		生物有機化学 有機薬化学3	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。						
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		構造解析学				
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		構造解析学 化学系応用実習 (天然物化学・生薬)	生物有機化学 構造解析学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。		構造解析学				
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)		構造解析学 化学系応用実習 (天然物化学・生薬)				
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		構造解析学				
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		構造解析学 化学系応用実習 (天然物化学・生薬)	生物有機化学 構造解析学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。			生物有機化学 構造解析学演習 分析系応用実習 (環境科学)			
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)			生物有機化学 構造解析学演習			
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。		構造解析学	生物有機化学 構造解析学演習 分析系応用実習 (環境科学)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)			生物有機化学 構造解析学演習			
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		構造解析学	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。						
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	基礎化学		生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。						
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
04 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。		分析系基礎実習(生化学)				
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。						
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。						
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。			生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。						
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】			生物有機化学			
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。						
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。	基礎有機化学		生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【②酵素阻害剤と作用様式】			生物有機化学			
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。				基礎薬学総論 薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。						
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。				薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。		薬局方試験法		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。				薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。						
2) バイオアインスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。						
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。		薬局方試験法			基礎薬学総論 薬物治療マネジメント（医薬品化学）	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1)ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			生物有機化学			
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					基礎薬学総論 薬物治療マネジメント（医薬品化学）	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。					基礎薬学総論 薬物治療マネジメント（医薬品化学）	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNA と結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			生物有機化学		基礎薬学総論	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。					基礎薬学総論	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。		薬用植物と生薬 薬用植物と生薬演習				
2) 代表的な薬用植物を外形態から説明し、区別できる。（知識、技能）		薬用植物と生薬			基礎薬学総論	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
3) 植物の主な内部形態について説明できる。						
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。		薬用植物と生薬				
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		薬用植物と生薬 薬用植物と生薬演習			基礎薬学総論	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。		薬用植物と生薬 薬用植物と生薬演習 応用演習5（医薬資源化学/ 薬用植物と生薬）			基礎薬学総論	薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4)生薬の同定と品質評価						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		薬用植物と生薬		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		薬用植物と生薬 薬用植物と生薬演習				
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		薬用植物と生薬 薬用植物と生薬演習 化学系応用実習(天然物化学・生薬)				
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。						
(2)薬の宝庫としての天然物						
(1)生薬由来の生物活性物質の構造と作用						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		医薬資源化学 医薬資源化学演習				
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
(2)微生物由来の生物活性物質の構造と作用						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。		医薬資源化学 生物系基礎実習(微生物学)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		医薬資源化学				
(3)天然生物活性物質の取扱い						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)		医薬資源化学 化学系応用実習(天然物化学・生薬)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(4)天然生物活性物質の利用						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		医薬資源化学 応用演習5(医薬資源化学/ 薬用植物と生薬)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						
3) 農薬や香料品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		医薬資源化学				
C6 生命現象の基礎						
(1)細胞の構造と機能						
(1)細胞膜						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	基礎生物 機能形態学2 生化学2	機能形態学2演習 生化学2演習		基礎薬学総論 薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。						
(2)細胞小器官						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	基礎生物 機能形態学2	基礎生物 機能形態学2		基礎薬学総論 薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(3)細胞骨格						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	基礎生物 機能形態学2 生化学2	機能形態学2演習 生化学2演習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2)生命現象を担う分子						
(1)脂質						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学1 基礎生物		生物有機化学	基礎薬学総論 薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2)糖質						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学1 基礎生物	分析系基礎実習(生化学)	生物有機化学	基礎薬学総論 薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。				生物有機化学	基礎薬学総論 薬物治療マネジメント(医薬品化学)	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学1 基礎生物	分析系基礎実習 (生化学)	生物有機化学	基礎薬学総論 薬物治療マネジメント (医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造 (一次、二次、三次、四次構造) と性質を説明できる。	生化学2 基礎生物	分析系基礎実習 (生化学) 生化学2演習	生物有機化学	基礎薬学総論 薬物治療マネジメント (医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸 (DNA, RNA) の種類、構造、性質を説明できる。	基礎生物	分子生物学1 分子生物学1演習	生物有機化学	基礎薬学総論 薬物治療マネジメント (医薬品化学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学1		生物有機化学 衛生化学1	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学1		生物有機化学 衛生化学1	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		分析系基礎実習 (生化学) 応用演習2 (生化学1/2)	生物有機化学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【③ 生命活動を担うタンパク質】						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。	生化学2 基礎生物	生化学2演習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。	生化学2	生化学2演習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学2	生化学2演習 分析系基礎実習 (生化学) 異常値のメカニズム	異常値のメカニズム演習			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 酵素反応における補酵素、微量元素の役割を説明できる。				基礎薬学総論		
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。		生化学2演習				
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生化学2演習 分析系基礎実習 (生化学)				
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生化学2 基礎生物	生化学2演習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。	生化学2					
【④ 生命情報を担う遺伝子】						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	基礎生物	分子生物学1 分子生物学1演習	生物系応用実習 (薬理2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。	基礎生物	分子生物学1 分子生物学1演習		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。						
3) RNAの種類 (hnRNA, mRNA, rRNA, tRNA など) と機能について説明できる。		分子生物学1				
【③遺伝子の複製】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	基礎生物	分子生物学1 分子生物学1演習	応用演習10 (分子生物学1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	基礎生物	分子生物学1 分子生物学1演習	応用演習10 (分子生物学1/2)			
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
3) 転写因子による転写制御について説明できる。						
4) RNAのプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。		分子生物学1演習 分子生物学1	生物系応用実習 (薬理2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎生物		生物系応用実習 (薬理2) 応用演習10 (分子生物学1/2)			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。		分子生物学2 分子生物学1	生物系応用実習(薬理2) 応用演習10(分子生物学1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。		分子生物学2	生物系応用実習(薬理2)	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。						
【⑤ 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系】						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	基礎生物	生化学3 生化学3演習 応用演習8(生化学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【②ATP の産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		生化学3 生化学3演習 応用演習8(生化学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。						
3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。						
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生化学3 生化学3演習 応用演習8(生化学3) 分析系基礎実習(生化学)				
5) 糖新生について説明できる。						
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生化学3 生化学3演習 応用演習8(生化学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学3 生化学3演習 応用演習8(生化学3) 分析系基礎実習(生化学)				
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生化学3 生化学3演習 応用演習8(生化学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生化学3 生化学3演習 応用演習8(生化学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。						
3) ペントースリン酸回路について説明できる。						
【⑥細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達】						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	機能形態学2	機能形態学2演習 生化学2演習		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学2	機能形態学2演習 薬の作用 応用演習1(機能形態学1/2) 分子生物学2 薬の作用 分子生物学2	応用演習10(分子生物学1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生化学2演習		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生化学2					
【⑦細胞の分裂と死】						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	基礎生物	分子生物学2		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。		分子生物学2 分子生物学1 分子生物学1演習	応用演習10(分子生物学1/2)			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②細胞死】						
1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。		分子生物学 2		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義 (再)
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		分子生物学 2				薬学特別講義
G7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	基礎生物	分子生物学 1				
2) 遺伝子多型について概説できる。		分子生物学 1 分子生物学 1 演習	応用演習 10 (分子生物学 1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		分子生物学 1				
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習	機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習 機能形態学 2	機能形態学 2 演習 生物系基礎実習 (生理学)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)	入門実験	生物系基礎実習 (生理学)	生物系応用実習 (薬理 1)			
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)						
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習 機能形態学 2	機能形態学 2 演習 応用演習 1 (機能形態学 1/2)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。		機能形態学 2 演習 応用演習 1 (機能形態学 1/2) 生物系基礎実習 (生理学)				
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習 機能形態学 2	機能形態学 2 演習 応用演習 1 (機能形態学 1/2) 生物系基礎実習 (生理学)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習 機能形態学 2	機能形態学 2 演習 応用演習 1 (機能形態学 1/2) 機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	入門実験 機能形態学 1 機能形態学 1 演習	機能形態学 3 生物系基礎実習 (生理学) 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 血管系について概説できる。		機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)				
3) リンパ管系について概説できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習	機能形態学 3 生物系基礎実習 (生理学) 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学 1 機能形態学 1 演習	機能形態学 3 応用演習 1 (機能形態学 1/2)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。		機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)				
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	入門実験 機能形態学 1 機能形態学 1 演習	機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。	機能形態学 1	機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学 1	機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学 1			基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。		機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 2	機能形態学 2 演習 応用演習 1 (機能形態学 1/2)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。						
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学 3 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学 3 生物系基礎実習 (生理学) 機能形態学 3 演習 応用演習 7 (機能形態学 3)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。		機能形態学3 分析系基礎実習(生化学) 機能形態学3演習 応用演習7(機能形態学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。		機能形態学3 機能形態学3演習 応用演習7(機能形態学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学2	機能形態学3 機能形態学2演習 応用演習1(機能形態学1/2) 生物系基礎実習(生理学) 機能形態学3演習 応用演習7(機能形態学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		機能形態学3 生物系基礎実習(生理学) 機能形態学3演習 応用演習7(機能形態学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。		機能形態学3 機能形態学3演習 応用演習7(機能形態学3)		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。						
2) 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。						
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学				
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学	感染予防学演習	基礎薬学総論 製剤設計学演習		
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		基礎薬学総論		
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。				基礎薬学総論 製剤設計学演習		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
4) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。		免疫学 分析系基礎実習(生化学)		基礎薬学総論		
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学				
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど)について説明できる。		免疫学	感染予防学 感染予防学演習 製剤設計学	基礎薬学総論 製剤設計学演習		
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。				基礎薬学総論		
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			製剤設計学	基礎薬学総論 製剤設計学演習		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法(ELISA 法、ウエスタンブロット法など)を実施できる。(技能)		免疫学 分析系基礎実習(生化学)		基礎薬学総論		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 微生物の基本						
(1) 総論						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。			感染予防学 感染予防学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2) 細菌						
1) 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。		微生物学 生物系基礎実習 (微生物学)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学				
3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。						
4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学 生物系基礎実習 (微生物学)				
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学				
(3) ウイルス						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学	感染予防学 感染予防学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(4) 真菌・原虫・蠕虫						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。						
(5) 消毒と滅菌						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学 生物系基礎実習 (微生物学)	感染予防学 感染予防学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						
(6) 検出方法						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		生物系基礎実習 (微生物学)		基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
(4) 病原体としての微生物						
(1) 感染の成立と共生						
1) 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。			感染予防学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						
(2) 代表的な病原体						
1) DNA ウイルス (ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど) について概説できる。		微生物学	感染予防学 感染予防学演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) RNA ウイルス (ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など) について概説できる。						
3) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など) について概説できる。						
4) グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。						
5) グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。						
6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。						
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など) について概説できる。						
9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学			
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。						
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。						
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。						
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
(2) 疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学			
2) 健康増進政策 (健康日本21など) について概説できる。			公衆衛生学 栄養学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【②感染症とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。				基礎薬学総論		
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			薬理・病態6	基礎薬学総論 薬理・病態6演習		
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			感染予防学 感染予防学演習	基礎薬学総論		
【③生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。						
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)						
【④母子保健】						
1) 新生児マスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再)
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			薬理・病態6 公衆衛生学	基礎薬学総論 薬理・病態6演習		薬学特別講義 薬学特別講義
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。						
2) 労働衛生管理について説明できる。			公衆衛生学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(3) 栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	基礎生物					
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。			衛生化学1演習 衛生化学1			
4) 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。						
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。						
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			衛生化学1演習 衛生化学1 栄養学	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			衛生化学1演習 衛生化学1			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			衛生化学1 演習 分析系応用実習 (衛生化学) 衛生化学1			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生化学1 演習 分析系応用実習 (衛生化学) 衛生化学1	基礎薬学総論		
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。						
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生化学1 演習 分析系応用実習 (衛生化学)	基礎薬学総論 応用演習19 (衛生化学1 / 2)		
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生化学1 演習 分析系応用実習 (衛生化学)			
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生化学1	基礎薬学総論		
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生化学1 演習 分析系応用実習 (衛生化学)	基礎薬学総論 応用演習19 (衛生化学1 / 2)		
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。				薬理・病態6	基礎薬学総論 薬理・病態6 演習	薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		微生物学	衛生化学1		基礎薬学総論	
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。					基礎薬学総論 応用演習19 (衛生化学1 / 2)	
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			衛生化学2			薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			衛生化学2 分析系応用実習 (環境科学)	基礎薬学総論 応用演習19 (衛生化学1 / 2)		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			衛生化学2			
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)			衛生化学2			
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			衛生化学2 分析系応用実習 (衛生化学)			
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。						
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)						薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生化学2	基礎薬学総論 応用演習19 (衛生化学1 / 2)		
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。		環境科学				
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。			衛生化学2	基礎薬学総論		
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。		分子生物学2				
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。						薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。			衛生化学2	基礎薬学総論 放射科学		
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。		環境科学				
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。		環境科学		基礎薬学総論		
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)				分析系応用実習 (衛生化学)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						
2) 環境基本法の理念を説明できる。		環境科学	衛生化学2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。						
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境科学	分析系応用実習 (衛生化学)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			分析系応用実習 (環境科学)			
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。		環境科学				薬学特別講義 (再)
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)			分析系応用実習 (環境科学)	基礎薬学総論		薬学特別講義
3) 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。						
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境科学	分析系応用実習 (環境科学)	基礎薬学総論 (衛生化学1/2)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
【⑥廃棄物】						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。		環境科学	分析系応用実習 (環境科学) 分析系応用実習 (衛生化学)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			感染予防学 感染予防学演習			
3) マニフェスト制度について説明できる。			感染予防学演習			
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。						
2) アゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) について説明できる。						
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)						
6) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		入門実験				
7) 薬物の選択 (禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因 (年齢、疾病、妊娠等) について具体例を挙げて説明できる。						
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)						
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。						
				薬の作用演習 応用演習15 (薬の作用/薬理・病態1) 生物系応用実習 (薬理2) 生物系応用実習 (薬理1)	薬物治療マネジメント	薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
				薬の作用演習 応用演習15 (薬の作用/薬理・病態1)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)	入門実験					薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			生物系応用実習 (薬理1)	薬物治療マネジメント		
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)						
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		薬局方試験法		薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(2) 身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害		身体変化のメカニズム	身体変化のメカニズム演習 応用演習12 (異常値/身体変化のメカニズム)	薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		異常値のメカニズム	異常値のメカニズム演習	薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		異常値のメカニズム	異常値のメカニズム演習			
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		異常値のメカニズム 生物系基礎実習(生理学)	異常値のメカニズム演習			
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬理・病態6			
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		生物系基礎実習(生理学)				
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。				薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)						
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬の作用	応用演習15 (薬の作用/薬理・病態1)	薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害						
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	薬剤師の使命1 薬学概論2					
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬の作用	薬の作用演習 応用演習15 (薬の作用/薬理・病態1) 生物系応用実習(薬理2)	薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬の作用演習 応用演習15 (薬の作用/薬理・病態1)			
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物系応用実習(薬理2)			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理・病態1 薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1） 生物系応用実習（薬理1）	薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1） 生物系応用実習（薬理1）			
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理・病態1 薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1）			
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）			薬理・病態1 薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1）			
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理・病態1 薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1） 生物系応用実習（薬理1）	薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。			薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1） 生物系応用実習（薬理1）			
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理・病態1 薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1） 生物系応用実習（薬理1）			
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
5) うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
6) 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7) てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
8) 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理・病態1 薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1）			
9) Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
10) 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
11) 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。						
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			生物系応用実習（薬理1）			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）			薬理・病態1			
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症			薬理・病態1演習 応用演習15（薬の作用/薬理・病態1） 薬理・病態1			
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				薬物治療マネジメント（医薬品化学）		薬学特別講義（再） 薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理・病態 4	薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。						
3) 創傷治癒の過程について説明できる。						
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】			薬理・病態 4			
1) アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
2) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）			薬理・病態 4			
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹						
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
6) 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病			薬理・病態 4 薬理・病態 3 疾患と治療 4			
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群			薬理・病態 4			
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）						
9) 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理・病態 3 疾患と治療 4			
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理・病態 2 薬理・病態 3 疾患と治療 4			
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理・病態 3 疾患と治療 4			
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬理・病態 3 薬理・病態 4 疾患と治療 4	薬物治療マネジメント（医薬品化学）		薬学特別講義（再） 薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群			薬理・病態2	薬物治療マネジメント		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態2 薬理・病態2 演習	薬物治療マネジメント 応用演習2 2 (薬理・病態2/3)		
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態2	薬物治療マネジメント		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)			薬理・病態2 薬理・病態2 演習	薬物治療マネジメント 応用演習2 2 (薬理・病態2/3)		
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			薬理・病態2	薬物治療マネジメント		
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物系応用実習(薬理2)			
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生物系応用実習(薬理1)			
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理・病態2 演習			
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、自芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血				薬物治療マネジメント		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態2			
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2(7)【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)						
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態5	薬物治療マネジメント		
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石						薬学特別講義(再) 薬学特別講義
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫			薬理・病態3 薬理・病態5 疾患と治療4	薬物治療マネジメント 薬理・病態3 演習 応用演習2 2 (薬理・病態2/3)		
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			薬理・病態3 疾患と治療4			
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理・病態3 疾患と治療4	薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義(再) 薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬							
(1)呼吸器系疾患の薬、病態、治療							
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態3 疾患と治療4 生物系応用実習(薬理2)	薬物治療マネジメント 薬理・病態3演習 応用演習2.2(薬理・病態2/3)		薬学特別講義(再) 薬学特別講義	
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態3 疾患と治療4				
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				薬物治療マネジメント 薬理・病態3演習			
(2)消化器系疾患の薬、病態、治療							
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎			薬理・病態5	薬物治療マネジメント		薬学特別講義(再) 薬学特別講義	
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態5 薬理・病態6	薬物治療マネジメント 薬理・病態6演習			
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態5	薬物治療マネジメント			
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。							
(3)化学構造と薬効							
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理・病態5 疾患と治療4 薬理・病態3	薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義(再) 薬学特別講義	
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬							
(1)代謝系疾患の薬、病態、治療							
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態2 薬理・病態2演習	薬物治療マネジメント 応用演習2.2(薬理・病態2/3)		薬学特別講義(再) 薬学特別講義	
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療マネジメント			
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態2				
(2)内分泌系疾患の薬、病態、治療							
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理・病態4			薬学特別講義(再) 薬学特別講義	
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態4 薬理・病態2演習				
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療マネジメント			
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理・病態4				
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜症(重複)、アジソン病(重複)							
(3)化学構造と薬効							
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。				薬物治療マネジメント(医薬品化学)		薬学特別講義(再) 薬学特別講義	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬理・病態3 疾患と治療4	薬物治療マネジメント 薬理・病態3演習	薬学特別講義(再) 薬学特別講義
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症						
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		身体変化のメカニズム		薬理・病態3 疾患と治療4		
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				薬理・病態3 疾患と治療4 薬理・病態6	薬物治療マネジメント 薬理・病態3演習	薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2))【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照				薬理・病態3		
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(7))【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照				薬理・病態3 薬理・病態6	薬物治療マネジメント 薬理・病態3演習	
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬理・病態3	薬物治療マネジメント	
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)				薬理・病態3 疾患と治療4	薬物治療マネジメント 薬理・病態3演習	薬学特別講義(再) 薬学特別講義
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。				薬理・病態3 疾患と治療4	薬物治療マネジメント(医薬品化学)	薬学特別講義(再) 薬学特別講義
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬				薬理・病態6	薬物治療マネジメント 薬理・病態6演習	薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。				感染予防学	薬物治療マネジメント	
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。				薬理・病態6	薬物治療マネジメント 薬理・病態6演習	薬学特別講義(再) 薬学特別講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			薬理・病態 6	薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎				薬物治療マネジメント		
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎				薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習		
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎				薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習		
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等				薬物治療マネジメント		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病				薬物治療マネジメント		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等				薬物治療マネジメント		
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症				薬物治療マネジメント		
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理・病態 6	薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習	薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) ウイルス性肝炎 (HAV、HBV、HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (重複)						
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト・ヤコブ) 病						
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理・病態 6	薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習	薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症						
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			薬理・病態 6	薬物治療マネジメント	薬学特別講義 (再) 薬学特別講義	
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症				薬物治療マネジメント 薬理・病態 6 演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。						
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			応用演習12（異常値/身体変化のメカニズム）	薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。				薬物治療マネジメント 薬学療法・緩和医療		
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬						
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。				薬物治療マネジメント 化学療法・緩和医療		
4) 代表的ながん化学療法のレジメン（FOLFFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。						
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）			薬理・病態2			
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						薬学特別講義（再） 薬学特別講義
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療マネジメント		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌						
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				薬物治療マネジメント 化学療法・緩和医療		
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌						
12) 腎・泌尿系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療マネジメント		
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。				薬物治療マネジメント 化学療法・緩和医療		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【⑩化学構造と薬物】				薬物治療マネジメント		
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				薬物治療マネジメント（医薬品化学）		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
【(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報】						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			薬理・病態5 製剤設計学	薬物治療マネジメント 製剤設計学演習		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			薬理・病態5	薬物治療マネジメント		
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			薬理・病態5 生物系応用実習（薬理2） 製剤設計学	薬物治療マネジメント 製剤設計学演習		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			薬理・病態5 生物系応用実習（薬理2）	薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			薬理・病態5			
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。			薬理・病態5 製剤設計学	薬物治療マネジメント 製剤設計学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。						
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。			医療法規			
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）						
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				薬物治療マネジメント セルフメディケーション・ 医療統計 実務実習事前講義・演習		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）						
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。						
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証		応用演習5（医薬資源化学/ 薬用植物と生薬）		薬物治療マネジメント 和漢医薬学		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。						
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。		応用演習5（医薬資源化学/ 薬用植物と生薬）		薬物治療マネジメント 和漢医薬学		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		応用演習5（医薬資源化学/ 薬用植物と生薬）		薬物治療マネジメント 和漢医薬学		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）			物理系応用実習（医薬品情報）	基礎薬学総論 薬物治療マネジメント		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）						
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）						
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医薬品情報学 物理系応用実習（医薬品情報）			
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報学			
5) 医薬品情報に係る代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。						
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それぞれの特徴について説明できる。						
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。						
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医薬品情報学 物理系応用実習（医薬品情報）	基礎薬学総論		薬学特別講義（再） 薬学特別講義
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医薬品情報学 物理系応用実習(医薬品情報)	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)			医薬品情報学 物理系応用実習(医薬品情報)			
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報学			
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)			医薬品情報学 物理系応用実習(医薬品情報)			
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。			医療法規			
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			医薬品情報学			
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。 (E3(1)【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。			医薬品情報学 生物系応用実習(薬理1)	基礎薬学総論 セルフメディケーション・ 医療統計		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。						
3) 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布)について概説できる。			医薬品情報学			
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。						
5) 二群間の差の検定(t検定、 χ^2 検定など)を実施できる。(技能)			医薬品情報学 生物系応用実習(薬理1)			
6) 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。			医薬品情報学			
7) 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。						
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。				基礎薬学総論 応用演習21(薬剤学/医薬品情報学)		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。						
4) 副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。			医薬品情報学 物理系応用実習(医薬品情報)			
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						
6) 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。						
7) 統計解析時の注意点について概説できる。						
8) 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。						
9) 臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。 (知識・技能)						
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				基礎薬学総論 応用演習21(薬剤学/医薬品情報学)		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 (技能)			医薬品情報学 物理系応用実習(医薬品情報)			
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)						
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。		身体変化のメカニズム	医薬品情報学 物理系応用実習(医薬品情報)	基礎薬学総論		薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			身体変化のメカニズム演習 応用演習12(異常値/身体変化のメカニズム)			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。		身体変化のメカニズム	医薬品情報学 物理系応用実習 (医薬品情報)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			身体変化のメカニズム演習 応用演習12 (異常値/身体変化のメカニズム)			
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。						
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)						
【③個別化医療】						
【①遺伝的素因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				薬物投与設計 基礎薬学総論 薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。		薬物動態学1				
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。		薬物動態学1		薬物投与設計 基礎薬学総論 薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				薬物投与設計 基礎薬学総論 薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				薬物投与設計 基礎薬学総論 薬物治療マネジメント		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報 (遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)				薬物治療マネジメント 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				薬物投与設計 基礎薬学総論 薬物治療マネジメント		
E4 薬の生体内運命						
【①薬物の体内動態】						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		薬物動態学1	薬物動態学1 演習 応用演習16 (薬物動態学1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		薬物動態学1	薬物動態学1 演習 応用演習16 (薬物動態学1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。						
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
5) 初回通過効果について説明できる。		薬物動態学1 薬の作用				
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬物動態学1	薬物動態学1 演習 応用演習16 (薬物動態学1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。						
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬物動態学 1	薬物動態学 1 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。			薬物動態学 1 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)		基礎薬学総論 製剤設計学演習 応用演習 1 8 (生物有機化学/製剤設計学)	
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。						
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。						
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。		薬物動態学 1 薬の作用	薬物動態学 1 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)	基礎薬学総論		
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬物動態学 1	薬物動態学 1 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。		薬物動態学 2	薬物動態学 1 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2) 薬物動態学 2			
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。		薬物動態学 1 薬物動態学 2	薬物動態学 1 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)			
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。		薬物動態学 1				
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬物動態学 1 薬の作用				
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。			薬物動態学 2 薬物動態学 2 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)						
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)						
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態学 2 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)			
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。						
6) 薬物動態学-薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。			薬物動態学 2 薬物動態学 2 演習 応用演習 1 6 (薬物動態学 1/2)			
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				基礎薬学総論 薬物投与設計		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			物理系応用実習 (薬剤)	基礎薬学総論		
4) ポピュレーションファーマコキネティクス の概念と応用について概説できる。				基礎薬学総論 薬物投与設計		
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。		製剤学 1	製剤学 1 演習 応用演習 1 7 (製剤学 1/2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。						
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2 (2) 【①酸・塩基平衡】 1. 及び 【②各種の化学平衡】 2. 参照)						
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。						
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。		製剤学 1	製剤学 1 演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③分散系材料】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】 4. 参照)		製剤学1	製剤学1 演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。						
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。						
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。		製剤学1	製剤学1 演習	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】 1. ~7. 参照)						
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学2 製剤学2 演習 応用演習17 (製剤学1/ 2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。	入門実験					
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。						
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。	入門実験					
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。						
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学2 製剤学2 演習 応用演習17 (製剤学1/ 2)	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。						
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			薬物動態学2	基礎薬学総論		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤設計学	基礎薬学総論 製剤設計学演習 応用演習18 (生物有機化学/製剤設計学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1) 【④代謝】 4. も参照)						
【②コントロールドリリース (放出制御)】						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			製剤設計学	基礎薬学総論 製剤設計学演習 応用演習18 (生物有機化学/製剤設計学)		薬学特別講義 (再) 薬学特別講義
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③ターゲットニング(標的指向化)】						
1) ターゲットニングの概要と意義について説明できる。				製剤設計学	基礎薬学総論 製剤設計学演習 応用演習18(生物有機化学/製剤設計学)	薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲットニング技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3) ターゲットニング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。				製剤設計学	基礎薬学総論 製剤設計学演習 応用演習18(生物有機化学/製剤設計学)	薬学特別講義(再) 薬学特別講義
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
F 薬学臨床						
前) 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	薬剤師の使命2					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)						
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)						
【②臨床における心構え】 [A(1)、(2)参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				実務実習事前講義・演習		
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)						
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)						
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)						
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					病院実習 薬局実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)						
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。			薬剤学	実務実習事前講義・演習		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。						
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。						
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。						
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 [B(3)①参照]						
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					病院実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)						
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や術後期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬局実習	
15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)						
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】 [B(2)、(3)参照]						
1) 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			薬剤学	実務実習事前講義・演習		
2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)						
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)					薬局実習	
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						
【②処方せんと疑義照会】				薬剤学		
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				薬剤学		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				薬剤学感染予防学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				実務実習事前講義・演習	実務実習事前講義・演習	
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。						
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。						
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)						
7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)			薬剤学 物理系応用実習(薬剤学)			
8) 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)						病院実習 薬局実習
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)						
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)						
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)						
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)			薬剤学	実務実習事前講義・演習	実務実習事前講義・演習	
2) 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。						
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)						
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。						
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。			薬剤学			
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)						
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)						
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)						
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)						
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)						
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)						
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)			薬剤学			
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)						
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)						
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。			薬剤学	病院実習 薬局実習		
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)						
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)						
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)			薬剤学			
19) 調剤された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)						
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)				実務実習事前講義・演習	実務実習事前講義・演習	
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。						
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)						
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。						
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)						
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。						
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)						
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)						
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)						
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)				病院実習 薬局実習		
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)						
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)						
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)						
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			感染予防学	実務実習事前講義・演習	実務実習事前講義・演習	
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。			薬剤学			
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。			感染予防学薬剤学			
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。						
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。						
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。						
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。						薬物治療マネジメント

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				実務実習事前講義・演習			
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)					病院実習 薬局実習		
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)							
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。							
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)							
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)			感染予防学演習				
【⑥安全管理】							
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。							
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。			薬剤学		実務実習事前講義・演習		
3) 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)				感染予防学感染予防学演習			
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				感染予防学演習			
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				感染予防学感染予防学演習			
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。						実務実習事前講義・演習	
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。							
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)					病院実習 薬局実習		
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。			薬剤学				
10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)							
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)							
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)		生物系基礎実習(微生物学)					
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)							
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)							
【③薬物療法の実践】							
【①患者情報の把握】							
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。					薬物治療マネジメント 実務実習事前講義・演習		
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) 【E3(2)①参照】						カルテを読む	
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。							
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)							
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)							
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					薬物治療マネジメント		
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)							
【②医薬品情報の収集と活用】 【E3(1)参照】							
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				実務実習事前講義・演習			
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					病院実習 薬局実習		
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)							
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)							
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)							
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)							
【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】							
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。					薬物治療マネジメント 実務実習事前講義・演習		
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。							
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。							
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。							
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。							
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				薬物治療マネジメント	病院実習 薬局実習			
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。								
9) 患者の状態 (疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴 (作用機序や製剤的性質等) に基づき、適切な処方提案ができる。(知識・態度)								
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)								
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)								
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)								
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。								
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)								
【④処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)】								
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。						薬物治療マネジメント 実務実習事前講義・演習		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)								
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				薬物治療マネジメント	病院実習 薬局実習			
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)								
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案ができる。(知識・態度)								
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)								
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。								
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。								
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。								
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)								
11) 報告に必要な要素 (SWIH) に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)								
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)								
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)								
(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]								
【①医療機関におけるチーム医療】								
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				実務実習事前講義・演習				
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。								
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法 (連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等) を説明できる。				病院実習 薬局実習				
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)								
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態 (病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化 (治療効果、副作用、心理状態、QOL等) の情報を共有する。(知識・態度)								
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議 (カンファレンスや患者回診への参加等) する。(知識・態度)								
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)								
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)								
9) 病院内の多様な医療チーム (ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等) の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)								
【②地域におけるチーム医療】								
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制 (地域包括ケア) およびその意義について説明できる。						実務実習事前講義・演習		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)								
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)				病院実習 薬局実習				
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)								
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]								
【①在宅 (訪問) 医療・介護への参画】								

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	履 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。						
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。						
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。						
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）				薬物治療マネジメント	病院実習 薬局実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）						
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）						
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				実務実習事前講義・演習		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			感染予防学			
3) 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）					病院実習 薬局実習	
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）						
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2(9)参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）				実務実習事前講義・演習		
2) 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）					病院実習 薬局実習	
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）						
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）						
5) 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）						
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）						
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）						
8) 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）						
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）						
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				実務実習事前講義・演習		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					病院実習 薬局実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）						
G 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				薬学卒業研究基礎	薬学卒業研究1	薬学卒業研究2
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）						
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）						
(2) 研究に必要な法規制と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				薬学概論2	薬学卒業研究1	薬学卒業研究2
2) 研究の実施、患者情報の取り扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規制を遵守して研究に取り組む。（態度）A-(2)-④-3再掲						
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）				薬学卒業研究1	薬学卒業研究2	
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）						
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）						
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）						
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）						
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）						

2018(平成30)年度 薬学部薬学科 学位授与方針対応表

色	学年
黄	1
赤	2
青	3
緑	4
紫	5
白	6

<作成・確認要領>

①領域及び領域番号

領域は、新コアカリキュラムの領域とし、領域番号は、

A 基本事項=1、B 薬学と社会=2、C 薬学基礎=3、D 衛生薬学=4、E 医療薬学=5、F 薬学臨床=6、G 薬学研究=7とした。また、基礎薬学総論及び薬学特別講義の領域は、新しく「H 統合領域」=領域番号8とした。

②学位授与方針(DP)との関連

授業科目ごとに、学位授与方針との対応関係を決定し、「◎」「○」を付与した。特に関連が強い科目◎、関連が強い科目○とし、複数付与することは可能。

③基本原則

「演習」のDPIは、「薬剤師として幅広い薬学の知識と技能に加え、特定の分野に深い専門性を磨くことができる」

ナンバリングコード(例): EE10501



部門 (教養・専門)	領域	ナンバリング コード	授業科目	ナンバリング構成				学位授与方針					備考		
				学部 学科	学年	部門 教養・専門	領域	科目 番号	①医療人として幅広い教養とコミュニケーション力を身につけ、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚して、広い視野に立って物事の公正な判断ができる。	②薬剤師に求められる幅広い薬学の知識と技能を修得し、健康・医療における諸問題の解決のために活用できる。	③高度な専門知識と臨床技能を有する薬剤師として他の医療職と協力して患者中心の医療を実践し、「くすりのプロフェッショナル」として医療の質の向上に貢献できる。	④医療人としての論理的思考力と科学的視点を有し、探究心と創造力を育み、薬学および生命科学研究を推進することができる。		⑤医療の変化に対応し、社会に貢献するために、生涯にわたって主体的に学び続け、学んだことを自ら振り返ると共に、薬剤師の新しい職能の開拓、後進の育成に貢献できる。	
教養 教育部門	A 基本事項	PP10101	コンピュータリテラシー	PP	1	0	1	01	◎						
		PP10102	情報活用リテラシー	PP	1	0	1	02	◎						
		PP10103	心の科学	PP	1	0	1	03	◎						
		PP10104	経営と社会	PP	1	0	1	04	◎						
		PP10105	法と社会	PP	1	0	1	05	◎						
		PP10106	数と論理	PP	1	0	1	06	◎						
		PP10107	芸術文化論	PP	1	0	1	07	◎						
		PP10108	ジェンダーと社会	PP	1	0	1	08	◎						
		PP10109	薬剤師の使命 I	PP	1	0	1	09	◎	○				◎	
		PP10110	薬剤師の使命 II	PP	1	0	1	10	◎	○				◎	
		PP10111	薬学概論 I	PP	1	0	1	11	◎	○				◎	
		PP10112	薬学概論 II	PP	1	0	1	12	◎	○				◎	
		PP10113	コミュニケーション基礎	PP	1	0	1	13	◎	○				◎	
		PP10114	入門実験	PP	1	0	1	14	◎	○				◎	
		PP10115	キャリア形成	PP	1	0	1	15	◎	○				◎	
		PP10116	教養演習 I (薬学生のスタディスキル)	PP	1	0	1	16	◎						
		PP10117	教養演習 II (医療英語入門)	PP	1	0	1	17	◎						
		PP10118	英語初級 I-I (リーディング)	PP	1	0	1	18	◎						
		PP10119	英語初級 I-I (コミュニケーション)	PP	1	0	1	19	◎						
		PP10120	英語初級 I-II (リーディング)	PP	1	0	1	20	◎						
		PP10121	英語初級 I-II (コミュニケーション)	PP	1	0	1	21	◎						
		PP10122	英語初級 II-I (リーディング)	PP	1	0	1	22	◎						
		PP10123	英語初級 II-I (コミュニケーション)	PP	1	0	1	23	◎						
		PP10124	英語初級 II-II (リーディング)	PP	1	0	1	24	◎						
		PP10125	英語初級 II-II (コミュニケーション)	PP	1	0	1	25	◎						
		PP10126	英語中級 I (リーディング)	PP	1	0	1	26	◎						
		PP10127	英語中級 I (コミュニケーション)	PP	1	0	1	27	◎						
		PP10128	英語中級 II (リーディング)	PP	1	0	1	28	◎						
		PP10129	英語中級 II (コミュニケーション)	PP	1	0	1	29	◎						
専門薬学 教育部門	B 薬学と社会	PP21230	臨床心理・倫理学	PP	2	1	2	30	◎	○				◎	
		PP21231	薬学英語 I	PP	2	1	2	31	◎						
		PP21232	薬学英語 I 演習	PP	2	1	2	32	◎						
		PP21233	社会保障と医療経済	PP	2	1	2	33		◎				◎	
		PP21234	社会保障と医療経済演習	PP	2	1	2	34		◎				◎	
		PP31235	医療法規	PP	3	1	2	35		◎	◎			○	
		PP31236	医療法規演習	PP	3	1	2	36		◎					
		PP31237	臨床コミュニケーション	PP	3	1	2	37	◎		◎			○	
		PP31238	薬学英語 II	PP	3	1	2	38	◎						
		PP41239	薬学英語 II 演習	PP	4	1	2	39	◎						
		PP51240	医療英語コミュニケーション	PP	5	1	2	40			◎	○		◎	
		C 薬学基礎	PP10301	基礎物理	PP	1	0	3	01		◎			○	
			PP11302	基礎物理演習	PP	1	1	3	02		◎				
PP10303	基礎化学		PP	1	0	3	03		◎			○			
PP11304	基礎化学演習		PP	1	1	3	04		◎						
PP10305	基礎生物		PP	1	0	3	05		◎			○			
PP11306	基礎生物演習		PP	1	1	3	06		◎						
PP11307	機能形態学 I		PP	1	1	3	07		◎			○			
PP11308	機能形態学 I 演習		PP	1	1	3	08		◎						
PP11309	物理化学 I		PP	1	1	3	09		◎			○			
PP11310	基礎有機化学		PP	1	1	3	10		◎			○			
PP11311	生化学 I		PP	1	1	3	11		◎			○			
PP11312	生化学 II		PP	1	1	3	12		◎			○			
PP11313	機能形態学 II		PP	1	1	3	13		◎			○			

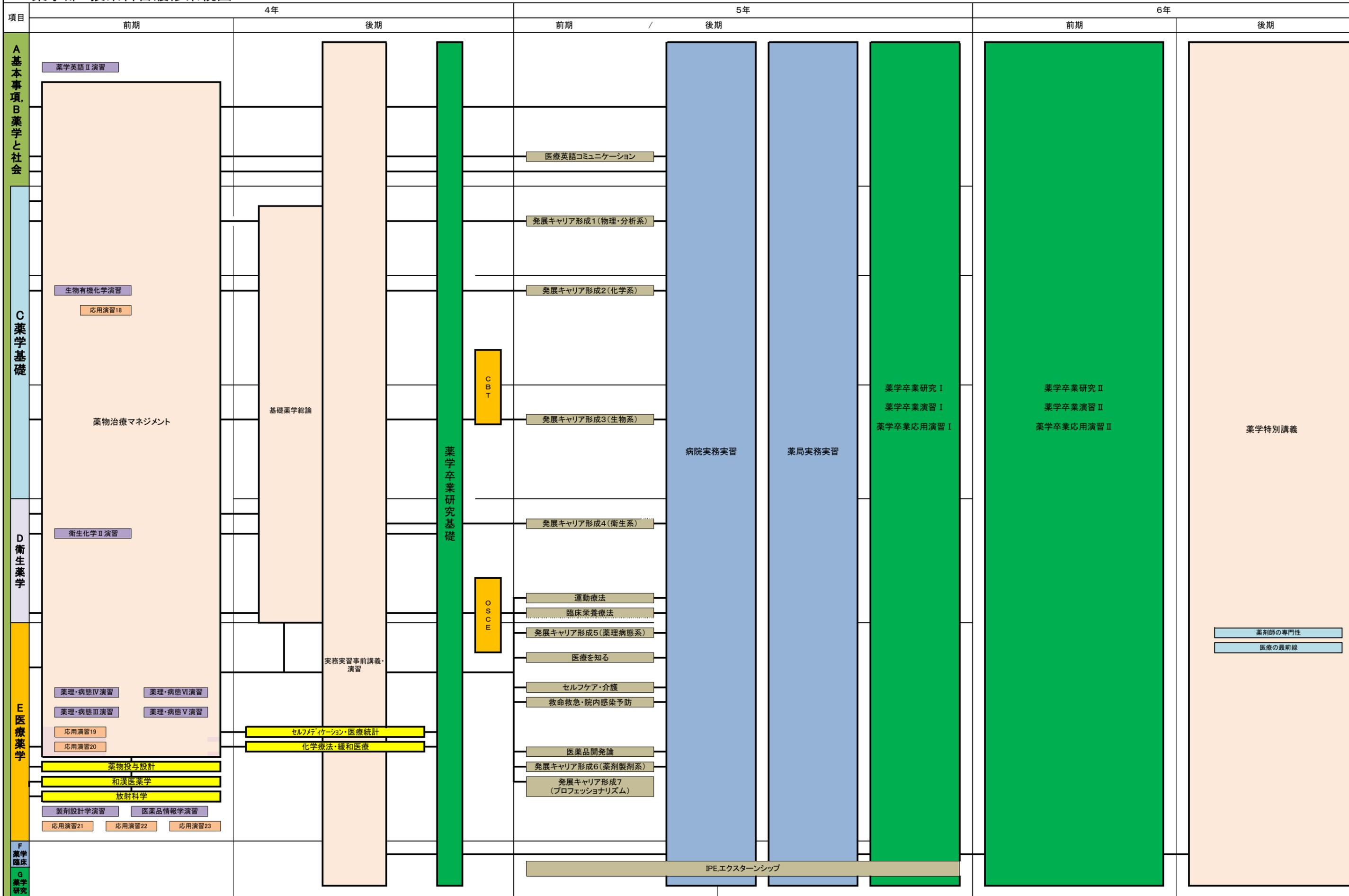
部門 (教養・専門)	領域	ナンバリング コード	授業科目	ナンバリング構成				学位授与方針					備考	
				学部 学科	学年	部門 教養・専門	領域	科目 番号	①医療人として幅広い教養とコミュニケーション力をつけ、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚して、広い視野に立って物事の公正な判断ができる。	②薬剤師に求められる幅広い薬学の知識と技能を修得し、健康・医療における諸問題の解決のために活用し、社会に貢献できる。	③高度な専門知識と臨床技能を有する薬剤師として他の医療職と協力して患者中心の医療を実践し、「くすりのプロフェッショナル」として医療の質の向上に貢献できる。	④医療人としての論理的思考力と科学的視点を有し、探究心と創造力を育み、薬学および生命科学研究を推進することができる。		⑤医療の変化に対応し、社会に貢献するために、生涯にわたって主体的に学び続け、学んだことを自ら振り返ると共に、薬剤師の新しい職能の開拓、後進の育成に貢献できる。
54	C 薬学基礎	PP21314	物理化学Ⅰ演習	PP	2	1	3	14		◎				
55		PP21315	基礎有機化学演習	PP	2	1	3	15		◎				
56		PP21316	生化学Ⅰ演習	PP	2	1	3	16		◎				
57		PP21317	応用演習1(機能形態学Ⅰ/Ⅱ)	PP	2	1	3	17			◎			
58		PP21318	生化学Ⅱ演習	PP	2	1	3	18		◎				
59		PP21319	応用演習2(生化学Ⅰ/Ⅱ)	PP	2	1	3	19			◎			
60		PP21320	機能形態学Ⅱ演習	PP	2	1	3	20		◎				
61		PP21321	物理化学Ⅱ	PP	2	1	3	21		◎			○	
62		PP21322	物理化学Ⅱ演習	PP	2	1	3	22		◎				
63		PP21323	分析化学	PP	2	1	3	23		◎			○	
64		PP21324	分析化学演習	PP	2	1	3	24		◎				
65		PP21325	分析系基礎実習(分析化学)	PP	2	1	3	25		◎			○	
66		PP21326	有機薬化学Ⅰ	PP	2	1	3	26		◎			○	
67		PP21327	有機薬化学Ⅰ演習	PP	2	1	3	27		◎				
68		PP21328	医薬資源化学	PP	2	1	3	28		◎			○	
69		PP21329	医薬資源化学演習	PP	2	1	3	29		◎				
70		PP21330	薬用植物と生薬	PP	2	1	3	30		◎			○	
71		PP21331	薬用植物と生薬演習	PP	2	1	3	31		◎				
72		PP21332	化学系基礎実習(有機化学Ⅰ)	PP	2	1	3	32		◎			○	
73		PP21333	化学系基礎実習(有機化学Ⅱ)	PP	2	1	3	33		◎			○	
74		PP21334	機能形態学Ⅲ	PP	2	1	3	34		◎			○	
75		PP21335	機能形態学Ⅲ演習	PP	2	1	3	35		◎				
76		PP21336	生化学Ⅲ	PP	2	1	3	36		◎			○	
77		PP21337	生化学Ⅲ演習	PP	2	1	3	37		◎				
78		PP21338	分子生物学Ⅰ	PP	2	1	3	38		◎			○	
79		PP21339	分子生物学Ⅰ演習	PP	2	1	3	39		◎				
80		PP21340	分子生物学Ⅱ	PP	2	1	3	40		◎			○	
81		PP21341	分析系基礎実習(生化学)	PP	2	1	3	41		◎			○	
82		PP21342	薬局方試験法	PP	2	1	3	42		◎			○	
83		PP21343	応用演習3(物理化学Ⅰ/Ⅱ)	PP	2	1	3	43			◎			
84		PP21344	応用演習4(分析化学)	PP	2	1	3	44			◎			
85		PP21345	有機薬化学Ⅱ	PP	2	1	3	45		◎			○	
86		PP21346	構造解析学	PP	2	1	3	46		◎			○	
87		PP21347	応用演習5(医薬資源化学/薬用植物と生薬)	PP	2	1	3	47			◎			
88		PP21348	応用演習6(基礎有機化学/有機薬化学Ⅰ)	PP	2	1	3	48			◎			
89		PP21349	化学系応用実習(有機化学Ⅲ)	PP	2	1	3	49		◎			○	
90		PP21350	化学系応用実習(天然物化学・生薬)	PP	2	1	3	50		◎			○	
91		PP21351	応用演習7(機能形態学Ⅲ)	PP	2	1	3	51			◎			
92		PP21352	応用演習8(生化学Ⅲ)	PP	2	1	3	52			◎			
93		PP21353	生物系基礎実習(生理学)	PP	2	1	3	53		◎			○	
94		PP31354	分子生物学Ⅱ演習	PP	3	1	3	54		◎				
95		PP31355	薬局方試験法演習	PP	3	1	3	55		◎				
96		PP31356	応用演習9(薬局方試験法/構造解析学)	PP	3	1	3	56			◎			
97		PP31357	有機薬化学Ⅱ演習	PP	3	1	3	57		◎				
98		PP31358	構造解析学演習	PP	3	1	3	58		◎				
99		PP31359	応用演習10(分子生物学Ⅰ/Ⅱ)	PP	3	1	3	59			◎			
100		PP31360	有機薬化学Ⅲ	PP	3	1	3	60		◎			○	
101		PP31361	有機薬化学Ⅲ演習	PP	3	1	3	61		◎				
102	PP31362	生物有機化学	PP	3	1	3	62		◎			○		
103	PP31363	応用演習13(有機薬化学Ⅱ/Ⅲ)	PP	3	1	3	63			◎				
104	PP41364	生物有機化学演習	PP	4	1	3	64		◎					
105	PP41365	応用演習18(生物有機化学/製剤設計学)	PP	4	1	3	65			◎				
106	PP51366	発展キャリア形成1(物理・分析系)	PP	5	1	3	66			◎		◎		
107	PP51367	発展キャリア形成2(化学系)	PP	5	1	3	67			◎		◎		
108	PP51368	発展キャリア形成3(生物系)	PP	5	1	3	68			◎		◎		
109	D 衛生薬学	PP10401	人間と環境	PP	1	0	4	01	◎			○		
110		PP10402	健康・スポーツ科学Ⅰ	PP	1	0	4	02	◎					
111		PP10403	健康・スポーツ科学Ⅱ	PP	1	0	4	03	◎					
112		PP10404	健康・スポーツ科学理論	PP	1	0	4	04	◎				○	
113		PP21405	微生物学	PP	2	1	4	05		◎			○	
114		PP20406	健康・スポーツ科学Ⅲ	PP	2	0	4	06		◎				
115		PP20407	健康・スポーツ科学Ⅳ	PP	2	0	4	07		◎				
116		PP21408	免疫学	PP	2	1	4	08		◎			○	
117		PP21409	環境科学	PP	2	1	4	09		◎			○	
118		PP21310	生物系基礎実習(微生物学)	PP	2	1	3	10		◎			○	
119		PP21411	微生物学演習	PP	2	1	4	11		◎				
120		PP31412	感染予防学	PP	3	1	4	12		◎			○	
121		PP31413	感染予防学演習	PP	3	1	4	13		◎			◎	
122		PP31414	衛生化学Ⅰ	PP	3	1	4	14		◎			○	
123		PP31415	衛生化学Ⅰ演習	PP	3	1	4	15		◎				
124		PP31416	公衆衛生学	PP	3	1	4	16		◎			○	
125		PP31417	公衆衛生学演習	PP	3	1	4	17		◎			◎	
126		PP31418	免疫学演習	PP	3	1	4	18		◎				
127		PP31419	環境科学演習	PP	3	1	4	19		◎			◎	
128		PP31420	衛生化学Ⅱ	PP	3	1	4	20		◎			○	
129		PP31421	応用演習11(微生物学/免疫学)	PP	3	1	4	21			◎			
130		PP31422	応用演習14(環境科学/公衆衛生学)	PP	3	1	4	22			◎		◎	
131		PP31423	分析系応用実習(環境科学)	PP	3	1	4	23		◎			○	
132		PP31424	分析系応用実習(衛生化学)	PP	3	1	4	24		◎			○	
133		PP31425	栄養学	PP	3	1	4	25		◎			○	
134		PP41426	衛生化学Ⅱ演習	PP	4	1	4	26		◎				
135		PP51427	発展キャリア形成4(衛生系)	PP	5	1	4	27			◎		◎	
136		PP51428	運動療法	PP	5	1	4	28			◎			◎
137		PP51429	臨床栄養療法	PP	5	1	4	29			◎			◎

部門 (教養・専門)	領域	ナンバリング コード	授業科目	ナンバリング構成				学位授与方針					備考	
				学部 学科	学年	部門 教養・専門	領域	科目 番号	①医療人として幅広い教養とコミュニケーション力をつけ、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚して、広い視野に立って物事の公正な判断ができる。	②薬剤師に求められる幅広い薬学の知識と技能を修得し、健康・医療における諸問題の解決のために活用し、社会に貢献できる。	③高度な専門知識と臨床技能を有する薬剤師として他の医療職と協力して患者中心の医療を実践し、「くすりのプロフェッショナル」として医療の質の向上に貢献できる。	④医療人としての論理的思考力と科学的視点を有し、探究心と創造力を育み、薬学および生命科学研究を推進することができる。		⑤医療の変化に対応し、社会に貢献するために、生涯にわたって主体的に学び続け、学んだことを自ら振り返ると共に、薬剤師の新しい職能の開拓、後進の育成に貢献できる。
138	E 医療薬学	PP21501	薬の作用	PP	2	1	5	01		◎	◎	○		
139		PP21502	身体変化のメカニズム	PP	2	1	5	02		◎	◎	○		
140		PP21503	異常値のメカニズム	PP	2	1	5	03		◎	◎	○		
141		PP21504	製剤学 I	PP	2	1	5	04		◎	◎	○		
142		PP21505	薬物動態学 I	PP	2	1	5	05		◎	◎	○		
143		PP31506	薬理・病態 I	PP	3	1	5	06		◎	◎	○		
144		PP31507	薬理・病態 II	PP	3	1	5	07		◎	◎	○		
145		PP31508	薬の作用演習	PP	3	1	5	08		◎	◎	○		
146		PP31509	身体変化のメカニズム演習	PP	3	1	5	09		◎	◎	○		
147		PP31510	異常値のメカニズム演習	PP	3	1	5	10		◎	◎	○		
148		PP31511	生物系応用実習(薬理1)	PP	3	1	5	11		◎	◎	○		
149		PP31512	生物系応用実習(薬理2)	PP	3	1	5	12		◎	◎	○		
150		PP31513	応用演習12(異常値/身体変化のメカニズム)	PP	3	1	5	13		◎	◎	○		
151		PP31514	薬剤学	PP	3	1	5	14		◎	◎	○		
152		PP31515	薬物動態学 II	PP	3	1	5	15		◎	◎	○		
153		PP31516	製剤学 II	PP	3	1	5	16		◎	◎	○		
154		PP31517	物理系基礎実習(物理化学)	PP	3	1	5	17		◎	◎	○		
155		PP31518	物理系基礎実習(製剤)	PP	3	1	5	18		◎	◎	○		
156		PP31519	薬物動態学 I 演習	PP	3	1	5	19		◎	◎	○		
157		PP31520	製剤学 I 演習	PP	3	1	5	20		◎	◎	○		
158		PP31521	薬理・病態 III	PP	3	1	5	21		◎	◎	○		
159		PP31522	薬理・病態 IV	PP	3	1	5	22		◎	◎	○		
160		PP31523	薬理・病態 V	PP	3	1	5	23		◎	◎	○		
161		PP31524	薬理・病態 VI	PP	3	1	5	24		◎	◎	○		
162		PP31525	薬理・病態 I 演習	PP	3	1	5	25		◎	◎	○		
163		PP31526	薬理・病態 II 演習	PP	3	1	5	26		◎	◎	○		
164		PP31527	応用演習15(薬の作用/薬理・病態 I)	PP	3	1	5	27		◎	◎	○		
165		PP31528	医薬品情報学	PP	3	1	5	28		◎	◎	○	○	
166		PP31529	製剤設計学	PP	3	1	5	29		◎	◎	○	○	
167		PP31530	物理系応用実習(薬剤)	PP	3	1	5	30		◎	◎	○	○	
168		PP31531	物理系応用実習(医薬品情報)	PP	3	1	5	31		◎	◎	○	○	
169		PP31532	薬剤学演習	PP	3	1	5	32		◎	◎	○	○	
170		PP31533	薬物動態学 II 演習	PP	3	1	5	33		◎	◎	○	○	
171		PP31534	製剤学 II 演習	PP	3	1	5	34		◎	◎	○	○	
172		PP31535	応用演習16(薬物動態学 I / II)	PP	3	1	5	35		◎	◎	○	○	
173		PP31536	応用演習17(製剤学 I / II)	PP	3	1	5	36		◎	◎	○	○	
174		PP41537	薬理・病態 III 演習	PP	4	1	5	37		◎	◎	○	○	
175		PP41538	薬理・病態 IV 演習	PP	4	1	5	38		◎	◎	○	○	
176		PP41539	薬理・病態 V 演習	PP	4	1	5	39		◎	◎	○	○	
177		PP41540	薬理・病態 VI 演習	PP	4	1	5	40		◎	◎	○	○	
178		PP41541	応用演習19(衛生化学 I / II)	PP	4	1	5	41		◎	◎	○	○	
179		PP41542	応用演習20(薬理・病態 IV / 感染予防学)	PP	4	1	5	42		◎	◎	○	○	
180		PP41543	薬物投与設計	PP	4	1	5	43		○	◎	○	◎	
181		PP41544	和漢医薬学	PP	4	1	5	44		○	◎	○	◎	
182		PP41545	放射科学	PP	4	1	5	45		○	◎	○	◎	
183		PP41546	製剤設計学演習	PP	4	1	5	46		◎	◎	○	○	
184		PP41547	医薬品情報学演習	PP	4	1	5	47		◎	◎	○	○	
185		PP41548	応用演習21(薬剤学/医薬品情報学)	PP	4	1	5	48		◎	◎	○	○	
186		PP41549	応用演習22(薬理・病態 II / III)	PP	4	1	5	49		◎	◎	○	○	
187		PP41550	応用演習23(薬理・病態 V / VI)	PP	4	1	5	50		◎	◎	○	○	
188		PP41551	セルフメディケーション・医療統計	PP	4	1	5	51		○	◎	○	◎	
189		PP41552	化学療法・緩和医療	PP	4	1	5	52		○	◎	○	◎	
190	PP41553	薬物治療マネジメント	PP	4	1	5	53		○	◎	○	◎		
191	PP51554	発展キャリア形成5(薬理病態系)	PP	5	1	5	54		◎	◎	○	◎		
192	PP51555	医療を知る	PP	5	1	5	55		◎	◎	○	◎		
193	PP51556	セルフケア・介護	PP	5	1	5	56		◎	◎	○	◎		
194	PP51557	救命救急・院内感染予防	PP	5	1	5	57		◎	◎	○	◎		
195	PP51558	発展キャリア形成6(薬剤製剤系)	PP	5	1	5	58		◎	◎	○	◎		
196	PP51559	医薬品開発論	PP	5	1	5	59		◎	◎	○	◎		
197	PP51560	発展キャリア形成7(プロフェッショナリズム)	PP	5	1	5	60		◎	◎	○	◎		
198	PP61561	薬剤師の専門性	PP	6	1	5	61		◎	◎	○	◎		
199	PP61562	医療の最前線	PP	6	1	5	62		◎	◎	○	◎		
200	F 薬学臨床	PP41601	実務実習事前講義・演習	PP	4	1	6	01	○	◎	◎	○	◎	
201		PP41602	薬学卒業研究基礎	PP	4	1	6	02		○	◎	◎	○	◎
202		PP51603	エクスターンシップ	PP	5	1	6	03		○	◎	◎	○	◎
203		PP51604	多職種連携	PP	5	1	6	04	○	◎	◎	○	◎	
204		PP51605	病院実務実習	PP	5	1	6	05	○	◎	◎	○	◎	
205		PP51606	薬局実務実習	PP	5	1	6	06	○	◎	◎	○	◎	
206	G 薬学研究	PP51701	薬学卒業研究 I	PP	5	1	7	01	○	◎	◎	○	◎	
207		PP51702	薬学卒業演習 I	PP	5	1	7	02		◎	◎	○	◎	
208		PP51703	薬学卒業応用演習 I	PP	5	1	7	03		◎	◎	○	◎	
209		PP61704	薬学卒業研究 II	PP	6	1	7	04	○	◎	◎	○	◎	
210		PP61705	薬学卒業演習 II	PP	6	1	7	05		◎	◎	○	◎	
211		PP61706	薬学卒業応用演習 II	PP	6	1	7	06		◎	◎	○	◎	
212	H 統合領域	PP41801	基礎薬学総論	PP	4	1	8	01		◎	◎	○	◎	
213		PP61802	薬学特別講義	PP	6	1	8	02		◎	◎	○	◎	

薬学部 授業科目履修系統図

項目	1年		2年		3年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A 基本事項, B 薬学と社会	心の科学 経営と社会 コンピュータ・情報活用リテラシー 法と社会 薬剤師の使命Ⅰ、薬学概論Ⅰ、コミュニケーション基礎 入門実験 教養演習Ⅰ(薬学生のスタディスキル) 英語リーディングⅠ 英語コミュニケーションⅠ	芸術文化論 ジェンダーと社会 教と論理 薬剤師の使命Ⅱ 薬学概論Ⅱ、キャリア形成 教養演習Ⅱ(医療英語入門) 英語リーディングⅡ 英語コミュニケーションⅡ	臨床心理・倫理学			臨床コミュニケーション
			薬学英語Ⅰ 社会保障と医療経済	薬学英語Ⅰ 演習 社会保障と医療経済 演習	医療法規	薬学英語Ⅱ 医療法規 演習
C 薬学基礎	基礎物理	物理化学Ⅰ 基礎物理 演習	物理化学Ⅱ 分析化学 分析系基礎実習(分析化学) 物理化学Ⅰ 演習	薬局方試験法 応用演習3 物理化学Ⅱ 演習 分析化学 演習	応用演習9 薬局方試験法 演習	
	基礎化学	基礎有機化学 基礎化学 演習	有機薬化学Ⅰ 基礎有機化学 演習 医薬資源化学 薬用植物と生薬 化学系基礎実習(有機化学Ⅰ・Ⅱ)	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅰ 演習 医薬資源化学 演習 薬用植物と生薬 演習 構造解析学 応用演習5 応用演習6 化学系応用実習(有機化学Ⅲ・天然物化学、生薬)	有機薬化学Ⅲ 有機薬化学Ⅱ 演習 構造解析学 演習	生物有機化学 有機薬化学Ⅲ 演習 応用演習13
D 衛生薬学	基礎生物 機能形態学Ⅰ	生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 機能形態学Ⅱ 機能形態学Ⅰ 演習 基礎生物 演習	生化学Ⅲ 機能形態学Ⅲ 分子生物学Ⅰ 機能形態学Ⅱ 演習 分析系基礎実習(生化学)	生化学Ⅲ 演習 機能形態学Ⅲ 演習 分子生物学Ⅰ 演習 応用演習7 応用演習8 分子生物学Ⅱ 微生物学 演習 生物系基礎実習(生理学)	応用演習10 分子生物学Ⅱ 演習	
	人間と環境【基軸】 健康・スポーツ科学Ⅰ 健康・スポーツ科学理論	健康・スポーツ科学Ⅱ	健康・スポーツ科学Ⅲ 健康・スポーツ科学Ⅳ(集中)	免疫学 環境科学 生物系基礎実習(微生物学)	感染予防学 衛生化学Ⅰ 公衆衛生学 免疫学 演習 環境科学 演習	衛生化学Ⅱ 分析系応用実習(環境科学・衛生化学) 感染予防学 演習 衛生化学Ⅰ 演習 公衆衛生学 演習
E 医療薬学	教養教育部門 専門薬学教育部門(必修) 専門薬学教育部門(選択) 専門薬学教育部門(実習科目) 専門薬学教育部門(演習) 専門薬学教育部門(応用演習) 実践薬学科目 薬学研究科目 応用薬学科目			薬の作用 異常値のメカニズム 身体変化のメカニズム	薬理・病態Ⅰ 薬理・病態Ⅱ 薬の作用 演習 異常値のメカニズム 演習 身体変化のメカニズム 演習 生物系応用実習(薬理Ⅰ・Ⅱ) 応用演習12	薬理・病態Ⅲ 薬理・病態Ⅳ 薬理・病態Ⅴ 薬理・病態Ⅵ 薬理・病態Ⅰ 演習 薬理・病態Ⅱ 演習 応用演習15
			薬物動態学Ⅰ 製剤学Ⅰ	薬物動態学Ⅱ 製剤学Ⅱ 物理系基礎実習(物理化学・製剤) 薬物動態学Ⅰ 演習 製剤学Ⅰ 演習	医薬品情報学 製剤設計学 物理系応用実習(薬理・医薬品情報) 薬物動態学Ⅱ 演習 製剤学 演習 製剤学Ⅱ 演習 応用演習16 応用演習17	

薬学部 授業科目履修系統図



薬学部 授業科目履修系統図

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通教育部門	人間と文化科目群	歴史と文化 文学と人間 芸術文化論 欧米文化論 アジア文化論 文化人類学の世界 哲学 心の科学 宗教の世界						
	人間と社会科目群	日本国憲法 法と社会 経済と社会 経営と社会 政治と社会 国際化時代の人間と社会 社会学 都市と人間 ジェンダーと社会 人間と社会の演習						
	自然と環境科目群	地球と宇宙 物質の成り立ち 生命の多様性 数と論理 現象と論理 人間と環境						
	言語コミュニケーション科目群	英語基礎Ⅰ(リーディング) 英語基礎Ⅱ(リーディング) 英語基礎Ⅰ(コミュニケーション) 英語基礎Ⅱ(コミュニケーション) 英語初級Ⅰ-Ⅰ(リーディング) 英語初級Ⅰ-Ⅱ(リーディング) 英語初級Ⅰ-Ⅰ(コミュニケーション) 英語初級Ⅰ-Ⅱ(コミュニケーション) 英語初級Ⅱ-Ⅰ(リーディング) 英語初級Ⅱ-Ⅱ(リーディング) 英語初級Ⅱ-Ⅰ(コミュニケーション) 英語初級Ⅱ-Ⅱ(コミュニケーション) 英語中級Ⅰ(リーディング) 英語中級Ⅱ(リーディング) 英語中級Ⅰ(コミュニケーション) 英語中級Ⅱ(コミュニケーション) フランス語入門Ⅰ フランス語初級Ⅰ 英語上級Ⅰ(リーディング) 英語上級Ⅱ(リーディング) フランス語入門Ⅱ フランス語初級Ⅱ フランス語上級Ⅰ(コミュニケーション) 英語上級Ⅱ(コミュニケーション) ドイツ語入門Ⅰ ドイツ語初級Ⅰ フランス語オールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅰ フランス語オールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅱ ドイツ語入門Ⅱ ドイツ語初級Ⅱ ドイツ語オールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅰ ドイツ語オールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅱ 中国語入門Ⅰ 中国語初級Ⅰ 中国語応用Ⅰ 中国語応用Ⅱ 中国語入門Ⅱ 中国語初級Ⅱ 中国語オールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅰ 中国語オールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅱ ハンガール入門Ⅰ ハンガール初級Ⅰ ハンガール応用Ⅰ ハンガール応用Ⅱ ハンガール入門Ⅱ ハンガール初級Ⅱ ハンガールオールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅰ ハンガールオールラウンドコミュニケーション(初級)Ⅱ スペイン語初級Ⅰ スペイン語初級Ⅱ						
情報技術科目群	コンピュータリテラシー 情報活用リテラシー 情報活用リテラシー 情報処理入門 コンピュータシステム プログラミング入門 情報社会と倫理							
健康とスポーツ科目群	健康・スポーツ科学Ⅰ 健康・スポーツ科学Ⅱ	健康・スポーツ科学Ⅲ 健康・スポーツ科学Ⅳ						
教科目	教養演習Ⅰ(薬学生のスタディスキル) 教養演習Ⅱ(医療英語入門)							

	必修科目
	必修科目(実習・実験)
	必修科目(統合型)
	選択必修科目
	選択科目
	カリキュラム再掲科目

(基礎資料5) 語学教育の要素

《平成27年度以降のカリキュラム》

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
教養演習Ⅱ (医療英語入門)	1	○		○	
英語初級Ⅰ－Ⅰ (リーディング)	1	○		○	
英語初級Ⅰ－Ⅰ (コミュニケーション)	1			○	○
英語初級Ⅰ－Ⅱ (リーディング)	1	○		○	
英語初級Ⅰ－Ⅱ (コミュニケーション)	1		○		○
英語初級Ⅱ－Ⅰ (リーディング)	1	○		○	
英語初級Ⅱ－Ⅰ (コミュニケーション)	1		○		○
英語初級Ⅱ－Ⅱ (リーディング)	1	○		○	
英語初級Ⅱ－Ⅱ (コミュニケーション)	1		○		○
英語中級Ⅰ (リーディング)	1	○		○	
英語中級Ⅰ (コミュニケーション)	1		○		○
英語中級Ⅱ (リーディング)	1	○		○	
英語中級Ⅱ (コミュニケーション)	1		○		○
薬学英語Ⅰ	2	○		○	
薬学英語Ⅱ	3	○		○	
薬学英語Ⅰ演習	2	○		○	
薬学英語Ⅱ演習	4	○	○		
医療英語コミュニケーション	5	○		○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料5) 語学教育の要素

《平成26年度以前のカリキュラム》

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語初級Ⅰ－Ⅰ（リーディング）	1	○		○	
英語初級Ⅰ－Ⅰ（コミュニケーション）	1			○	○
英語初級Ⅰ－Ⅱ（リーディング）	1	○		○	
英語初級Ⅰ－Ⅱ（コミュニケーション）	1			○	○
英語初級Ⅱ－Ⅰ（リーディング）	1	○		○	
英語初級Ⅱ－Ⅰ（コミュニケーション）	1		○		○
英語初級Ⅱ－Ⅱ（リーディング）	1	○			○
英語初級Ⅱ－Ⅱ（コミュニケーション）	1			○	○
英語中級Ⅰ（リーディング）	1	○	○		
英語中級Ⅰ（コミュニケーション）	1			○	○
英語中級Ⅱ（リーディング）	1	○		○	
英語中級Ⅱ（コミュニケーション）	1	○			○
基礎薬学英語Ⅰ	2	○	○		
基礎薬学英語Ⅱ	3	○	○		
文献講読セミナー	4	○	○		
医療英語コミュニケーション	5	○		○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(注)平成30年4年次後期240人を前半・後半に120人ずつ2分割し、120人を講義は分割なし、演習講義・演習は30人ずつ4グループに分割して実施している。

日付	曜日	日	項目	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限		
9月13日	木	1日	オリエンテーション	形式 講義(120人)	講義(120人)	演習(60人)	演習(60人)	講義(120人)		
				内容 事前学習全体説明(基本構成、グループ分け等)	各ユニットの流れ	実務実習に向けた基本的マナー①	実務実習に向けた基本的マナー②	患者情報の取り方①		
				SBO				(2)-④-7		
				担当	長谷川・黒野・松本・伊東・牛田	黒野・長谷川	非常勤(中北)・黒野・伊東	非常勤(中北)・黒野・伊東	野田・亀井	
				教室	3-202	3-202	3-202・3-102	3-202・3-102	3-202	
9月14日	金	2日	講義	形式				講義(120人)		
				内容					模擬患者(SP)との演習について	
				SBO						
				担当					半谷・福井	
				教室					3-B01	
9月15日	土									
9月16日	日									
第1ユニット	9月17日	月祝	3日	講義	形式	講義(120人)	講義(120人)			
					内容	処方箋基礎・配慮薬	注射箋基礎			
					SBO	(2)-①-1、(2)-②-3、(2)-⑤-1~4、(2)-⑥-8、(2)-⑥-9	(2)-①-1、(3)-③-4			
					担当	黒野	伊東			
					教室	3-202	3-202			
	9月18日	火	4日	①調製・監査(錠剤・外用剤)	形式	演習講義(30人)	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)
					内容	演習の流れ	薬剤監査について	錠剤・外用剤の調剤、薬剤監査	錠剤・外用剤の調剤、薬剤監査	錠剤・外用剤の調剤、薬剤監査
					SBO	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-4	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8
					担当	松本・黒野・守屋	守屋・松本・黒野	松本・黒野・守屋	松本・黒野・守屋	松本・黒野
					教室	3-203	医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター
	9月19日	水	5日	①調製・監査(錠剤・外用剤)	形式	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習講義(30人)	
					内容	錠剤・外用剤の調剤、薬剤監査	錠剤・外用剤の調剤、薬剤監査	薬剤監査演習	薬剤監査演習	まとめ
					SBO	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-③-8	(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8
					担当	松本・黒野・守屋	松本・黒野・守屋	守屋・松本・黒野	守屋・松本・黒野	松本・黒野
					教室	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局
	9月20日		6日	②調製・監査(散剤・水剤)	形式	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)	
					内容	演習の流れ	散剤・水剤の調剤、薬剤監査	散剤・水剤の調剤、薬剤監査	散剤・水剤の調剤、薬剤監査	散剤・水剤の調剤、薬剤監査
					SBO	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8
					担当	守屋・牛田・長谷川	牛田・長谷川	守屋・牛田・長谷川	守屋・牛田・長谷川	牛田・長谷川
					教室	3-301	3-301	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター
9月21日	金	7日	講義	形式				講義(120人)		
				内容					患者情報の取り方②	
				SBO					(2)-④-3、(2)-④-7	
				担当					半谷・福井	
				教室					3-B01	
9月22日	土									
9月23日	日									
9月24日	月									
9月25日	火	8日	②調製・監査(散剤・水剤)	形式	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習講義(30人)		
				内容	散剤・水剤の調剤、薬剤監査	散剤・水剤の調剤、薬剤監査	薬剤監査演習	薬剤監査演習	まとめ	
				SBO	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	(2)-③-8	(2)-③-8	(2)-②-1、(2)-②-5、(2)-③-1~5、(2)-③-8	
				担当	牛田・長谷川・守屋	牛田・長谷川・守屋	守屋・牛田・長谷川	守屋・牛田・長谷川	牛田・長谷川	
				教室	医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	モデル薬局/医薬情報センター	医薬情報センター	
9月26日	水	9日	③手洗い・無菌調製	形式	演習講義(30人)	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)		
				内容	演習の流れ	演習の流れ	無菌調製	無菌調製	無菌調製	
				SBO	(2)-③-6	(2)-③-6	(2)-③-6	(2)-③-6	(2)-③-6、(2)-③-7、(2)-⑥-2	
				担当	伊東・築山	伊東・築山	伊東・築山	伊東・築山	伊東・築山	
				教室	306	306	クリーンルーム	クリーンルーム/306	306	
9月27日	木	10日	③手洗い・無菌調製	形式	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)		
				内容	無菌調製	無菌調製	ケモ調製・手洗い	ケモ調製・手洗い		
				SBO	(2)-③-5、(2)-③-6、(3)-③-5	(2)-③-5、(2)-③-6、(3)-③-5	(2)-③-6、(2)-③-7、(2)-⑥-4、(2)-⑥-5	(2)-③-6、(2)-③-7、(2)-⑥-4、(2)-⑥-5		
				担当	伊東・築山	伊東・築山	伊東・築山	伊東・築山		
				教室	クリーンルーム	クリーンルーム	クリーンルーム	クリーンルーム		

	日付	曜日	日	項目	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1ユニット	9月28日	金	11日	④疑義照会	形式	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)
		内容			演習の流れ	疑義照会 医師とのロールプレイ	疑義照会演習	医療従事者への情報提供	医療従事者への情報提供
		SBO			(2)-②-6	(2)-②-6	(2)-②-6	(4)-①-1	(4)-①-1
		担当 教室			亀井・福井 3-402	亀井・福井・脇田 3-402	亀井・福井 3-402	亀井・福井 3-402	亀井・福井 3-402
	9月29日	土							
	9月30日	日							
	10月1日	月	12日	④デバイス説明	形式	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)
		内容			演習の流れ	デバイスの説明	デバイスの説明	デバイスの説明	
		SBO			(2)-④-6	(2)-④-6	(2)-④-6	(2)-④-6	
		担当 教室			野田・半谷・吉見 3-402	野田・半谷・吉見 3-402	野田・半谷・吉見 3-402	野田・半谷・吉見 3-402	
10月2日	火	13日	まとめ	形式	演習(60人)	演習(60人)	演習(60人)	演習(60人)	講義(120人)
	内容			学生同士による 技能確認(調剤)	学生同士による 技能確認(調剤)	学生同士による 技能確認(監査)	学生同士による 技能確認(監査)	ポストテスト・ユニット2の流れ	
	SBO			(2)-③-3	(2)-③-3	(2)-③-8	(2)-③-8		
	担当 教室			黒野・松本・牛田 303(モデル薬局)	黒野・松本・牛田 303(モデル薬局)	長谷川・伊東・築山・守屋 3-301(3-303/304)	長谷川・伊東・築山・守屋 3-301(3-303/304)	長谷川・黒野・伊東 3-202	
第2ユニット	10月3日	水	14日	薬局対応(SP・トランスクリプト)	形式	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)
		内容			SP	SP	トランスクリプト	ロールプレイ	ロールプレイ
		SBO			(2)-④-1~5、(2)-④-7	(2)-④-1~5、(2)-④-7	(2)-④-1~5、(2)-④-7	(2)-④-1~5、(2)-④-7-8	(2)-④-1~5、(2)-④-7-8
		担当 教室			伊東・福井 403(405・406・407)	伊東・福井 403(405・406・407)	伊東・福井 3-401	伊東・福井 3-301	伊東・福井 3-301
	10月4日	木	15日	在宅	形式	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)
		内容			在宅	在宅	在宅	在宅	在宅
		SBO			(2)-④-1~5、(5)-①-2-3	(2)-④-1~5、(5)-①-2-3	(2)-④-1~5、(5)-①-2-3	(2)-④-1~5、(5)-①-2-3	(2)-④-1~5、(5)-①-2-3
		担当 教室			黒野・松本・牛田 3-402	黒野・松本・牛田 3-402	黒野・松本・牛田 3-402	黒野・松本・牛田 3-402	黒野・松本・牛田 3-402
	10月6日	土							
	10月7日	日							
10月8日	月			体育の日					
10月9日	火	16日	入院患者対応	形式	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)	
	内容			病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	
	SBO			(2)-④-1~5、(2)-④-7-8	(2)-④-1~5、(2)-④-7-8	(2)-④-1~5、(2)-④-7-8	(2)-④-1~5、(2)-④-7-8	(2)-④-1~5、(2)-④-7-8	
	担当 教室			野田・吉見・亀井・築山 3-203	野田・吉見・亀井・築山 3-203	野田・吉見・亀井・築山 3-203	野田・吉見・亀井・築山 3-203	野田・吉見・亀井・築山 3-203	
10月11日	木	17日	薬局対応(OTC薬)	形式	演習講義(30人)	演習(30人)	演習(30人)	演習(30人)	
	内容			OTC	OTC	OTC	OTC	OTC	
	SBO			(5)-③-3、(2)-④-1~5	(5)-③-3、(2)-④-1~5	(5)-③-3、(2)-④-1~5	(5)-③-3、(2)-④-1~5	(5)-③-3、(2)-④-1~5	
	担当 教室			半谷・守屋 モデル薬局	半谷・守屋 モデル薬局	半谷・守屋 モデル薬局	半谷・長谷川・守屋 モデル薬局	長谷川 モデル薬局	
10月13日	土								
10月14日	日								
第3ユニット	10月15日	月	18日	技能評価Ⅰ	形式	実技試験(120人)	実技試験(120人)	実技試験(120人)	実技試験(120人)
		内容			計数調剤	計数調剤	ガウン・手洗い	ガウン・手洗い	ガウン・手洗い
		SBO			(2)-③-3	(2)-③-3	(2)-③-6、(2)-③-7	(2)-③-6、(2)-③-7	(2)-③-6、(2)-③-7
		担当 教室			(A) 別途指示	(A) 別途指示	(B) 別途指示	(B) 別途指示	(B) 別途指示
	10月16日	火	19日	技能評価Ⅰ	形式	実技試験(120人)	実技試験(120人)	実技試験(120人)	実技試験(120人)
		内容			病棟初回面談	病棟初回面談	疑義照会	疑義照会	疑義照会
		SBO			(2)-④-1~3	(2)-④-1~3	(2)-②-6	(2)-②-6	(2)-②-6
		担当 教室			(C) 別途指示	(C) 別途指示	(D) 別途指示	(D) 別途指示	(D) 別途指示
10月18日	木	20日	講義	形式	講義(120人)	講義(120人)			
	内容			リスクマネジメント	ポストテスト/評価結果説明				
	SBO			(2)-⑥-1~3、(2)-⑥-7					
	担当 教室			伊東 3-202	長谷川・黒野・伊東・松本・守屋 3-202				

- (A) 黒野、長谷川、松本、亀井、野田、伊東、牛田、半谷、守屋
- (B) 黒野、長谷川、松本、亀井、築山、伊東、牛田、福井、吉見、守屋
- (C) 黒野、長谷川、松本、亀井、野田、築山、伊東、半谷、守屋
- (D) 黒野、長谷川、松本、早川、亀井、築山、伊東、牛田、福井、吉見、守屋

	日付	曜日	日	項目		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
総合演習	12月3日	月	21日	試験	形式	試験(240人)	講義(240人)				
					内容	筆記(定期)試験	総合演習(技能評価II)について (流れ説明)				
					SBO						
					担当 教室	長谷川・松本・黒野・伊東・牛田・守屋 3-B01/3-101	長谷川・松本・黒野・築山・伊東・牛田・守屋 3-B01				
	12月4日	火	22日	技能評価II	形式	実技試験(120人)	実技試験(120人)				
					内容	OTC情報収集 散剤調剤	OTC情報収集 散剤調剤				
					SBO	(2)-④-1~3、(2)-③-3	(2)-④-1~3、(2)-③-3				
					担当 教室	(E) 別途指示	(E) 別途指示				
	12月5日	水	23日	技能評価II	形式			実技試験(120人)	実技試験(120人)	実技試験(120人)	
					内容			病棟情報提供 水剤調剤	病棟情報提供 水剤調剤	病棟情報提供 水剤調剤	
					SBO			(2)-④-1・2、(2)-④-4 ~6、(2)-③-3	(2)-④-1・2、(2)-④-4 ~6、(2)-③-3	(2)-④-1・2、(2)-④-4 ~6、(2)-③-3	
					担当 教室			(F) 別途指示	(F) 別途指示	(F) 別途指示	
	12月6日	木	24日	技能評価II	形式	実技試験(120人)	実技試験(120人)				
					内容	薬剤監査 軟膏調剤	薬剤監査 軟膏調剤				
					SBO	(2)-③-8、(2)-③-3	(2)-③-8、(2)-③-3				
					担当 教室	(G) 別途指示	(G) 別途指示				
	12月7日	金	25日	技能評価II	形式			実技試験(120人)	実技試験(120人)	実技試験(120人)	
					内容			無菌調製 在宅対応	無菌調製 在宅対応	無菌調製 在宅対応	
		SBO					(2)-③-6、(5)-③-2	(2)-③-6、(5)-③-2	(2)-③-6、(5)-③-2		
		担当 教室					(H) 別途指示	(H) 別途指示	(H) 別途指示		
12月8日	土										
12月9日	日										
12月10日	月	26日	講義	形式	講義(240人)	講義(240人)					
				内容	総合演習講評 振り返り	総合演習講評 振り返り					
				SBO	(2)-②前)、(2)-③前)、 (2)-④前)	(2)-②前)、(2)-③前)、 (2)-④前)					
				担当 教室	黒野・長谷川、松本、野田、早川、亀井、 築山、伊東、牛田、半谷、福井、吉見、守屋 ライフサイエンス	黒野・長谷川、松本、野田、早川、亀井、 築山、伊東、牛田、半谷、福井、吉見、守屋 ライフサイエンス					

- (E) 黒野、長谷川、松本、野田、早川、亀井、築山、伊東、牛田、半谷、福井、吉見、守屋
(F) 黒野、長谷川、松本、築山、伊東、牛田、半谷、福井、吉見、守屋
(G) 黒野、松本、野田、早川、築山、伊東、牛田、吉見、守屋
(H) 黒野、長谷川、松本、野田、亀井、築山、伊東、牛田、福井、吉見

(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

学部	学科名	入試の種類		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	募集定員数 に対する入 学者数の比 率(6年間 の平均)
				入試(25年 度実施)	入試(26年 度実施)	入試(27年 度実施)	入試(28年 度実施)	入試(29年 度実施)	入試(30年 度実施)	
薬	一般入試・A方式	受験者数		984	1,067	931	961	912	848	107.3
		合格者数		361	377	402	397	402	396	
		入学者数(A)		109	99	138	140	133	118	
		募集定員数(B)		95	95	95	100	100	100	
		A/B*100(%)		114.7	104.2	145.3	140.0	133.0	118.0	
	一般入試・F方式	受験者数		654	629	568	631	611	603	
		合格者数		263	247	323	340	366	380	
		入学者数(A)		46	38	53	58	70	64	
		募集定員数(B)		30	30	30	40	40	40	
		A/B*100(%)		153.3	126.7	176.7	145.0	175.0	160.0	
一般入試・B方式	受験者数		356	367	380	284	277	200		
	合格者数		99	129	36	55	32	33		
	入学者数(A)		59	82	6	18	9	16		
	募集定員数(B)		30	30	30	30	30	30		
	A/B*100(%)		196.7	273.3	20.0	60.0	30.0	53.3		
大学入試センター 入試 C方式前期	受験者数		351	333	279	334	357	313		
	合格者数		94	101	100	101	110	116		
	入学者数(A)		5	1	3	2	2	2		
	募集定員数(B)		8	8	8	8	8	8		
	A/B*100(%)		62.5	12.5	37.5	25.0	25.0	25.0		
大学入試センター 入試 C方式後期	受験者数		31	33	30	36	20	9		
	合格者数		8	9	9	7	2	3		
	入学者数(A)		2	1	2	0	0	0		
	募集定員数(B)		2	2	2	2	2	2		
	A/B*100(%)		100.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
附属校推薦	受験者数		8	12	7	17	10	8		
	合格者数		8	12	7	17	10	8		
	入学者数(A)		8	11	7	17	8	8		
	募集定員数(B)		25	25	25	25	25	25		
	A/B*100(%)		32.0	44.0	28.0	68.0	32.0	32.0		
指定校推薦	受験者数		24	27	33	29	30	26		
	合格者数		24	27	33	29	30	26		
	入学者数(A)		24	27	32	29	30	26		
	募集定員数(B)		40	40	40	40	40	40		
	A/B*100(%)		60.0	67.5	80.0	72.5	75.0	65.0		
公募制推薦	受験者数		48	52	60	69	50	50		
	合格者数		25	26	28	28	22	24		
	入学者数(A)		25	26	28	28	22	24		
	募集定員数(B)		20	20	20	20	20	20		
	A/B*100(%)		125.0	130.0	140.0	140.0	110.0	120.0		
スポーツ推薦	受験者数		0	0	0	0	0	0		
	合格者数		0	0	0	0	0	0		
	入学者数(A)		0	0	0	0	0	0		
	募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)		0	0	0	0	0	0		
外国人留学生特別入試	受験者数		0	0	1	0	0	0		
	合格者数		0	0	1	0	0	0		
	入学者数(A)		0	0	0	0	0	0		
	募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)		0	0	0	0	0	0		
学 科 計	受験者数		2,456	2,520	2,289	2,361	2,267	2,057		
	合格者数		882	928	939	974	974	986		
	入学者数(A)		278	285	269	292	274	258		
	募集定員数(B)		250	250	250	265	265	265		
	A/B*100(%)		111.2	114.0	107.6	110.2	103.4	97.4		
編(転)入試験	受験者数		-	-	-	-	-	-		
	合格者数		-	-	-	-	-	-		
	入学者数(A)		-	-	-	-	-	-		
	募集定員数(B)		-	-	-	-	-	-		
	A/B*100(%)		-	-	-	-	-	-		

- [注]
- 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 - 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B*100(%)]を算出してください。
 - 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 - 4 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 - 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 - 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・」を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
29名	21名	0名	16名	66名	40名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
5名	2名	0名	3名	10名	7名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
2名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
2名	0名	0名	2名

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員¹⁾

事務職員	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
10名	1名	0名	11名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まない。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

(基礎資料9) 専任教員(基礎資料8の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	1名	0名	0名	0名	1名	1.51%
60代	9名	4名	0名	0名	13名	19.70%
50代	17名	8名	0名	0名	25名	37.88%
40代	2名	7名	0名	3名	12名	18.18%
30代	0名	2名	0名	13名	15名	22.73%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	29名	21名	0名	16名	66名	100.0 %

専任教員の定年年齢：(72[平成7年3月末日までの採用者]、68[平成7年4月以降～平成17年3月末日までの採用者]、65[平成17年4月以降採用者]歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料8の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	28名	16名	0名	13名	57名	86.36%
女性	1名	5名	0名	3名	9名	13.64%

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授	二改 俊章	70	男	博(薬)	1975.10.1	微生物学	24.00	0.80	
							免疫学	22.50	0.75	
							環境生物制御学	1.50	0.05	
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							生物系基礎実習(微生物学)	54.00	1.80	
							微生物学演習	7.50	0.25	
							免疫学演習	7.50	0.25	
							応用演習11(微生物学/免疫学)	7.50	0.25	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	1.50	0.05	
							実務実習	21.00	0.70	
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	原田 健一	69	男	博(薬)	1976.4.1	薬学英語2	22.50	0.75	
							環境生物制御学	1.50	0.05	
							薬学卒業研究基礎	39.00	1.30	
							分析系応用実習(環境科学)	◎	54.00	1.80
							薬学英語2演習	3.00	0.10	
							応用演習4(分析化学)	4.50	0.15	
							応用演習14(環境科学/公衆衛生学)	4.50	0.15	
							人間と環境	45.00	1.50	
							入門実験	◎	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							実務実習	18.00	0.60	
授業担当時間の合計							225.00	7.50		
薬学科	教授	森 裕二	67	男	博(薬)	1978.4.1	有機薬化学1	45.00	1.50	
							基礎有機化学	45.00	1.50	
							機能分子合成化学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	30.00	1.00	
							化学系応用実習(有機化学3)	54.00	1.80	
							基礎有機化学演習	7.50	0.25	
							有機薬化学1演習	7.50	0.25	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	18.00	0.60	
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	永松 正	67	男	博(薬)	1976.4.1	薬理・病態4	45.00	1.50	
							薬物治療マネジメント	46.50	1.55	
							臨床薬物治療学	9.00	0.30	
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							生物系応用実習(薬理2)	◎	54.00	1.80
							薬理・病態4演習	7.50	0.25	
							応用演習20(薬理・病態4/感染予防学)	3.00	0.10	
							薬学特別講義(再)	6.00	0.20	
							実務実習 I	18.00	0.60	
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	田口 忠緒	65	男	博(薬)	1978.4.1	異常値のメカニズム	45.00	1.50	
							放射科学	22.50	0.75	
							薬物治療マネジメント	6.00	0.20	
							薬学卒業研究基礎	33.00	1.10	
							異常値のメカニズム演習	7.50	0.25	
							応用演習12(異常値/身体変化のメカニズム)	3.00	0.10	
							薬剤師の使命2	48.00	1.60	
							薬学特別講義(再)	1.50	0.05	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	19.50	0.65	
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	教授	金田 典雄	65	男	博(医)	1996.4.1	分子生物学2	45.00	1.50
							分析化学	45.00	1.50
							臨床病態制御学	4.50	0.15
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							分析系基礎実習(分析化学)	◎ 54.00	1.80
							分子生物学2演習	7.50	0.25
							分析化学演習	7.50	0.25
							応用演習4(分析化学)	3.00	0.10
							応用演習10(分子生物学1/2)	3.00	0.10
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	24.00	0.80
授業担当時間の合計							244.50	8.15	
薬学科	教授	飯田 耕太郎	65	男	博(薬)	1977.4.1	臨床倫理学	22.50	0.75
							臨床心理・倫理学	24.00	0.80
							臨床薬物治療学	6.00	0.20
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							薬剤師の使命1	45.00	1.50
							実務実習	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授	脇田 康志	60	男	博(医)	2012.4.1	薬理・病態2	21.00	0.70
							身体変化のメカニズム	15.00	0.50
							実務実習事前講義・演習	3.00	0.10
							薬物治療マネジメント	21.00	0.70
							臨床薬物治療学	9.00	0.30
							医療の最前線	15.00	0.50
							薬学卒業研究基礎	21.00	0.70
							薬理・病態2演習	4.50	0.15
							身体変化のメカニズム演習	3.00	0.10
							応用演習12(異常値/身体変化のメカニズム)	1.50	0.05
							応用演習22(薬理・病態2/3)	1.50	0.05
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							実務実習	15.00	0.50
授業担当時間の合計							133.50	4.45	
薬学科	教授	平松 正行	60	男	博(薬)	1986.4.1	薬の作用	45.00	1.50
							薬物治療マネジメント	3.00	0.10
							薬物機能解析学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	21.00	0.70
							生物系応用実習(薬理1)	◎ 54.00	1.80
							薬の作用演習	7.50	0.25
							応用演習15(薬の作用/薬理・病態1)	4.50	0.15
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	1.50	0.05
							実務実習	16.50	0.55
授業担当時間の合計							186.00	6.20	
薬学科	教授	湯川 和典	59	男	博(医)	2008.4.1	機能形態学1	45.00	1.50
							機能形態学2	45.00	1.50
							臨床病態制御学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							生物系基礎実習(生理学)	54.00	1.80
							機能形態学1演習	7.50	0.25
							機能形態学2演習	7.50	0.25
							応用演習1(機能形態学1/2)	7.50	0.25
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							実務実習	18.00	0.60
授業担当時間の合計							232.50	7.75	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授	亀井 浩行	57	男	博(薬)	2004.4.1	臨床心理・倫理学	24.00	0.80	
							実務実習事前講義・演習	178.50	5.95	
							薬物治療マネジメント	22.50	0.75	
							臨床薬物治療学	7.50	0.25	
							薬学卒業研究基礎	12.00	0.40	
							キャリア形成	30.00	1.00	
							実務実習	16.50	0.55	
							授業担当時間の合計	291.00	9.70	
薬学科	教授	大津 史子	57	女	博(薬)	2000.4.1	医療法規	24.00	0.80	
							医薬品情報学	45.00	1.50	
							薬物治療マネジメント	87.00	2.90	
							臨床薬局学1	7.50	0.25	
							臨床薬物治療学	9.00	0.30	
							臨床医薬品情報学	6.00	0.20	
							薬学卒業研究基礎	37.50	1.25	
							物理系応用実習(医薬品情報)	◎	54.00	1.80
							医薬品情報学演習	7.50	0.25	
							医療法規演習	4.50	0.15	
							応用演習21(薬剤学/医薬品情報学)	4.50	0.15	
							薬学概論1	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	6.00	0.20	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	25.50	0.85	
							授業担当時間の合計	351.00	11.70	
薬学科	教授	井藤 千裕	56	男	博(薬)	1987.4.1	構造解析学	45.00	1.50	
							薬用資源制御学	4.50	0.15	
							薬学卒業研究基礎	33.00	1.10	
							化学系基礎実習(有機化学1)	◎	54.00	1.80
							基礎化学演習	7.50	0.25	
							構造解析学演習	7.50	0.25	
							応用演習9(薬局方試験法/構造解析学)	4.50	0.15	
							基礎化学	45.00	1.50	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	25.50	0.85	
授業担当時間の合計	232.50	7.75								
薬学科	教授	灘井 雅行	56	男	博(医)	1999.4.1	薬物動態学2	22.50	0.75	
							薬剤学	16.50	0.55	
							薬物投与設計	22.50	0.75	
							薬物治療マネジメント	13.50	0.45	
							臨床薬物動態学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	40.50	1.35	
							物理系応用実習(薬剤)	◎	54.00	1.80
							薬物動態学2演習	7.50	0.25	
							薬剤学演習	7.50	0.25	
							応用演習16(薬物動態学1/2)	4.50	0.15	
							応用演習21(薬剤学/医薬品情報学)	4.50	0.15	
							薬学特別講義(再)	6.00	0.20	
							臨床薬物治療学	1.50	0.05	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	19.50	0.65	
授業担当時間の合計	226.50	7.55								

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授	岡本 浩一	56	男	博(薬)	1998.4.1	製剤学2	45.00	1.50	
							製剤設計学	12.00	0.40	
							薬物治療マネジメント	1.50	0.05	
							臨床薬物動態学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	40.50	1.35	
							物理系基礎実習(物理化学)	◎	54.00	1.80
							製剤学2演習	7.50	0.25	
							製剤設計学演習	4.50	0.15	
							応用演習17(製剤学1/2)	4.50	0.15	
							応用演習18(生物有機化学/製剤設計学)	3.00	0.10	
							入門実験	30.00	1.00	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	18.00	0.60	
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授 (実務)	野田 幸裕	56	男	博(医)	2005.4.1	実務実習事前講義・演習	132.00	4.40	
							薬物治療マネジメント	21.00	0.70	
							薬物機能解析学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	12.00	0.40	
							化学療法・緩和医療	3.00	0.10	
							実務実習	39.00	1.30	
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授	能勢 充彦	56	男	博(薬)	2005.4.1	薬用植物と生薬	45.00	1.50	
							和漢医薬学	22.50	0.75	
							薬用資源制御学	4.50	0.15	
							薬学卒業研究基礎	39.00	1.30	
							化学系応用実習(天然物化学・生薬)	54.00	1.80	
							薬用植物と生薬演習	7.50	0.25	
							応用演習5(医薬資源化学/薬用植物と生薬)	4.50	0.15	
							実務実習	16.50	0.55	
授業担当時間の合計							193.50	6.45		
薬学科	教授	早川 伸樹	56	男	博(医)	2012.4.1	薬理・病態2	15.00	0.50	
							身体変化のメカニズム	33.00	1.10	
							化学療法・緩和医療	4.50	0.15	
							実務実習事前講義・演習	24.00	0.80	
							薬物治療マネジメント	58.50	1.95	
							臨床薬物治療学	9.00	0.30	
							薬学卒業研究基礎	21.00	0.70	
							薬理・病態2演習	3.00	0.10	
							身体変化のメカニズム演習	4.50	0.15	
							応用演習12(異常値/身体変化のメカニズム)	3.00	0.10	
							応用演習22(薬理・病態2/3)	1.50	0.05	
							薬学特別講義(再)	4.50	0.15	
							実務実習 I	22.50	0.75	
授業担当時間の合計							204.00	6.80		
薬学科	教授	原 侑	56	男	博(薬)	2002.6.1	有機薬化学1	45.00	1.50	
							医薬品化学	22.50	0.75	
							基礎有機化学	45.00	1.50	
							薬物治療マネジメント	21.00	0.70	
							機能分子合成化学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							化学系基礎実習(有機化学2)	◎	54.00	1.80
							基礎有機化学演習	7.50	0.25	
							有機薬化学1演習	7.50	0.25	
							実務実習	16.50	0.55	
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	教授	神野 透人	55	男	博(薬)	2015.4.1	公衆衛生学	21.00	0.70
							衛生化学1	45.00	1.50
							衛生化学2	45.00	1.50
							環境生物制御学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							分析系応用実習(衛生化学)	◎ 54.00	1.80
							衛生化学2演習	7.50	0.25
							応用演習19(衛生化学1/2)	4.50	0.15
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	4.50	0.15
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授	丹羽 敏幸	55	男	博(薬)	2008.4.1	物理化学2	21.00	0.70
							製剤学1	45.00	1.50
							臨床薬物動態学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							物理系基礎実習(製剤)	◎ 54.00	1.80
							物理化学2演習	4.50	0.15
							製剤学1演習	7.50	0.25
							応用演習17(製剤学1/2)	4.50	0.15
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授	梅田 孝	55	男	博(医)	2013.4.1	運動療法学	22.50	0.75
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							健康・スポーツ科学1	37.50	1.25
							健康・スポーツ科学2	7.50	0.25
							健康・スポーツ科学3	12.00	0.40
							健康・スポーツ科学4	22.50	0.75
							健康・スポーツ科学理論	45.00	1.50
							実務実習	16.50	0.55
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授 (実務)	長谷川 洋一	54	男	博(薬)	2008.10.1	薬理・病態2	45.00	1.50
							実務実習事前講義・演習	244.50	8.15
							薬物治療マネジメント	37.50	1.25
							臨床薬物治療学	9.00	0.30
							薬学概論2	15.00	0.50
							実務実習	69.00	2.30
授業担当時間の合計							420.00	14.00	
薬学科	教授 (実務)	黒野 俊介	52	男	博(医)	2010.4.1	実務実習事前講義・演習	291.00	9.70
							薬物治療マネジメント	57.00	1.90
							臨床薬物治療学	9.00	0.30
							化学療法・緩和医療	1.50	0.05
							実務実習	108.00	3.60
授業担当時間の合計							466.50	15.55	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	教授	山田 修平	51	男	博(薬)	2012.4.1	生化学2	22.50	0.75
							生化学3	45.00	1.50
							基礎薬学総論	12.00	0.40
							臨床病態制御学	3.00	0.10
							薬学特別講義(再)	7.50	0.25
							薬学卒業研究基礎	36.00	1.20
							分析系基礎実習(生化学)	◎ 54.00	1.80
							基礎生物演習	3.00	0.10
							生化学2演習	7.50	0.25
							生化学3演習	7.50	0.25
							応用演習2(生化学1/2)	4.50	0.15
							応用演習8(生化学3)	7.50	0.25
							基礎生物	45.00	1.50
							入門実験	30.00	1.00
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	28.50	0.95
授業担当時間の合計							316.50	10.55	
薬学科	教授	北垣 伸治	50	男	博(薬)	2012.4.1	有機薬化学2	45.00	1.50
							有機薬化学3	45.00	1.50
							機能分子合成化学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							化学系応用実習(有機化学3)	◎ 54.00	1.80
							基礎化学演習	7.50	0.25
							有機薬化学2演習	7.50	0.25
							有機薬化学3演習	15.00	0.50
							基礎化学	45.00	1.50
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	22.50	0.75
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授 (実務)	築山 郁人	47	男	博(医)	2017.4.1	薬理・病態2	6.00	0.20
							化学療法・緩和医療	10.50	0.35
							実務実習事前講義・演習	234.00	7.80
							薬学卒業研究基礎	18.00	0.60
							薬物治療マネジメント	15.00	0.50
							実務実習	37.50	1.25
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授	小田 彰史	45	男	博(理)	2016.4.1	物理化学2	24.00	0.80
							臨床薬物動態学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	40.50	1.35
							物理系基礎実習(物理化学)	◎ 54.00	1.80
							基礎物理演習	4.50	0.15
							物理化学2演習	4.50	0.15
							応用演習3(物理化学1/2)	4.50	0.15
							基礎物理	24.00	0.80
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	19.50	0.65
							授業担当時間の合計		

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授 (実務)	松本 修一	61	男	博(薬)	2017.10.1	実務実習事前講義・演習	277.50	9.25	
							薬物治療マネジメント	0.00	0.00	
							実務実習	37.50	1.25	
							授業担当時間の合計	315.00	10.50	
薬学科	准教授	豊田 行康	66	男	博(薬)	1976.4.1	生化学1	22.50	0.75	
							栄養学	45.00	1.50	
							薬物治療マネジメント	3.00	0.10	
							臨床病態制御学	1.50	0.05	
							薬学卒業研究基礎	27.00	0.90	
							分析系基礎実習(生化学)	◎	54.00	1.80
							生化学1演習	7.50	0.25	
							応用演習2(生化学1/2)	3.00	0.10	
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	18.00	0.60	
							授業担当時間の合計	196.50	6.55	
薬学科	准教授	武田 直仁	63	男	博(薬)	1979.4.1	薬局方試験法	22.50	0.75	
							薬学卒業研究基礎	36.00	1.20	
							物理系基礎実習(物理化学)	◎	54.00	1.80
							物理系基礎実習(製剤)	◎	54.00	1.80
							物理系応用実習(薬剤)	◎	54.00	1.80
							物理系応用実習(医薬品情報)	◎	54.00	1.80
							薬局方試験法演習	7.50	0.25	
							応用演習9(薬局方試験法/構造解析学)	4.50	0.15	
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	21.00	0.70	
							授業担当時間の合計	343.50	11.45	
薬学科	准教授	川村 智子	62	女	博(薬)	1979.4.1	薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							生物系基礎実習(生理学)	◎	54.00	1.80
							生物系基礎実習(微生物学)	◎	54.00	1.80
							生物系応用実習(薬理1)	◎	54.00	1.80
							生物系応用実習(薬理2)	◎	54.00	1.80
							入門実験	30.00	1.00	
							実務実習	19.50	0.65	
							授業担当時間の合計	307.50	10.25	
薬学科	准教授	小島 良二	59	男	博(薬)	1983.4.1	薬理・病態5	45.00	1.50	
							薬物機能解析学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							生物系応用実習(薬理2)	◎	54.00	1.80
							薬理・病態5演習	7.50	0.25	
							応用演習23(薬理・病態5/6)	4.50	0.15	
							薬物治療科学特論	9.00	0.30	
							薬学特別講義(再)	6.00	0.20	
							実務実習	19.50	0.65	
							授業担当時間の合計	190.50	6.35	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	准教授	打矢 恵一	59	男	博(薬)	1984.4.1	微生物学	24.00	0.80
							免疫学	22.50	0.75
							感染予防学	21.00	0.70
							救命救急・院内感染予防	15.00	0.50
							環境生物制御学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							生物系基礎実習(微生物学)	◎ 54.00	1.80
							微生物学演習	7.50	0.25
							免疫学演習	7.50	0.25
							感染予防学演習	4.50	0.15
							応用演習11(微生物学/免疫学)	7.50	0.25
							応用演習20(薬理・病態4/感染予防学)	3.00	0.10
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	1.50	0.05
							実務実習	19.50	0.65
							授業担当時間の合計		
薬学科	准教授	小森 由美子	59	女	博(薬)	1983.4.1	感染予防学	21.00	0.70
							薬理・病態6	45.00	1.50
							薬物治療マネジメント	3.00	0.10
							環境生物制御学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	24.00	0.80
							生物系基礎実習(微生物学)	◎ 54.00	1.80
							感染予防学演習	4.50	0.15
							薬理・病態6演習	7.50	0.25
							応用演習20(薬理・病態4/感染予防学)	3.00	0.10
							応用演習23(薬理・病態5/6)	4.50	0.15
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		
薬学科	准教授	栗本 英治	58	男	博(理)	1947.4.	物理化学1	45.00	1.50
							臨床薬物動態学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	40.50	1.35
							物理系基礎実習(製剤)	◎ 54.00	1.80
							基礎物理演習	4.50	0.15
							物理化学1演習	7.50	0.25
							応用演習3(物理化学1/2)	4.50	0.15
							基礎物理	21.00	0.70
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	4.50	0.15
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	16.50	0.55
授業担当時間の合計							213.00	7.10	
薬学科	准教授	半谷 眞七子	58	女	博(薬)	1997.4.1	臨床コミュニケーション	45.00	1.50
							実務実習事前講義・演習	127.50	4.25
							薬物治療マネジメント	13.50	0.45
							薬学卒業研究基礎	9.00	0.30
							コミュニケーション基礎	33.00	1.10
							実務実習	22.50	0.75
授業担当時間の合計							228.00	7.60	
薬学科	准教授	高谷 芳明	55	男	博(理)	2000.4.1	物質の成り立ち	67.50	2.25
							有機薬化学2	45.00	1.50
							薬用資源制御学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							化学系基礎実習(有機化学1)	54.00	1.80
							有機薬化学2演習	7.50	0.25
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	27.00	0.90
授業担当時間の合計							222.00	7.40	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	准教授	村田 富保	51	男	博(薬)	1998.4.1	分子生物学1	45.00	1.50	
							臨床病態制御学	1.50	0.05	
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							分析系基礎実習(分析化学)	◎	54.00	1.80
							分子生物学1演習	7.50	0.25	
							応用演習10(分子生物学1/2)	4.50	0.15	
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	25.50	0.85	
授業担当時間の合計							187.50	6.25		
薬学科	准教授	REBUCK MARK SIMEON	50	男	MA (TEFL)	2013.4.1	薬学英語1	27.00	0.90	
							薬学英語2	45.00	1.50	
							医療英語コミュニケーション	15.00	0.50	
							薬学英語1演習	4.50	0.15	
							薬学英語2演習	4.50	0.15	
							教養演習2	48.00	1.60	
							英語中級1(リーディング)	45.00	1.50	
							英語中級2(リーディング)	45.00	1.50	
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授(実務)	伊東 亜紀雄	50	男	博(医)	2010.4.1	実務実習事前講義・演習	265.50	8.85	
							薬物治療マネジメント	46.50	1.55	
							臨床薬物治療学	9.00	0.30	
							実務実習	70.50	2.35	
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授	金子 美由紀	45	女	博(医)	1997.4.1	運動療法学	22.50	0.75	
							健康・スポーツ科学1	90.00	3.00	
							健康・スポーツ科学2	90.00	3.00	
							健康・スポーツ科学3	12.00	0.40	
							健康・スポーツ科学4	22.50	0.75	
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授	間宮 隆吉	45	男	博(医)	2001.4.1	薬理・病態3	45.00	1.50	
							薬物機能解析学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	24.00	0.80	
							生物系応用実習(薬理1)	◎	54.00	1.80
							薬理・病態3演習	7.50	0.25	
							応用演習22(薬理・病態2/3)	3.00	0.10	
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	4.50	0.15	
							実務実習	22.50	0.75	
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授	今西 進	43	男	博(学術)	2015.4.1	環境科学	45.00	1.50	
							環境生物制御学	1.50	0.05	
							薬学卒業研究基礎	30.00	1.00	
							分析系応用実習(環境科学)	◎	54.00	1.80
							環境科学演習	7.50	0.25	
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	19.50	0.65	
							授業担当時間の合計			

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	准教授	田辺 公一	42	男	博(薬)	2015.4.1	医療法規	24.00	0.80
							セルフメディケーション・医療統計	12.00	0.40
							薬物治療マネジメント	19.50	0.65
							臨床栄養療法学	15.00	0.50
							臨床医薬品情報学	4.50	0.15
							薬剤師の専門性	15.00	0.50
							薬学卒業研究基礎	39.00	1.30
							物理系応用実習(医薬品情報)	◎ 54.00	1.80
							医療法規演習	3.00	0.10
							薬学特別講義(再)	7.50	0.25
							実務実習	22.50	0.75
授業担当時間の合計							193.50	6.45	
薬学科	准教授	根岸 隆之	42	男	博(獣医学)	2013.4.1	機能形態学3	45.00	1.50
							薬学英語1	18.00	0.60
							臨床病態制御学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	40.50	1.35
							生物系基礎実習(生理学)	◎ 54.00	1.80
							機能形態学3演習	7.50	0.25
							薬学英語1演習	3.00	0.10
							応用演習7(機能形態学3)	7.50	0.25
							薬学特別講義(再)	4.50	0.15
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	22.50	0.75
授業担当時間の合計							181.50	6.05	
薬学科	准教授	加藤 美紀	42	女	博(薬)	2008.4.1	薬物動態学1	45.00	1.50
							薬物治療マネジメント	1.50	0.05
							臨床薬物動態学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							物理系応用実習(薬剤)	54.00	1.80
							薬物動態学1演習	7.50	0.25
							応用演習16(薬物動態学1/2)	4.50	0.15
							薬学特別講義(再)	1.50	0.05
							実務実習	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		
薬学科	准教授	奥田 知将	37	男	博(薬)	2008.4.1	製剤設計学	12.00	0.40
							薬学英語2	22.50	0.75
							薬学卒業研究基礎	40.50	1.35
							物理系基礎実習(物理化学)	◎ 54.00	1.80
							薬学英語2演習	3.00	0.10
							製剤設計学演習	4.50	0.15
							応用演習18(生物有機化学/製剤設計学)	3.00	0.10
							入門実験	30.00	1.00
							薬物治療マネジメント	1.50	0.05
							薬学特別講義(再)	9.00	0.30
							実務実習	24.00	0.80
授業担当時間の合計							180.00	6.00	
薬学科	准教授	坂井 健男	37	男	博(薬)	2010.4.1	生物有機化学	45.00	1.50
							機能分子合成化学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							化学系応用実習(有機化学3)	◎ 54.00	1.80
							生物有機化学演習	7.50	0.25
							応用演習18(生物有機化学/製剤設計学)	4.50	0.15
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10
							基礎薬学総論	3.00	0.10
							実務実習	19.50	0.65
授業担当時間の合計							159.00	5.30	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	准教授 (実務)	牛田 誠	46	男	博(薬)	2018.4.1	セルフメディケーション・医療統計	12.00	0.40	
							実務実習事前講義・演習	268.50	8.95	
							臨床薬局学2	15.00	0.50	
							薬物治療マネジメント	16.50	0.55	
							実務実習	6.00	0.20	
							授業担当時間の合計	318.00	10.40	
薬学科	助教	植田 康次	45	男	博(理)	2002.4.1	衛生化学1	30.00	1.00	
							環境生物制御学	1.50	0.05	
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							分析系基礎実習(分析化学)	◎	54.00	1.80
							分析系基礎実習(生化学)	◎	54.00	1.80
							分析系応用実習(環境科学)	◎	54.00	1.80
							分析系応用実習(衛生化学)	◎	54.00	1.80
							衛生化学1演習	7.50	0.25	
							応用演習19(衛生化学1/2)	3.00	0.10	
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	13.50	0.45	
							授業担当時間の合計	333.00	11.10	
薬学科	助教 (実務)	守屋 有加	40	女	博(薬)	2013.4.1	実務実習事前講義・演習	195.00	6.50	
							実務実習	40.50	1.35	
							授業担当時間の合計	235.50	7.85	
薬学科	助教	岡本 誉士典	39	男	博(薬)	2009.4.1	公衆衛生学	33.00	1.10	
							環境生物制御学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	34.50	1.15	
							分析系応用実習(衛生化学)	◎	54.00	1.80
							公衆衛生学演習	7.50	0.25	
							応用演習14(環境科学/公衆衛生学)	3.00	0.10	
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	22.50	0.75	
授業担当時間の合計	168.00	5.60								
薬学科	助教	水本 秀二	39	男	博(薬)	2013.4.1	生化学2	6.00	0.20	
							基礎生物演習	4.50	0.15	
							基礎生物	13.50	0.45	
							基礎生物	13.50	0.45	
							分析系基礎実習(生化学)	◎	54.00	1.80
							入門実験	30.00	1.00	
							薬学卒業研究基礎	36.00	1.20	
							実務実習	21.00	0.70	
授業担当時間の合計	157.50	5.25								
薬学科	助教	西川 泰弘	38	男	博(薬)	2012.4.1	有機薬化学3	45.00	1.50	
							薬学特別講義(再)	3.00	0.10	
							機能分子合成化学	3.00	0.10	
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40	
							化学系基礎実習(有機化学2)	◎	54.00	1.80
							有機薬化学3演習	7.50	0.25	
							基礎薬学総論	3.00	0.10	
							実務実習	15.00	0.50	
授業担当時間の合計	154.50	5.15								

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	助教	衣斐 大祐	37	男	博(医)	2015.4.1	薬理・病態1	45.00	1.50
							薬物治療マネジメント	3.00	0.10
							薬物機能解析学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	36.00	1.20
							生物系応用実習(薬理1)	◎ 54.00	1.80
							薬理・病態1演習	7.50	0.25
							応用演習15(薬の作用/薬理・病態1)	4.50	0.15
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	6.00	0.20
							実務実習	22.50	0.75
授業担当時間の合計							187.50	6.25	
薬学科	助教	日坂 真輔	36	男	博(農)	2010.4.1	医薬資源化学	45.00	1.50
							薬用資源制御学	3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎	34.50	1.15
							化学系応用実習(天然物化学・生薬)	◎ 54.00	1.80
							医薬資源化学演習	7.50	0.25
							応用演習5(医薬資源化学/薬用植物と生薬)	3.00	0.10
							薬学特別講義(再)	1.50	0.05
							実務実習	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教 (実務)	福井 愛子	36	女	修(薬)	2012.4.1	実務実習事前講義・演習	171.00	5.70
							薬物治療マネジメント	7.50	0.25
							臨床薬物治療学	9.00	0.30
							実務実習	28.50	0.95
							授業担当時間の合計		
薬学科	助教	武永 尚子	35	女	博(薬)	2014.4.1	薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							化学系基礎実習(有機化学1)	◎ 54.00	1.80
							化学系基礎実習(有機化学2)	◎ 54.00	1.80
							化学系応用実習(有機化学3)	◎ 54.00	1.80
							化学系応用実習(天然物化学・生薬)	◎ 54.00	1.80
							応用演習6(基礎有機化学/有機薬化学1)	7.50	0.25
							入門実験	30.00	1.00
							実務実習	18.00	0.60
授業担当時間の合計							295.50	9.85	
薬学科	助教	吉田 圭佑	34	男	博(薬)	2017.4.1	機能分子合成化学	4.50	0.15
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							化学系基礎実習(有機化学2)	◎ 54.00	1.80
							応用演習13(有機薬化学2/3)	7.50	0.25
							入門実験	30.00	1.00
							薬学特別講義(再)	1.50	0.05
							実務実習	19.50	0.65
授業担当時間の合計							139.50	4.65	
薬学科	助教	水野 智博	34	男	博(医)	2013.4.1	化学療法・緩和医療	6.00	0.20
							薬物治療マネジメント	37.50	1.25
							臨床薬物治療学	16.50	0.55
							薬学卒業研究基礎	42.00	1.40
							生物系応用実習(薬理2)	◎ 54.00	1.80
							薬学特別講義(再)	4.50	0.15
							実務実習	19.50	0.65
授業担当時間の合計							160.50	5.35	
薬学科	助教 (実務)	吉見 陽	34	男	博(医)	2016.4.1	実務実習事前講義・演習	151.50	5.05
							薬物治療マネジメント	18.00	0.60
							薬物機能解析学	1.50	0.05
							薬学卒業研究基礎	12.00	0.40
							実務実習	30.00	1.00
授業担当時間の合計							183.00	6.10	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教	近藤 啓太	33	男	博(薬)	2013.4.1	薬学英語1		18.00	0.60
							薬学特別講義(再)		3.00	0.10
							薬学卒業研究基礎		42.00	1.40
							物理系基礎実習(製剤)	◎	54.00	1.80
							薬学英語1演習		3.00	0.10
							入門実験		30.00	1.00
							基礎薬学総論		3.00	0.10
							実務実習		18.00	0.60
授業担当時間の合計								150.00	5.00	
薬学科	助教	青木 明	30	男	博(薬)	2016.4.1	薬学卒業研究基礎		42.00	1.40
							分析系応用実習(衛生化学)	◎	54.00	1.80
							入門実験		30.00	1.00
							薬学特別講義(再)		3.00	0.10
							実務実習		24.00	0.80
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教	都築 孝充	29	男	博(スポーツ健康科学)	2018.4.1	薬学卒業研究基礎		42.00	1.40
							生物系基礎実習(生理学)	◎	54.00	1.80
							実務実習		18.00	0.60
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教	酒井 隆全	30	男	博(薬)	2018.4.1	薬学卒業研究基礎		42.00	1.40
							薬物治療マネジメント		10.50	0.35
							実務実習		18.00	0.60
							授業担当時間の合計			

表2. 助手(基礎資料8の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目		総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
薬学科	助手	疋田 清美	49	女	博(薬)	1993.4.1	入門実験	◎	30.00	1.00
薬学科	助手	酒井 達子	64	女		1978.7.1				

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

5年生の在籍学生数 243 名

6年生の在籍学生数 261 名

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	医薬品情報学研究室	3	9	16	25	146
2	病院薬学研究室	3	9	9	18	47
3	臨床薬学教育・研究推進センター 病態解析学Ⅰ研究室	2	10	11	21	195
4	臨床薬学教育・研究推進センター 病態解析学Ⅱ研究室	1	1	0	1	87.78
5	臨床薬学教育・研究推進センター 臨床薬物治療学Ⅰ研究室	1	2	2	4	62.63
6	臨床薬学教育・研究推進センター 臨床薬物治療学Ⅱ研究室	1	0	1	1	87.78
7	臨床薬学教育・研究推進センター 実践薬学Ⅰ	5	0	3	3	64
8	製剤学研究室	2	10	10	20	178
9	生物物理化学研究室	2	10	10	20	176
10	薬物動態制御学研究室	2	10	9	19	178
11	生理学研究室	3	10	16	26	178
12	病態生化学研究室	3	13	15	28	178
13	生薬学研究室	2	10	10	20	178
14	薬剤学研究室	2	10	14	24	178
15	衛生化学研究室	3	14	15	29	178
16	薬化学研究室	2	11	9	20	199
17	分子設計化学研究室	2	11	9	20	199
18	薬効解析学研究室	3	14	18	32	177
19	薬学教育開発センター	6	11	9	20	61
20	健康・スポーツ科学研究室	2	5	0	5	68
21	生体機能分析学研究室	3	14	13	27	210
22	環境科学研究室	2	9	8	17	317
23	微生物学研究室	3	14	13	27	172
24	機能分子化学研究室	2	10	12	22	315
25	天然物化学研究室	2	10	11	21	232
26	薬品作用学研究室	3	16	14	30	208
	合 計	65	243	257	500	

※平成30年5月1日現在のため、4年生は未配属

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 ²⁾	大講義室	315、322	4	1,281	1室は講堂で315席。本薬学部では、当該講堂は「ライフサイエンスホール」と呼称している。また、4室全て固定机である。
	中講義室	162～168	7	1,152	7室全て固定机である。
	小講義室	42～81	12	851	12室全て可動機である。
	演習室	12～27	10	195	10室全て可動機である。また、施設の内訳は、ディスカッションルーム(3室)、多目的室(7室)である。
	コンピュータ演習室	70、72、150	3	292	CBTにも使用。本薬学部では、当該コンピュータ演習室は「マルチメディア教室」と呼称している。
実習室	化学系共同実習室	160	1	160	
	分析系共同実習室	160	1	160	
	生物系共同実習室	160	1	160	
	物理・分析系共同実習室	160	1	160	
	調剤実習室	30、60	2	90	施設の内訳は、クリーンルーム(1室)、モデル薬局(1室)である。
	待合室	20	1	20	
	模擬病室	20	1	20	
自習室等	ラウンジ(開放スペース)	8～81	7	235	
薬用植物園	1) 設置場所：八事キャンパス、春日井(鷹来)キャンパス附属農場 2) 施設の構成と規模：八事キャンパス32.89㎡、春日井(鷹来)キャンパス附属農場2,250㎡ 3) 栽培している植物種の数：八事キャンパス約35種、春日井(鷹来)キャンパス附属農場約3種				

1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。

2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を設け、同じ区分での座席数の範囲を示してください。
また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設などを、例示を参考にして備考に記入してください。

(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ¹⁾	面積 ²⁾	収容人員 ³⁾	室数 ⁴⁾	備 考
教員個室（教授室など）	20.22m ²	1人	55	原則として、個室は教授・准教授のみに付与。
実験室・研究室（大） ²⁾	111.16m ²	20人	16	
実験室・研究室（小） ²⁾	30.28m ²	6人	87	
セミナー室	34m ²	15人	5	
共用機器室	20m ²	0人	5	

- 1) 講座・研究室が占有する施設（隣接する2～3講座で共用する施設を含む）を記載してください。実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 2) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 3) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 4) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。（ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。）

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ¹⁾	室数	施設の内容
分析センター	15	正立型共焦点レーザー顕微鏡室、倒立型共焦点レーザー顕微鏡室、細胞培養室、微生物培養室、組織標本作成室等
R I 実験施設	20	実験室（5室）、放射線安全管理室、R I 排水処理室等
実験動物施設	40	飼育室（9室）、共用実験室（11室）等
製剤系機器室	1	

- 1) 大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。（面積などは不要です）

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
附属図書館	1,043	10,849	9.6	グループ学習室 グループ研究室	42	『グループ研究室』 のうち、1室にテレビ を設置。	学生収容定員数は学部 が10,140人、大 学院が709人。
附属図書館薬学部分館	149	1,606	9.3	—	0	なし。	学生収容定員数は学部 が1,590人、大 学院が16人。
附属図書館ナゴヤドーム 前キャンパス図書館	292	2,324	12.6	グループ学習室	48	なし。	学生収容定員数は学部 が2,280人、大 学院が44人。
計	1,484	14,779	31	—	90	—	学生収容定員数は学部 が14,010人、大 学院が769人。

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルの種類 (種類) ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			平成27年度	平成28年度	平成29年度	
附属図書館	971,496	126,751	14,432	6,094	25,208	21,142	14,620	14,219	10,015	
附属図書館薬学部分館	61,452	8,644	127	587	599	0	422	466	546	電子ジャーナルは『附属図書館』で集中管理。
附属図書館ナゴヤドーム前キャンパス図書館	110,431	109,600	847	122	2,589	0	0	3,181	5,812	電子ジャーナルは『附属図書館』で集中管理。平成27年度は開館前であるため、図書受け入れ状況は0冊。
計	1,143,379	244,995	15,406	6,803	28,396	21,142	15,042	17,866	16,373	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	微生物学研究室	職名	教授	氏名	二改 俊章
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義及び講演資料の作成			2014年12月～	出前講義：高校生に食物アレルギーの対応と細菌性食中毒予防の正しい知識についてかみくだいての講演。 板書を心がけ、毎回講義の復習をしながら講義をしている。授業評価満足度は高い。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
新しい微生物学 第5版(廣川書店)			2016年3月～	感染、食中毒、細菌各論の担当			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
(著書) 毒ヘビのやさしいサイエンス-咬まれるとアブナイ話-			共著	2014年6月	化学同人		
(論文) Okinalysin, a novel P-I metalloproteinase from <i>Ovophis okinavensis</i> : biological properties and effect on vascular endothelial cells			共著	2014年8月	Toxins Vol.6 No.9 : 2594-2604		
(論文) Characterization of a novel plasmid, pMAH135, from <i>Mycobacterium avium</i> subsp. hominissuis			共著	2015年2月	PLoS One, Vol.10 No.2: e0117797 (pp. 1~18)		
(論文) Comparative genome analyses of <i>Mycobacterium avium</i> reveal genomic features of its subspecies and strains that cause progression of pulmonary disease			共著	2016年1月	Scientific Reports Vol.7: 39750		
(論文) Comparative Study of Biological Activities of Venom from Colubrid Snakes <i>Rhabdophis tigrinus</i> (Yamakagashi) and <i>Rhabdophis lateralis</i>			共著	2017年11月	Toxins Vol.9 No.11: 373-382		

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
A.oryzae L-1034 より精製したエラスターゼ、Asorylase1034 の性質		2018年3月	第91回日本細菌学会総会
肺疾患の悪化を引き起こす <i>Mycobacterium avium</i> のゲノムの特徴		2018年3月	第91回日本細菌学会総会
<i>Mycobacterium avium</i> の感染様式の違いによる遺伝学的特徴と薬剤感受性との関連性		2018年6月	第93回日本結核病学会総会
非結核性抗酸菌の同定における質量分析法による精度評価		2018年6月	第93回日本結核病学会総会
沖縄産ハブ毒より塩基性抗血液凝固因子の精製とその性質		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
III 学会および社会における主な活動			
2000年1月～現在	日本細菌学会中部支部評議員		
2009年7月～2017年12月	日本細菌学会評議員		
2012年1月～現在	Toxin Reviews(renewal): Editorial Board		
2012年1月～現在	International Biochemistry Research & Reviews: Chief Editor		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績						
大学名	名城大学	講座名	環境科学研究室	職名	教授	氏名
I 教育活動						
教育実践上の主な業績				年月日		概要
1 教育内容・方法の工夫						
グループによる授業形式 学生に発表させる授業形式				2013年4月～ 2015年9月～		基軸科目「人間と環境」で毎年実施 環境科学（2年生）で毎年実施
2 作成した教科書、教材、参考書						
総合学術特論—いかに学ぶか— 環境科学				2013年4月 2015年9月		大学院総合学術特論 I および II のためのテキストを作成 教科書に代わる独自のノートを作成し、コンピュータ上で供覧できるようにした
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
名城大学第 19 回 FD フォーラム				2017年11月		「大学教養で何を学ぶか」とのタイトルで薬学部で実践されている基軸科目「人間と環境」について講演を行う
4 その他教育活動上特記すべき事項						
持続可能な社会についての講義				2014年5月		愛知学長懇話会主催のコーディネート科目の一つとして講義を行う
II 研究活動						
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
(著書) 質量分析計、医用質量分析ガイドブック				単著	2013年12月	診断と治療社
(論文) Cyanobacterial Blue Color Formation during Lysis Process under Natural Conditions				共著	2015年8月	Appl. Environ. Microbiol., 81, 2667-2675 (2015)
(論文) Characteristic Oxidation Behavior of β -Cyclocitral from the Cyanobacterium <i>Microcystis</i>				共著	2016年9月	Environ. Sci. Poll. Res. 23, 11998-12006 (2016)
(著書) 微生物が生み出す医薬品、化学療法学、病原微生物・がんと戦う				共著	2018年2月	南江堂
(論文) Microbial degradation of amino acid-containing compounds using microcystin degrading bacterium B-9 strain				共著	2018年2月	Marine Drugs, 16, 50; doi:10.3390/md16020050 (2018)
2 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月	学会名
淡水由来微生物 B-9 株の機能に関する研究—アミノ酸トランスポーターの存在					2018年6月	第 13 回化学生態学研究会
<i>Microcystis</i> ラン藻に由来する特異的溶藻化合物 β -cyclocitral の分析					2018年6月	第 13 回化学生態学研究会
LC-MS/MS を用いた神経伝達物質、TSPO および関連薬物の同時定量					2018年9月	第 43 回日本医用マススペクトル学会年会

Microcystin 分解性細菌 B-9 株の全ゲノムの解析	2018年9月	日本陸水学会第83回大会
化学生態学的アプローチによる Microcystis ラン藻の生活環解明 (1) β -cyclocitral の産生機構	2018年9月	日本陸水学会第83回大会
III 学会および社会における主な活動		
2014年6月	日本陸水学会入会	
2016年4月	日本医用マススペクトル学会監事	
2017年5月	日本質量分析学会功労賞受賞	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	分子設計化学 研究室	職名	氏名	
名城大学			教授	森 裕二	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
講義内容の理解度の向上			2018年4月～	授業時間の最初の10分を前回講義の復習にあてる(基礎有機化学、有機薬化学1)	
2 作成した教科書、教材、参考書					
有機合成実験法ハンドブック第2版(丸善出版)			2015年11月	有機合成化学協会編(分担執筆) 環状エーテルの合成法を概説	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
有機化学系教育に関する会議の開催			2016年11月16日	全国薬学部の有機化学系教員が参加する第11回有機化学系教科担当教員会議を主催した	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
Total Synthesis of Gymnocin-A.			共著	2015年11月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> 137 , 14513-14516 (2015).
Total Synthesis of Brevsamide Using an Oxiranyl Anion Strategy.			共著	2016年4月	<i>J. Org. Chem.</i> , 81 , 3799-3808 (2016).
Synthesis of the KLMN Fragment of Gymnocin-A from the FGH Fragment.			共著	2017年3月	<i>J. Org. Chem.</i> , 82 , 3976-3981 (2017).
Stereoinversion of a Tertiary Alcohol on a THP Ring: A Recovery Route to an Intermediate for Gymnocin-A			共著	2018年10月	<i>Heterocycles</i> 97 , 523-540 (2018).
Development of New Synthetic Methods Using Oxiranyl Anions and Application in the Syntheses of Polycyclic Ether Marine Natural Products.			単著	2019年1月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 67 , 1-17 (2019).
2 学会発表(評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名
7-endo 環化による syn-2,7-dimethyloxepane 環の構築				2018年6月	第113回有機合成シンポジウム
Gymnocin-B の GHIJKL フラグメントの合成				2018年6月	第64回日本薬学会東海支部総会・大会
Gymnocin-B の A 環部位改良構築法の検討				2018年6月	第64回日本薬学会東海支部総会・大会

Gymnocin-B の LMNO フラグメントの合成	2018 年 7 月	日本プロセス化学会 2018 サマーシンポジウム
Gymnocin-B の合成研究	2018 年 9 月	第 60 回天然有機化合物討論会
Total Synthesis of the Red-Tide Toxin Gymnocin-A (招待講演)	2018 年 10 月	The 33rd Symposium on Natural Products (Kaohsiung, Taiwan)
Improved Method for A-Ring Construction in Synthesis of Gymnocin-A.	2018 年 10 月	The 8th Nagoya/Nanjing/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (Nanjing, China)
Improved Synthesis of the KLMN Fragment of Gymnocin-A.	2018 年 10 月	The 8th Nagoya/Nanjing/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (Nanjing, China)

III 学会および社会における主な活動

2013 年 4 月～2017 年 3 月	独立行政法人科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム専門委員
2014 年 6 月～2016 年 3 月	第 13 回国際有機化学京都会議(IKCOK-13)組織委員
2015 年 7 月～2017 年 3 月	国立研究法人化学技術振興機構マッチングプランナープログラム専門委員
2016 年 4 月～2017 年 3 月	第 11 回有機化学系教科担当教員会議実行委員長
2016 年 12 月～2017 年 11 月	独立行政法人日本学術振興会・科学研究費委員会専門委員
2017 年 4 月～2018 年 3 月	日本薬学会化学系薬学部会副会長
2017 年 6 月～2019 年 3 月	国立研究法人化学技術振興機構 研究成果展開事業 地域産学バリュープログラム専門委員
2018 年 3 月	平成 30 年度日本薬学会賞

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬効解析学研究室	職名	教授	氏名	永松 正
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成			2017年9月～	教科書の内容および最新の更新情報を簡潔にまとめたパワーポイントファイルを学内公開サーバー (WebClass) に講義前にアップロードし、講義の予習・復習に活用した。(薬理・病態Ⅳ)			
必修・頻用薬物の試験			2017年9月～	講義に出てくる薬物の一般名、薬効分類、商品名についての試験を導入した。(薬理・病態Ⅳ、薬物治療学)			
実習内容の改善			2015年3月～	臨床を意識した薬理学の学生実習とするために、ヒト型病態シミュレータのソフトウェアを大学PCに組み込み喘息患者・高血圧患者に対する薬理作用をシミュレートできるようにした。(生物系応用薬理)			
演習内容の改善			2015年3月～	病院・薬局で薬剤師が実践できるバイタルサイン、神経学的検査、簡易診断の演習を取り入れた。(臨床薬物治療学)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
必修薬物 220 基本表			2016年2月5日	教科書・国家試験に出てくる基礎的な220薬物を選出し、薬理作用等を含む一覧表の改訂			
頻用薬物 195 基本表			2016年4月8日	病院でよく使用される195薬物を選出し、副作用、適応症等を含む一覧表の改訂			
必修薬物ウェブ試験・解答一覧表			2016年4月3日	PCを用いて必修薬物の基本事項の試験をWebClassで実施する。(共同)			
頻用薬物ウェブ試験・解答一覧表			2016年5月11日	PCを用いて頻用薬物の基本事項の試験をWebClassで実施する。(共同)			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
薬学部薬理学実習に薬物効果シミュレーション実習を導入			2014年6月	生物系応用実習(薬理学)にシムマン3Gのインストラクタソフトを用いた演習について第60回東海支部大会で報告			
薬学部薬理学実習に薬物副作用シミュレーション実習を導入			2015年3月	生物系応用実習(薬理学)にシムマン3Gのインストラクタソフトを用いた薬物副作用の演習について日本薬学会第136年会で報告			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
臨床技能教育の実践			2018年6月	臨床薬物マネイジメントにマネキンを使った褥瘡治療演習を取り入れた。			

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Complement component 5 promotes lethal thrombosis.	共著	2017年2月	Sci Rep. 7. 42714
(論文) Clinical medication review tool for polypharmacy: Mapping approach for pharmacotherapeutic classifications.	共著	2017年11月	Geriatr Gerontol Int. 17, 2025-2033
(論文) Pharmacist blood pressure management programs using telemonitoring systems are useful for monitoring side effects of antihypertensive drugs in a community pharmacy.	共著	2016年9月	Clin Case Rep. 4, 14041-1044
(論文) Lower blood pressure-induced renal hypoperfusion promotes cisplatin-induced nephrotoxicity.	共著	2016年5月	Oncology. 90, 313-320
(論文) Significance of downregulation of renal organic cation transporter (SLC47A1) in cisplatin-induced proximal tubular injury.	共著	2015年7月	Onco Targets Ther. 8, 1701-1706
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
糖尿病性腎症の発症・進展機構 –凝集糖化アルブミンは腎糸球体メサンギウム細胞のミトコンドリアに障害を与える–		2018年5月	日本糖尿病学会年次学術集会
凝集糖化アルブミンによる糸球体細胞のミトコンドリア障害が糖尿病性腎臓病に関与しているかもしれない		2018年6月	日本腎臓学会学術総会
糖尿病性腎症に関与する走化性因子の探索		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
糖尿病マウスの血液中における糖化アルブミン凝集体の検出		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
III 学会および社会における主な活動			
1989年4月～現在	日本薬理学会 評議員		
1996年4月～2006年4月	和漢医薬学会 評議員		
2006年～2009年	中部腎と薬剤研究会の講演会を開催する。		
2007年3月	第80回薬理学会年会の優秀発表賞の審査員		
2009年9月	中部腎と薬剤研究会の学術大会 会長		
2012年～2014年	Journal of Pharmacological Sciences(JPS)のEditorial Advisor		
2018年6月	第64回薬学会東海支部大会の学生発表賞の審査員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬学教育開発センター 教育開発部門	職名	教授	氏名	田口 忠緒
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
講義カードを利用した双方向学習の実践			2002年4月～	担当教科全てについて、講義カードを利用した双方向学習を行い、教員が教えたことと学生が知りたいことのマッチングを行っている。			
アクティブラーニングを活用した効果的学習法の実践			2005年4月～	薬学部6年制の初年度教育における早期体験学習において、小グループ学習SGL (Small group learning) を基盤とした本学独自の教育技法を構築・運用している。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
早期体験学習テキストブックーはじめて薬剤師が関わる医療現場をみる人のために (ネオメディカル)			2013年8月	編集者として全体を編集し、「このテキストの利用法」「早期体験学習に役立つ情報の検索と活用法」「早期体験学習に役立つ情報の検索と活用法」「早期体験学習報告書」を執筆			
薬学領域の放射科学			2015年2月	「放射性核種と放射能」を執筆			
薬学生のための臨床化学 改訂第4版 (南江堂)			2015年9月	「生体成分の臨床化学：体液成分の検査・糖質」を改訂して共同執筆			
早期臨床体験テキスト (ネオメディカル)			2017年3月	新コアカリキュラム対応させるため編集者として全体を編集し「このテキストの利用方法」および「早期臨床体験に役立つ情報の検索と活用法」を執筆			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
薬学研究活動へのモチベーション向上を目的とした初年次教育の効果			2013年3月	初年次教育が上級学年での研究活動に及ぼす効果を日本薬学会第135年会で報告			
8年間 (2007年度～2014年度) の実績を踏まえた学生主導型体験学習の再編と評価			2016年8月	アクティブラーニングを取入れた薬学部1年次早期体験学習を第1回日本薬学教育学会大会で報告			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
学びのコミュニティ創生事業に参画し成績不振学生への対処を実践			2016年4月～	「学生カルテ」のシステム構築および教員を対象とした講演会を開催			
薬学共用試験			2016年9月～2017年2月	CBT実施委員長を担当			
薬学共用試験			2017年9月～2018年2月	CBTモニター(名古屋市立大学)を担当			

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
(論文) Sustained high plasma mannose less sensitive to fluctuating blood glucose in glycogen storage disease type Ia children.	共著	2013年1月	Journal of Inherited Metabolic Disease, 36: 75-81
(論文) A simple HPLC assay for plasma D-mannose.	共著	2013年2月	Clin. Chim. Acta, 422: 42-43
(論文)薬学部新入生における各種ワクチン接種率の推移と第4期MR混合ワクチン接種の効果.	共著	2013年11月	CAMPUS HEALTH, 50: 161-166
(論文) 薬学部5年次の基礎知識の補強を目的とした学習支援に関する評価と考察.	共著	2013年11月	名城大学教育年報, 8: 17-24 第8巻
(論文) Plasma mannose level, a putative indicator of glycogenolysis, and glucose tolerance in Japanese individuals.	共著	2017年6月	J. Diabetes investig. 8: 489-495
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
初年次薬学入門実験の行動様式から導出される学力要指導学生		2018年6月	第3回日本薬学教育学会大会
初年次薬学入門実験を活用した学力不振学生の早期探索		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
「ほめ」が薬学生の学習動機づけに及ぼす影響		2019年3月	日本薬学会第139年会
初年次薬学入門実験を活用した学力不振学生の早期探索		2019年3月	日本薬学会第139年会
わかった（つもり）：学習到達度評価における主観と客観の乖離		2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
1998年4月～現在	国家公務員共済組合連合会東海病院治験委員		
2008年1月～2016年3月	薬学教育協議会科目担当教員会議委員（臨床化学）		
2009年4月～現在	薬学教育協議会科目担当教員会議委員（放射化学）		
1999年4月～現在	（教育支援）社会保険中京看護専門学校非常勤講師：代謝栄養学・生化学		
2013年9月～2016年3月	（教育支援）東海学園大学非常勤講師：病理学・生理学		
2013年9月～現在	（教育支援）日本赤十字豊田看護大学非常勤講師・栄養代謝学		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	生体機能分析学 研究室	職名	氏名	金田 典雄
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
教科書、問題集の出版			2014年4月～	講義範囲やレベルに合う適切な教科書や問題集がなかったため、自らそれらを執筆・編集し、勉学の利便性向上に努めた(分析化学、分子生物学2)。	
中間試験の実施			2014年4月～	学習評価は中間試験(前半)と定期試験(後半)の平均で行うことで、1回の試験範囲の軽減と恒常的な学習習慣の醸成に努めた(分析化学、分子生物学2)。	
実習用ビデオの作成			2016年4月～	分析系基礎実習用のビデオを実習担当教員と共同で作成し、実習中に放映、指導することで、正しい実験手技の習得に努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
薬学のための分子生物学(金田典雄/伊東進 編)(廣川書店)			2014年4月1日	第6章細胞内シグナル伝達と遺伝子発現の執筆ならびに編集(分子生物学1および2講義用)	
基礎分析化学-解説と問題-(田中秀治、金田典雄 編)(廣川書店)			2016年1月20日	第8章容量分析、第11章免疫学的測定法、第12章画像診断技術の執筆ならびに編集(分析化学演習用)	
スタンダード薬学シリーズII 2物理系薬学II.化学物質の分析(日本薬学会編)(東京化学同人)			2016年4月1日	第9章分析技術を共同執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
外国人研究員の招聘			2014年4月～5月	名城大学外国人招聘研究員としてタイ国 ラムカムヘン 大学より Pathumwadee 博士を招聘した。	
外国人研究員の招聘			2015年11月～2016年2月	名城大学外国人招聘研究員としてタイ国カセサート大学より Loiruangsinn 博士を招聘した。	
FD 研修会への参加			2018年10月31日	第20回名城大学FDフォーラムに参加	
薬学共用試験			2018年12月16日	OSCE 評価者を担当(金城学院大学薬学部)	

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
(論文) Phenolic constituents from stem bark of <i>Erythrina poeppigiana</i>	共著	2014年7月	J. Nat. Med., 68, 636-642
(論文) Inhibitory effect of isoflavones from <i>Erythrina poeppigiana</i> on the growth of HL-60 human leukemia cells through inhibition of glyoxalase I	共著	2015年9月	Nat. Prod. Commun., 10, 1581-1584
(論文) Potent apoptosis-inducing activity of erypoeigin K, an isoflavone isolated from <i>Erythrina poeppigiana</i> , against human leukemia HL-60 cells	共著	2018年1月	J. Nat. Med., 72, 260-266
(論文) Effect of resveratrol dimers and tetramers isolated from Vitaceous and Dipterocarpaceous plants on human SIRT1 enzyme activity	共著	2018年11月	Nat. Prod. Commun., 13, 1531-1534 (2018)
(論文) Structural analysis of the inhibitory effects of polyphenols, (+)-hopeaphenol and (-)-isohopeaphenol, on human SIRT1	共著	2018年12月	BioFactors, doi:10.1002/biof.1479
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(S)-erypoeigin Kによるヒト白血病細胞株 HL-60 に対するアポトーシス誘導活性		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
脂肪分化におけるレギュカルチンの機能的役割の解析		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
レギュカルチン発現誘導化合物による炎症性メディエーターの産生抑制効果		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
植物由来レスベラトロールオリゴマーの白血病細胞株 HL-60 の細胞増殖に対する効果		2018年9月	第91回日本生化学会大会
PC12細胞におけるアミロイドβ誘導性の細胞内ストレスに対する regucalcin の保護作用		2018年11月	第41回日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動			
1997年4月1日～現在	日本生化学会評議員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	薬学教育開発センター 教育開発部門	職名	氏名	
名城大学			教授	飯田 耕太郎	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
チーム基盤型学習(TBL)の導入			2018年4月～	チームで討議して学び合う少人数のチーム学習法であるチーム基盤型学習(Team-Based Learning :TBL)を1年生の初年次教育として導入し、対人関係スキルや問題解決能力など社会的能力の育成に活用した。(薬剤師の使命I)	
アクティブラーニングの活用			2018年4月～	薬学の基盤となる基礎知識の補強を目的に学生達が主体的に学び合うアクティブラーニングとして協同学習法を導入し、実践した。(5年生学術コース)	
2 作成した教科書、教材、参考書					
バイオテロの包括的研究(朝日大学法制研究所)			2012年5月	「生物兵器の技術的側面について－製剤学の視点から」を共同執筆	
早期体験学習ガイドブック(ネオメディカル)			2014年3月	「薬学教育における早期体験学習の位置づけ」を共同執筆	
これからの社会薬学－社会の変化と対応する薬剤師への期待(南江堂)			2016年3月	「医療保険制度」を共同執筆	
薬学史事典(薬事日報社)			2017年3月	「歴史に現れた主な疾病」を共同執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
学生同士の協同による学びのコミュニティの創生を目指した教育実践			2018年3月	学生同士の協同による学びのコミュニティの創生を目指した教育実践事例について日本薬学会第138年会で発表	
チーム基盤型学習(TBL)を活用したペア学習プログラムの導入による授業改善の試み			2018年9月	チーム基盤型学習(TBL)を活用しペア学習プログラムを導入した事例について第3回日本薬学教育学会で発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
薬学教育協議会科目担当者会議への参加			2018年8月	ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当者ワークショップ in 慶応に参加	
FD研修会等への参加			2018年10月	「第20回FDフォーラム学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ」に参加	
薬学共用試験			2018年12月	OSCE評価者(金城学院大学)を担当	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) 薬学部6年次の基盤学力を強化するための教育に関する評価－平成24年度を中心として－			共著	2014年3月	名城大学教育年報, 第8号, 9-16.
(論文) 薬学部5年次の基礎知識の補強を目的とした学習支援に関する評価と考察			共著	2014年3月	名城大学教育年報, 第8号, 17-24.

(論文) ICT を活用し薬学領域の基礎知識の補充を目指す自己学習支援プログラムの開発と教育実践	共著	2017年3月	名城大学総合研究所総合学術研究論文集, 15, 27-34.
(論文) チーム基盤型学習 (Team-Based Learning :TBL)の1年次「薬剤師の使命I」への導入	単著	2017年3月	名城大学教育年報, 第11号, 1-6.
(論文) 学生同士の協同による学びのコミュニティの創生を目指した教育実践	共著	2018年3月	名城大学教育年報, 第12号, 65-71.
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
学生同士の協同による学びのコミュニティの創生を目指した教育実践		2018年3月	日本薬学会第138年会
チーム基盤型学習(TBL)を活用したペア学習プログラムの導入による授業改善の試み		2018年9月	第3回日本薬学教育学会
愛知県薬剤師会褥瘡実習研修会に参加した薬剤師の褥瘡ケアへのかわりに関する調査研究—平成25年度と平成30年度の比較—		2018年12月	第51回東海薬剤師学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2000年4月～現在	日本社会薬学会東海支部事務局長		
2006年4月～現在	日本薬史学会評議員		
2008年10月～2017年9月	NPO 法人褥瘡サミット評議員		
2009年3月～現在	日本社会薬学会東海支部長		
2009年4月～2014年3月	文部科学省「戦略的大学連携支援事業」6年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携・東海臨床薬学教育連携センター実施部会教育FD委員		
2009年12月～2013年3月	日本薬史学会東海支部理事		
2012年9月～現在	社団法人愛知県薬剤師会地域医療部会委員		
2013年3月～現在	日本薬史学会中部支部理事		
2013年3月	日本社会薬学会東海支部第17回講演会を主催 (名古屋)		
2013年11月	日本薬史学会中部支部第1回例会講演会を主催 (名古屋)		
2014年3月	日本社会薬学会東海支部第18回講演会を主催 (名古屋)		
2014年12月	日本薬史学会中部支部第2回例会講演会を主催 (名古屋)		
2015年3月	日本社会薬学会東海支部第19回講演会を主催 (名古屋)		
2015年12月	日本薬史学会中部支部第3回例会講演会を主催 (名古屋)		
2016年3月	日本社会薬学会東海支部第20回講演会を主催 (名古屋)		
2017年2月	日本薬史学会中部支部第4回例会講演会を主催 (名古屋)		
2017年3月	日本社会薬学会東海支部第21回講演会を主催 (名古屋)		
2018年2月	日本薬史学会中部支部第5回例会講演会を主催 (名古屋)		
2018年3月	日本社会薬学会東海支部第22回講演会を主催 (名古屋)		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	臨床薬物治療学Ⅱ 研究室	職名	教授	氏名	脇田 康志
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫							
講義内容の改善				2018年5月～		講義形式の授業をやめ、学生に症例を主体的に考えてもらうアクティブラーニングを導入した（応用演習）	
実習内容の改善				2018年4月～		身体所見の取り方を学生相互の実習の中でより臨場的な観点から導入した	
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
学部5年次学生に対する褥瘡教育の有用性について				2015年3月		日本薬学会第135年会	
遠隔教育システムを活用したアドバンスト臨床研修中の薬学生による症例検討の有用性				2016年3月		日本薬学会第136年会	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
新規心血管イベント発症および冠動脈プラークの進展・退縮に与えるアンジオテンシンⅡ受容体キック王薬であるバルサルタンの影響 3次元血管内超音波（3D-IVUS）および定量的冠動脈造影法（QCA）を用いた検討				共著		2013年4月	愛知医科大学医学会雑誌 39巻 101-110
薬学生徒薬剤師の実践力訓練のための患者シミュレーター活用の有用性				共著		2014年6月	日本シミュレーション医療教育学会雑誌 2巻 7-13
2 学会発表（評価対象年度のみ）						発表年・月	学会名
ワルファリンまたは直接経口抗凝固薬（DOAC）使用時の3剤併用療法における出血リスクの比較						2018年3月	日本薬学会第138年会
くも膜下出血患者におけるフェニトイン併用によるニカルジピン注射液使用状況の変化に関する解析						2018年3月	日本薬学会第138年会
The Factors Affecting Prognosis of Very Elderly Heart Failure Patients with Septic Complication						2018年3月	第82回披ノン循環器学会学術集会
Four-year Administration of High Purity Eicosapentaenoic Acid to Menopausal-women Makes Regression of Intima-media-thickness of the Carotid-artery and Improved Menopausal Disorders						2018年3月	第82回披ノン循環器学会学術集会

III 学会および社会における主な活動	
1983年2月～現在	日本内科学会会員
1983年4月～現在	日本循環器学会
1984年1月～現在	日本心臓病学会
1991年4月～現在	日本心血管インターベンション学会会員
1991年12月～現在	日本内科学会認定医
1992年9月～現在	日本内科学会東海地方会評議員
1993年4月～現在	日本循環器学会専門医
1994年4月～現在	日本循環器学会東海地方会評議員
1995年4月～現在	日本老年病学会会員
1997年9月～現在	日本臨床薬理学会会員
1998年9月～現在	日本臨床薬理学会認定医
2001年5月～現在	日本心臓病学会特別正会員
2008年4月～現在	日本循環器学会正会員代表
2008年9月～現在	日本高血圧学会会員
2009年5月～現在	日本動脈硬化学会会員

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬品作用学研究室	職名	教授	氏名	平松 正行
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成				2016年10月～		教科書の内容および最新の更新情報を簡潔にまとめたパワーポイントファイルと、講義の纏めを学内公開サーバー（薬学部ポートフォリオ）にアップロードし、講義の予習・復習に活用した（薬の作用）	
Web版作問データベースを利用した学生相互の学びプログラムの開発				2017年6月～		「薬の作用演習」において、学内公開サーバー（薬学部ポートフォリオ）上で、学生が自ら問題を作り、ブラッシュアップ、データベースを作成、それを他の学生が解くことによって、学習内容の理解と考える力を醸成させた	
2 作成した教科書、教材、参考書							
みてわかる薬学 図解薬理学（南山堂）				2015年10月		第1章 薬理学の基礎の「薬が効くしくみ」の一部を執筆	
NEO 薬学シリーズ 疾患薬理学（ネオ メディカル）				2016年6月		2年次の「薬の作用」の講義で使用	
GraphPad Prism 7 による生物統計学入門（カットシステム）				2018年6月		第5章 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療の一部を執筆	
GraphPad Prism 7 による生物統計学入門（カットシステム）				2018年6月		4年次の「薬物機能解析学（旧カリ）」で使用	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
市販 DVD 教材を用いた基礎力アップ対策の実施と解析				2018年5月～		新入生を対象に、市販 DVD 教材を用いた基礎力アップ対策を実施、受講の習慣、成績等から、大学における学修態度、成績等との関連性を調べ、今後の対策を検討した。	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
(著書) Beneficial effects of betaine on water-immersion restraint stress-induced memory impairment in mice				共著		2015年1月	Royal Society of Chemistry, Food and Nutritional Components in Focus pp. 222-244
(論文) Effect of AceK (acesulfame potassium) on brain function under dietary restriction in mice				共著		2018年5月	Physiol Behav, Vol.188, 291-297

(論文) Betaine attenuates memory impairment after water-immersion restraint stress and is regulated by the GABAergic neuronal system in the hippocampus	共著	2017年2月	Eur J Pharmacol, Vol.796, 122-130
(論文) Betaine prevents homocysteine-induced memory impairment via matrix metalloproteinase-9 in the frontal cortex	共著	2015年10月	Behav Brain Res, Vol.292, 36-43
(論文) Involvement of GAT2/BGT-1 in the preventive effects of betaine on cognitive impairment and brain oxidative stress in amyloid β peptide-injected mice	共著	2019年1月 (Epub: 2018年10月)	Eur J Pharmacol, Vol.842, 57-63
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
家族性アルツハイマー病モデルマウスにおける学習・記憶障害及び海馬における遺伝子発現に対するベタイン連続飲水摂取の影響		2018年6月	第64回(平成30年度)日本薬学会東海支部総会・大会(名古屋)
家族性アルツハイマー病モデルマウスにおける学習・記憶障害及び海馬における組織学的変化に対するベタイン連続飲水摂取の影響		2018年6月	第64回(平成30年度)日本薬学会東海支部総会・大会(名古屋)
Atypical antipsychotic-induced Hdac2 transcription via NF- κ B leads to synaptic and cognitive unfavourable effects		2018年7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018) (Kyoto)
ベタインを連続曝露したアルツハイマー型認知症モデルマウスの海馬におけるプロテオーム解析		2018年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018(福岡)
家族性アルツハイマー病モデルマウスにおける学習・記憶障害に対するベタインとその代謝物ジメチルグリシンの連続飲水摂取による影響		2018年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018(福岡)
家族性アルツハイマー病モデルマウスにおける学習・記憶障害に対するベタインとその代謝物ジメチルグリシンの連続飲水摂取による影響		2018年9月	第2回日本精神薬学会総会・学術集会(名古屋)
III 学会および社会における主な活動			
1990年～現在	日本薬理学会学術評議員		
1996年～現在	日本神経精神薬理学会評議員		
1999年10月	神経科学領域における分子モニタリングシンポジウム 世話人		
2005年11月	第90回日本薬理学会年会組織委員会 委員		
2006年9月	横山臨床薬理研究助成基金審査委員		
2008年～現在	European Journal of Pharmacology, Editorial board メンバー		
2009年1月	第13回神経科学領域における分子モニタリングシンポジウム 会長		
2009年7月	第11回応用薬理シンポジウム組織委員会 委員		
2015年～現在	愛知県薬事審議会 委員		
2015年4月～現在	全国薬科大学長・薬学部長会議 理事		
2016年11月～現在	日本私立薬科大学協会 理事		
2018年10月	第34回日本ストレス学会学術総会 会長		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	生理学研究室	職名	教授	氏名	湯川 和典
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
機能形態学 1 講義における学生の自習支援と理解度を深めるための工夫			2013年4月～	学習のチェックポイントの提示。オフィスアワーに学生の質問に対応。			
機能形態学 2 講義における学生の自習支援と理解度を深めるための工夫			2017年12月～	学生の自習支援のため、自作の練習問題 92 問をポートフォリオにアップロード。2 週間後に正答解説をアップロード。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称		
（論文） Estrogen-dependent proteolytic cleavage of Semaphorin 4D and Plexin-B1 enhances semaphorin 4D-induced apoptosis during postnatal vaginal remodeling in pubescent mice			共著	2014年5月	PLoS One vol.9 No.5:e97909		
（論文） Plexin-A1 is required for Toll-like receptor-mediated microglial activation in the development of lipopolysaccharide-induced encephalopathy			共著	2014年5月	Int J Mol Med. vol.33 No.5, 1122-1130		
（論文） Semaphorin 3A-Plexin-A1 signaling through ERK activation is crucial for Toll-like receptor-induced NO production in BV-2 microglial cells			共著	2014年6月	Int J Mol Med. vol.33 No.6, 1635-1642		
（論文） Sema4D induces vaginal epithelial cell apoptosis to control mouse postnatal vaginal tissue remodeling			共著	2015年2月	Mol Med Rep. vol.11 No.2, 829-836		
（論文） Dysregulation of MAP kinase signaling pathways including p38MAPK, SAPK/JNK, and ERK1/2 incultured rat cerebellar astrocytes exposed to diphenylarsinic acid			共著	2017年4月	Toxicol Sci. vol.156 No.2, 509-519		

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
PlexinA1 is crucial for the midline crossing of callosal axons during corpus callosum development in BALB/c mice		2018年11月	Society for Neuroscience
PlexinA1 is crucial for the midline crossing of callosal axons during the formation of corpus callosum in the developing murine brain at BALB/c background		2018年11月	日本分子生物学会
III 学会および社会における主な活動			
2018年 現在	日本生理学会 評議員		
2015年1月～現在	日本生理学会 認定生理学エディター		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	病院薬学研究室	職名	教授	氏名	亀井 浩行
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫							
授業内容の改善				2013年9月～		講義の冒頭に前回の講義内容の理解度を評価するための小テストを実施した。小テストは 3-6 問の記述形式とし、テスト終了後に解答を解説し、学生個々に自己採点をさせ、提出させた。また、前回提出させた小テストを次回の講義前に学生に返却した。これによって、学生の授業評価からも自己の理解度が認識でき、学力にもつながる効果を持つ。また、教員は学生の理解度等に配慮した授業設計を行うことができる。(臨床心理学)	
2 作成した教科書、教材、参考書							
パワーポイント講義資料の作成				2013年9月～		講義毎に講義内容の要点をまとめたプリント教材を活用した。プリント教材は A3 サイズの用紙 10 枚とし、精神疾患の分類、症状とその評価、薬剤師との関わりなどから構成されている。これによって、学生は講義内容を簡便に把握でき、講義に集中できること、また、講義の重要点が認識でき、理解度が高まることから、学力向上にもつながる。さらに、学生の授業感想から視聴覚教材を活用することにより精神疾患の症状や心理的变化を理解する上で有用性が高まったと高い評価を得ている。(臨床心理学)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
多職種連携教育の実践				2014年9月		医学・看護学生との多職種連携教育の実践例について第 24 回日本医療薬学会年会で報告	
TBL 用いた多職種連携教育の実践				2016年9月		チーム基盤型学習 (TBL) を用いた地域志向型教育の事例について第 26 回日本医療薬学会年会で報告	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会の主催				2018年10月		5 大学合同でプラットフォームの教育システム構築のために「医療・教育・福祉における人材育成と多職種連携教育の役割」のテーマで開催した	

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文）Effect of adenine on clozapine-induced neutropenia in patients with schizophrenia: A preliminary study	共著	2015年8月	Clinical Psychopharmacology and Neuroscience, 13 : 157-162
（論文）A questionnaire-based study of the views of schizophrenia patients and psychiatric healthcare professionals in Japan about the side effects of clozapine	共著	2016年8月	Clinical Psychopharmacology and Neuroscience, 14 : 286-294
（論文）Assessment of the Latent Adverse Events of Antipsychotic Treatment Using a Subjective Questionnaire in Japanese Patients with Schizophrenia.	共著	2017年5月	Clinical Psychopharmacology and Neuroscience, 15:132-137
（論文）Effectiveness of the repeated administration of scopolamine ointment on clozapine-induced hypersalivation in patients with treatment-resistant schizophrenia: A preliminary study	共著	2017年12月	Asia-Pacific Psychiatry, e12269
（論文）An Internet-based Survey in Japan Concerning Social Distance and Stigmatization toward the Mentally Ill among Doctors, Nurses, Pharmacists, and the General Public	共著	2018年8月	Asian Journal of Psychiatry, 36: 1-7
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
An Internet-based Survey in Japan Concerning Social Distance and Stigmatization toward the Mentally Ill among Doctors, Nurses, Pharmacists, and the General Public		2018年7月23日	International Social Pharmacy Workshop 2018
不眠に悩む入院患者に対する認知行動療法 CBT-I を用いた向精神薬の減薬の試み		2018年9月15日	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
当院における精神科薬物療法による肺炎罹患リスクへの影響		2018年9月15日	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
統合失調症における認知機能評価尺度としての精神運動機能試験の有用性について		2018年9月16日	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
実臨床における統合失調症患者に対する新規抗精神病薬ブレクスピブラゾールの有効性について		2018年9月16日	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
有害事象自発報告データベース（JADER）に基づく抗精神病薬持続性注射剤と同経口剤の比較		2018年9月16日	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
III 学会および社会における主な活動			
1998年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2003年1月～現在	日本医療薬学会 認定薬剤師・指導薬剤師		
2011年6月～現在	Asian Conference on Clinical Pharmacy Board Members		
2012年10月～現在	日本神経精神薬理学会 学術評議員		
2013年3月～現在	日本医療薬学会 代議員		
2016年9月～現在	日本精神薬学会 理事		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	医薬品情報学 研究室	職名	教授	氏名	大津 史子
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
アクティブラーニングの導入			2017年4月～	授業において、シンクペアシェア、ジグソー法などのアクティブラーニングの手法を取り入れ理解を促進した。(薬学概論、医薬品情報学)			
シミュレーション教材を用いた学修成果の直接評価の試み			2018年6月～	シミュレーションプログラム ePDE を用いて、薬物療法判断能力の直接評価法を開発した。(薬物治療マネジメント)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
スタンダード薬学シリーズ II 医療薬学 V.薬物治療に役立つ情報(東京化学同人)			2017年10月	第I部 医薬品情報を編集、執筆			
医薬品情報学 (京都廣川書店)			2018年3月	著者として全編を執筆、編集			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
神戸薬科大学教育改革プログラム 講師			2017年7月30日	教育のアウトカムを測る、ループリック評価とはについて、講師を務めた			
平成 30 年度科学研究費助成基板研究 (B) パフォーマンス評価を用いた薬学教育の学修成果評価モデルの構築			2018年4月1日	科研費の研究代表者としてパフォーマンス評価の開発を行った。			
薬学教育学会 シンポジウムオーガナイザー及び演者			2018年9月1日	シンポジウム「パフォーマンスを測る課題・問題とは」のオーガナイザー、及び「薬学部における EBM 教育」のシンポジスト、「教学 IR ワークショップ」のタスクフォースを務めた。			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
薬学会主催 若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ及び全国学生ワークショップのタスクフォース			2015年～現在	当該ワークショップのタスクフォースを務めている。			
薬学会主催 若手教育者のためのアドバンストワークショップ 実行委員長			2017年8月1日	2017年度は実行委員長として、当該ワークショップの企画、運営をおこなった。			
文部科学省 薬学教育のためのワークショップタスクフォース			2018年8月	文部科学省主催の全国薬科大学学部長、学長を対象としたワークショップにおいてタスクフォースを務めた。			
実務実習指導者養成ワークショップチーフタスクフォース			2019年1月	2014年から愛知県の実務実習指導者養成ワークショップ チーフタスクフォースとして年 2 回のワークショップを行っている。			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称			
(著書) 副作用症状のメカニズム 虎の巻		単著	2017年6月	日経 BP 社			

(論文) Signal of Miscarriage with Aripiprazole: A Disproportionality Analysis of the Japanese Adverse Drug Event Report Database	共著	2017年11月	Drug Safety, 40,1141-1146, 2017
(論文) 与薬における過剰投与・過少投与の原因薬と発生要因	共著	2018年6月	医療薬学、44,270-279,2018
(論文) 一般用医薬品の乱用による副作用の実態と患者背景との関連性に関する研究	共著	2018年11月	医薬品情報学, 20,145-155, 2018
(論文) 保険薬局で行う気象・環境変化に関する予防型情報提供の喘息症状悪化に対する効果.	共著	2019年3月	薬学雑誌、139,475-482,2019
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
日本の有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた学術論文の実態調査		2018年6月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
薬剤師の在宅医療への取り組みー療法士と比較してー		2018年6月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
危険因子及び自覚症状からの副作用推測式サポートシステムの構築		2018年6月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
日本の有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた研究のあり方に関する研究		2018年7月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
国家試験から見た薬剤師が社会から求められている知識ー看護師国家試験と比較してー		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
薬剤師国家試験における症例問題の効果的な学習方法の検討ーシミュレーション学習システムe-PDEを利用ー		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
市販直後調査の現状とその評価 ~SGLT2 阻害剤を例に~		2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
後発医薬品のシェアに影響を与える要因の探索ー処方数量を基にした検討ー		2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2010年4月～現在	日本医薬品情報学会研修委員会 委員長		
2012年4月～現在	日本医薬品情報学会理事		
2014年4月～現在	私立薬科大学協会 実務実習検討委員会 委員		
2014年4月～現在	文部科学省 薬学実務実習に関する連絡会議 ワーキンググループ 委員		
2016年4月～現在	私立薬科大学協会広報委員会 委員		
2016年4月～現在	日本薬学会 薬学教育委員会 委員		
2016年4月～現在	私立大学情報教育協会 薬学教育FD/ICT活用研究委員会委員		
2017年4月～現在	日本薬学会代議員、日本医療薬学会代議員		
2017年5月～現在	名古屋大学高等教育研究センター質保証を担う教職員能力開発拠点運営委員		
2017年4月～現在	大学教育改革フォーラム in 東海 運営委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	天然物化学研究室	職名	教授	氏名	井藤 千裕
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
構造解析学（授業評価等を含む）				2013年～		2年生に対して「構造解析学」を講義している。本講義は、各種スペクトルの原理を理解し、それらを解析することにより、医薬品や簡単な有機化合物の化学構造を解明できることを目的としている。講義の中で国家試験問題を含むスペクトルの解析問題を課題として与え、自宅にて解析演習をすることで、講義内容の復習だけでなく、実践力が身につく、日頃の積極的な学習意欲を引き出すのに役立っている。授業満足度アンケート調査では、講義に対する授業満足度が高かったことから、理解度の高い講義を提供できたものと考えている。また、学生からの意見を真摯に受け止め、より良い学習内容になるように常に教育方法の改善を行っている。	
基礎化学（授業評価等を含む）				2017年～		1年生に対して「基礎化学」を講義している。本講義は、高校の化学から大学における有機化学への橋渡しの役割を果たす科目であり、高校の教科書を振り返りながら大学のレベルまで学力を引き上げるよう、わかりやすい講義を心掛けている。また、薬剤師国家試験出題の内容も含むことから、疑問点を残さないよう、質問は随時受け付けている。小テストを数回行うことで、日頃の学問への取り組みの大切さを実感させ、学生のより積極的な学習意欲を引き出すのに役立っている。授業満足度アンケート調査では、講義に対する授業満足度が高かったことから、理解度の高い講義を提供できたものと考えている。また、これを参考に教育方法の改善を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会等への参加				2013年～		FD 委員会のワークショップ、講演会などに積極的に参加している。	
FD 委員				2017年4月～		FD 委員として FD 推進のため活動している。	

薬学共用試験	2018年9月～2019年2月	CBT 実施委員長	
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Acetophenones from <i>Acronychia pedunculata</i> and their cancer chemopreventive activity	共著	2016年1月	Nat. Prod. Commun., 11, 1299-1302
(論文) Cancer chemopreventive constituents from <i>Melicope lunu-ankenda</i>	共著	2017年6月	Phytochemistry Letters, 20, 172-176
(論文) Four new xanthenes from <i>Cratoxylum cochinchinense</i> and their in vitro antiproliferative effects	共著	2017年6月	Planta Med., 83, 812-818
(論文) Anti-cell proliferation effect of naphthoquinone dimers isolated from <i>Plumbago zeylanica</i>	共著	2018年9月	Natural Product Research, 32, 2127-2132
(論文) Acrofolione A and B, acetophenone dimers from <i>Acronychia pedunculata</i> , induce an apoptotic effect on human NALM-6 pre-B cell leukaemia cells	共著	2018年10月	Journal of Pharmacy and Pharmacology, doi: 10.1111/jphp.13035
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
レギュカルチン発現誘導化合物による炎症性メディエーターの産生抑制効果		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
有用カンキツ類マイヤーレモン含有化合物の生物活性		2018年9月	日本生薬学会第65回年会
III 学会および社会における主な活動			
2016年4月～現在	薬学教育協議会・生薬学・天然物化学科目担当教員		
2017年2月～現在	日本薬学会東海支部役員		
2018年12月	2019年度東海支部学術奨励賞選考委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬剤学研究室	職名	教授	氏名	灘井 雅行
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
講義（薬剤学、薬物動態学Ⅱ、薬物投与設計）			2006年～	病院薬剤部での経験を基に、有効かつ安全な薬物療法の構築、特に適正な薬物投与法の確立に対して参画、貢献して行けるように、調剤学、薬物速度論、薬物投与設計（個別化薬物治療）に関する授業を進めている。「薬剤学」では、病院や保険薬局での調剤技術や調剤過誤の発生原因、患者や医療従事者とのコミュニケーションのポイントにも言及している。「薬物動態学Ⅱ」では、要点をまとめたパワーポイント資料をベースに、板書による解説を加えている。「薬物投与設計」では、患者の生理状態に基づいた薬物投与計画の立案ができるよう、具体的な生理機能の変化や医薬品を例に挙げて講義を進めている。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
臨床薬物動態学（京都廣川書店）			2013年6月	編集および「消化性潰瘍治療薬」・「抗悪性腫瘍薬」・「抗血液凝固薬」・「薬物投与計画の立案」を分担執筆			
薬物動態学 第2版（廣川書店）			2014年2月	編集および「吸収」・「用量・用法の設定」を分担執筆			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
ICT を活用し薬学領域の基盤学力の向上を目指した自己学習支援プログラムの開発と教育実践			2015年3月26日	日本薬学会第135年会（神戸）			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
薬学教育評価機構 評価実施委員			2014年4月～	薬学教育評価機構評価実施員として薬系大学の教育評価を行った。			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称		
（論文）Species and tissue differences in β -estradiol 17-glucuronidation			共著	2017年10月	Biol. Pharm. Bull., 40, 1754-1758		
（論文）Effect of carbamazepine on expression of UDP-glucuronosyltransferase 1A6 and 1A7 in rat brain			共著	2017年12月	Drug Metab. Pharmacokinet., 32, 286-292		
（論文）Effect of status epilepticus on expression of brain UDP-glucuronosyltransferase 1a in rats			共著	2018年2月	Biopharm. Drug Dispos., 39, 75-82		
（論文）Status epilepticus decreases brain cytochrome P4502D4 expression in rats			共著	2018年4月	J. Pharm. Sci., 107, 975-978		

(論文) Effects of thylakoid-rich spinach extract on the pharmacokinetics of drugs in rats	共著	2019年1月	Biol. Pharm. Bull., 42, 103-109
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ハウレンソウ由来健康食品チラコイドが薬物経口投与後の体内動態に及ぼす影響		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
マルチキナーゼ阻害薬のマウスにおける皮膚中および血漿中濃度の比較		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
薬物動態の基礎と臨床 ～糖尿病治療薬はどう動くのか～		2018年10月	第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会
Status epilepticus changes brain cytochrome P450 2J3 expression in rats		2018年10月	日本薬物動態学会第33回年会/MDO 国際合同学会
III 学会および社会における主な活動			
2008年10月～現在	特定非営利活動法人 名古屋臨床薬剤師研究会 理事長		
2012年4月～2014年3月	日本薬学会 代議員		
2013年2月～2014年1月	日本薬学会 東海支部庶務幹事		
2014年4月～現在	薬学教育評価機構 評価実施員		
2015年4月～2017年3月	日本薬学会 学術誌編集委員		
2016年6月～2018年5月	日本薬学図書館協議会 評議員		
2017年4月～現在	薬学教育評価機構 評価委員会 副委員長		
2017年4月～現在	日本医療薬学会 代議員		
2017年5月～現在	日本老年薬学会 評議員		
2018年4月～現在	日本薬剤学会 代議員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績									
大学名	名城大学	講座名	薬物動態制御学 研究室	職名	教授	氏名	岡本 浩一		
I 教育活動									
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫									
小テストの実施				2013年4月～		授業終了前に○×式の小テスト 10 問を行い、次の講義開始前に解説を行った。授業評価では、授業に集中でき自分の理解度が確認できるとの回答が多数寄せられている。(製剤学Ⅱ, 製剤設計学)			
2 作成した教科書、教材、参考書									
生物製剤学改訂第3版 (南江堂)				2015年4月5日		「放出制御型ドラッグデリバリーシステム」を執筆			
製剤学改訂第7版 (南江堂)				2017年4月10日		「気管支・肺に適用する製剤」「目に適用する製剤」「耳に適用する製剤」「鼻に適用する製剤」「生薬関連製剤」「製剤の製造と製剤用機器」「消化管以外の経路からの薬物吸収」および「注射部位からの薬物吸収」を執筆			
製剤学改訂第7版 (南江堂)				2017年4月10日		共同編集			
最新製剤学第11版改訂 (廣川書店)				2018年4月30日		「気管支・肺に適用する製剤」および「耳に適用する製剤および鼻に適用する製剤」を執筆			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等									
名城大学薬学部における国際交流				2013年5月25日		名城大学薬学部における国際交流の歴史、現在の交流事例、展望について日本薬剤学会第28年会で報告			
名城大学薬学部における国際交流と教育				2014年2月15日		米国協定校との交流実績、日本の薬学教育、本学の薬学教育について Meijo University Deans Forum で報告			
薬学部における卒前・卒後教育を考える				2014年3月1日		6年制薬学教育の現状と本学薬学教育について第2回名古屋大学医学部附属病院医療薬学シンポジウムで報告			
4 その他教育活動上特記すべき事項									
6年生の指導学生が学生優秀発表者賞受賞				2017年3月25日		日本薬学会第137年会 (仙台)			
大学院博士課程2年生の指導学生が永井財団大学院学生スカラシップ受賞				2017年5月11日		日本薬剤学会第32年会 (さいたま)			
6年生の指導学生が永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞受賞				2017年5月11日		日本薬剤学会第32年会 (さいたま)			
6年生の指導学生が学生優秀発表賞受賞				2018年6月30日		第64回日本薬学会東海支部大会 (名古屋)			
II 研究活動									
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称	
(論文) Drug Permeation Characterization of Inhaled Dry Powder Formulations in Air-Liquid Interfaced Cell Layer using a Novel and Simple				共著		2016年2月		Pharm. Res. 33: 487-497	

Apparatus for Dispersion. (論文) Inhalable Spray-Freeze-Dried Powder with L-Leucine that Delivers Particles Independent of Inspiratory Flow Pattern and Inhalation Device.	共著	2016年4月	Pharm. Res. 33: 922-931
(論文) Development of Spray-Freeze-Dried siRNA/PEI Powder for Inhalation with High Aerosol Performance and Strong Pulmonary Gene Silencing Activity.	共著	2018年6月	J. Controlled Release 91: 99-113
(論文) In-vitro evaluation of optimal inhalation flow patterns for commercial dry powder inhalers and pressurized metered dose inhalers with human inhalation flow pattern simulator.	共著	2018年6月	J. Pharm. Sci. 107: 1731-1735
(論文) Intratracheal administration of siRNA dry powder targeting vascular endothelial growth factor inhibits lung tumor growth in mice.	共著	2018年9月	Mol. Ther. Nucleic Acids 12: 698-706
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
自己組織化 siRNA/脂質ナノ粒子を形成する吸入用粉末微粒子を経肺投与した際の siRNA の体内動態/構造安定性及び肺遺伝子発現抑制効果		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
ナノ粒子搭載型吸入粉末剤の開発を指向したナノ粒子の表面修飾の効果		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
低分子量ヒアルロン酸を賦形剤とした粉末剤の in vitro 薬物動態評価		2018年6月	第34回日本DDS学会
自己組織化ナノ粒子型吸入粉末剤の創製を指向した処方最適化		2018年6月	第34回日本DDS学会
調製法の異なる pDNA 吸入粉末剤の安定性評価		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
機能性パクリタキセルナノ結晶の静脈内投与後の体内動態および安全性評価		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
ナノクリスタル形成に適した薬物/分散補助剤/製造法の包括的検討		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
Comprehensive information for efficient development of nanoparticle-loaded dry powder inhalation formulations		2018年7月	2018 CRS Annual Meeting & Exposition
耐吸湿性に優れ吸入時に崩壊・膨潤する吸入粉末剤の粒子設計		2018年10月	第35回製剤と粒子設計シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2013年4月～2017年3月	製剤機械技術学会副会長 (2017年4月～現在: 同監事)		
2014年6月～2015年3月	日本私立薬科大学協会理事		
2014年5月～2016年5月	医道審議会臨時委員		
2014年5月～2018年5月	日本薬剤学会理事		
2015年3月～2016年5月	日本薬剤学会第31年会 (2016年5月) 組織委員		
2016年4月～現在	日本PDA代議員		
2016年7月～2018年6月	日本薬剤学会第33年会 (2018年5月) 組織委員		
2017年3月～現在	薬学共用試験センター試験統括委員会地区委員		
2017年4月～現在	薬剤師試験委員 (2017年度副委員長, 2018年度委員長)		
2018年2月～現在	日本薬剤学会第34年会 (2019年5月) 組織委員		
2018年3月～現在	医道審議会専門委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	病態解析学 I 研究室	職名	氏名	野田 幸裕
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
授業用動画教材の作成と模擬患者とのロールプレイの導入			2013年4月～	薬学教育モデル・コアカリに準拠した薬物治療学や事前学習に動画教材を導入し、動画からイメージして模擬患者などとの実践型のロールプレイを実施	
実務実習やアドバンスト実習での多疾患の症例報告・検討会			2013年4月～	症例を少人数での課題解決型学習やチーム基盤型学習の形式で実施	
2 作成した教科書、教材、参考書					
トキシコロジー（第3版）（朝倉書店）（分担）			2017年3月5日	標的臓器と毒性発現、神経行動毒性の共同執筆	
トワイクロス先生のがん緩和ケア処方薬：薬効・薬理と薬の使い方（分担）			2017年6月1日	筋骨格および関節疾患、耳鼻咽喉の共同翻訳	
臨床薬学 I（スタンダード薬学シリーズⅡ-7）（東京化学同人）（分担）			2017年10月18日	臨床現場で学ぶ心構え、処方箋と疑義照会の共同執筆	
薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅱ（南江堂）（編集・分担）			2018年3月30日	精神・脳神経系疾患の共同執筆	
visual core pharma 薬物治療学 第1～7版（南山堂）（編集・分担）			2013年～2018年4月1日	熱性けいれん、うつ病・躁うつ病、薬物依存、アルコール依存症の執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
多職連携教育を低学年から段階的に導入			2013年4月1日～	他大学と協働して多職種連携教育を講義に導入し、多数の学会にて成果報告	
双方向通信システムを活用したアドバンスト学生の症例報告会の導入			2016年4月1日～	連携施設 3 拠点の遠隔教育システムを導入し、多数の学会にて成果報告	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
精神科専門薬剤師・日本医療薬学会認定・指導薬剤師			2014年4月1日～	認定・指導・専門薬剤師として薬剤師を教育・指導	
薬学共用試験センター			2008年4月1日～	薬学共用試験 OSCE 実施委員を担当し、課題作成、評価者養成、教材作成	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文） Blonanserin ameliorates phencyclidine-induced visual recognition memory deficits: the complex mechanism of blonanserin action involving D ₃ -5-HT _{2A} and D ₁ -NMDA receptors in the mPFC			共著	2015年8月	Neuropsychopharmacology 40: 601-613
（著書） Involvement of glutamate transporter in neuropathology of phencyclidine abuse			共著	2016年2月	Neuropathol Drug Add Subst Misuse Vol. 2, Chap 58, 2: 625-635
（論文） Juvenile social defeat stress exposure per-sistently impairs social behaviors and			共著	2018年1月	Neuropharmacology 133: 23-37

neurogenesis (論文) Dysfunction of serotonergic and dopa-minergic neuronal systems in the antidepressant-resistant impairment of social behaviors induced by social defeat stress exposure as juveniles	共著	2018年9月	Int J Neuropsychopharmacol 21: 837-846
(論文) Acute administration of ketamine attenuates the impairment of social behaviors induced by social defeat stress exposure as juveniles via activation of α -amino-3-hydroxy-5-methyl-4-isoxazolepropionic acid (AMPA) receptors	共著	2018年12月	Neuropharmacology inpress
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
緩和医療における精神科薬剤師の役割 (シンポジスト)		2018年5月	第12回日本緩和医療薬学会年会
チーム医療を支える多職種連携教育の実践: 医療系学部を有さない薬学部における他の医療系学部との連携 (シンポジスト)		2018年6月	第21回日本臨床救急医学会総会・学術集会
医療系学部を有さない薬学部における多職種連携教育の実践: 他の医療系学部との連携 (シンポジスト)		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
ストレスに関連する生物学的マーカーの探索と生物学的マーカーに対する向精神薬の影響 (シンポジスト)		2018年10月	第34回日本ストレス学会学術総会
薬学生における医療安全教育としての医療シミュレーション教育の実践 (シンポジスト)		2018年11月	第13回医療の質・安全学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
2005年1月～現在	日本神経精神薬理学会 学術評議員、第31回年会事務局長、長期計画委員、編集委員、研究推進委員、中枢薬専門薬剤師あり方検討 Working Group 委員		
2005年2月～現在	中部腎研究会 副会長、相談役		
2005年3月～現在	神経行動薬理若手研究者の集い 世話人、第16回世話人代表、顧問		
2005年4月～現在	日本薬理学会 第80回年会事務局長、代議委員、学術評議員		
2005年4月～現在	日本薬学会 第124回年会サテライトシンポジウム事務局長、薬学教育改革大学人会議 薬学教育における実務実習のあり方検討委員		
2005年4月～現在	日本神経化学会 学術評議員		
2005年4月～現在	愛知県病院薬剤師会 編集委員会委員、委員会委員、代議員選挙管理委員		
2005年4月～現在	日本病院薬剤師会 学術第2小委員会特別委員、生涯研修履修認定(第07173号)、精神科専門薬剤師部門認定審査委員、問題作成委員、試験委員		
2005年4月～現在	日本医療薬学会 認定薬剤師(第99-286号)、指導薬剤師(第02-1020号)、認定薬剤師制度委員・認定試験問題出題小委員、代議委員、用語集編集委員、出版委員、医療薬学教育委員、編集委員		
2006年4月～現在	日本私立薬科大学協会 薬理学関連教科担当教員、実務実習教科担当教員・委員長		
2006年6月～現在	日本緩和医療薬学会 第1～3回日本緩和医療薬学会 組織委員・プログラム委員、評議委員、財務委員会副委員長、編集委員		
2007年4月～現在	特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構(NPO J-DO) 理事、副理事長		
2008年4月～現在	薬学共用試験センター OSCE 実施委員・副委員長		
2011年3月～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会 薬理学部会委員、委員長		
2011年4月～現在	日本依存神経精神科学会 評議員		
2013年12月～現在	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員、特別研究員等審査会専門委員、国際交流事業書面審査委員		
2016年9月～現在	日本精神薬学会 理事・副理事、総務委員、執行委員長、鍋島学術奨励賞審査選考委員長、第2回大会長		
2017年9月～現在	日本看護医療学会 査読委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	生薬学研究室	職名	教授	氏名	能勢 充彦
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
確認テスト・質問用紙の活用				2005年4月～		講義の終わりに、確認テストおよび質問用紙を実施し、次回講義あるいは個々に回答した(薬用植物と生薬、和漢医薬学)	
実習内容の改善				2005年4月～		生薬の確認試験(未知検体の同定)および漢方製剤(紫雲膏)の調製を実習に加えた(後に中黄膏も追加)(化学系応用実習(生薬学・天然物化学))	
パワーポイント講義資料の作成				2009年4月～		教科書の内容およびその他関連する最新の情報をもとに作成したパワーポイントファイルを学内ファイルサーバーにアップロードし、講義およびその予習・復習に活用した(薬用植物と生薬、和漢医薬学)	
実習内容の改善				2017年11月～		天然物化学における化合物の取り扱いを学ばせるため、原料植物の粉碎の有無による収率の違いを比較させた。また、実験のスケールを縮小させて、少量を取り扱うように工夫した(化学系応用実習(生薬学・天然物化学))	
2 作成した教科書、教材、参考書							
新訂「生薬学」(南江堂)改訂第8版増補(改訂第5版から分担執筆)				2002年4月～ 2018年4月		「生薬各論、花類」を執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Assessment of relief from pruritus due to Kampo medicines by using murine models of atopic dermatitis.				共著		2013年9月	J. Tad. Med., 30:114 - 123
(論文) Kalyanaka ghrita: an example of intertextuality among the Bower manuscript, Charka Samhita, Susruta samhita, Astangahrdayam samhita and Ayurvedic Formulary of India (AFI)				共著		2015年10月	Indian J. Tradit. Know., 14:519 - 524

(論文) Changes on liver lipidomics associated with sodium cholate-induced liver injury and its prevention by boiogito, a Japanese herbal medicine, in mice	共著	2016年9月	Traditional & Kampo Medicine, 3:9 – 19
(論文) Evaluation of the safety and efficacy of Glycyrrhiza uralensis root extracts produced using artificial hydroponic and artificial hydroponic-field hybrid cultivation systems	共著	2017年1月	J. Nat. Med., 71:265 – 271
(論文) Comparison of glycyrrhizin content in 25 major kinds of Kampo extracts containing Glycyrrhizae Radix used clinically in Japan	共著	2017年10月	J. Nat. Med., 71:711 – 722
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
シンポジウム 12「現代医療における漢方薬の有効性と安全性を考える」 漢方エキス製剤の安全使用について – 甘草配合処方について考える –		2018年6月	医療薬学フォーラム 2018・第26回クリニカルファーマシーシンポジウム
漢方処方の科学的解析 (第23報) グリチルレチン酸の血中濃度測定を目指した ELISA 法の開発		2018年8月	第35回和漢医薬学会 学術大会
漢方処方の科学的解析 (第24報) 各種麻黄配合処方におけるエフェドリン系アルカロイド含有量ならびにその抽出効率について		2018年9月	日本生薬学会第65回 年会
人工水耕栽培システムにより生産した生薬の品質保証		2018年11月	第55回植物化学シン ポジウム
漢方処方の科学的解析 (第25報) 補中益気湯が活性化する内在性制御性 T 細胞について		2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
2005年4月～2016年3月	日本生薬学会代議員		
2011年4月～現在	あいち健康の森薬草園に関する運営懇談会委員		
2011年1月～現在	天然薬物研究方法論アカデミー理事		
2012年4月～現在	日本生薬学会関西支部委員		
2012年4月～現在	和漢医薬学会評議員		
2013年4月	日本薬学会東海支部役員		
2013年8月	第16回天然薬物研究方法論アカデミー学術集会世話人		
2014年4月～2017年3月	日本薬学会学術誌編集委員		
2014年4月～現在	Traditional & Kampo Medicine 編集委員		
2014年10月～現在	愛知県薬剤師会薬草園分科会委員		
2016年4月～現在	日本生薬学会地区理事		
2018年8月～現在	和漢医薬学会理事		
2018年9月	第21回天然薬物研究方法論アカデミー学術集会大会長		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	臨床薬物治療学 I 研究室	職名	教授	氏名	早川 伸樹
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
臨床医学系の講義・実習を担当、病態の理解に主眼を置いている。前回の講義の復習を行ってから講義に入る。			2013年～	身体変化のメカニズム、薬理・病態2、薬物治療マネジメントなど主に臨床医学系を担当している。 一部講義ではパワーポイントファイルを学内公開サーバー (WebClass) にアップロードし、講義の復習に活用した。(薬物治療マネジメント)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
疾病と病態生理 改訂第4版 (分担執筆)			2016年8月20日	先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、SIADH、褐色細胞腫、副腎不全の項を分担執筆した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
名城大学における糖尿病教育～大学の立場			2016年7月23日	第40回 糖尿病薬物療法研究会で薬学部における名城大学薬学部の糖尿病教育について講演した。			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
平成29年度フィジカルアセスメント研修会			2017年10月21日	愛知県病院薬剤師会主催の研修会の講師を担当。病院薬剤師を対象とした卒後教育活動。			
名城大学薬学部 シミュレーション実習プログラム			2018年7月18日	藤田医科大学との包括協定に基づく名城大学シミュレーション実習の講師を担当。(6年生5人を対象)			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称		
(論文) Unmasked renal impairment and prolonged hyperkalemia after unilateral adrenalectomy for primary aldosteronism coexisting with primary hyperparathyroidism: report of a case.			共著	2015年2月	Surg Today vol.45(2)		
(論文) Level of urinary liver-type fatty acid-binding protein is associated with cardiac markers and electrocardiographic abnormalities in type-2 diabetes with chronic kidney disease stage G1 and G2.			共著	2015年3月	Heart Vessels vol. 30(3)		
(論文) 日常診療における甲状腺疾患			単著	2017年6月	明日の臨床 vol.29 No.1		
(論文) Investigation of blood levels of zinc, vitamin B12 and folate in patients with haematological malignancy			共著	2017年11月	Fujita Medical Journal vol.3 issue 4		

(論文) Changes in Serum Immunoglobulin G4 Levels in Patients with Newly Diagnosed Graves' Disease.	共著	2018年9月	Exp Clin Endocrinol Diabetes vol.10
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
地域連携による妊娠糖尿病患者の管理の現状と課題		2018年5月	第61回日本糖尿病学会年次学術集会
1型糖尿病症例における膵腎同時移植および膵移植手術後の呼吸機能の検討		2018年5月	第61回日本糖尿病学会年次学術集会
胎児共存奇胎により甲状腺機能亢進症を呈した一例		2018年9月	第236回日本内科学会東海地方会
2型糖尿病患者におけるグリニド薬の有効性と安全性の検討		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
2型糖尿病患者におけるデュラグルチドの有効性と安全性の検討		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2013年4月～現在	日本内分泌学会 評議員		
2013年4月～現在	愛知甲状腺研究会 幹事		
2018年5月～現在	日本くすりと糖尿病学会 試験委員会外部委員		
2018年10月	第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会 優秀演題賞選考委員 委員長		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	機能分子化学 研究室	職名	氏名	原 脩
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫					
パワーポイントの講義資料作成			2016年4月	医薬品化学に関する内容を複数の参考書の内容を整理し、最新の情報を交え、パワーポイントファイルにまとめ、学内サーバーにアップロードし、講義資料として活用した。(3年生医薬品化学及び、4年生薬物治療マネージメント)	
構造式描画ソフトの導入			2013年4月～	有機化合物の立体構造を視覚的に理解する上で用いられていた分子模型が販売中止となり、その分子模型の代替機能や化合物の命名法の練習素材、更には実習レポート作成支援用のコンピューターソフトとして全薬学生が利用できるよう教員に働きかけ共用パソコンに導入した。(有機化学系科目、化学系学生実験)	
2 作成した教科書、教材、参考書					
基礎有機化学問題集 第2版 (廣川書店)			2017年1月	「ハロゲン化アルキル: 求核置換反応と脱離反応」を分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
有機化学教育の活性化に向けた大学の取り組み			2015年10月25日	第10回有機化学系教科担当教員会議(於大阪薬科大学)において、有機化学教育の活性化に関するパネルディスカッションでパネリストとして名城大学での有機化学系科目の活性化に関する取り組み状況を報告した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
第11回有機化学系教科担当教員会議を主催			2016年11月6日	名城大学が有機化学系教科担当教員会議の幹事校となり、森先生を委員長に会議の幹事として運営を行った。	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Pd(II)-Catalyzed Allylic C-H Amination for the Preparation of 1,2- and 1,3-Cyclic Ureas.			共著	2015年2月	Org. Lett., 17: 888 - 891.
(論文) Chiral pyridinium Phosphoramidate as a Dual Brønsted Acid Catalyst for Enantioselective Diels-Alder Reaction			共著	2016年5月	Org. Lett., 18: 2004 - 2007.
(論文) Tetraethylorthosilicate as a mild dehydrating reagent for the synthesis of N-formamides with formic acid			共著	2017年3月	Tetrahedron Lett. 58: 860 - 863

(論文) Metal Template Assisted Proximal Arrangement of a Nucleophile and an Electrophile: Site-Selective Acylation of α -Hydroxyamides in Polyols.	共著	2018年5月	Org. Lett., 20: 3367 - 3371.
(論文) Enantioselective Bromolactonization of Trisubstituted Olefinic Acids catalyzed by Chiral Pyridyl Phosphoramides	共著	2018年12月	Chem. Euro. J. 24: 18880 - 18885.
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
テンプレート効果を利用するアミド近傍ヒドロキシ基選択的アシル化反応の開発		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
グルカールを糖供与体とする C-マンノシルトリプトファンの合成研究		2018年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム
テンプレート効果を利用する β -ヒドロキシアミド選択的アシル化反応の開発		2018年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2012年1月13日～現在	公益社団法人日本薬学会 ファルマシア地区通信委員		
2012年4月～2014年3月	NPO 法人薬学共用試験センター 試験統括委員会地区委員		
2013年12月～2015年11月	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2016年4月～現在	公益社団法人日本薬学会 化学系薬学部会役員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	衛生化学研究室	職名	教授	氏名	神野 透人
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成				2015年10月～		教科書の内容および最新の更新情報を簡潔にまとめたパワーポイントファイルを学内公開サーバー (WebClass) にアップロードし、講義の復習に活用した (衛生化学 2)	
実習内容の改善				2017年10月～		最新の技術に触れられる学生実習とすることを企図して、教育開発センターと共同で PCR-高解像度融解曲線分析法による名古屋コーチン鑑別法を開発し、学生実習に導入した (分析系応用実習(衛生化学))	
2 作成した教科書、教材、参考書							
スタンダード薬学シリーズ II 衛生薬学 健康と環境 (東京化学同人)				2016年2月15日		「室内環境」を共同執筆	
必携・衛生試験法 第2版 (金原出版)				2016年10月25日		編集委員として「機器分析法」および「空気試験法 大気環境」を編集	
学校薬剤師のための学校環境衛生試験法 (金原出版)				2018年9月5日		編集委員として「学校の環境に係る試験法」および「一般試験法：機器分析法」を共同編集	
衛生薬学 基礎・予防・臨床 改訂第2版 (南江堂)				2018年5月15日		「化学物質の毒性」を共同執筆 「大気環境」を執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
薬学部環境分析実習における GC/MS の導入				2017年3月25日		分析系応用実習(環境科学)に GC/MS による残留農薬分析を導入した事例について日本薬学会第 137 年会で報告	
学習意欲向上のための非講義形式授業				2018年3月28日		衛生化学 1 において非講義形式のアクティブラーニングを導入した事例について日本薬学会第 138 年会で報告	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会等への参加				2016年1月10日～11日		「第 57 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」に参加	
薬学共用試験				2018年9月～2019年2月		CBT モニター(鈴鹿医療科学大学)を担当	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称
(論文) Hepatic and intestinal glucuronidation of mono(2-ethylhexyl) phthalate, an active metabolite of di(2-ethylhexyl) phthalate, in humans, dogs, rats and mice: an in vitro analysis using microsomal fractions.				共著		2016年7月	Arch. Toxicol. 90: 1651-1657

(論文) Selenium uptake through cystine transporter mediated by glutathione conjugation.	共著	2017年1月	J. Toxicol. Sci. 42: 85-91
(論文) Glucuronidation of 4-tert-octylphenol in humans, monkeys, rats, and mice: an in vitro analysis using liver and intestine microsomes.	共著	2017年3月	Arch. Toxicol. 91: 1227-1232
(論文) Analysis of glycols, glycol ethers, and other volatile organic compounds present in household water-based hand pump sprays.	共著	2017年11月	J. Environ. Sci. Health A. 52: 1204-1210
(論文) Metabolomic analysis uncovered an association of serum phospholipid levels with estrogen-induced mammary tumors in female ACI/Seg rats.	共著	2018年5月	Toxicol. Lett. 288: 65-70

2 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
腸管内分泌細胞における苦味受容体のシグナル伝達に関する研究	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
香料および関連化合物による TRPA1 活性化の種差に関する研究	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
内在性プロモーターを利用した脱共役タンパク UCP1 レポーターアッセイ系の開発	2018年9月	フォーラム 2018: 衛生薬学・環境トキシコロジー
褐色脂肪細胞の活性化機構に対するショウガ科由来成分の影響	2018年9月	フォーラム 2018: 衛生薬学・環境トキシコロジー
室内空气中 Dibutyl phthalate および Di(2-ethylhexyl)phthalate 標準試験法の構築と妥当性評価	2018年9月	フォーラム 2018: 衛生薬学・環境トキシコロジー

III 学会および社会における主な活動	
2011年4月～現在	国際標準化機構 ISO/TC146/SC6 (室内空気) 国内対策委員会 委員
2012年4月～現在	日本毒性学会 編集委員会 委員、The Journal of Toxicology 編集委員
2012年4月～現在	厚生労働省 シックハウス (室内空気汚染) 問題に関する検討会 委員
2013年6月～現在	日本毒性学会 評議員
2015年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法出版委員会 委員
2015年4月～現在	室内環境学会 評議員
2015年4月～現在	厚生労働省 水道水質検査法検討会 委員
2016年4月～現在	日本薬学会 学術誌編集委員会 委員
2016年6月	第43回日本毒性学会学術年会 企画委員
2016年9月	フォーラム 2016 衛生薬学・環境トキシコロジー 実行委員
2018年4月～現在	日本薬学会 レギュラトリーサイエンス部会 常任世話人
2018年10月～現在	愛知県 環境審議会水質部会 専門委員

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	製剤学研究室	職名	教授	氏名	丹羽 敏幸
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
オリジナルクイズカードによる講義の活性化				2013年10月～		薬学部3年次後期担当の「製剤開発論」(必須1.5単位)の出欠席チェックを指定の出席カードの代わりにオリジナルのクイズカードを作成し、毎回興味を引き出す設問を考案して回答させた。学生からは「講義中眠くならなくなった」と評判が高かった。	
講義スライドの工夫の改善				2013年10月～		薬学部2年次後期担当の「製剤学1」(必須1.5単位)の映写・配布スライドの作成にあたり、図表・写真・イラストを多く取り入れることで、冗長な説明文を極力避け、視覚的な導入により講義内容への興味をそそるよう工夫している。また、要な専門用語を空欄にし、学生自ら記載するようにして眠気を排除している。授業アンケートでは、半数以上の学生からスライドが分かりやすいとの好評を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
物理化学実習書 第2版(廣川書店)				2016年3月		物理系基礎実習のための学生用実習書。「粉体物性, 錠剤の製造, 錠剤の評価」を担当。	
製剤学 改訂第7版(南江堂)				2017年4月		製剤学講義のための学生用教科書。「粉体の性質」を担当。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD研修会等への参加				2015年7月9日		名城大学薬学部「研究倫理教育講演会」に参加	
				2015年10月27日		名城大学 第17回FDフォーラム「教育の内部質保証」に参加	
				2016年3月8日		名城大学薬学部FDフォーラム「進度を落とさずにアクティブラーニングTBL」に参加	
				2017年2月23日		名城大学薬学部FDフォーラム「大学授業を活性化する」に参加	
				2017年11月2日		名城大学「論文盗用防止検索システム説明会」に参加	

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（著書）医薬品製剤化方略と新技術Ⅱ （論文）Design of self-dispersible dry nano-suspension through wet milling and spray freeze-drying for poorly water-soluble drugs. （論文）Design of highly dispersible PLGA microparticles in aqueous fluid for the development of long-acting release injectables. （論文）One step preparation of spherical drug particles by contamination-free dry milling technique with corn starch beads. （論文）Ultra cryo-milling with liquid nitrogen and dry ice beads: Characterization of dry ice as milling beads for application to various drug compounds.	共著	2013年4月	シーエムシー出版
	共著	2013年9月	Eur. J. Pharm. Sci., 50, 272-281
	共著	2017年2月	Chem. Pharm. Bull., 65(2), 157-165
	共著	2017年7月	Int. J. Pharm., 528, 624-636
	共著	2018年8月	Chem. Pharm. Bull., 66(8), 794-804
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
乳幼児用成形ミルクの硬度と崩壊性に及ぼす原料粉ミルクの粒度の影響		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
V型混合機による乾式錠剤コーティング法の開発		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
茶葉の優れた分散性を有するインスタント抹茶錠の製剤設計		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
球形添加剤を用いた凍結粉碎技術の開発		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
機械的せん断処理装置による結晶セルロース微小球形粒子の設計		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
乾式粉碎・複合化技術による多様な溶出挙動を有する薬物微細粒の設計		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
乾式粉碎・被覆化技術（Dry mill, Dry coat）による放出遅延のない苦味マスキング粒の設計		2018年10月	第35回製剤と粒子設計シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2010年4月～現在	日本粉体工学会 粉体に関する討論会世話人		
2010年4月～現在	PLCM（耕薬）研究会組織委員		
2013年4月～2013年11月	製剤機械技術学会 第14回製剤機械技術シンポジウム副実行委員長		
2014年4月～2018年3月	日本薬剤学会 製剤技術伝承委員会 委員		
2015年4月～2016年5月	日本薬剤学会 旭化成創剤研究奨励賞・旭化成創剤開発技術賞 専門委員		
2015年2月～2017年1月	日本薬学会東海支部幹事、日本薬学会代議員		
2015年4月～現在	製剤機械技術研究会 評議員		
2016年4月～現在	日本薬剤学会 評議員（2018年度より代議員）		
2017年3月～2017年11月	製剤機械技術学会 第18回製剤機械技術シンポジウム副実行委員長		
2017年4月～2018年6月	日本薬剤学会 第33年会 組織委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名 名城大学	講座名	健康・スポーツ 科学研究室	職名 教授	氏名	梅田 孝
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫					
パワーポイント講義資料の作成			2014年4月～	講義の内容を簡潔にまとめたパワーポイントファイルを学内公開サーバー(WebClass)にアップロードし、講義の予習、復習に活用した。また、2014年以降、これらを最新のものに順次更新している。	
健康サポート薬局で地域保健活動を担える薬剤師の育成に関する講習会の実施			2016年3月～	2016年3月より毎年、(公財)日本体操協会公認一般体操指導員養成講習会を主催し、在学生に健康づくりに関わる運動指導の技能資格を取得させている。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
ランニング医学大事典(西村書店) トータル・ヘルスプロモーションのための「健康サポート体操」(DVD)(株式会社MDC)			2013年10月 2019年3月	第29章糖尿病を執筆 同DVDの企画、監修を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
特になし					
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Serum hyaluronic acid concentration predicts the progression of joint space narrowing in normal knees and established knee osteoarthritis - a five-year prospective cohort study.			共著	2015年10月	Arthritis Res Ther. 17: 283.
(論文) アーチェリーの試合が大学生男子選手に及ぼす身体的・精神的影響 - 血液生化学検査値及びPOMSからの検討 -			共著	2015年12月	体力・栄養・免疫学雑誌. 25(3): 196-201.
(論文) トレーニング後の筋の変性・損傷と酸化ストレス、免疫機能低下に対する光治療の効果の可能性.			共著	2016年12月	日本レーザー治療学会誌. 15(2): 14-20.
(論文) 大学女子長距離走選手の身体部位別骨密度と月経周期・女性ホルモンとの関連.			共著	2017年4月	臨床スポーツ医学会誌. 25(2): 248-253.
(論文) 月経異常を呈する長距離走選手の骨代謝に関する横断調査.			共著	2017年8月	臨床スポーツ医学会誌. 25(3): 354-359.

2 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
一過性及び長期のトレーニングにより発現するオーバーリーチングとオーバートレーニングの予防、改善に対する光治療の応用の可能性について—柔道選手を例として—。(教育講演)	2018年6月	第30回日本レーザー治療学会学術集会・総会
健康体操を提案できる薬剤師養成を目的とした研修会の有用性について。	2018年6月	医療薬学フォーラム2018
女子バレーボール選手における脱水が免疫機能に及ぼす影響について。	2018年9月	第73回日本体力医学会大会
3か月間の健康実践教室の参加が高齢者の健康関連 QOL に及ぼす影響について。	2018年9月	第28回体力・栄養・免疫学会
スポーツ活動による心とからだの疲れとその対処法について。(市民公開講座)	2018年10月	第34回日本ストレス学会
大学陸上長距離選手に対する Milk Basic Protein (MBP) 投与による骨質改善効果の検討。	2018年11月	第29回日本臨床スポーツ医学会学術集会
少年野球選手を対象とした投球側肩関節内外旋可動域と下肢・体幹機能の関連性について～Y-Balance Test を用いた検討～	2018年11月	第29回日本臨床スポーツ医学会学術集会
大学陸上長距離選手における相対的エネルギー不足が月経と骨代謝へ及ぼす影響。	2018年11月	第29回日本臨床スポーツ医学会学術集会
地域保健活動の実際と理学療法士の役割。(特別講演)	2018年11月	第36回東北理学療法学術大会
III 学会および社会における主な活動		
1998年10月～現在	日本公衆衛生学会会員	
2004年8月～現在	体力・栄養・免疫学会理事	
2009年4月～現在	日本衛生学会評議員	
2009年9月～現在	日本体力医学会評議員	
2010年11月～現在	日本レーザー・スポーツ医学会理事	
2014年6月～現在	日本レーザー治療学会理事	
2014年8月～現在	体力・栄養・免疫学会副会長	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	実践薬学 I 研究室	職名	教授	氏名	長谷川 洋一
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
実務実習事前講義・演習の日程作成			2009年～	授業の枠組みをユニット構成にし、ユニット毎に講義⇒演習⇒まとめの流れを 発案し、事後アンケートをもとにブラッ シュアップを図った。(実務実習事前講 義・演習)			
授業の方略の改善			2015年9月	各回のテーマに対応した事例提示・講 義・グループ共有をとおして考える授業 を実施した。(薬学概論 2)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
薬学総論 I . 薬剤師としての基本事項			2015年4月1日	領域担当編集及び SBO66・67 を執筆			
モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい 病院実務実習テキスト 第4版 (じほう)			2015年8月1日	編集及び「医薬品の採用・使用中止」を 執筆			
モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい 薬局実務実習テキスト 第5版 (じほう)			2016年8月22日	編集			
臨床薬学 I . 臨床薬学の基礎および処方箋に基づ く調剤 第1版 (東京化学同人)			2017年10月18日	「6・1 法的根拠に基づいて調剤業務を 実践する」を執筆			
薬学生のための実務実習事前学習テキスト 改訂2 版 (ネオメディカル)			2018年3月16日	「第3章 1~4」「第4章 1、4~6」を 執筆			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
選ばれる薬局、薬剤師になるために			2017年7月23日	愛知県薬剤師会新入会員研修会におい て講演			
薬学教育の質保証とアウトカム			2018年7月20日	東北医科薬科大学 FD・SD 講演会にお いて講演			
薬学教育の質保証とアウトカム			2018年9月13日	名城大学薬学部 FD 講演会において講演			
4 その他教育活動上特記すべき事項							
第8回全国学生 WS タスクフォース			2018年8月11日～ 12日	日本薬学会主催の全国学生 (6年生) を 対象に開催した WS のタスクフォース を担当			
第4回若手薬学教育者のためのADWSタスクフォ ース			2018年10月6日～ 8日	日本薬学会主催の薬学教員を対象に開 催した WS のタスクフォースを担当			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発 表の年月 (西 暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻 号数) 等の名称		
(論文) 薬学生と薬剤師の実践力訓練のための患 者シミュレータ活用の有用性			共著	2014年6月	日本シミュレーション 医療教育学会雑誌 2、 7-13 (2014)		
(論文) 高機能患者シミュレータの薬学教育への 応用 - 交感神経作動薬による循環器系バイタルサ インの変動 -			共著	2015年2月	医療薬学 41 (2)、 98-107 (2015)		
(著書) これだけは押さえてほしいルール&マナ ー			共著	2015年12月5 日	南山堂		

(著書) 健康サポート薬局ポイント解説 (論文) 第2サイクル評価基準案-アウトカムと質保証-	単著 共著	2016年8月2日 2018年8月	薬事日報社 薬学教育(第2巻)、 53-61(2018)
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬学教育の質保証の現在と未来～薬学教育評価第2期に向けて～		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
薬局における医薬品管理・授受の実態調査と適正化対策に関する考察		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
スウェーデン、ドイツ、カナダにおける医薬品ネット販売の可否などの規制等の比較に関する研究		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
Synaptic Vesicle Protein 2A 遺伝子多型が与える気質・性格への影響		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
がん診療連携拠点病院等を対象とした入院患者の内服レスキュー薬(麻薬)自己管理の実態に関する全国調査		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
トルバプタン導入基準を満たす心不全増悪患者に対し、実際の導入可否を左右する要因の検索		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
安城更生病院救命救急センターにおける痙攣重積状態への対応フローチャートの導入が治療に及ぼす影響		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
大学4年生に対するB型肝炎ワクチン接種の効果-ビームゲンとヘプタバックス-IIの比較-		2018年11月	第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会、第66回日本化学療法学会西日本支部総会 合同開催
III 学会および社会における主な活動			
2009年6月～現在	薬学教育評価機構基準・要綱作成検討委員会 委員		
2010年4月～2014年3月	日本薬学会広報委員会 委員		
2010年4月～現在	保険指導薬剤師(東海北陸厚生局指導監査課・愛知県健康福祉部国民健康保険課)		
2012年4月～2016年3月	日本薬学会教育委員会 委員		
2013年10月	日本薬学会第3回薬学教育者のためのADWS 実行委員長		
2015年4月～2017年3月	東海地区調整機構 委員長		
2015年8月	日本薬学会第5回全国学生WS 実行委員長		
2016年4月～現在	日本薬学会教育委員会第三者確認委員会 副委員長		
2017年4月～現在	日本薬学会 代議員		
2017年4月～現在	日本医療薬学会 代議員		
2018年9月～現在	日本薬剤師会薬学教育委員会 委員		
2018年10月～現在	日本薬学教育学会 理事		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	実践薬学 I 研究室	職名	教授	氏名	黒野 俊介
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
薬剤の調製に関する技能確認プログラムの構築・実践				2012年9月～		計数調剤や計量調剤に必要な技能を習得するために、学生同士でお互いの手技を確認し、自身の技能を振り返る時間を設けることで、より短期間で調剤に関する技能を修得することを可能としたプログラムを構築・実践した。	
バイタルサインの測定に関する演習プログラムの構築・実践				2015年9月～		医療チームの中で患者情報を共有するために必要な脈拍・血圧の測定、心音と呼吸音の聴診に必要な技能を修得することを可能とした演習プログラムを構築・実践した。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
ナースのためのアドバンスド創傷ケア (照林社)				2012年9月10日		「アドバンスド創傷ケアの実施」の「2 実際編 臨床薬理学①」を共同執筆	
NEO 薬学シリーズ 6 薬学生のための実務実習事前学習テキスト (ネオメディカル)				2013年8月29日		「服薬指導と患者情報」の「患者情報の重要性」、「服薬指導入門」を執筆	
NEO 薬学シリーズ 6 薬学生のための実務実習事前学習テキスト 改訂版 (ネオメディカル)				2016年3月24日		「服薬指導と患者情報」の「患者情報の重要性」、「服薬指導入門」を執筆	
NEO 薬学シリーズ 6 薬学生のための実務実習事前学習テキスト 改訂 2 版 (ネオメディカル)				2018年3月16日		「II 処方箋に基づく調剤」の「患者・来局者対応、服薬指導、患者教育」を共同執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
シミュレーション教育				2015年3月29日		Learndal Education Day at NIPRO iMEP (滋賀) にて「薬学教育におけるシミュレーションプログラム体験 オートモードを活用したシミュレーションプログラム」の講師	
実務実習				2018年11月4日		改訂モデル・カリキュラムに準拠した実務実習について第12回日本薬局学会学術総会にて教育講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
薬学共用試験 生涯学習センターが開催する講座の講師				2017年4月～ 2018年6月23日		薬学共用試験 OSCE 実施責任者を担当 名城大学・天白生涯学習センター共催の「親子で楽しい数理科学教室」で「知っておこう 体のしくみ」、「見てみよう 薬のはたらき」の講師を担当	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月 (西暦でも可)	
(論文) 実務実習における学習の修得度と不安に関する薬学生の自己評価				共著		2013年6月	
						発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称	
						医学教育 第43巻3号	

(論文) 薬学生と薬剤師の実践力訓練のための患者シミュレータ活用の有用性	共著	2014年6月	日本シミュレーション医療教育学会雑誌 Vol.2
(論文) 高機能患者シミュレータの薬学教育への応用－交感神経作動薬による循環器系バイタルサインの変動－	共著	2015年2月	医療薬学 41(2)
(論文) Evaluation of a web-based curriculum resource “DocCom” by pharmacy students’ self-assessment	共著	2015年5月	Pharmacy Education 15(1)
(論文) 高機能患者シミュレータのソフトウェア搭載 PC を用いた喘息患者におけるプロプラノロールの有害作用のシミュレーション演習	共著	2017年8月	薬学教育 第1巻
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
より有意義で効果的な実務実習を目指して～薬局・病院が連携した一貫性のある実習の実現に向けて～		2018年9月	日本医療薬学会 第70回医療薬学公開シンポジウム
大学4年生に対するB型肝炎ワクチン接種の効果－ビームゲンとヘプタバックス-IIの比較－		2018年11月	第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会、第66回日本化学療法学会西日本支部総会合同開催
がん診療連携拠点病院等を対象とした入院患者の内服レスキュー薬(麻薬)自己管理の実態に関する全国調査		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
Synaptic Vesicle Protein 2A 遺伝子多型が与える気質・性格への影響		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
平成29年度に実施した改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した薬局実務実習のトライアル結果について		2018年12月	第51回東海薬剤師学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2011年5月～2013年4月	一般社団法人 薬学教育協議会病院薬局実務実習東海地区調整機構ワークショップ実施小委員会 委員		
2011年4月～2015年3月	愛知医科大学 非常勤講師		
2012年7月～現在	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ タスクフォース		
2013年4月～現在	一般社団法人愛知県薬剤師会薬学教育部会 部員		
2013年5月～現在	一般社団法人 薬学教育協議会病院薬局実務実習東海地区調整機構 実務実習施設調整小委員会 委員		
2015年4月～2017年3月	一般社団法人 薬学教育協議会病院薬局実務実習東海地区調整機構 事務局長		
2016年10月～現在	東海地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ タスクフォース		
2017年3月～現在	愛知県委託事業 薬剤師在宅医療対応研修事業 フィジカルアセスメント研修会 講師		
2017年6月～現在	一般社団法人 愛知県薬剤師会 理事		
2017年6月～現在	一般社団法人 日本在宅薬学会認定バイタルサイン講習会 エヴァンジェリスト		
2017年12月	第50回東海薬剤師学術大会 実行委員		
2018年6月～現在	学校法人 愛知医科大学 評議員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	病態生化学研究室	職名	教授	氏名	山田 修平
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
講義資料のアップロード				2012年4月～		学生の自己学習の手助けのため、講義資料をアップロードしている。	
学生参加型授業ツール「クリッカー」の利用				2012年4月～		学習意欲を高め、理解度の向上に役立つため、クリッカーを使用。	
講義時間中の確認テストの実施				2012年4月～		各講義の最初にマークシート式の小テストを実施。復習の講義も実施。	
LiT (Learning in Teaching) の導入				2016年4月～		理解度を増強するため、LiTを導入。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
コンパス 生化学 (前田正知、浅野真司編、南江堂)				2015年1月		「糖質」を担当。	
スタンダード薬学シリーズ II-4 生物系薬学 I. 生命現象の基礎 (日本薬学会編、東京化学同人)				2015年3月		「ATPの産生と糖質代謝」を担当。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会への参加				2016年4月19日		「コーチング研修」(名城大学薬学部 FD 委員会主催)	
FD 講演会への参加				2016年11月11日		「藤田保健衛生大学SD 医療系総合大学としての教育改革を推進するために」	
FD 講演会への参加				2016年12月1日		「発達障害学生の修学支援におけるポイント—考え方・連携・体制—」(名城大学学務センター, 障がい学生支援センター開設準備室主催)	
FD 研修会への参加				2017年1月29日		「東海地区での新しい実務実習実施検討ワークショップ」(東海薬学教育連携コンソーシアム主催)	
FD 研修会への参加				2017年2月23日		「大学授業を活性化する-協同学習の視点から-」(名城大学薬学部 FD フォーラム主催)	
FD 講演会への参加				2017年3月2日		「多職種協働の実践を目指して」「本学における専門職連携教育 (IPE) の実践」(名城大学薬学部 FD 委員会主催)	
FD 研修会への参加				2017年8月25日		「薬学教育指導者のためのワークショップ」(文部科学省主催)	
FD 講演会への参加				2017年11月29日		「ICF (生きることの全体像) 概念を通して修学上の障がいを複眼的に考える」(名城大学障がい学生支援センター, 学務センター主催)	
FD 講演会への参加				2018年3月23日		「学修成果をはかる問題作成について工学分野におけるとりくみ」(名城大学薬学部 FD 委員会主催)	

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Mass preparation of oligosaccharides by hydrolysis of chondroitin sulfate polysaccharides with subcritical water microreaction system.	共著	2013年4月	Carbohydr. Res., Vol.371
(総説) Catabolism of Chondroitin Sulfate.	単著	2015年6月	Cell. Mol. Biol. Lett., Vol. 20 No. 2
(総説) Molecular interactions between chondroitin-dermatan sulfate and growth factors/receptors/matrix proteins.	共著	2015年10月	Curr. Opin. Struct. Biol., Vol. 34
(論文) Roles of two types of heparan sulfate clusters in Wnt distribution and signaling in Xenopus.	共著	2017年12月	Nat. Commun., Vol. 8, No. 1
(論文) The reduction of heparan sulphate in the glomerular basement membrane does not augment urinary albumin excretion.	共著	2018年1月	Nephrol Dial Transplant., Vol. 33 No. 1
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒアルロニダーゼ 1 および 4 の基質認識に関するアミノ酸残基の解析		2018年6月	第50回日本結合組織学会学術大会
The mammalian chondroitinase, hyaluronidase 4, is produced by human mast cells: its role in modulating the structure of chondroitin sulfate and regulating tissue remodeling.		2018年7月	Gordon Research Conference on Proteoglycans
マウス臍臓β細胞由来細胞株 MIN6 におけるコアタンパク質選択的なヘパラン硫酸合成		2018年9月	第37回日本糖質学会年会
骨異形成性老人性皮膚症のモデルマウス(Gorab 欠損マウス)はデルマトン硫酸が低下する		2018年9月	第91回日本生化学会大会
Musculocontractural ehlers-danlos syndrome caused by a CHST14 deficiency results in defect in urinary dermatan sulfate.		2018年9月	The International Symposium on the EDS
グリコサミノグリカン生合成酵素の欠損による遺伝病の研究		2018年11月	第28回プロテオグリカンフォーラム
III 学会および社会における主な活動			
2000年10月～現在	プロテオグリカンフォーラム 世話人		
2012年3月～2013年8月	8th International Conference on Proteoglycans における International Scientific Committee		
2013年7月～2019年6月	日本糖質学会評議員		
2014年1月～2019年2月	国際学術誌 Cellular and Molecular Biology Letters の Editorial Board		
2015年11月～2019年11月	日本生化学会代議員		
2015年11月	糖鎖科学中部拠点 第12回若手のカフォーラム 世話人として学会を運営		
2016年4月～2020年6月	(公益財団法人) 水谷糖質科学振興財団選考委員		
2017年11月～現在	11th International Conference on Proteoglycans (2019年、金沢) における組織委員会副会長		
2018年1月～2018年12月	日本糖質科学コンソーシアム (JCGG) 幹事		
2018年4月～現在	日本結合組織学会評議員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬化学研究室	職名	教授	氏名	北垣 伸治
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
WebClass またはポートフォリオを利用した授業 外学習の促進				2013年4月～		担当する全ての科目において、 WebClass またはポートフォリオに授 業教材を予め掲載し予習を促すととも に、授業後に課題を掲載し復習に利用さ せた	
小テスト実施による理解度の確認				2013年4月～		担当する全ての科目において、定期的 に小テストを実施し、理解度の確認と学生 の学習意欲の向上に努めた	
2 作成した教科書、教材、参考書							
基礎有機化学問題集 第2版 (廣川書店)				2017年1月		共著 第9章 ラジカル反応 p. 155-160	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
名城大学薬学部教務委員				2012年4月～ 2016年3月		「学習成果基盤型教育に基づいて6年 制薬学教育の学習成果を考える」という テーマで、改訂コアカリの実施に向けた カリキュラムプランニングについて討 議した	
日本薬学会第3回薬学教育者のためのアドバンス トワークショップに参加				2013年10月12日 ～14日			
名城大学薬学部教務委員長				2014年4月～ 2016年3月			
名城大学薬学部FD委員				2014年4月～ 2016年3月			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発 表の年月(西 暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻 号数)等の名称
(論文) Planar chiral [2.2]paracyclophane-based bis(thiourea) catalyst: application to asymmetric Henry reaction				共著		2013年4月	Chem. Commun., vol. 49, No. 38, 4030-4032
(論文) [2+2+1] Cyclization of allenes				共著		2014年2月	Chem. Soc. Rev., vol. 43, No. 9, 2956-2978
(論文) Synthesis of planar chiral [2.2]paracyclophane-based bisoxazoline ligands bearing no central chirality and application to Cu-catalyzed asymmetric O-H insertion reaction				共著		2015年3月	Org. Biomol. Chem., vol. 13, No. 17, 4833-4836

(論 文) Planar chiral [2.2]paracyclophane-based phosphine-phenol catalysts: application to the aza-Morita-Baylis-Hillman reaction of N-sulfonated imines with various vinyl ketones	共著	2016年9月	Tetrahedron, vol. 72, No. 43, 6892-6897
(論 文) Planar Chiral [2.2]Paracyclophane-Based Phosphine-Phenols: Use in Enantioselective [3+2] Annulations of Allenolates and N-Tosylimines	共著	2018年2月	Org. Biomol. Chem., vol. 16, No. 10, 1770-1778
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
[2.2]パラシクロファン骨格を有する面不斉ホスフィン触媒を用いた [3+2]型環化反応		2018年6月	第113回有機合成シンポジウム
面不斉ビスチオウレア分子が触媒する不斉 Henry 反応における基質適用範囲の拡大検討		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
エナンチオ選択的分子内 Friedel-Crafts 型 1,4-付加反応を利用する (-)-ミスラミンの全合成		2018年9月	第48回複素環化学討論会
Synthesis and Reactivity of Stable Uracil-Iodonium(III) Salts		2018年10月	ArmChemFront 2018
[2.2]パラシクロファン骨格を有する面不斉ホスフィン-フェノール触媒: アレンとメチレンインドリノンの[3+2]環化反応への適用		2018年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2013年3月~2015年2月	日本薬学会東海支部幹事		
2013年4月~現在	薬学教育協議会有機化学系科目担当教員会議委員		
2017年4月~2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会実行委員		
2018年4月~現在	有機合成化学協会東海支部幹事		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	病態解析学 II 研究室	職名	教授	氏名	築山 郁人
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイントによる講義資料の作成				2018年9月～	化学療法・緩和医療において「がん総説」、「がん化学療法総説」、「がんの支持療法」、「乳がん」、「肺がん」の講義スライドを作成した。がんおよびがん化学療法の基本的概念から、支持療法に加え代表的ながん治療の最新情報を盛り込んだ。ハンドアウトにより復習を促した。		
パワーポイントによる講義資料の作成				2018年10月～	本学大学院薬学研究科の「がん薬物療法学特論」において、緩和薬物療法の薬理学とその実際について講義スライドを作成した。医療用麻薬の基本的な薬剤から最近臨床導入された新規オピオイドについて薬理学的特徴、薬物動態学的特徴、有害事象についてまとめ、具体的な処方内容を踏まえて解説した。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
プロフェッショナルがんナーシング 臨時増刊号 (メディカ出版)				2015年3月1日	がん化学療法患者説明ガイド CHAP. 2 キードラッグの患者説明 これだけ46薬剤を執筆		
プロフェッショナルがんナーシング vol.7 no.2 (メディカ出版)				2017年4月1日	がん化学療法 お薬選手名鑑 「低分子分子標的薬、主な41レジメン」を執筆		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
薬学教育に関するワークショップへの参加				2018年3月7日	日本薬学会・日本薬学教育学会 「第5回医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」へ参加		
薬学共用試験				2018年12月16日	名城大学薬学部 OSCE 第3領域 (監査) 責任者		
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称	
(論文) A cost-effectiveness analysis of gemcitabine plus cisplatin versus gemcitabine alone for treatment of advanced biliary tract cancer in Japan				共著	2017年5月	Journal of Gastrointestinal Cancer 48(4): 326-332	
(論文) 循環器病棟における薬学的介入の経済効果				共著	2017年12月	医療薬学 43 (12): 680-690	

(論文) Cost-effectiveness of aprepitant in Japanese patients treated with cisplatin-containing highly emetogenic chemotherapy.	共著	2018年5月	Cancer Science 109 (9): 2881-2888
(論文) 非ホジキンリンパ腫患者に対する CHOP 療法に伴う発熱性好中球減少症の 1 次予防におけるペグフィルグラスチムの費用対効果	共著	2018年8月	医療薬学 44 (9): 441-448
(論文) CapeOX 療法の完遂率に影響を与える要因の調査および適切な介入方法を目指した多施設共同研究	共著	2018年12月	日本病院薬剤師会雑誌 55(1): 47-52
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
CHOP 療法におけるペグフィルグラスチムの費用対効果		2017年7月	第 15 回日本臨床腫瘍学会
くも膜下出血患者におけるフェニトイン併用によるニカルジピン注射液使用状況の変化に関する解析		2018年3月	日本薬学会第 138 年会
ワルファリンまたは直接経口抗凝固薬(DOAC)使用時の 3 剤併用療法における出血リスクの比較		2018年3月	日本薬学会第 138 年会
Cost-effectiveness analysis of aprepitant in Japanese patients who received high-dose cisplatin		2018年6月	ASCO 2018
ラムシルマブによる蛋白尿発現のリスク因子探索 CHOP 療法におけるペグフィルグラスチムの費用対効果		2018年7月	第 16 回日本臨床腫瘍学会
III 学会および社会における主な活動			
2011年4月～2017年3月	愛知県病院薬剤師会編集委員		
2013年4月～2016年3月	東海緩和医療研究会世話人		
2014年4月～現在	愛知県病院薬剤師会がん部会運営委員		
2014年9月～現在	愛知医科大学看護学部 NP 養成講座講師		
2016年10月	日本病院薬剤師会・日本薬剤師会東海ブロック学術大会がんシンポジウム講師		
2017年1月	名古屋大学医学部保健学科大学院 病態化学解析学特論講師		
2017年3月	愛知県病院薬剤師会がん部会報告会座長		
2017年6月	第 8 回日本がん薬剤学会世話人		
2017年9月	愛知県病院薬剤師会がん部会学術講演会座長		
2017年11月	天白区薬剤師会学術講演会において「大腸がんの化学療法」講師		
2017年12月	金城大学薬学部 OSCE 第 3 領域 評価者		
2018年9月	第 2 回日本精神薬学会座長、学会賞審査員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名 名城大学	講座名	生物物理化学 研究室	職名 教授	氏名	小田 彰史
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
暗記に頼らない講義の構築		2016年4月～		基礎分野であることを利用し、できる限り基礎概念からすべて演繹的に説明するよう心がけた。帰納的な説明が必要な場面では、逆に基礎概念に到達するまで徹底して講義を行い、講義内容すべてが論理的につながっていることを示した。	
実習内容の改善		2018年4月～		物理系基礎実習において物理化学の基礎的概念を反映した実験を組み込むことを検討し、次年度より実施することを決定した。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
特になし					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
日本の情報化学者のエルデシュ数		2013年9月20日		数学者コミュニティにおけるジョークとして知られるエルデシュ数を情報化学教育の導入に用いることを検討し、Journal of Computer Aided Chemistry 誌 (14 巻 pp.36-43) にて発表した (2014 年 11 月 28 日日本化学会情報化学部会 JCAC 論文賞受賞)。	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
薬学共用試験		2016年4月1日～ 現在		CBT 実施委員 (管理者)	
国試・CBT 対策委員会		2017年4月1日～ 現在		国試・CBT 対策委員	
キャリアセンター		2017年4月1日～ 現在		キャリアセンター委員 (インターンシップ担当)	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称
(論文) Influences of conformations of peptides on stereoinversions and/or isomerizations of aspartic acid residues			共著	2018年1月	BBA proteins proteomics, 1866, 783-788.
(論文) Validation of molecular force field parameters for peptides including isomerized amino acids			共著	2018年3月	Chirality, 30(4), 332-341.
(論文) Triazine-Based Cationic Leaving Group: Synergistic Driving Forces for Rapid Formation of Carbocation Species			共著	2018年4月	J. Org. Chem., 83(8), 4568-4580.

(論文) Novel androgen receptor full antagonists: Design, synthesis, and a docking study of glycerol and aminoglycerol derivatives that contain p-carborane cages	共著	2018年6月	Bioorg. Med. Chem., 26(13), 3805-3811.
(論文) Functional characterization of 40 CYP2B6 allelic variants by assessing efavirenz 8-hydroxylation	共著	2018年9月	Biochem. Pharmacol., 156, 420-430.

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
大腸菌 OPRTase を基としたアミノ酸種限定タンパク質の分子動力学シミュレーションによる立体構造の解明		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
ヒト 20S プロテアソームのリング構造をベースとしたタンパク質の集積化とその応用		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
カルボラン誘導体がアンドロゲンレセプターの立体構造に与える影響の予測		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
分子動力学シミュレーションによる野生型および変異型シトクロム P450 2C8 の構造および柔軟性の評価		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
少数のアミノ酸からなる原始タンパク質モデル分子の立体構造解析		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
dA-クリスタリンペプチドにおける Asp 異性体の相互異性化速度に寄与する因子についての計算化学的研究		2018年9月	第14回 D-アミノ酸学会学術講演会
Modification of pH-dependence for coiled-coil assembly by introducing glutamate residue to the hydrophobic surface: computational design and experimental mutagenesis		2018年9月	22nd Euro-QSAR
Theoretical study for the influence of Asp-residue stereoinversion and/or isomerization on the three-dimensional structure of ribonuclease A		2018年9月	22nd Euro-QSAR
生体内の雑多な分子が非酵素反応において果たす役割の量子化学計算による検討		2018年10月	第28回日本メイラード学会年会
N 末端グルタミン残基のピログルタミル化機構の解析		2018年12月	第46回構造活性相関シンポジウム
アスパラギン残基の非酵素的な C 末端側ペプチド結合切断機構の量子化学計算による解析		2018年12月	第46回構造活性相関シンポジウム
酵素で制御されていない生体内反応についての計算化学的研究		2019年2月 (予定)	第7回物理・分析系若手研究者セミナー

III 学会および社会における主な活動	
2011年8月~現在	進化計算学会 専門委員
2013年11月	第125回日本薬学会北陸支部例会 学生優秀発表賞選考委員
2014年1月~2015年9月	第53回日本生物物理学会年会 実行委員
2014年11月	出張講義 (石川県立七尾高等学校)
2016年7月~2018年7月	第62回, 第63回, 第64回日本薬学会東海支部大会 学生優秀表彰評価者
2017年8月	平成29年度名城大学薬学部卒業後教育講座
2018年度	日本薬学会東海支部 奨励賞審査委員
2018年2月~現在	日本薬学会東海支部 幹事
2018年3月	日本薬学会第138年会 学生優秀発表賞審査員
2018年4月~現在	日本薬学会構造活性相関部会 幹事
2019年度	日本薬学会東海支部 奨励賞審査委員

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	実践薬学 I 研究室	職名	教授	氏名	松本 修一
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成			2018年6月	薬物治療マネージメント演習における簡易懸濁、粉碎、経管栄養、配合変化等計数調剤課題について後発医薬品を含む内容に整理			
事前実務実習の資料作成			2018年9月				
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
特になし							
2 学会発表(評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名		
医薬品情報をキーワードとした地域薬薬連携 シンポジスト				2018年7月1日	第21回日本医薬品情報学会		
金鯨薬薬連携研究会活動報告—電子カルテ閲覧による服薬支援事例集 2018—				2018年9月23日	第51回日本薬剤師会学術大会		
国立病院機構名古屋医療センターの電子カルテ情報共有を中心とした金鯨薬薬連携研究会活動報告—その2				2018年9月23日	第51回日本薬剤師会学術大会		
III 学会および社会における主な活動							
2005年10月～現在		名古屋市薬剤師会・名古屋医療センター薬薬連携研究会世話人					
2006年4月～現在		医薬連携を推進する会顧問					

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	病態生化学研究室	職名	准教授	氏名	豊田 行康
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫							
講義資料の作成				2015年10月～	講義内容を理解するための資料をを学内公開サーバー (WebClass) にアップロードし、講義の予習・復習に活用した (生化学1、栄養学)		
講義内容の改善				2013年4月～ 2017年3月	エイジ・ミキシングによる健康・栄養教育を確立した (生化学1、栄養学、病態栄養学)		
				2017年9月～	管理栄養士との連携を意識した栄養・健康教育法を取り入れた能動学習的授業を確立した (栄養学)		
2 作成した教科書、教材、参考書							
薬学生のための臨床化学(南江堂)				2016年2月15日	薬学生に必要な「染色体検査法」の知識について執筆		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称	
(論文) Brain-derived neurotrophic factor in VMH as the causal factor for and therapeutic tool treat visceral adiposity and hyperleptinemia in type 2 diabetic Goto-Kakizaki rats.				共著	2013年10月	Front. Synaptic Neurosci.: 5: 1-12	
(論文) Rare sugar D-allulose: Potential role and therapeutic monitoring in maintaining obesity and type 2 diabetes mellitus.				共著	2015年8月	Pharmacol. Ther 5: 49-59	
(著書) 糖尿病患者と希少糖.				共著	2016年8月	メディカ出版 13: 54-57	
(論文) Rare sugar syrup containing D-allulose but not high-fructose corn syrup maintains glucose tolerance and insulin sensitivity partly via hepatic glucokinase translocation in Wistar rats.				共著	2017年4月	J. Agric. Food Chem. 65: 2888-2894	

(論文)D-Allulose is a substrate of glucose transporter type 5 (GLUT5) in the small intestine.	共著	2018年11月	Food Chem. 30: 604-608
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Intestinal D-allulose is likely mediated by glucose transporter type 5 (GLUT5) D-ブシコースは消化管の GLUT5 を介して吸収される 高フルクトース飲水負荷マウスにおけるD-ブシコースの抗肥満作用について Epac を介した肝糖代謝調節について	2018年4月	Experimental Biology 2018	
	2018年5月	第72回日本栄養・食糧学会大会	
	2018年5月	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	
	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会	
III 学会および社会における主な活動			
1976年4月～現在	日本薬学会会員		
1976年4月～現在	日本生化学会会員		
1993年4月～現在	日本糖尿病学会会員		
2002年4月～現在	日本薬剤師会会員		
2008年6月～現在	日本静脈経腸栄養学会会員		
2009年10月～現在	大学教育学会会員		
2011年1月～現在	日本肥満学会		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	薬学教育開発センター 学生実習部門	職名	氏名	武田 直仁
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫					
レスポンスアナライザ（授業応答システム）にスマートフォンを活用した授業改善の試行			2015年10月～	スマートフォンをクリッカーとして活用した授業が、適用科目の学習到達目標の成績向上につながるものかを精査した。（日本薬局方試験法などの科目で実施）	
実習内容の改善			2016年5月	自学自習のための動画コンテンツのセキュリティ対策のためサーバーを交換	
			2018年4月～	学生実習全16科目並びに4回の薬学入門実験で態度領域の評価を導入	
			2018年3月	H29年度版学生実習全科目において学生の実習内容の理解度達成度の調査結果をまとめ、実習改善のフィードバックをした。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
物理化学実習書 第2版（廣川書店）			2016年3月20日	編著者、「測定値の取り扱いと計算値」を分担執筆	
実験器具の名称、正しい使用方法			2015年4月20日	分析系基礎実習、薬学入門実験2で使用する動画コンテンツ	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
第11回名城大学薬学部高校生体験実験講習会実施責任者（現在に至るまで継続実施）			2011年7月23日	平成25年から26年度にかけてはひらめき・ときめきサイエンスで公的資金を獲得	
くすりについて正しい知識を持ち、適正に使いましょう ―錠剤に込められた工夫を中心に―			2014年11月4日	愛知県立春日井高等学校、出前講義	
双方向授業の方法と効果について クリッカーの先にみえるもの			2015年8月10日	静岡県立大学 FD 講演会	
くすりの形と種類 ―錠剤に込められた工夫を中心に―			2015年6月7日	平成27年度名城大学校友会群馬支部10周年記念講演	
くすりについて正しい知識を持ち、適正に使いましょう ―錠剤に込められた工夫を中心に―			2018年8月17日	春日井市立坂下公民館において出前講義	
くすりはどうしてこんなにたくさんの形があるの？―くすりについて正しい知識を持ち、適正に使いましょう―			2018年10月6日	私立名古屋高等学校において出前講義	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI]			2013年4月	実験Ⅱ：みてみよう薬のききめ 探してみよう新しい効果 ～体験しよう 行動薬理学の世界～	

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI]	2014年4月	実験Ⅰ：血液型を決める分子を探ろう！～たった1つの糖の違いでA型がB型に変わる～ 実験Ⅱ：みてみよう薬のききめ 探してみよう新しい効果 ～体験しよう 行動薬理学の世界～
学びのコミュニティ形成促進を目指した「学生カルテ」による要指導学生サポートプロジェクト	2016年4月～2018年3月	IR 基盤データベースを利用した「学生カルテ」による要指導学生のサポートプロジェクト
～発達障害などの問題を抱えた学生に対する接し方について～	2017年12月12日	MS-26 学びのコミュニティー創出支援事業による講演会主催
教育の質保証プロジェクト「低学年次成績下位学生に焦点化した個別学習サポートによる学習共同体（コミュニティ）の構築」	2018年4月～2019年3月	薬学教育開発センターが主体となり常駐学習支援教員としてのセンター教員と学習アドバイザーとしての予備校講師と学習者が三位一体となって学習共同体を形成し、個別指導を行うことによって、留年・退学者を低減させることを目標とする。
成績不振学生の学習意欲を向上させるための考え方について 【生きる力(非認知能力)を引き出すコーチング】	2019年1月29日	MS-26 学びのコミュニティー創出支援事業による講演会主催

II 研究活動

1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
(論文) 主体的に学習に取り組む態度を育成する探求型実験授業の実効性 —主観的評価と客観的評価の比較—	共著	2013年3月	名城大学教育年報 7,17-23 (2013)
(論文) 薬学部6年次の基礎学力を強化するための教育に関する評価 —平成24年度を中心として—	共著	2014年3月	名城大学教育年報 第8巻 p.9～p.16
(論文) 薬学部5年次の基礎知識の補強を目的とした学習支援に関する評価と考察	共著	2014年3月	名城大学教育年報 第8巻 p.17～p.24
(論文) 薬学部基幹科目「衛生化学Ⅰ」におけるアクティブラーニングの試み	共著	2016年3月	名城大学教育年報 第11巻 p.7～p.14
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
初年次薬学入門実験の行動様式から導出される学力要指導学生		2018年6月	第3回日本薬学教育学会大会
初年次薬学入門実験を活用した学力不振学生の早期探索		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
「ほめ」が薬学生の学習動機づけに及ぼす影響		2019年3月	日本薬学会第139年会
初年次薬学入門実験を活用した学力不振学生の早期探索		2019年3月	日本薬学会第139年会

III 学会および社会における主な活動

2011年4月～現在	日本医用マスペクトル学会評議員
2011年4月～現在	薬学教育協議会科目担当教員会議(日本薬局方担当)

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名 名城大学	講座名	薬学教育開発センター 学生実習部門	職名 准教授	氏名	川村 智子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫					
学生実習における学習到達度自己評価の導入			2013年4月～	各実習内容への学生の理解到達目標の設定と自己評価アンケートの実施分析と対策。(生物系基礎実習生理学実習、微生物学実習、生物系応用実習薬理学1実習、薬理学2実習)	
学生実習へのプレテスト・ポストテスト導入			2016年4月～	実習前の予備知識の充足と事後の知識定着の確認、実習試験への反映。 (生物系応用実習薬理学1実習、薬理学2実習)	
2 作成した教科書、教材、参考書					
実習テキスト			2013年4月～毎年	バイタル測定、顕微鏡観察	
生物系基礎実習生理学実習テキスト					
生物系基礎実習微生物学実習テキスト			2013年4月～毎年	細菌の培養、消毒、検査等	
生物系応用実習薬理学1実習テキスト			2013年4月～毎年	実験動物への薬物投与	
生物系応用実習薬理学2実習テキスト			2013年4月～毎年	薬物投与シミュレーション、遺伝子解析	
入門実験3 実習教材			2013年4月～毎年	身体の構成、顕微鏡観察、動物実験	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
初年次薬学入門実習がその後の学業成績に及ぼす影響			2015年3月27日	日本薬学会第136年会(横浜)で共同発表	
自己評価の意識・認識とその後の学業成績との関連			2016年6月26日	第19回日本高等教育学会(茨木)で共同発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
第15回高校生体験実験講習会-顕微解剖学入門-			2015年7月25日	人間・動物の組織顕微鏡観察の指導	
第16回高校生体験実験講習会-顕微解剖学入門-			2016年7月23日	人間・動物の組織顕微鏡観察の指導	
第17回高校生体験実験講習会-生薬学入門-			2017年7月22日	漢方薬作り体験・生薬成分分析の指導	
第18回高校生体験実験講習会-生薬学入門-			2018年7月28日	漢方薬作り体験・生薬成分分析の指導	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(著書) 薬用植物学 改訂第7版			共著	2013年9月	南江堂
(著書) 新訂生薬学 改訂第8班			共著	2017年3月	南江堂
(論文) 遺伝子解析実験による教育効果—ALDH2 遺伝子解析実験への学生の興味と理解—			共著	2014年3月	名城大学教育年報(第8号)

(論文) 乗鞍岳におけるウラジロナナカマドとナナカマドの標高差による開花・結実の相違	共著	2017年12月	植物地理・分類研究(第65巻第2号)
(論文) 実験実習におけるプレテスト・ポストテストの導入と学習評価の検討	共著	2018年3月	名城大学教育年報(第12号)
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
乗鞍岳におけるイタドリ類の分布調査と利用価値		2013年3月	日本薬学会第133年会
遺伝子解析実験による教育効果—ALDH2 遺伝子解析への学生の興味と理解度—		2014年3月	日本薬学会第134年会
レンギョウ茶エキスのマウス単回および反復経口投与毒性試験		2015年3月	日本薬学会第135年会
初年次薬学入門実習がその後の学業成績に及ぼす影響についての基礎検討		2016年3月	日本薬学会第136年会
初年次教育における実習の不満足度と学業成績との関連、学生カルテによる「学びのコミュニティ」構築の一環として		2017年3月	日本薬学会第137年会
初年次教育における実習の不満足度と学業成績との関連その2—学生カルテによる「学びのコミュニティ」構築の一環として		2018年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
1985年8月～2018年8月	乗鞍スカイライン沿線植物群落変遷学術調査		
2008年3月～2019年1月	NPO 法人東海自然学園東海シニア自然大学講師		
2013年3月17日	愛知県薬剤師会薬草園検討特別委員会講演会講師		
2014年7月24日	知立市生涯教育講座「女性学級」講師		
2015年11月21日	西尾市立幡豆図書館講演会講師		
2017年1月22日	西尾市立幡豆図書館講演会講師		
2017年7月14日	一宮市経済振興課消費生活講座講師		
2018年2月21日	日進市・名城大学連携講座「くすりと薬剤師」講師		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬効解析学研究室	職名	准教授	氏名	小島 良二
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
講義用スライド内容の工夫				2013年9月～		講義用スライドのプリントを配布し、学生の理解を助けるため、図(薬物構造式も含めて)を汎用した講義用スライドの作成。臨床現場で頻用される薬物(国家試験頻出)を中心に講義。さらに、疾患の病態(薬理・病態Vから)を教授。加えて、4年生での「薬物治療学」への学問的連携を考慮し、薬物の「副作用」並びに「臨床適応」についても講義。(「薬の効き方2」「薬理・病態V」「薬理・病態V演習」「応用演習23」)	
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
出前講義 講義タイトル:「薬と遺伝子」				2018年11月5日		2012年10月に愛知県立豊田東高校で「薬と遺伝子」というタイトルで出前講義を行い、2018年11月に愛知県立岡崎西高校において、同様なタイトルで、薬の効果には、人の遺伝子が深く関係していることを講義した	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Effects of a long-term administration of oral anti-diabetic agents on the progression of low dose streptozotocin-induced slowly progressive diabetes mellitus in mice.				共著		2013年2月	Oyo Yakuri / Pharmacometrics, 84,19-27
(論文) Butein suppresses ICAM-1 expression through the inhibition of I κ B α and c-Jun phosphorylation in TNF- α - and PMA-treated HUVECs.				共著		2015年2月	Int. Immunopharmacol., 24, 267-275

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
A role of Osp94, a hypertonic stress sensitive molecular chaperone, in microtubule transport and synthesis of tau alternative splicing variants		2018年7月	18 th World Congress Of Basic and Clinical Pharmacology
U1 スプライソソームにおけるタウ遺伝子選択的スプライシングバリエーションと Protein phosphatase 6 結合分子 AGN-1 の局在		2018年11月	第41回日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2005年4月～現在	日本薬理学会 (1983年～) 評議員		
1995年4月～現在	日本腎臓学会		
1995年4月～現在	日本分子生物学会		
1996年4月～現在	日本生物物理学会		
2013年4月～現在	日本薬学会		
2014年7月	論文査読 (Reviewers), Journal of Pharmacological Science		
2018年1月	論文査読 (Reviewers), Cellular Physiology and Biochemistry		
2018年9月	論文査読 (Reviewers), International Immunopharmacology		
2018年9月	論文査読 (Reviewers), International Immunopharmacology		
2018年10月	論文査読 (Reviewers), International Immunopharmacology		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	微生物学研究室	職名	准教授	氏名	打矢 恵一
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成			2013年10月～	教科書の内容および最新の更新情報を簡潔にまとめたパワーポイントファイルを学内公開サーバー (WebClass) にアップロードし、講義の予習・復習に活用した。(感染予防学)			
講義内容の改善			2014年4月～	グループディスカッションを行ったり、毎時間の最後にレポート課題を課すことによって、授業に対する学生の集中力の向上を図った。(救命救急・院内感染予防学)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
新しい微生物学 第5版 (廣川書店)			2016年3月1日	「免疫学領域 (p323-392)」を共同執筆			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称		
(論文) Comparative genome analysis of <i>Mycobacterium avium</i> revealed genetic diversity in strains that cause pulmonary and disseminated disease.			共著	2013年3月	PLoS One 8: e71831		
(論文) Characterization of a Novel Plasmid, pMAH135, from <i>Mycobacterium avium</i> subsp. <i>hominissuis</i> .			共著	2015年2月	PLoS One 10: e0117797		
(論文) Association between a pMAH135 plasmid and the progression of pulmonary disease caused by <i>Mycobacterium avium</i> .			共著	2016年1月	Kekkaku 91: 9-15		
(論文) Comparative genome analyses of <i>Mycobacterium avium</i> reveal genomic features of its subspecies and strains that cause progression of pulmonary disease.			共著	2017年1月	Sci. Rep. 7: 39750		
(論文) Antibiotic susceptibility and genotyping of <i>Mycobacterium avium</i> strains that cause pulmonary and disseminated infection.			共著	2018年2月	Antimicrob. Agents Chemother. 64: e02035-17		

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ゲノム解析による <i>Mycobacterium avium</i> 症の病態の検討		2018年6月	第93回日本結核病学会総会
<i>Mycobacterium avium</i> の感染様式の違いによる遺伝学的特徴と薬剤感受性との関連性		2018年6月	第93回日本結核病学会総会
非結核性抗酸菌の同定における質量分析法による精度評価		2018年6月	第93回日本結核病学会総会
沖縄産ハブ毒より酸性血液凝固因子の精製とその性質		2018年6月	第64回薬学会東海支部総会・大会
沖縄産ハブ毒より塩基性抗血液凝固因子の精製とその性質		2018年6月	第64回薬学会東海支部総会・大会
我が国における <i>Mycobacterium avium</i> の遺伝学的特徴		2018年10月	第55回日本細菌学会中部支部総会
III 学会および社会における主な活動			
2006年10月～現在	日本細菌学会中部支部 評議員		
2017年3月～現在	東海3県病薬-薬学部連携会議 委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	微生物学研究室	職名	准教授	氏名	小森 由美子
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
感染予防学（3年生）および臨床微生物学 2017年度～薬理・病態VI）の講義における「学生の予習と復習」を促す工夫				2014年4月～		学内 Web システム WebClass を利用して講義プリントと資料配布を行い、予習を促すとともに、講義に関連した国家試験問題集を作成して配布し、講義後の復習・理解度確認に利用するよう促した	
振り返り演習科目における学生の学習支援				2014年9月～		練習問題の解説を WebClass で随時確認しながら復習ができるようにした	
2 作成した教科書、教材、参考書							
新しい微生物学 第5版 臨床と微生物, Vol. 42				2016年3月1日 2018年3月25日		「生物学的製剤」38頁分を担当執筆 「医療関係者のための予防接種記録の管理」を担当執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
第1回日本薬学教育学会大会における発表				2016年8月28日		アクティブラーニングを取入れた1年生早期体験学習の実施の生化について発表	
第60回日本感染症学会中日本地方会学術集会における発表				2017年10月26日		大学4年生に対する予防接種教育の効果について発表	
第21回日本ワクチン学会学術集会における発表				2017年12月3日		大学1年生に対する予防接種教育の効果について発表	
日本薬学会第137年会における発表				2017年3月25日		薬学教育コアカリキュラム改訂に基づく1年次早期体験学習の再編と評価について発表	
第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会における発表				2018年11月17日		大学4年生に対するB型ワクチン接種教育の効果について発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
学生の実務実習および早期体験学習にむけての抗体価検査および予防接種指導システムの構築				2009年4月～		1、4、5年生（2017年度～1、3、4年生）に対する学内での予防接種指導と記録管理の手法について検討し、感染症対策委員会の立ち上げとシステム構築を行った。	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（著書） 毒ヘビのやさしいサイエンス－咬まれるとアブナイ話－				共著		2014年6月	化学同人
（論文） Okinalysin, a Novel P-I Metalloproteinase from <i>Ovophis okinavensis</i> : Biological Properties and Effect on Vascular Endothelial Cells.				共著		2014年8月	Toxins, 6:2594-2604

(論文) Characterization of elastolytic protease, Asnase from <i>Aspergillus nidulans</i> and its cytotoxicity on human endothelial and epithelial cells.	共著	2016年5月	International Journal of Biochemistry Research & Review, 12:1-8
(論文) Comparative Study of Biological Activities of Venom from Colubrid Snakes <i>Rhabdophis tigrinus</i> (Yamakagashi) and <i>Rhabdophis lateralis</i> .	共著	2017年11月	Toxins, 9:373-382
(論文) 介護施設における手指衛生向上にむけた取り組み	共著	2018年3月	名城大学総合研究所総合学術研究論文集 17: 51~56
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
沖縄産ハブ毒より酸性血液凝固因子の精製とその性質		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
沖縄産ハブ毒より塩基性抗血液凝固因子の精製とその性質		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
ヤマカガシ毒のヒトプロトロンビン活性化作用		2018年7月	第40回日本中毒学会学術集会
<i>Aspergillus kawachii</i> の産生する新規エラスターゼインヒビターの性質		2018年9月	第62回日本医真菌学会学術集会
合成エラスターゼ阻害物質 (S-AFUEI) のヒト細胞傷害阻害活性に関する研究		2018年9月	第62回日本医真菌学会学術集会
酸素ラジカルで処理した滅菌水を用いた緑膿菌の不活性化		2018年9月	第79回日本応用物理学会秋季学術講演会
Inactivation of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> using DDW treated with oxygen radicals		2018年11月	40th International Symposium on Dry Process
酸素ラジカルで処理した滅菌水を用いた浮遊細菌とバイオフィーム形成細菌の不活性化		2018年11月	第6回応用物理学会名古屋大学スチューデントチャプター東海地区学術講演会
Inactivation of biofilm-forming <i>Pseudomonas aeruginosa</i> using oxygen-radical-treated water with ultrasonic vibration		2018年12月	第28回 Materials Research Society 年次大会
III 学会および社会における主な活動			
2007年4月～現在	薬学教育協議会科目担当教員会議 委員 (微生物学)		
2007年4月～現在	日本細菌学会中部支部 評議員		
2014年4月～現在	日本医療薬学会論文審査員		
2014年4月～2017年3月	AMED「新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業」に参加し、ヤマカガシ咬傷に対する新たな抗毒素開発に携わった		
2014年7月	市民を対象とした「感染症予防」に関する講座を稲沢市、刈谷市で3回実施		
2017年10月	市民を対象とした「身近な毒物」に関する講座を尾張旭市において実施		
2018年12月～現在	英文誌 Toxins Reviewer		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

9 専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名 名城大学	講座名	生物物理化学 研究室	職名 准教授	氏名	栗本 英治
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫					
講義資料 (PDF)の作成		2015年9月～	講義の内容を簡潔にまとめた PDF ファイルを学内サーバー (ポートフォリオ) にアップロードし、講義の復習に活用した。(物理化学 I)		
2 作成した教科書、教材、参考書					
薬学生のための基礎物理 (廣川書店)		2016年4月	「第一章 カとエネルギー」を執筆		
レファレンス物理化学 (廣川書店)		2017年4月	「第三章 物質の変化」を共同執筆		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
学生による自主的勉強会立ち上げへの協力		2013年9月	学生による専門分野横断的な勉強会を行う「有志の会」の立ち上げおよび開催に協力した。参加学生は、名古屋大学医学部大学院、生理学研究所大学院等に進学している。		
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称	
(論文) Mode of substrate recognition by the Josephin domain of ataxin-3, which has an endo-type deubiquitinase activity		共著	2014年11月	FEBS Lett. Vol.588	
(論文) pH-Dependent Assembly and Segregation of the Coiled-Coil Segments of Yeast Putative Cargo Receptors Emp46p and Emp47p		共著	2015年10月	PLOS ONE DOI:10.1371/journal.pone.0140287	
(著書) レファレンス物理化学		共著	2017年4月	廣川書店	
(論文) Crystal structure of human proteasome assembly chaperone PAC4 involved in proteasome formation		共著	2017年5月	Protein Sci., 26, 1080-1085	
(論文) The assembling mechanism of coiled-coil domains of the yeast cargo receptors Emp46p/47p and the mutational alteration of pH-dependency of complex formation		共著	2018年5月	J. Biochem., 163, 441-446	
2 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
ヒト 20S プロテアソームのリング構造をベースとしたタンパク質の集積化とその応用			2018年6月	第 64 回日本薬学会東海支部大会	

III 学会および社会における主な活動	
1985年～現在	日本生物物理学会会員
2011年～現在	日本薬学会会員
2015年7月	名城大学薬学部出前講義（名古屋市立緑高等学校）：タンパク質のかたちと薬の作られ方
2016年7月	名城大学薬学部出前講義（名古屋市立向陽高等学校）：タンパク質のかたちと薬学への応用

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	病院薬学研究室	職名	准教授	氏名	半谷 眞七子
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
授業内容の改善				2013年9月～		講義の2/3は、アクティブラーニング、学生同士のロールプレイ等、学生が体験して学習する方法、また主体的に学ぶことができるように工夫した。また、学生には体験した中で起こった事実の「振り返り」を記述させ、学生自ら学習できるように工夫している。この振り返り用紙は毎回回収し、その内容を教員が毎回確認することにより、翌週の講義の時に「不足している項目」に関して、再度学生に重要点を促した。(臨床コミュニケーション、コミュニケーション基礎)	
2 作成した教科書、教材、参考書							
パワーポイント講義資料の作成				2013年9月～2018年5月		講義毎に講義内容の要点をまとめたプリント教材を活用した。プリント教材には教科書の重要な部分を抽出し、引用ページを掲載することによって、復習しやすいように工夫した。また、学習した範囲のCBT、国家試験問題なども掲載し、学生が学習した内容を把握しやすいように工夫した。また教材として、映画や「健康と病いの語りディパックス・ジャパン」などを導入することによって、学生から、「患者や医療現場をのイメージができた」という意見が多く聞かれた。(臨床コミュニケーション、コミュニケーション基礎)	
ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション				2014年4月5日		言語・非言語コミュニケーション」「患者情報を得るためのコミュニケーション(OTC)」「患者理解-がん患者」を執筆	
名城大学 IPE https://yyipe.meijo-u.ac.jp/ 基礎から学ぶ！行動科学理論とその技法				2015年6月1日 2018年4月18日		多職種連携を学ぶ HP 教材を構築 「アサーション」を執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
薬学教育の中での質的研究－学生の気づきを促す教育の構築のための研究とは－				2016年8月28日		第1回日本薬学会年会	
Web キャンパスでの共同学習システムを取り入れた IPE プログラムが学生に与えた影響				2017年8月18日		第49回日本医学教育学会大会	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会の主催				2018年10月13日		5 大学合同でプラットフォームの教育システム構築のために「医療・教育・福祉における人材育成と多職種連携教育の役割」のテーマで開催した。	

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文）Development of reflective thinking in pharmacy students to improve their communication with patients through a process of role playing, video reviews, and transcript creation	共著	2013年11月	Currents in Pharmacy Teaching and Learning 11月10日（電子版）
（論文）がん患者の薬剤師及び薬物療法に関するニーズを調査する質的研究	共著	2015年12月	YAKUGAKU ZASSHI,135:1387-1395
（論文）Effects of communication skill training (CST) based on SPIKES for insurance-covered pharmacy pharmacists to interact with simulated cancer patients.	共著	2017年4月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 3 : 11 DOI10.1186/S40780-017-0080-0 医療薬学.44:74-82
（論文）妊娠・授乳中の患者の解釈モデルを考慮した服薬説明を支援する薬剤師のコミュニケーションスキルトレーニングの効果の検討	共著	2018年2月	医療薬学, in press
（論文）他職種からみた薬剤師の在宅医療での多職種連携の現状に関する質的研究	共著	2018年12月	医療薬学, in press
2 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名	
SPs portraying Standardized Visiting Nurses to train Nurse managers in community	2018年6月		2018ASPE (Association of Standardized Patient Educators) Annual Conference
他職種から見た薬剤師の在宅医療の現状に関する質的研究	2018年6月		医療薬学フォーラム2018、第26回クリニカルファーマシーシンポジウム
A Survey using Qualitative Research of Pharmacists' Awareness toward Communication with Dementia Patients at Community Pharmacies in Japan	2018年7月		2018The International Social Pharmacy Workshop (ISPW)
模擬患者（SP）の役割拡大の可能性：家族や医療系専門職を演じたSPの意見から	2018年8月		第50回医学教育学会
薬剤師と注意欠陥/多動性障害（ADHD）との関わり	2018年9月		第2回日本精神薬学会総会・学術集会
保険薬局薬剤師が、抗ヒスタミン薬服用患者のインペアード・パフォーマンスの有害事象を防ぐことができるか！	2018年11月		第12回日本薬局学会学術総会
III 学会および社会における主な活動			
1996年4月～現在	日本医療薬学会会員		
2003年4月～現在	日本ファーマシューティカル・コミュニケーション学会理事		
2003年4月～現在	日本医学教育学会会員審査員		
2018年4月～現在	日本医学教育学会認定医学教育専門家		
2010年4月～現在	日本臨床コーチング研究会幹事、認定コーチ		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	天然物化学研究室	職名	准教授	氏名	高谷 芳明
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
講義ポイント資料および提示用資料の作成および開示			2012年4月～	教科書の要点を中心に、学生が最低限理解してほしい内容をまとめた資料を作成し、配布した。またスクリーンに講義内容を板書するのと同じように段階的に提示することにより、学生が理解しやすいような工夫をした。さらに、それら配付資料ならびに提示資料をWebClassにアップし、講義の予習・復習に活用できるようにした(有機薬化学Ⅱ)。			
興味を持てる講義内容の構成			2015年4月～	教養科目「物質の成り立ち」(人間学部、経営・経済学部独立開講)で、高校時代から化学をはじめとする理科科目を履修してこなかった学生、あるいは理科科目を不得意とする学生を対象として化学の講義をするにあたり、普段、日常生活で当たり前になっていること、あるいは気づかずにいることを化学的に解説することにより、化学に対し親近感を感じてもらえるようにした。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
薬学共用試験			2011年12月～ 2014年9月	CBT モニター(名古屋市立大学薬学部)を担当			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
(論文) <i>cis-trans</i> Interconversion of rosmarinic acid.			共著	2014年3月	Bull. Res. Inst. Meijo Univ., 2014, 13, 87-92.		
(論文) Alkylbenzoquinone involved in development of cellular slime molds			共著	2014年6月	Org. Lett., 2014, 16, 3660-3663.		
(論文) Two new ergosterol derivatives from the basidiomycete <i>Cortinarius glaucopus</i>			共著	2017年5月	Chem. Biodivers., 2017, 14, e1600421.		

(論文) (-)-Ampelopsin F, dimerstilbene compound from <i>Dryobalanops oblongifolia</i> and antimalarial activity test,	共著	2017年5月	Chem. Nat. Compds., 2017, 53, 559-561.
(論文) Constituents of the rhizomes of <i>Sansevieria cylindrica</i>	共著	2018年9月	Nat. Prod. Commun., 2018, 13, 1129-1132
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Investigation on Biogenesis of Prespore-cell-promoting Factor of Cellular Slime Molds, <i>Dictyostelium discoideum</i>		2018年9月	第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム
Antithrombotic Compound in Strawberry		2018年9月	第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム
Correlation between Antithrombotic Activity and Adenosine Content in Strawberry		2018年9月	第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2000年4月～現在	以下の Journals の reviewer ・ Chemical & Pharmaceutical Bulletin (日本薬学会) ・ Biological & Pharmaceutical Bulletin (日本薬学会) ・ Journal of Agricultural and Food Chemistry (アメリカ化学会) ・ Journal of Natural Products (アメリカ化学会) ・ Chemistry Letters (日本化学会) ・ Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本農芸化学会) ・ Bioorganic and Medicinal Chemistry Letters (Elsevier社) ・ Bioorganic and Medicinal Chemistry (Elsevier社) ・ Tetrahedron (Elsevier社) ・ Tetrahedron Letters (Elsevier社) ・ Phytochemistry Letters (Elsevier社) ・ Natural Product Communications (Natural Product Inc社) ・ Heterocycles (日本複素環化学研究所) ・ Journal of Analytical Methods in Chemistry (Hindawi社)		
2002年4月～現在	新素材探索研究会 幹事		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	生体機能分析学 研究室	職名	氏名	村田 富保
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫					
分子生物学の講義の改善			2013年4月～	分子生物学は、薬学の専門知識を理解するための重要な科目であり、また、薬剤師国家試験の出題内容を含むこともあり、多くの学生の学力向上を目指した教育を心掛けている。また、学生のより積極的な学習意欲を引き出すために、講義内容をまとめたノートの作成を義務づけることで、講義の復習を実施させている。	
学生実習の改善			2013年4月～	分析系基礎実習（2年次前期、必修、1単位）において講義および実習指導を担当している。学生間での理解度にかかなり違いがあるため、理解度の低い学生のレベルアップを行い、学生全体の理解度の向上を図った。特に、実習の実験原理・方法を図式化し、マルチメディアを使用して説明した。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
薬学のための分子生物学（廣川書店）			2015年4月1日	薬学教育のコアカリキュラムに沿った学習内容を考慮しつつ、医療系学部における分子生物学の通年講義用テキストを共同執筆した。	
分析系基礎実習テキストの作成			2013年4月1日	分析系基礎実習は、学部内で最も早くから実施される学生実習であるため、より分かりやすい実習書が必要とされる。そこで、分析系基礎実習に使用する実習書を毎年、改訂し、初心者でも分かりやすい実習書の作成を試みている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
薬学教育コアカリキュラムの改訂に基づく1年次早期体験学習の再構築			2017年3月25日	薬学教育コアカリキュラムの改訂に基づく1年次早期体験学習の再編と評価について、日本薬学会第137年会で報告した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップに参加			2016年12月25日～27日	改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムを見据えながら、主題を「卒業時に求められる資質・能力とその評価を考える」として開催された日本薬学会第2回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップに参加した。	

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文） Involvement of regucalcin gene promoter region-related protein-p117, a transcription factor, in human obesity	共著	2017年4月	Biomedical Reports, 6: 374-378
（論文） Survival of lung cancer patients is prolonged with higher regucalcin gene expression: suppressed proliferation of lung adenocarcinoma A549 cells in vitro	共著	2017年6月	Molecular and Cellular Biochemistry, 430: 37-46
（論文） Regucalcin confers resistance to amyloid- β toxicity in neuronally differentiated PC12 cells.	共著	2018年1月	FEBS Open Bio 8: 349-360
（論文） Exogenous regucalcin suppresses the growth of human liver cancer HepG2 cells in vitro	共著	2018年6月	Oncology Reports, 39: 2924-2930
（論文） Prolonged survival of patients with colorectal cancer is associated with a higher regucalcin gene expression: Overexpression of regucalcin suppresses the growth of human colorectal carcinoma cells in vitro	共著	2018年9月	International Journal of Oncology, 53: 1313-1322.
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ヒト急性前骨髄球性白血病細胞株 HL-60 における Doxorubicin または Cytarabine と(S)-Erypoegin K の併用効果		2017年3月	日本薬学会第137年会
メラノーマ細胞に対するプラズマ照射培養メディウムのアポトーシス誘導活性		2017年3月	日本薬学会第137年会
神経細胞様に分化した PC12 細胞におけるアミロイド β 毒性に対するレギュカルチンの保護効果		2018年3月	日本薬学会第138年会
線維芽細胞 3T3L1 細胞におけるレギュカルチンの脂肪分化促進効果		2018年3月	日本薬学会第138年会
PC12 細胞におけるアミロイド β 誘導性の細胞内ストレスに対する regucalcin の保護作用		2018年11月	第41回日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動			
1990年2月～現在	日本薬学会会員		
1993年5月～現在	日本糖尿病学会会員		
1996年4月～現在	日本生化学会会員		
2001年6月～現在	日本神経化学会会員		
2004年9月～現在	The Society for Neuroscience, Member		
2008年1月～現在	American Diabetes Association, Member		
2010年1月～現在	日本分子生物学会会員		
2018年7月～現在	Editorial board member of "Molecular Medicine Reports", "Biomedical Reports", and "Experimental and Therapeutic Medicine" (Spandidos Publications)		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	英語研究室	職名	准教授	氏名	Mark Rebuck
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫							
オーセンティックイングリッシュを英語の授業に取り入れる工夫				2013年4月～	オーセンティックイングリッシュ(本物の英語)を英語の授業に取り入れ、本物の英語が聞き取れる喜びを学生に知ってもらうとともに、本物の英語の特徴について知ってもらおうという取り組みを継続的に行っている。オーセンティックイングリッシュは難しすぎると思われがちであるが、レベルの低い学生にとっても効果的であることが実証されている。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
Using Texts as Portholes for Topic Exploration				2015年6月20日	The JACET 31 st Chubu Annual Convention, Nanzan University, Japan		
Authentic Resources and Four Other Keys for ESP				2015年10月10日	KOTESOL COEX, Seoul, Korea		
PHARM: A Prescription for Teaching ESP				2015年11月22日	JALT 41st International Conference Shizuoka Convention & Arts Center, Japan		
Does English for liberal education have to mean general education?				2016年2月20日	JACET Chubu Research Presentation. Meijo University, February 20, 2016.		
A lesson and life resource: Ten reasons to download radio podcasts				2016年10月15日	KOTESOL Sookmyung Women's University, Seoul, Korea.		
How to make corrective feedback less futile				2018年10月14日	KOTESOL Sookmyung Women's University, Seoul, Korea.		
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文）Feedback on Feedback: An Analysis of L2 Writers' Evaluations of Proofreaders	単著	2014年5月	<i>NU Ideas</i> , 3(1).
（論文）Why's the wrong textbook open? Exploring and reducing off-task behavior in an English for pharmacy class.	単著	2015年9月	<i>Meijo bulletin of humanities</i> , 51(1), 15-35.
（論文）Making a reading passage just that in an EMP lesson.	単著	2016年8月	In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), <i>Focus on the learner</i> . Tokyo: JALT.
（論文）Appropriate Use of ELT Video? Students; Views of the Use of "Contentious" Video.	単著	2016年9月	<i>Korea TESOL Journal</i> , 12(1), 203-229.
（論文）General English or ESP for Liberal Education? What Students Want and Why.	単著	2017年5月	<i>The Language Teacher</i> , 41(3), 9-16.
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
特になし			
III 学会および社会における主な活動			
特になし			

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	実践薬学I研究室	職名	准教授	氏名	伊東 亜紀雄
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫							
症例に対する臨床に即した薬学的介入に関する教育				2013年4月～		「薬物治療学」ならびに「臨床薬物治療学」において、基礎薬学的な観点ならびに実践的な観点の両面からのアプローチにより適正な薬物療法を支援する手法などを指導している。	
薬剤師に求められる実践的スキルおよび知識の獲得に関する教育				2013年4月～		「実務実習」において、臨床における多様性と柔軟性を鑑みた多角的な考察が行えるような指導を心がけている。また、「実務実習支援システム」を利用することにより、実習に対する種々の情報・問題を獲得することができ、学生の実習の進捗具合を確認している。	
医療者としての医療倫理観の養成に関する教育				2013年4月～		「実務実習事前講義・演習」において、過誤あるいは事故の実例を題材とし、SGDにより原因および対策を多角的な視野で考察させている。	
医療現場での実例をモデルとした課題に対する実践的問題解決型思考能力の向上				2013年4月～		「実務実習事前講義・演習」において、実際の医療現場においても遭遇する問題を解決するスキル・知識を習得させている。	
WebClassを利用した調剤過誤の振り返りならびに原因および対策についての自己分析				2013年4月～		4年次科目「実務実習事前講義・演習」において、医療安全に対する意識付けを行っている。	
PubMedを始めとする論文検索システムを利用した自発的な問題発見能力ならびに解決能力の向上				2013年4月～		4年次科目「文献購読セミナー」において、自発的に論文（根拠）を検索し、内容を理解する能力の獲得の一助になっている。	
薬剤師業務における問題発見能力ならびに科学的考察能力の向上				2013年4月～		6年次科目「卒業研究」において、（卒業）論文の作成に当たり、科学的に考察させている。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
実務実習事前講義・演習テキスト				2013年4月		「実務実習事前講義・演習」において執筆。	
薬学生のための実務実習事前学習テキスト（ネオメディカル）				2013年8月		「実務実習事前講義・演習」において執筆。	
薬学生のための実務実習事前学習テキスト改訂版（ネオメディカル）				2016年3月		「実務実習事前講義・演習」において執筆。	
薬学生のための実務実習事前学習テキスト改訂2版（ネオメディカル）				2018年3月		改訂コアカリに基づき執筆。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							

4 その他教育活動上特記すべき事項			
ヒト型シミュレーターを用いた薬学知識の確認ならびに実践	2015年3月～	【臨床薬物治療学シミュレーターチーム】として担当。	
FD研修会への参加	2015年3月	「薬学教育を効果的・効率的・魅力的にするインストラクショナルデザイン」に参加。	
FD研修会への参加	2015年7月	研究倫理教育講演会「科学研究における健全性の向上について」に参加し。	
WS等研修会への参加	2016年2月	研修会「薬学実務実習に関するガイドラインに準拠した新しい実習評価の検討」に参加。	
FD研修会への参加	2016年8月	「コーチング研修～学生のやる気を引き出し、勇気を与える～」に参加。	
WS等研修会への参加	2017年1月	「第4回医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ～事例で学ぶ臨床研究倫理～」に参加。	
WS等研修会への参加	2017年1月	研修会「東海地区での新しい実務実習実施検討ワークショップ」に参加。	
WS等研修会への参加	2018年1月	研修会「平成31年度から始まる改訂コアカリに準じた薬学実務実習」に参加。	
WS等研修会への参加	2018年10月	研修会「東海地区での新しい実務実習新検討会議」に参加。	
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（著書）薬学生のための実務実習事前学習テキスト	共著	2013年8月	ネオメディカル社
（著書）薬学生のための実務実習事前学習テキスト改訂版	共著	2013年8月	ネオメディカル社
（論文）薬学生と薬剤師の実践力訓練のための患者シミュレーター活用の有用性	共著	2014年	「日本シミュレーション医療教育学会雑誌」（第2巻、p7～13）
（論文）高機能患者シミュレータの薬学教育への応用－交感神経作動薬による循環器系バイタルサインの変動－	共著	2014年	[医療薬学]（第41巻、p98～107）
（論文）Effects of outside air temperature on the preparation of antineoplastic drug solutions in biological safety cabinets.	共著	2015年	「Journal of Oncology Pharmacy Practice」（第21巻4号 p.243～248）
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
トルバプタン導入基準を満たす心不全増悪患者に対し、実際の導入可否を左右する要因の検索		2018年11月	日本医療薬学会年会
Synaptic Vesicle Protein 2A遺伝子多型が与える気質・性格への影響		2018年11月	日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～現在	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会実務部会委員		
2015年4月～現在	薬学教育協議会 病態・薬物治療等教科担当教員		
2015年4月～現在	愛知県薬剤師会学術情報部会部員		
2017年4月～現在	愛知県薬剤師会地域・職域会長協議会（名城大学地区会長）		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	健康・スポーツ 科学研究室	職名	氏名	金子 美由紀
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫					
医療人としてのスキルを身につける			2006年4月～	<p>1 年生前期では体力測定やメディカルチェックを行いこのデータと全国平均などの資料をもとに今の自分を分析してレポート作成をし、筋力や運動の大切さを理解してから、卓球やエアロビクス（ヨガ）などを中心にレクリエーションバレーやバドミントンなど生涯スポーツとして、個人または少人数で行える実技を行っている。</p> <p>1 年生後期では生涯スポーツに加え、バスケットボールやバレーボールなど協調性を重視し、2 年生前期では1 年次に行ったメディカルチェックを行い、1 年前と比較するという振り返りを行うなど工夫している。</p> <p>実技では週 1 回の運動習慣を身につけ、授業がなくなっても続けて行くことを目標としている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書					
特になし					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
三重県体育協会主催の研修で講演			2017年6月11日	三重県スポーツ指導者研修会にて、「性差を考慮した指導」という演題で講演	
愛知教育委員会主催のスポーツ人材育成事業にて高校生（技術指導）と中学生（講演）を指導			2018年12月22日	2020年東京オリンピック・パラリンピックあいち選手強化事業における次世代につなぐスポーツ人材教育事業にて、「“夢”自分のパスウェイを考える！～日の丸を背負うために今やること～」という演題で講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
日本体育協会指導者資格講習会で講師			2018年8月19日	専門実技バレーボール基礎技術担当	
東京オリンピックに向けた研修への参加			2018年9月2日	専門実技バレーボール応用技術担当	
			2018年10月23日～24日	「ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス 2018」に参加	
スポーツ庁委託事業に参加（国際的に行われている女性コーチ育成に関する取り組み）			2018年11月5日～7日	女性アスリート育成・支援プロジェクトの「女性エリートコーチ育成プログラム」研修に参加	
スポーツ庁委託事業に参加（心拍変動性バイオフィードバックおよび神経フィードバックを使用したオリンピックメダリストの実例）			2019年1月5日～7日	女性アスリート育成・支援プロジェクトの「女性エリートコーチ育成プログラム」研修に参加	

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文）運動部所属学生の日常生活行動に対する許容意識	共著	2015年3月	名城大学人文紀要 （50（30）：1-10）
（論文）大学生におけるアーチェリーの試合が選手の筋疲労、免疫機能に及ぼす影響	共著	2015年10月	体力・栄養・免疫雑誌 （25（1）：67-75）
（論文）バレーボールの模擬試合時における平面方向の動きに関する研究	共著	2016年6月	バレーボール研究 （18（1）：32-39）
（論文）柔道選手における稽古が好中球機能の相互関係に及ぼす影響	共著	2016年12月	体力・栄養・免疫雑誌 （25（3）：221-229）
（論文）バレーボール V・プレミア・チャレンジリーグにおける観戦者の特徴	共著	2017年6月	バレーボール研究 （19（1）：20-27）
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
好中球機能と筋疲労との関係：女子バレーボール選手での検討		2018年3月	第23回バレーボール学会
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月～現在	愛知県バレーボール協会 指導普及委員回		
2012年4月～2017年8月	東海バレーボール連盟 競技委員長 常任理事		
2016年4月～2019年3月	日本バレーボール学会理事		
2018年3月17日～18日	第23回バレーボール学会 実行委員長		
2018年8月4日	2018年バレーボールミーティング 実行委員		
2018年8月～現在	スポーツ庁委託 JSC 女性エリートコーチ育成プログラム 採択		
2018年9月～現在	JVA アンダーエイジカテゴリーコーチ		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬品作用学研究室	職名	准教授	氏名	間宮 隆吉
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成				2017年9月～		教科書の内容および最新の更新情報を簡潔にまとめたパワーポイントファイルおよび自己学習用確認問題集を作成し、学内公開サーバー (WebClass) にアップロードし、講義の復習に活用した (薬理・病態3)	
実習資料の作成				2017年4月～		薬理学の基盤項目を中心に学生実習内容を見直し、教育開発センターと共同で実習資料 (パワーポイントファイルおよび冊子) を作成した (生物系応用実習 (薬理学1))	
2 作成した教科書、教材、参考書							
NEO 薬学シリーズ 10 改訂モデル・コアカリキュラム対応 疾患薬理学 (Neo Medical)				2016年2月15日		中枢神経系の疾患の薬、病態、治療 4. 不安神経症の薬、5. 心身症の薬」を執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
「親子で楽しい数理科学教室」の実施 (名城大学薬学部における模擬講義)				2018年6月23日		小中学生の親子を対象に人体モデルを用いた理科教室を開催し、薬学部における教育について講義形式で講演した。	
「薬の正しい飲み方教室」の実施 (名古屋市立八事小学校における出前講義)				2018年9月11日		小学生対象の薬教室に参加志望した学部学生をTAとして、指導補助させた。	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
多職種連携教育講義に参加				2018年10月10日～17日		本学薬学生と名古屋大学医学部、藤田医科大学の学生との連携講義に参加した。	
「ひらめきときめきサイエンス」を実施				2018年8月6日		学部学生を中学生対象の研究実験講座のTAとして、指導補助を担当させた。	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称
(論文) Temporal association of elevated cholecystokinergic tone and adolescent trauma is critical for posttraumatic stress disorder-like behavior in adult mice.				共著		2013年4月	Proc Natl Acad Sci USA. 110(16): 6589-6594.
(論文) Dynorphin A (1-13) alleviated stress-induced behavioral impairments in mice.				共著		2014年8月	Biol Pharm Bull. 37(8): 1269-1273
(論文) Deletion of SHATI/NAT8L decreases the N-acetylaspartate content in the brain and induces behavioral deficits, which can be ameliorated by administering N-acetylaspartate.				共著		2015年11月	Eur Neuropsychopharmacol. 25(11): 2108-2117.
(論文) Dopaminergic abnormalities in				共著		2016年11月	Neuropharmacology.

Hdac6-deficient mice. (論文) Prenatal nicotine exposure decreases the release of dopamine in the medial frontal cortex and induces atomoxetine-responsive neurobehavioral deficits in mice.	共著	2017年6月	110(Pt A): 470-479. Psychopharmacology (Berl). 234: 1853-1869.
2 学会発表 (評価対象年度の抜粋)		発表年・月	学会名
胎生期ニコチン暴露が前頭前皮質領域の長期増強におよぼす影響とガラントミンの作用		2018年6月	第133回日本薬理学会近畿部会
時計遺伝子による不安関連行動の調節機構		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
Repeated psychosocial stresses decreased social behaviors in the adolescence		2018年6月	第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会
Adolescent mouse hippocampal function was impaired by prenatal nicotine exposure		2018年7月	第91回日本薬理学会年会/第18回国際薬理学・臨床薬理学会議(WCP2018)
胎生期ニコチン暴露による前頭皮質領域の長期増強障害とα7ニコチン性アセチルコリン受容体の関与		2018年11月	第45回日本脳科学学会
III 学会および社会における主な活動			
2005年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員 (代議員: 2012年9月-2016年9月)		
2010年10月～現在	日本神経精神薬理学会 学術評議員		
2013年4月～現在	地域医療機能推進機構中京病院 治験審査委員会 委員		
2013年4月～現在	地域医療機能推進機構中京病院 倫理委員会 委員		
2014年3月	第23回若手神経薬理研究者の集い シンポジウム企画委員		
2015年2月～2016年2月	日本薬学会 代議員		
2018年10月	第34回日本ストレス学会学術総会 事務局長		
2019年2月～現在	日本薬学会 代議員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	環境科学研究室	職名	准教授	氏名	今西 進
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫							
実習内容の改善				2016年10月～		先端的な分析手法のひとつとして、実験実習へ GC-MS を導入した。	
アクティブラーニングへの取り組み				2017年10月～		学生の発表をもとに、インタラクティブな講義を行っている。また、毎回講義の最後に確認テストを行い、スマートフォンを通して解答させ、学生の学習意欲向上に取り組んでいる（環境科学）。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
薬学部環境分析実習における GC/MS の導入				2017年3月		分析系応用実習(環境科学)に GC/MS による残留農薬分析を導入した事例について日本薬学会第 137 年会で報告	
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会等への参加				2017年1月		「第 60 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」に参加	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
(論文) Vimentin-ERK signaling uncouples Slug gene regulatory function				共著		2015年4月	Cancer Research 75, 2349-2362
(論文) Label-free quantitative phosphoproteomics with novel pairwise abundance normalization reveals synergistic RAS and CIP2A signaling				共著		2015年8月	Scientific Reports 5, 13099
(論文) A new vertebrate SUMO enzyme family reveals insights into SUMO-chain assembly				共著		2015年11月	Nature Structural & Molecular Biology 22, 968-975
(論文) Application of MALDI Biotyper to cyanobacterial profiling				共著		2017年2月	Rapid Communications in Mass Spectrometry 31, 325-332
(論文) SimPhospho: a software tool enabling confident phosphosite assignment				共著		2018年3月	Bioinformatics 34, 2690-2692
2 学会発表（評価対象年度のみ）						発表年・月	学会名
Investigation of an additional protease in B-9 strain collected from freshwater using LC/MS						2018年6月	66th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics

Quantitative proteomics of lethal thrombosis model mice by SWATH analysis	2018年6月	66th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics
SWATH法を用いた統合失調症関連タンパク質の網羅的解析	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
糖尿病マウスの血液中における糖化アルブミン凝集体の検出	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
糖尿病性腎症に関与する走化性因子の探索	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
ラットC6グリオーマの産生するコンドロイチン硫酸/ヒアルロン酸分解酵素の精製	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
ベタインを連続暴露したアルツハイマー型認知症モデルマウスの海馬におけるプロテオーム解析	2018年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
LC-MS/MSを用いた神経伝達物質、TSPOおよび関連薬物の同時定量	2018年9月	第43回日本医用マススペクトル学会年会

III 学会および社会における主な活動

2001年～2004年、 2015年～現在	日本薬学会会員
2006年～現在	アメリカ質量分析学会会員
2006年～2015年	Societas biochemica, biophysica et microbiologica Fenniae 会員
2007年～現在	日本質量分析学会会員
2013年9月	4th biannual FinnProt student's day 講師
2015年～現在	日本プロテオーム学会会員

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	医薬品情報学 研究室	職名	氏名	
名城大学			准教授	田辺 公一	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
スライド資料（ハンドアウト）の作成と公開			2015年4月～	講義で使用するスライドに解説を加えたハンドアウト資料を作成し、ポートフォリオにて学生に公開・配布。（医療法規）	
スライド資料（ハンドアウト）の作成と公開			2018年12月～	講義で使用するスライドに解説を加えたハンドアウト資料を作成し、ポートフォリオにて学生に公開・配布。（医療統計）	
2 作成した教科書、教材、参考書					
薬剤師のためのがん化学療法 カルテの読み方トレーニング（メディカ出版）			2013年2月20日	病院実習等で初めてがん化学療法に触れる薬学生を対象とした、患者情報の集め方と活かし方を解説。	
薬学生・薬剤師のための 薬剤投与に関わる医療機器のいろは（富山大学薬学部 薬学教育医療器材教育用 DVD 作成 WG）			2014年3月31日	初めて病院実習に行く薬学生を対象に、病院から在宅医療まで、使用される医療器材について基本的事項を解説した自己学習用 DVD。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
感染制御領域の臨床研究に役立つ生物統計学の基礎（特別講演）			2015年12月5日	卒業研究で必要となる生物統計学の基礎知識について、どのように学ばせるかを講演（第4回愛知県病院薬剤師会 感染制御研修会）。	
臨床研究のための情報（特別講演）			2017年9月1日	医療現場で医療情報をどのように入手して活用するかを学生に教えるための手法を講演（第3回北陸緩和医療研究会 臨床研究懇話会）。	
事例で学ぶ医療統計（特別講演）			2018年9月25日	生物統計学の基礎知識について、事例を用いて解説・講演（平成30年度尾張中支部薬剤業務研究会）。	
医療従事者のための統計処理（教育講演）			2018年10月13日	医療統計を学生に教授する上で直面する問題を解決するための手法を提案し、解説（第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会）。	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
特になし					

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文） Relationship between carnitine pharmacokinetics and fatigue in patients treated with cisplatin-containing chemotherapy	共著	2017年2月	Oncology Research and Treatment, 40(1-2), p42-45.
（論文） Investigation of blood levels of zinc, vitamin B12 and folate in patients with haematological malignancy	共著	2017年11月	Fujita Medical Journal, 3(4), p76-80.
（論文） Quality of Web Information About Palliative Care on Websites from the United States and Japan: Comparative Evaluation Study	共著	2018年4月	Interactive Journal of Medical Research, 7(1), e7.
（論文） Impact of a Six-Year Project to Enhance the Awareness of Community-based Palliative Care on the Place of Death	共著	2018年10月	Journal of Palliative Medicine, 21(10), p1494-1498.
（論文） Period from Loss of the Ability to Access Toilets Independently to Death in End-Stage Cancer Patients	共著	2018年12月	Journal of Palliative Medicine, 21(12), p1773-1777.
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
緩和ケア病棟から在宅療養移行によって生存期間は短くなるか（最優秀演題）		2018年6月	第23回日本緩和医療学会学術大会
がん患者の自宅死亡率の都道府県別年次変化と社会的指標の相関		2018年6月	医療薬学フォーラム2018
在宅緩和ケアを受けた終末期独居がん患者を自宅で看取るための関連要因探索		2018年6月	医療薬学フォーラム2018
終末期がん患者における在宅療養と病院療養の医療費に関する費用対効果（ポスター優秀賞）		2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
婦人科癌 TC療法におけるカルボプラチン投与量設定における日本人のGFR推算式と副作用に関する調査		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2008年1月～現在	日本医療情報学会 医療情報技師認定試験 問題作成委員		
2012年4月～現在	中部医療情報技師会世話人		
2013年4月～現在	Science Postprint 誌 編集委員		
2013年6月	日本緩和医療薬学会 第7回学術集会 実行委員		
2016年4月～現在	薬学教育協議会 医薬品情報学教科担当教員会議 委員		
2016年4月～現在	薬学教育協議会 薬学と社会教科担当教員会議 委員		
2018年4月～現在	薬学教育協議会 レギュラトリーサイエンス（医薬品評価科学）分野 委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	生理学研究室	職名	准教授	氏名	根岸 隆之
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
予習を前提とした講義進行			2014年4月～	名城大学薬学部教員として担当の「機能形態学Ⅲ」において実践した。機能形態学はやはり暗記に重点がおかれる科目であり、予習をした上で講義を聴く方が理解と記憶の定着の近道であり、各章の講義が始まる前に予習テストを実施し、その点数を評価に加えることで予習に対するモチベーションを維持した。			
自分の背景を生かした学習内容の追加			2014年4月～	名城大学薬学部教員として担当の「機能形態学Ⅲ」において実践した。機能形態学（ヒト）は、実際には系統発生的に考えた方がわかりやすいこともある。自分の背景（獣医学）を生かし、比較動物学的に解剖学を考えさせるようにした。			
見やすい使いやすい講義資料の作成			2014年4月～	名城大学薬学部教員として担当の「機能形態学Ⅲ」、「機能形態学Ⅱ」、その他演習科目等において実践した。教科書以外の図表もふんだんに組み込みカラーで作成した講義資料は（機能形態学Ⅲは全500ページほど）、事前に WebClass に PDF ファイルとして公開した。			
実際の組織標本で機能形態学を理解させる			2015年10月～	名城大学薬学部教員として実施した。卒業試験や国家試験に組織写真で問題が出たときに対応できるか不安、と申し出る学生対象に、人体組織標本を実際に顕微鏡で観察し解説してあげるイベントを行った。			
英語で薬学を学ぶ意義の強調とその応用（基幹科目である機能形態学を英語で復習する）			2016年4月～	名城大学薬学部教員として担当の「薬学英語Ⅰ」において実践した。機能形態学の基礎部分を英語で理解することで復習を兼ねるように講義をした。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
分析系基礎実習（生物系）テキストおよび生物系基礎実習（生理学）テキスト			2013年5月	名城大学薬学部教員として担当の実習「生物系基礎実習」において実践した。実際に実習で使用する顕微鏡の写真を用いて、顕微鏡の仕組みと使用法を記したテキストと標本の解説アトラスを作成した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							

II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文）Dysregulation of MAP kinase signaling pathways including p38MAPK, SAPK/JNK, and ERK1/2 in cultured rat cerebellar astrocytes exposed to diphenylarsinic acid.	共著	2017年4月	Toxicological Sciences. 156: 509-519
（論文）Diphenylarsinic acid induced activation of cultured rat cerebellar astrocytes: phosphorylation of mitogen-activated protein kinases, upregulation of transcription factors, and release of brain-active cytokines.	共著	2016年5月	Toxicological Sciences. 150: 74-83
（論文）Cell-type-specific and differentiation-status-dependent variations in cytotoxicity of tributyltin in cultured rat cerebral neurons and astrocytes.	共著	2015年8月	Journal of Toxicological Sciences. 40: 459-468
（論文）Altered social interactions in male juvenile cynomolgus monkeys prenatally exposed to bisphenol A.	共著	2014年7月	Neurotoxicology and Teratology. 44: 46-52
（論文）Developmental subchronic exposure to diphenylarsinic acid induced increased exploratory behavior, impaired learning behavior, and decreased cerebellar glutathione concentration in rats.	共著	2013年12月	Toxicological Sciences. 136: 478-486
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ジフェニルアルシン酸ばく露によるヒト小脳由来アストロサイトの異常活性化：細胞増殖亢進とMAPキナーゼ活性化		2018年6月	第64回 日本薬学会東海支部大会
アストロサイト系細胞におけるジフェニルアルシン酸によるグルタチオン分泌亢進とその意義		2018年6月	第64回 日本薬学会東海支部大会
PlexinA1 遺伝子欠損マウスにおける統合失調症様行動		2018年6月	第64回 日本薬学会東海支部大会
培養ラット小脳アストロサイトにおけるジフェニルアルシン酸による細胞増殖亢進・細胞死誘導とチオール基含有化合物		2018年7月	第45回 日本毒性学会学術年会
ジフェニルアルシン酸によるヒト小脳由来アストロサイトの活性化と細胞種-毒性相関		2018年7月	第41回 日本神経科学大会
ジフェニルアルシン酸による培養ヒト小脳アストロサイトの異常活性化		2018年11月	第24回 ヒ素シンポジウム
PlexinA1 is crucial for the midline crossing of cingulate axons during the formation of corpus callosum in BALB/c mice		2018年11月	第41回 日本分子生物学会年会
PlexinA1 is crucial for the midline crossing of callosal axons during corpus callosum development in BALB/c mice		2018年11月	Neuroscience 2018
III 学会および社会における主な活動			
2000年4月～現在	日本神経化学会会員		
2012年12月～現在	日本神経科学会会員		
2013年12月～現在	日本毒性学会会員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬剤学研究室	職名	准教授	氏名	加藤 美紀
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫							
講義内容の改善				2013年4月～	講義内容が薬学部のみで講義される内容であり、薬剤師の職務の専門性に関わることであるため、講義中の話題として過去に製薬会社で勤務していた間に経験したエピソードを取り上げ、臨床上の問題例やその解決に必要な知識とその方法論について、学生自らが感じ、考えることができるように導くよう工夫している。講義内容の本質に加え、これからの臨床薬剤師に必要な知識・技能を持たなければならない責任についても教授できるように工夫している。また、グループワークを取り入れることで、学生自らが考え問題を解決できるような環境を提供するよう努めている(薬物動態学1、薬物動態学1演習、応用演習16(薬物動態学1/2))。		
成績評価での取組				2013年4月～	成績評価ではあくまでも定期試験の結果を重視するが、講義内容の習得度を確認するための中間試験の結果も成績評価にフィードバックしている。また、試験終了後に試験問題の解説、模範解答を掲示し、学生が自らの解答の不備や理解が不足している点を把握できるように努めている(薬物動態学1)。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
臨床薬物動態学 2・10・1～2・10・4 および 2・11・2 執筆(京都廣川書店)				2013年5月	一部担当の「薬物治療マネジメント」(専門科目、4年次配当、半期、必修10単位)にて教科書として使用。薬物動態の総論、疾患毎に代表的な医薬品の体内動態に関する各論、薬物投与計画を立案する演習問題の3章から成る教本であり、薬物動態学の基礎から応用まですべてを網羅した内容である。		
薬物動態学 第2版 一部執筆(廣川書店)				2014年2月	担当の「薬物動態学I」(専門科目、2年次配当、半期、必修1.5単位)にて教科書として使用。薬物動態学を簡単にまとめた教本であり、薬物動態学の基礎に重点をおいた形で作成された内容である。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							

4 その他教育活動上特記すべき事項			
日本薬学会第3回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ参加	2017年8月5日～7日	「学修成果基盤型教育」を基盤として、「卒業時における教育の質保証」をメインテーマとしたワークショップに参加した。ディプロマポリシーの設定やその到達の向けての学習環境をデザインすること等についてグループワークをすることで、薬学部卒業時に求められる資質と能力、その評価方法を考えた。現状、取り組むべきこととその問題の解決方法について議論、考察したことをふまえ、少なくとも自分自身の講義や大学での教育活動上に反映するよう努めている。	
名城大学薬学部 FD フォーラム参加	各年度1回	毎年開催される学部内のFDフォーラムには必ず参加し、教育方法等参考になるものや実践できそうなものに関しては、自身の講義、演習で実践するよう心がけている。	
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Effect of carbamazepine on expression of UDP-glucuronosyltransferase 1A6 and 1A7 in rat brain.	共著	2017年12月	Drug Metab Pharmacokinet, 32(6):286-292.
(論文) Effect of status epilepticus on expression of brain UDP-glucuronosyltransferase 1a in rats.	共著	2018年2月	Biopharm Drug Dispos, 39(2):75-82.
(論文) Expression and activities of sulfotransferase in rat brain.	共著	2018年2月	Xenobiotica, 26:1-6.
(論文) Status Epilepticus Decreases Brain Cytochrome P450 2D4 Expression in Rats.	共著	2018年4月	J Pharm Sci, 107(4):975-978.
(論文) Effect of single-walled carbon nanotubes on cytochrome P450 activity in human liver microsomes in vitro.	共著	2018年5月	Biopharm Drug Dispos, 39(5):275-279.
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ハウレンソウ由来健康食品チラコイドが薬物経口投与後の体内動態に及ぼす影響		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
マルチキナーゼ阻害薬のマウスにおける皮膚中および血漿中濃度の比較		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部会
単層カーボンナノチューブがヒト肝UDP-グルクロン酸転移酵素1A4と1A9の酵素活性に及ぼす影響		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部会
Status epilepticus changes brain cytochrome P450 2J3 expression in rats		2018年10月	第33回日本薬物動態学会/第22回MDOシンポジウム合同国際学会
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月～現在	内閣府 食品安全委員会 専門委員		
2018年1月～現在	Xenobiotica Editorial Board		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	薬物動態制御学 研究室	職名	氏名	
名城大学			准教授	奥田 知将	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
講義資料の作成			2013年10月～	教科書・専門書・学术论文・Web 情報などを参考にして PowerPoint で講義用のスライドを作成するとともに、その内容について印刷し、学生に配布した(製剤設計学・基礎薬学英語Ⅱ・薬学英語Ⅱ)。	
小テストの活用			2013年10月～	出席確認を兼ねて、講義開始時に予め指定した範囲の中から英単語の小テストを行った(基礎薬学英語Ⅱ)。	
創造力の育成を指向した演習・試験問題の作成			2013年10月～	定期試験の問題として、指定した種々の課題を有する医薬品候補を実用化するのに最適な DDS 製剤を論理立てて自由に創造させる内容を加えた。また、講義の最終日に演習として前年度の定期試験に出題した上記の問題に取り組みせ、その後に模範解答を基に解説した(製剤設計学)。	
復習問題の活用			2014年10月～	毎回の講義で配布する資料の最後に復習用の○×問題を加えた(製剤設計学)。	
文献講読・学会発表・卒論作成の事前学習としての英語教育			2017年10月～	既報の学术论文を講義資料として論文の構成・表現について解説するとともに、3年前期に行った物理系基礎実習の内容(薬物速度論)について講義中に英語で要旨を作成する課題に取り組みさせた。4年次に行う文献講読セミナーまた学会発表・卒論作成で活きると考えている(薬学英語Ⅱ)。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
物理化学実習書(廣川書店)			2011年2月15日	「薬物速度論」を共同執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
特になし					
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称

(論文) Drug Permeation Characterization of Inhaled Dry Powder Formulations in Air-Liquid Interfaced Cell Layer Using an Improved, Simple Apparatus for Dispersion.	共著	2016年2月	Pharm. Res. 33: 487-497.
(論文) Inhalable Spray-Freeze-Dried Powder with L-Leucine that Delivers Particles Independent of Inspiratory Flow Pattern and Inhalation Device.	共著	2016年4月	Pharm. Res. 33: 922-931.
(論文) Amorphous powders for inhalation drug delivery.	共著	2016年5月	Adv. Drug Deliv. Rev. 100: 102-15
(論文) Powder aerosol delivery through nasal high-flow system: In vitro feasibility and influence of process conditions.	共著	2017年11月	Int. J. Pharm. 533: 187-197.
(論文) Development of spray-freeze-dried siRNA/PEI powder for inhalation with high aerosol performance and strong pulmonary gene silencing activity.	共著	2018年6月	J. Control. Release 279: 99-113

2 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
ナノ粒子搭載型吸入粉末剤の開発を指向したナノ粒子の表面修飾の効果	2018年5月	日本薬剤学会第33年会
自己組織化 siRNA/脂質ナノ粒子を形成する吸入用粉末微粒子を経肺投与した際の siRNA の体内動態/構造安定性及び肺遺伝子発現抑制効果	2018年5月	日本薬剤学会第33年会
機能性パクリタキセルナノ結晶の静脈内投与後の体内動態および安全性評価	2018年6月	第34回日本 DDS 学会 学術集会
低分子量ヒアルロン酸を賦形剤とした粉末剤の in vitro 薬物動態評価	2018年6月	第34回日本 DDS 学会 学術集会
自己組織化ナノ粒子型吸入粉末剤の創製を指向した処方最適化	2018年6月	第34回日本 DDS 学会 学術集会
噴霧急速凍結乾燥法を基盤としたパクリタキセルナノ結晶吸入粉末剤の開発	2018年6月	第34回日本 DDS 学会 学術集会
ナノクリスタル形成に適した薬物/分散補助剤/製造法の包括的検討	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部総会・大会
調製法の異なる pDNA 吸入粉末剤の安定性評価	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部総会・大会
Comprehensive Information for Efficient Development of Nanoparticle-Loaded Dry Powder Inhalation Formulations	2018年7月	2018 CRS Annual Meeting & Exposition
耐吸湿性に優れ吸入時に崩壊・膨潤する吸入粉末剤の粒子設計	2018年10月	第35回製剤と粒子設計シンポジウム

III 学会および社会における主な活動	
2005年10月～現在	日本薬学会 会員
2007年3月～現在	日本薬剤学会 会員
2008年4月～現在	日本 DDS 学会 会員
2008年11月～現在	粉体工学会 会員
2010年4月～2015年3月	日本薬剤学会 英語セミナー西地区委員
2013年7月～2016年12月	J. Pharm. Sci.誌 Scientific Advisor to the Editors
2017年1月～現在	J. Pharm. Sci.誌 Editorial Advisory Board Member
2018年1月～現在	日本薬剤学会 代議員

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	分子設計化学 研究室	職名	氏名	坂井 健男
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫					
ホームページへの授業教材のアップとお勧めの教科書の掲載		2011年7月～	研究室HPに担当講義科目の授業資料やお勧めの参考書を掲載し、能動的学習を促している。		
初回授業における振り返りレポートの導入による低学年科目の復習の促し		2014年4月～	担当する生物有機化学において、前提知識となる低学年時の内容の復習を促すために、振り返りレポートを導入した。		
授業の区切り毎のレポート		2017年9月～	担当する生物有機化学において、章の区切り毎に合計4回レポートを課し、能動的学習を促している。		
演習問題の公開		2018年7月～	生物有機化学演習の演習問題をHPに公開し、能動的学習を促している。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
学生用 NMR 測定・処理マニュアル (^1H , ^{13}C , DEPT, 差 NOE, COSY, HSQC, HMBC)		2011年10月	分析機器の写真付き学生用マニュアル (研究室HPで公開中。NMR 約 100 ページ、MS 約 50 ページ)		
学生用 MS 測定マニュアル (FAB 精密質量分析)		2012年2月			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
授業評価アンケート		2017年2月	生物有機化学の授業アンケートによると、50%強の学生が満足し、40%強が成長を実感できたと感じている。		
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称	
(論文) Synthesis of Functionalized Tetracyanocyclopentadienides from Tetracyanothiophene and Sulfones		共著	2013年10月	<i>J. Org. Chem.</i> 78 , 10978–10985	
(論文) Total Synthesis of Gymnocin-A		共著	2015年11月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> 137 , 14513–14516	
(論文) Acceleration of Acid-Catalyzed Hydrolysis in a Biphasic System by Sodium Tetracyanocyclopentadienides		共著	2016年3月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 64 , 930–934	
(論文) $\text{C}_{\text{Ar}}\text{-O}$ Rotamers in 3,3'-disubstituted BINOL esters		共著	2017年2月	<i>J. Org. Chem.</i> 82 , 3276–3283	
(論文) Methanolysis of the Cyclic Acetal Function of NanoKid Catalyzed by NanoGoblin, the Pyridinium Salt of Tetracyanocyclopentadienide		共著	2017年11月	<i>ACS Omega</i> , 2 , 8543–8549	

2 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
7-endo 環化による <i>syn</i> -2,7-dimethyloxepane 環の構築	2018年6月	第113回有機合成シンポジウム
超不安定求核種による巨大天然物合成から超安定な新規共役塩基の開発と応用まで	2018年6月	招待講演(金沢大学)
<i>N</i> -Cbz アセトアミドカリウム塩による求核置換反応の基質一般性	2018年7月	平成30年度日本薬学会東海支部大会
環化-転位-環化のカスケード反応による含窒素三環性骨格の構築	2018年7月	平成30年度日本薬学会東海支部大会
テトラシアノシクロペンタジエニド塩を用いた第4級アンモニウム塩の抽出	2018年7月	平成30年度日本薬学会東海支部大会
Gymnocin-B の GHIJKL フラグメントの合成研究	2018年7月	平成30年度日本薬学会東海支部大会
Gymnocin-B の A 環部位改良構築法の検討	2018年7月	平成30年度日本薬学会東海支部大会
トリシアノシクロペンタジエニド類の合成と官能基変換	2018年7月	日本プロセス化学会2018 サマーシンポジウム
Gymnocin-B の LMNO フラグメントの合成研究	2018年7月	日本プロセス化学会2018 サマーシンポジウム
3-aza-Cope 転位を組み込んだ連続反応による含窒素3環性骨格構築法の開発	2018年9月	第48回複素環化学討論会
Gymnocin-B の合成研究	2018年9月	第60回天然有機化合物討論会
Synthesis and Application of Functionalized Tetracyanocyclopentadienides (他 発表 合計 7 件)	2018年10月	第8回南京・名古屋・瀋陽薬学シンポジウム
Synthesis and Application of Functionalized Tetracyanocyclopentadienides	2018年11月	ICPAC Langkawi 2018 (Invited Lecture)
機能性多置換シアノシクロペンタジエン類の合成と応用	2018年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム
Gymnocin-B の A 環と側鎖の短工程合成	2019年3月	日本薬学会第139年会
Gymnocin-B の中央フラグメント GHIJKL 環システムの合成研究	2019年3月	日本薬学会第139年会
テトラシアノシクロペンタジエニド塩を用いたアンモニウム塩の抽出	2019年3月	日本薬学会第139年会
環化-転位-環化の三連続カスケードによる Cephalotaxin の合成研究	2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動		
2013年7月	平成25年度有機合成化学協会東海支部奨励賞	
2015年9月	第57回天然有機化合物討論会奨励賞	
2016年7月	平成28年度日本薬学会東海支部学術奨励賞	
2017年4月～現在	日本プロセス化学会東海地区フォーラム幹事	
2018年4月～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム 世話人	
2018年7月～現在	生理活性をあまり意図しない自由な天然物合成勉強会 世話人	
最近6年間	国内学会会長(4件)、国際学術論文の査読(Reviewerとして計45件)	
所属学会	日本薬学会、日本化学会、アメリカ化学会、有機合成化学協会、日本プロセス化学会	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	実践薬学Ⅱ研究室	職名	准教授	氏名	牛田 誠
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成			2018年9月～	セルフメディケーションに関する講義の内容をまとめたパワーポイントファイルを学内公開サーバー (WebClass) にアップロードし、講義の復習に活用した。			
地域医療アドバンス研修 トライアル			2018年9月～	トライアルとして、春日井市民病院、介護施設、訪問診療医同行を1名の学生で行った。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会等への参加			2018年7月14日～15日	「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」にタスクフォースとして参加			
FD 研修会等への参加			2018年10月6日～8日	日本薬学会第4回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ参加			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称		
(著書) 薬剤師による糖尿病対策ガイド			共著	2018年9月	じほう		
2 学会発表 (評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名		
医薬品情報をキーワードとした地域薬業連携 シンポジスト				2018年7月	第21回日本医薬品情報学会		
肥満2型糖尿病患者におけるエンパグリフロジンとGLP-1アナログの体重及び血糖コントロールに対する効果				2018年10月	くすりと糖尿病学会		

III 学会および社会における主な活動	
2010年4月～現在	春日井市民病院院外処方実務委員会 委員
2010年4月～現在	春日井市薬剤師会 副会長
2013年4月～現在	厚生労働省 東海北陸厚生局指導監査課 保険指導薬剤師
2015年4月～現在	春日井市健康施作等推進協議会 委員
2015年4月～現在	春日井市保健計画推進委員会 委員
2015年4月～現在	春日井市地域包括支援センター運営等協議会 委員
2015年4月～現在	公益財団法人春日井市健康管理事業団 評議委員
2015年4月～現在	日本薬剤師会 DI・医療安全・DEM委員会 委員
2018年5月14日	アナフィラキシーショックとエピペン講習会 講師（春日井市立東部中学校）
2018年6月11日	薬物乱用防止教室 講師（春日井市立東部中学校）
2018年12月7日	薬物乱用防止教室 講師（豊橋市立東陽中学校）

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	薬学教育開発センター 学生実習部門	職名	氏名	植田 康次
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
基幹科目における新たな授業方式の導入			2014年4月～	非講義形式授業の一つとして、テーマ分担グループ学習および発表による協働学習を実践（衛生化学Ⅰ）	
学生スタッフ参加による教育効果向上			2014年11月～	研究室配属4年生が3年生実習講義および実習現場スタッフを担当し、教育効果を向上（分析系応用実習・衛生）	
同時インターネット調査を介した討論型学習			2015年7月～	メディア教室において、個別にインターネット調査を行い意見交換および討論（衛生化学Ⅰ）	
大教室でのアクティブ・ブック・ダイアログ			2016年6月～	ジグソー法を応用し、一般書籍を題材にした輪読学習・発表を大教室授業に導入できることを実証（衛生化学Ⅰ）	
衛生関連施設の訪問見学			2016年11月～	大学を含む地区の水道局上下水処理場を訪問見学（分析系応用実習：衛生化学）	
非暗記・思考型試験の試行			2017年7月～	試験への資料持ち込みを認め、短期記憶学習を回避（衛生化学Ⅰ）	
学生実習への最新機器分析法の導入			2017年9月～	農薬を検出同定する実習に質量分析器GC-MSを導入（分析系応用実習・環境）	
学生実習への新規項目の導入			2017年11月～	実習項目に新項目（酸性タール色素およびHMR食品鑑別法）を導入（分析系応用実習・衛生）	
学生間ピア評価の導入			2018年6月～	項目別グループ学習・発表において学生ピア評価を実施、評価方法としての妥当性を検証（衛生化学Ⅰ）	
2 作成した教科書、教材、参考書					
衛生薬学サブノート（衛生化学Ⅰ）			2013年4月1日	講義スライドに対応した書き込み式の授業ノートを作成	
最新公衆衛生学 第6版1刷（廣川書店）			2014年1月30日	公衆衛生学教科書、衛生化学Ⅰ参考書第7章（栄養・食品と健康）内を分担	
1年生入門実験分析系テキスト			2016年5月1日	従来の講義テキストを大幅改訂	
最新公衆衛生学 第6版3刷（廣川書店）			2018年3月1日	分担：第7章（栄養・食品と健康）前半	
実習動画コンテンツ（分析系基礎実習：分析化学）			2018年4月5日	実験操作の学外視聴による学習補助	
実習テキストの電子化および改訂（分析系基礎実習：分析化学）			2018年4月10日	紙媒体で改訂印刷していた実習テキスト原稿を電子化・改訂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
学習意欲向上のための非講義形式授業			2018年3月28日	衛生化学Ⅰにおいて非講義形式のアクティブラーニングを導入した事例について日本薬学会第138年会で報告（発表者）	

初年次薬学入門実験を活用した学力不振学生の早期探索	2018年6月30日	1年次のアンケート回答とその後の学業成績との対応について第64回日本薬学会東海支部総会・大会で報告(共同発表者)	
学習到達度評価における主観と客観の乖離	2019年3月23日	2年次学生実習(分析系基礎・分析化学)での自己評価アンケートと試験正答率との比較調査について日本薬学会第138年会で報告(発表者)	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬剤師国家試験・CBT 対策委員	2008年4月～2017年3月	衛生系とりまとめ係	
薬学共用試験(CBT 実施委員)	2012年4月～2015年3月	2014年12月18日 CBT モニター(愛知学院大学)、2014年度本学システム責任者	
名城大学―東邦高校連携講座	2016年7月16日	「自ら学び自ら考える学習から導出させる科学的思考力の獲得を目指して―放射線を理解する実験を題材として―」	
体験実験企画委員	2015年4月～	高校生を対象に研究室と連携して毎年7月に体験実験講習会を開催	
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Effects of organic and inorganic mercury(II) on gene expression via DNA conformational changes.	共著	2014年10月	日本毒性学会 Fundam. Toxicol. Sci. 1: 73-79
(論文) Thiol-mediated multiple mechanisms centered on selenodiglutathione determine selenium cytotoxicity against MCF-7 cancer cells	共著	2015年3月	Society of inorganic biological chemistry J. Inorg. Chem. 20: 687-694
(論文) Selenium uptake through cystine transporter mediated by glutathione conjugation	共著	2017年2月	日本毒性学会 J. Toxicol. Sci. 42: 85-91
(論文) 薬学部基幹科目衛生化学 I におけるアクティブラーニングの試み(教育実践報告)	共著	2017年3月	名城大学教育年報 11: 7-13
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Glutathione-mediated cellular uptake of Se		2018年10月	The 7th International Selenium Conference (大津市)
III 学会および社会における主な活動			
2017年4月～現在	日本薬学会 環境衛生部会 関連法規情報委員会 委員		
2009年4月～現在	日本毒性学会 The Journal of Toxicological Sciences 査読委員		
2009年4月～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会 衛生分野担当委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	実践薬学 I 研究室	職名	助教	氏名	守屋 友加
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
講義・演習内容の改善・充実			2013年9月～	症例を提示することで、学生には実臨床に近い状況下を想定し調剤業務の基礎を学習・演習できるようにした。(実務実習事前講義・演習)			
演習内容の改善			2014年4月～	抗凝固薬について、その特徴についてまとめるとともに症例に対する治療法について考えさせた。さらに、自己のINRを測定する演習をすることで、その評価方法についても考えさせた。(臨床薬物治療学)			
授業内容の充実・改善			2015年9月～	症例を提示し、その症例の疑問に対する回答にかかわる論文の検索ならびに内容の解釈ができるようにすることで、5年次以降に役立つようにした。(文献購読セミナー)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会等へタスクフォースとして参加			2013年7月14日～15日 2015年1月11日～12日	「第43回、第52回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
(論文) 薬学生と薬剤師の実践力訓練のための患者シミュレータ活用の有用性			共著	2014年1月	日本シミュレーション医療教育学会雑誌		
(論文) 自閉症スペクトラム障害に対するSynaptic Vesicle Protein 2Aの影響に関する基礎的研究			共著	2016年4月	名城大学総合研究所紀要第21号.		

2 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
Synaptic Vesicle Protein 2A 遺伝子多型が与える気質・性格への影響	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動		
2001年～現在	日本臨床薬理学会 会員	
2002年～現在	日本薬剤学会 会員	
2002年～現在	日本医療薬学会 会員	
2004年～現在	日本薬学会 会員	
2012年～現在	日本緩和医療学会 会員	
2013年4月～現在	日本医療薬学会 指導薬剤師	
2013年4月～現在	日本医療薬学会 認定薬剤師	
2014年4月～現在	病院・薬局実務実習東海地区調整機構 委員	
2015年4月～2017年3月	病院・薬局実務実習東海地区調整機構 事務局 (ワークショップ担当)	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	衛生化学研究室	職名	助教	氏名	岡本 誉士典
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
クlickカーシステムを導入した能動的学習授業の取り組み			2010年4月～	授業冒頭に前回の復習問題を、授業の最後に当日の確認問題を解いてもらい、到達度と課題を学生個人に提示することによって、能動的学習の切っ掛けとしている。(公衆衛生学)			
チーム基盤型学習 (TBL) を導入したアクティブラーニング実践への取り組み			2016年4月～	公衆衛生学は単に覚えれば解決する科目ではなく、基礎科目で学んだ知識を動員して取り組む専門科目であることから、TBLの導入により学習効果の向上が期待できる。(公衆衛生学)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
健康と環境の科学 (講談社) 最新公衆衛生学 (廣川書店) 新食品・栄養科学シリーズ食べ物と健康 5「新版・食品衛生学」(化学同人)			2014年3月28日 2015年1月30日 2017年9月15日	「土と土壌汚染、地盤沈下」を執筆 「栄養・食品と健康」を共同執筆 「動物性自然毒食中毒：魚介類の毒」および「食品の器具・容器包装、異物、衛生動物」を執筆			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称		
(論文) Oral administration of Brazilian propolis exerts estrogenic effect in ovariectomized rats.			共著	2015年4月	J. Toxicol. Sci. 40: 235-242		
(論文) Thiol-mediated multiple mechanisms centered on selenodiglutathione determine selenium cytotoxicity against MCF-7 cancer cells.			共著	2015年6月	J. Biol. Inorg. Chem. 20: 687-694		
(論文) DNA methylation dynamics in mouse preimplantation embryos revealed by mass spectrometry.			共著	2016年1月	Sci. Rep. 6: 19134		
(論文) Selenium uptake through cystine transporter mediated by glutathione conjugation.			共著	2017年2月	J. Toxicol. Sci. 42: 85-91		
(論文) Metabolomic analysis uncovered an association of serum phospholipid levels with estrogen-induced mammary tumors in female ACI/Seg rats.			共著	2018年5月	Toxicol. Lett. 288: 65-70		

2 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
アミノ酸系人工甘味料によるヒト神経様細胞障害性および活性酸素生成の関与	2018年5月	第71回日本酸化ストレス学会学術集会
Serum metabolomic analysis for understanding mammary tumorigenic mechanisms induced by long-term estrogen treatment in female ACI/Seg rats.	2018年6月	The 8th International Congress of Asian Society of Toxicology
ノンターゲットメタボローム分析による乳がん関連代謝物の検索	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部総会・大会
Growth-stimulating mechanisms induced by serum lysophosphatidylcholines in human breast cancer MDA-MB-231 cells.	2018年7月	第45回日本毒性学会学術年会
メタボロミクス解析により明らかになったマンガン曝露依存的なヒトアストロサイトのアミノ酸代謝異常	2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動		
【学会活動】		
2007年1月～現在	アメリカ癌学会会員	
2008年3月～現在	日本薬学会会員	
2009年8月～現在	日本環境変異原学会会員	
2010年1月～現在	日本毒性学会会員	
2011年6月～現在	日本酸化ストレス学会会員	
2013年4月～現在	日本癌学会会員	
【社会活動】		
2010年1月～現在	日本毒性学会 J. Toxicol. Sci. 誌 編集委員	
2012年10月	フォーラム 2012 衛生薬学・環境トキシコロジー・事務局長	
2014年7月～現在	日本毒性学会 Fundam. Toxicol. Sci. 誌 編集委員	
2016年4月～2018年3月	日本薬学会ファルマシア誌トピックス小委員会 編集委員	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績			
大学名	名城大学	講座名	病態生化学研究室
職名	助教	氏名	水本 秀二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫			
興味を引く講義のための工夫		2015年4月～	各講義内容に関するノーベル医学生理学賞あるいは化学賞の受賞者の紹介を行うことにより、学生の興味を高めるよう務めている。
参加型授業ツール「クリッカー」の利用		2018年10月～	受講者の学習意欲を高め、理解度の向上を図るため、クリッカーを利用して講義を行っている。これにより、双方向性の効果的な講義が行えている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
認定実務実習指導薬剤師ワークショップへの参加		2015年1月11日～12日	第52回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海) 修了
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Identification of biallelic <i>EXTL3</i> mutations in a novel type of spondylo-epi-metaphyseal dysplasia	共著	2017年8月	Journal of Human Genetics 62: 797-801
(論文) Defect in dermatan sulfate in urine of patients with Ehlers-Danlos syndrome caused by a <i>CHST14/D4ST1</i> deficiency	共著	2017年8月	Clinical Biochemistry 50: 670-677
(論文) Roles of two types of heparan sulfate clusters in Wnt distribution and signaling in <i>Xenopus</i>	共著	2017年12月	Nature Communications 8: 1973
(論文) Vascular abnormalities in the placenta of <i>Chst14</i> ^{-/-} fetuses: implications in the pathophysiology of perinatal lethality of the murine model and vascular lesions in human <i>CHST14/D4ST1</i> deficiency	共著	2018年2月	Glycobiology 28: 80-89
(論文) Impaired proteoglycan glycosylation, elevated TGF- β signaling, and abnormal osteoblast differentiation as the basis for bone fragility in a mouse model for geroderma osteodysplastica	共著	2018年5月	PLoS Genetics 14: e1007242

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
へパラン硫酸生合成酵素である EXTL3 の変異は免疫異常を伴う新たなタイプの脊椎骨端骨幹端異形成症を引き起こす		2018年5月	日本生化学会中部支部 第82回例会・シンポジウム
A novel type of spondylo-epi-metaphyseal dysplasia with immuno-deficiency caused by mutation in EXTL3 encoding a glycosyltransferase responsible for biosynthesis of heparan sulfate		2018年6月	The 11th International Symposium on Glycosyltransferase
平成30年度日本薬学会東海支部学術奨励賞受賞講演 「グリコサミノグリカンの生合成異常による骨・皮膚疾患の糖鎖解析と癌転移における役割」		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
免疫異常を伴う脊椎骨端骨幹端異形成症はへパラン硫酸の生合成を担う EXTL3 の変異により引き起こされる		2018年8月	第37回日本糖質学会年会
へパラン硫酸の生合成を担う EXTL3 の変異は免疫不全を伴う脊椎骨端骨幹端異形成症を引き起こす		2018年9月	糖鎖科学中部拠点 第15回若手の力 フォーラム
A mouse model for geroderma osteodysplastica, Gorab-null mice, shows a reduction in glycosaminoglycans		2018年9月	第91回日本生化学会大会
Musculocontractural Ehlers-Danlos syndrome caused by a CHST14 deficiency results in defect in urinary dermatan sulfate		2018年9月	The International Symposium on the Ehlers-Danlos Syndromes, Ghent, Belgium
骨・関節疾患におけるコンドロイチン硫酸/デルマトン硫酸の役割		2018年11月	日本薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2018
III 学会および社会における主な活動			
2001年7月～現在	Forum: Carbohydrate Coming of Age 会員		
2001年7月～現在	日本糖質学会会員		
2001年8月～現在	日本生化学会会員		
2002年1月～現在	日本薬学会会員		
2004年10月～現在	日本分子生物学学会会員		
2009年7月～2013年12月	Trends in Glycoscience and Glycotechnology 編集委員会、Glycotopic レポーター		
2016年10月～現在	ACS Chemical Biology, Biol Pharm Bull., PLoS ONE, Case Report in Genetics, Biochimica et Biophysica Acta (General Subjects), Trends in Glycoscience and Glycotechnology の reviewer(査読者)を務めた。		
2018年6月～2018年8月	外国人留学生の受け入れ：フィリピン・サントトマス大学の「海外研修プログラム」として学部3年生2名を受け入れ、研究の指導を実施。		
2018年11月	日本薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2018(生物系薬学1) 座長		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	機能分子化学 研究室	職名	氏名	
名城大学			助教	西川 泰弘	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
Team Based Learning の導入			2016年6月	基礎薬学演習4にてTBL形式による中間試験(個人テスト、グループテスト、ピア評価)を実施した。学生自ら考え、議論する機会を設けることにより、授業理解を深めることができた。	
予習必須とするアクティブラーニングの実施			2017年4月～	有機薬化学3にて、毎回の課題を予習し提出、提出課題を授業内で公表、質疑応答、解説する流れの授業を実施した。学生自ら学ぶ姿勢を涵養する機会を設け、学生の予習率が大幅に向上した。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
特になし					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
特になし					
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Pd(II)-Catalyzed Allylic C-H Amination for the Preparation of 1,2- and 1,3-Cyclic Ureas.			共著	2015年1月	Org. Lett. 2015, 17, 888-891.
(論文) Chiral Pyridinium Phosphoramidate as a Dual Brønsted Acid Catalyst for Enantioselective Diels-Alder Reaction.			共著	2016年4月	Org. Lett. 2016, 18, 2004-2007.
(論文) Tetraethylorthosilicate as a mild dehydrating reagent for the synthesis of N-formamides with formic acid.			共著	2017年1月	Tetrahedron Lett. 2017, 58, 860-863.
(論文) Metal Template Assisted Proximal Arrangement of a Nucleophile and an Electrophile: Site-Selective Acylation of α -Hydroxyamides.			共著	2018年5月	Org. Lett. 2018, 20, 3367-3371.
(論文) Enantioselective Bromolactonization of Trisubstituted Olefinic Acids Catalyzed by Chiral Pyridyl Phosphoramidates.			共著	2018年9月	Chem. Eur. J. 2018, 24, 18880-18885.

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
テンプレート効果を利用するアミド近傍ヒドロキシ基選択的アシル化反応の開発		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部総会・大会
Site-Selective Acylation of α -Hydroxyamides in Polyols		2018年10月	ICPAC Langkawi 2018
グルカールを糖供与体とする C-マンノシルトリプトファンの合成研究		2018年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム
テンプレート効果を利用する β -ヒドロキシアミド選択的アシル化反応の開発		2018年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2005年2月～現在	日本薬学会会員		
2008年1月～現在	有機合成化学協会会員		
2016年10月～現在	日本化学会会員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬品作用学研究室	職名	助教	氏名	衣斐 大祐
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫							
講義で扱う疾患ごとに症例を提示し、薬剤師として適切な対応をグループで考えさせた				2017年4月～	薬理・病態Ⅰでは、疾患・病態と薬理学を繋ぎながら講義を進めている。講義では、まずスライドを用いて疾患とその疾患で用いる薬物の薬理学を解説する。その後疾患ごとに症例を提示し、グループごとでその症例に対し、薬剤師としてどのような対応が望ましいか、など講義の内容を踏まえ、考えてもらう。		
(成績評価での取組) 発表または質問を成績評価に反映することによる議論の活発化				2017年4月～	薬理・病態Ⅰの講義中に疾患ごとに症例を提示し、グループごとで症例について話し合い、薬剤師として何が出来るか、最善の治療方法は何かを考えさせた。		
学生から分からないところ、もう少し説明して欲しいところを講義の中で紹介・説明する				2017年4月～	講義前後に学生から分からないところ、もう少し説明して欲しいところを聞き、その次の講義までにその質問に関する資料を作成し、説明した。		
「薬理・病態Ⅰ 演習」において薬理・病態Ⅰの成績が良くなかった学生を対象とした科目のため学生と相談しながら柔軟に講義内容を考えた				2017年9月～	薬理・病態Ⅰ 演習の受講者は薬理・病態Ⅰで成績が良くなかったものであり、学生のリクエストに応じて本試験を1問ずつおさらいする事と学生が苦手な箇所を何度も復習した。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
摂南大学薬学部にてTBLを用いた講義の方法について学ぶ				2015年11月27日	名城大学薬学部の教員7名と摂南大学薬学部へ訪問し、安原智久先生からTBLに関する方法・説明等を受けた。		
高大接続改革の狙いと方向性に関するFDフォーラムに参加				2016年11月2日	名城大学天白キャンパスにて文部科学省の方が来られ、高大接続改革の狙いと方向性について説明された。		
藤田保健衛生大学(現 藤田医科大学)で行われた多職種連携授業(アセンブリⅢ2017)への参加				2017年6月23日	藤田保健衛生大学(現 藤田医科大学)、日本福祉大学の学生、名城大学薬学部の学生がグループを作り、『～認知症の方とご家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには～』について話し合い、それをまとめた内容の発表会が行われ、補助教員として参加した。		
藤田保健衛生大学(現 藤田医科大学)で行われた多職種連携授業(アセンブリⅢ2018)への参加				2018年6月15日、22日	藤田保健衛生大学(現 藤田医科大学)で行われた多職種連携授業(アセンブリ)に学生の補佐教員として参加した。		

地域を支える人材育成プラットフォーム 事業 5 大学合同 FD への参加	2018 年 10 月 13 日	名城大学薬学部で行われた 5 大学（藤田医科大学、愛知学院大学、愛知教育大学、日本福祉大学、名城大学薬学部）合同の FD「医療・教育・福祉における人材育成と多職種連携教育の役割」に参加した。	
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称
（論文）Astroglial IFITM3 mediates neuronal impairments following neonatal immune challenge in mice	共著	2013 年 5 月	Glia 61:679-693
（論文）FUS regulates AMPA receptor function and FTLD/ALS-associated behaviour via GluA1 mRNA stabilization	共著	2015 年 5 月	Nature Communications. 6:7098
（論文）Antipsychotic-induced <i>Hdac2</i> transcription via NF-κB leads to synaptic and cognitive side effects	共著	2017 年 9 月	Nature Neuroscience. 20:1247-1259
（論文）MEF2C transcription factor is associated with the genetic and epigenetic risk architecture of schizophrenia and improves cognition in mice	共著	2018 年 1 月	Molecular Psychiatry. 123:123-132
（論文）Effect of AceK (acesulfame potassium) on brain function under dietary restriction in mice	共著	2018 年 5 月	Physiology & Behavior. 388:102-177
2 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
家族性アルツハイマー病モデルマウスにおける学習・記憶障害及び海馬における遺伝子発現に対するベタイン連続飲水摂取の影響		2018 年 6 月	第 64 回 日本薬学会 東海支部大会
胎生期 polyI:C 投与により世代間で継承される行動異常に対する Reelin による海馬内レスキュー投与		2018 年 8 月	日本薬学会薬理系薬学部会 生体機能と創薬シンポジウム 2018
父獣へのバルプロ酸連続投与が仔の行動および脳内ヒストンのアセチル化に与える影響		2018 年 8 月	日本薬学会薬理系薬学部会 生体機能と創薬シンポジウム 2018
てんかんモデルマウスの海馬における BDNF の発現制御		2018 年 10 月	第 34 回 日本ストレス学会学術総会
精神疾患治療薬によるエピゲノム		2018 年 10 月	第 34 回 日本ストレス学会学術総会
III 学会および社会における主な活動			
2016 年 1 月～現在	日本薬理学会 評議員		
2018 年 4 月～現在	文部科学省 科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター NISTEP 専門調査員		
2018 年 8 月～現在	名古屋大学 脳とこころの研究センター 若手ワーキンググループ委員		
2018 年 8 月	Pharmacology, Biochemistry and Behavior, 論文査読 (Reviewer)		
2018 年 10 月 27・28 日	第 34 回 日本ストレス学会学術総会 事務局・組織委員		
2018 年 11 月	Psychiatry and Clinical Neurosciences, 論文査読 (Reviewer)		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	生薬学研究室	職名	助教	氏名	日坂 真輔
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイントスライドおよび講義資料の作成				2014年4月～		教科書の要点をまとめたパワーポイントスライドおよび講義プリントの作成を行い、膨大な化合物の情報が記述されている教科書と併用して復習しやすさを目指した資料作りを行った(医薬資源化学)	
講義内使用資料の改善				2017年4月～		新たに教科書の改訂版が出版されることに合わせて、それまでに使用していた講義資料(スライドおよびプリント)を改訂版に則して改善を行った(医薬資源化学)	
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD フォーラムへの参加				2017年2月23日		「大学授業を活性化する～共同学習の視点から～」をテーマとしたFDフォーラムに参加	
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Lipid hydroperoxide-derived adduction to amino-phospholipid in biomembrane.				共著		2014年12月	Subcell Biochem. 77: 41-48
(論文) Farnesyltransferase inhibitor, tipifarnib, prevents galactosamine/lipopolysaccharide-induced acute liver failure.				共著		2014年12月	Shock. 42 (6): 570-577
(論文) A mushroom-derived amino acid, ergothioneine, is a potential inhibitor of inflammation-related DNA halogenation.				共著		2015年9月	Biosci. Biotechnol. Biochem. 80 (2): 313-317
(論文) Comparison of glycyrrhizin content in 25 major kinds of Kampo extracts containing Glycyrrhizae Radix used clinically in Japan.				共著		2017年10月	J. Nat. Med. 71: 711-722
(論文) Modification of alpha-synuclein by lipid peroxidation products derived from polyunsaturated fatty acids promotes toxic oligomerization: its relevance to Parkinson disease.				共著		2018年5月	J. Clin. Biochem. Nutr. 62 (3): 207-212

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
脂質過酸化修飾タンパク質に着目した免疫化学的評価法の開発		2018年5月	第71回日本酸化ストレス学会・第18回日本NO学会合同学術集会
漢方処方 of 科学的解析 (第23報) グリチルレチン酸の血中濃度測定を目指したELISA法の開発		2018年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
加齢に伴う脂質過酸化反応の増加に着目した神経変性疾患関連タンパク質の神経細胞毒性の亢進と生薬成分による制御		2018年9月	天然薬物研究方法論アカデミー第21回研究集会 (蒲郡シンポジウム)
漢方処方 of 科学的解析 (第24報) 麻黄配合処方におけるエフェドリン系アルカロイド含量及び抽出効率について		2018年9月	日本生薬学会第65回年会
III 学会および社会における主な活動			
2005年10月～現在	日本過酸化脂質フリーラジカル学会会員 (現・日本酸化ストレス学会会員)		
2006年3月～現在	日本農芸化学会会員		
2008年12月～現在	日本生化学会会員		
2015年3月～現在	日本薬学会会員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	病院薬学研究室	職名	氏名	福井 愛子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫					
演習スケジュールの改良		2016年10月～	「模擬患者とのロールプレイ」における学生1人あたりの実技時間を短縮して午前のみとし、午後にトランスクリプトの作成と情報提供の演習を行うスケジュールに変更することで、演習の流れを改良した。(実務実習事前学習)		
演習課題、教材ビデオの作成		2017年9月～	退職教員の後任として2017年度より「疑義照会」演習を担当することになり、演習課題と教材ビデオを作成した。(実務実習事前学習)		
実習テキスト・演習課題の作成		2018年9月～	新コアカリキュラムへの移行に伴い、OSCEに新規課題として「医療従事者への情報提供」が追加された。その演習を担当することになり、実習テキストと演習課題を作成した。(実務実習事前学習)		
2 作成した教科書、教材、参考書					
薬学生のための病院実務実習ワークブック第2版(じほう)		2013年3月27日	「第3章 調剤実習」を共同執筆		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
ロールプレイの学生評価と模擬患者評価の比較		2016年5月29日	薬学生と模擬患者のロールプレイにおける学生評価と模擬患者評価の違いについて第10回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会で報告		
4年生が6年生の症例検討会に参加する試み		2016年9月19日	特別臨床研修生による症例検討会へ4年生が参加することにより培われる臨床能力について第26回日本医療薬学会年会で報告		
医師主導型臨床試験サポート実習の教育効果		2018年11月25日	藤田医科大学病院の特別臨床研修で実施している医師主導型臨床試験サポート実習の教育効果について第28回日本医療薬学会年会で報告		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
薬学教員向けセミナーへの参加		2015年5月23日	ループリック作成ワークショップに参加		
薬学部FD講演会への参加		2017年3月2日	多職種連携教育に関する講演会に参加		
教員向け研修会への参加		2017年5月4日	「教える人の教え方」研修会に参加		
薬学教員向けセミナーへの参加		2017年9月9日	ループリック評価体験セミナーに参加		
医学教育ワークショップへの参加		2018年6月2日	第68回医学教育セミナーのワークショップに参加		
医療者向け研修会への参加		2019年1月19～20日	認定コーチ研修会 in 名古屋に参加		

指導的立場の医療者向けセミナーへの参加	2019年2月23日	第11回日本臨床腫瘍学会東海地区セミナーに参加	
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Additional BCAA-enriched nutrient mixture improves the nutritional condition in cirrhotic patients with hypoalbuminemia despite treatment with regular BCAA granules: A pilot study.	共著	2015年7月	Turk. J. Gastroenterol. 26, 328-335
(論文) Vitamin E reduces liver stiffness in nonalcoholic fatty liver disease.	共著	2015年11月	World J Hepatol. 7, 2749-2756
(論文) ボルテゾミブ投与を受けた多発性骨髄腫患者に対する帯状疱疹発症予防についての検討; 多施設後方視的研究	共著	2016年4月	医療薬学, 42, 295-302
(論文) 臨床実習中の上級生による症例報告会に参加した薬学部4年次学生の教育効果	共著	2018年10月	医療薬学, 44, 516-525
(論文) Skeletal muscle mass depletion in patients with hepatitis C virus infection.	共著	2019年1月	Eur J Gastroenterol Hepatol, 31, 59-66
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
サルコペニア判定基準を用いたC型慢性肝疾患における筋肉量減少に関わるリスク因子の検討		2018年6月	第54回日本肝臓学会総会
東海地区の医療系大学によるSP合同勉強会&交流会の活動報告		2018年9月	第12回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会
長期的な医師主導型臨床試験サポート業務を取り入れた薬学生の実習プログラムの教育効果		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2013年7月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 事務局		
2014年3月	第3回東海地区SP勉強会&交流会 事務局		
2014年7月	第4回東海地区SP勉強会&交流会 タスクフォース		
2015年3月	第5回東海地区SP勉強会&交流会 タスクフォース		
2015年7月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ 事務局		
2015年8月	第6回東海地区SP勉強会&交流会 タスクフォース		
2016年3月	第7回東海地区SP勉強会&交流会 タスクフォース		
2016年5月	第10回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会 事務局		
2017年10月	認定実務実習指導薬剤師講習会&アドバンスワークショップ 事務局		
2018年3月	第10回東海地区SP勉強会&交流会 タスクフォース		
2018年8月	第11回東海地区SP勉強会&交流会 タスクフォース		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名 名城大学	講座名	薬学教育開発センター 学生実習部門	職名 助教	氏名	武永 尚子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
パワーポイント講義資料の作成			2017年4月～	実習内容およびその背景を簡潔にまとめたパワーポイントファイルを学内公開サーバー (WebClass) にアップロードし、実習講義の復習に活用した (化学系基礎実習)	
実習内容の改善			2017年4月～	自ら手を動かし学ぶことのできる学生実習とすることを企図して、基礎的な実験から応用的な実験へと段階的に行うように実験内容を再編成し、それぞれの実験の前に講義を行うことで、学生の理解が深まるよう改善を行った(入門実験1(化学系))	
2 作成した教科書、教材、参考書					
特になし					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
初年次薬学入門実習の自己評価とその後の学業成績との関連			2017年6月24日	初年次薬学入門実習に関して第8回日本科学教育学会研究会にて報告	
学生同士の協同による学びのコミュニティの創生を目指した教育実践			2018年3月28日	アクティブラーニングに関して日本薬学会第138年会にて報告	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
FD 研修会等への参加			2016年1月10日～11日	「第57回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」に参加	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻号数) 等の名称
(論文) Asymmetric dearomatizing spirocyclization of naphthols catalyzed by spirobiindane-based chiral hypervalent iodine species			共著	2013年2月	Journal of American Chemical Society, Vol. 135, pp. 4558-4566.
(論文) Facile synthesis of Guaiazulene-heterocycle hybrids via Ugi multicomponent reactions			共著	2015年1月	Heterocycles, Vol.90, pp.113-120.
(論文) Planar chiral [2.2]paracyclophane-based phosphine-phenol catalysts: Application to the aza-Morita-Baylis-Hillman reaction of N-sulfonated imines with various vinyl ketones			共著	2016年9月	Tetrahedron, Vol.72, pp.6892-6897.

(論文) Chiral atropisomeric 8,8'-diiodobinaphthalene for asymmetric dearomatizing spirocyclizations in hypervalent iodine oxidations	共著	2017年10月	Journal of Organic Chemistry, Vol.82, pp.11954-11960.
(論文) Facile Synthesis of Stable Uracil-Iodonium(III) Salts with Various Counterions	共著	2018年5月	Heterocycles, Vol.97, pp.1248-1256.
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
核酸塩基の酸触媒カップリング法と新規合成素子の開発		2018年6月	第7回 JACI/GSC シンポジウム
核酸塩基ヨードニウム塩の合成と新規環状アルキン等価体としての変換反応		2018年10月	第68回日本薬学会近畿支部 総会・大会
Synthesis and Reactivity of Stable Uracil-Iodonium(III) Salts		2018年10月	Frontiers in Chemistry Armenia 2018
安定かつ取り扱い容易な核酸塩基ヨードニウム塩の開発		2019年3月	日本薬学会第139年会
環状歪みアルキンの発生を鍵とした核酸塩基の新規縮環反応の開発		2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
2011年4月～現在	日本薬学会会員		
2012年4月～現在	有機合成化学協会会員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬化学研究室	職名	助教	氏名	吉田 圭佑
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
講義資料の作成			2018年9月～	3年後期に行われる応用演習13では問題演習後、問題の解答とその日に使用する解説のためのスライドはすべて配布し、学生が復習する際に利用できるようにした。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD研修会等への参加			2018年1月7日～8日	「第66回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」に参加			
薬学共用試験			2018年4月～2019年1月	CBT および、OSCE 委員を担当			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
(論文) Total Synthesis of (+)-Cytosporolide A via a Biomimetic Hetero-Diels-Alder Reaction.			共著	2015年12月	The Journal of American Chemical Society vol.137 15971-15977		
(論文) Enantioselective Organocatalytic Construction of Spiroindane Derivatives by Intramolecular Friedel-Crafts-type 1,4-addition.			共著	2016年4月	Angewandte Chemie International Edition vol.55 6734-6738		
(論文) Organocatalytic regioselective Chlorosilylation of Oxiran derivatives: Mild and Effective Insertion of the Bulky Silyl Chloride by Using 4-Methoxy Pyridine N-oxide.			共著	2016年6月	Advanced Synthesis & Catalysis vol.358 1886-1891		
(論文) Organocatalytic Chemoselective Monoacylation of 1,n-Linear Disulfonamides.			共著	2017年3月	Tetrahedron Letters vol.58 1030-1033		
(論文) Enantioselective Total synthesis of (-)-Misramine.			共著	2018年8月	Organic Letters vol.20 5044-5047		

2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
[2.2]パラシクロファン骨格を有する面不斉ホスフィン触媒を用いた [3+2]型環化反応		2018年6月	第113回有機合成シンポジウム
面不斉ビスチオウレア分子が触媒する不斉Henry 反応における基質 適用範囲の拡大検討		2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
天然物の全合成および医薬品合成を志向する有機触媒反応の開発		2018年6月	第178回薬学談話会
エナンチオ選択的分子内 Friedel-Crafts 型 1,4-付加反応を利用する (-)-ミスラミンの全合成		2018年9月	第48回複素環化学討論会
Enantioselective Total synthesis of (-)-Misramine		2018年10月	ICPAC LANGKAWI 2018
[2.2] パラシクロファン骨格を有する面不斉ホスフィン-フェノール 触媒: アレンとメチレンインドリノンの[3+2] 環化反応への適用		2018年10月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2006年11月～現在	日本薬学会会員		
2009年6月～現在	有機合成化学協会会員		
2010年11月～現在	日本プロセス化学協会会員		
2013年11月～現在	日本化学会会員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	薬効解析学研究室	職名	助教	氏名	水野 智博
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫							
復習用課題の配布				2015年11月～	講義内容を網羅した復習用課題を配布し、次回講義で解説を実施した。自学自習を促すため、該当課題を学内公開サーバー (WebClass) にアップロードした。(生理活性分子)		
TBLの導入				2016年10月～	演習の効率化を図るため、2016年度の当該科目において、TBLの導入を試みた。学習内容およびiRAT、tRATは、2年次に実施した生理活性分子に準拠したものであったが、生理活性分子の定期試験成績が下位学生の中にiRAT、tRATで高得点を挙げる学生も見受けられ、一部の学生に対して、TBLの有用性が認められた。(基礎薬学演習3)		
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
薬学部5年次学生に対する褥瘡教育の導入				2017年3月25日	5年次学生へ開講されている臨床薬物治療学において、褥瘡教育を導入し、教育効果が認められたことを日本薬学会第135年会で報告		
学部教育におけるポリファーマシー対策講義の導入				2018年11月25日	4年次学生へ開講されている薬物治療マネジメントにおいて、ポリファーマシー関連講義を導入した事例について第28回日本医療薬学会で報告		
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD研修会等の運営補助				2016年1月9日～11日	「第57回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海」にタスクフォースメンバーとして参加		
FD研修会等の運営補助				2017年1月7日～9日	「第60回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海」にタスクフォースメンバーとして参加		
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称	
(論文) The risk factors of severe acute kidney injury induced by cisplatin.				共著	2013年12月	Oncology.	85: 364-369
(論文) Lower Blood Pressure-Induced Renal Hypoperfusion Promotes Cisplatin-Induced Nephrotoxicity.				共著	2016年5月	Oncology.	90: 313-320

(論文) Complement component 5 promotes lethal thrombosis.	共著	2017年 2月	Sci Rep. 7: 42714
(論文) Clinical medication review tool for polypharmacy: Mapping approach for pharmacotherapeutic classifications.	共著	2017年 11月	Geriatr Gerontol Int. 17: 2025-2033
(論文) Chondroitin sulfate protects vascular endothelial cells from toxicities of extracellular histones.	共著	2018年 5月	Eur J Pharmacol. 826: 48-55
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
MeWCA の活用による健康サポート薬局を中心としたコミュニティ形成		2018年 5月	NPO 法人医療福祉クラウド協会シンポジウム 2018
細胞外ヒストンは細胞表面の Crry および CD59a 発現を低下させる。 Extracellular histones decrease the expression of membrane complement regulators.		2018年 8月 2018年 9月	第 55 回日本補体学会 27 th International complement workshop
致死性血栓症モデルにおける膜補体制御因子の発現解析		2018年 11月	日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部 合同学術大会 2018
学部教育におけるポリファーマシー対策		2018年 11月	第 28 回日本医療薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2007年 4月～現在	日本医療薬学会会員		
2007年 4月～現在	日本薬学会会員		
2009年 4月～2018年 3月	日本病院薬剤師会会員		
2009年 4月～2018年 3月	愛知県病院薬剤師会会員		
2010年 4月～現在	日本補体学会会員		
2010年 4月～現在	日本腎臓病薬物療法学会会員		
2014年 4月～現在	日本薬理学会会員		
2016年 4月～現在	日本医薬品安全性学会会員・評議員		
2018年 11月	日本腎臓病薬物療法学雑誌 Reviewer		
2018年 4月～現在	名城大学薬学部公開講座「健康づくりのための健康実践教室」講師		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	病態解析学 I 研究室	職名	氏名	
名城大学			助教	吉見 陽	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
実務実習におけるミニ症例検討会			2018年5月～	実務実習にて経験すべき 8 疾患を症例ベースの生きた知識を獲得するため、名古屋大学医学部附属病院において実習する名城大学薬学部 5 年生 10 名、他大学薬学部 10 名をスモールグループ (各 5 名) に分け、病棟実習の中間報告後に週 1 回半日の時間を取って症例検討会を実施。自病棟の症例はより詳しく説明できる知識を身に付け、他病棟の症例については疾患の病態・病状の確認や治療方針について質問し討論することで多様な症例について薬学的視点で症例に向き合う経験を積むことができる。(病院実務実習)	
デバイスの手技獲得			2018年5月～	臨床系薬学教員が早期から医薬品デバイスの取り扱い方を指導し、実戦形式の体験を促すことでデバイスの扱い方を事前学習前に習得。事前学習では習得したデバイスを模擬患者に指導する一歩進んだ講義が実践可能となり、形成的な教育と将来的な OSCE 新規課題への対策に有機的に機能する。(薬物治療マネジメント)	
2 作成した教科書、教材、参考書					
処方管理学 (南山堂 9)			2017年4月	頭痛を伴ううつ病の症例の薬物療法について精神薬理学的な観点からの処方管理についてエビデンスやガイドラインを踏まえて共同執筆	
スタンダード薬学シリーズ II-7 臨床薬学 I (東京化学同人)			2017年10月18日	臨床現場で学ぶ心構え、薬歴・患者の状態から適切に疑義照会を実践する方法について共同執筆	
病態を理解して組み立てる 薬剤師のための疾患別薬物療法 II 精神・脳神経疾患/消化器疾患 (改訂第 2 版) (南江堂)			2018年3月27日	うつ病の薬物治療についてガイドラインを踏まえて精神科薬物療法の実践について共同執筆	
精神科薬物療法マニュアル (南山堂)			2018年7月5日	向精神薬の基礎薬理について共同執筆	
メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 精神医学 (理工図書)			2018年8月17日	精神科薬物療法について共同執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
チーム医療を支える多職種連携教育 (Interprofessional Education & Practice : IPEP) - 医薬連携による模擬患者参加型 IPEP -			2016年8月28日	カルテを読むに名古屋大学医学部と連携して SP 参加型 IPE を実践した内容を第 1 回日本薬学教育学会大会で報告	

4 その他教育活動上特記すべき事項			
特になし			
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) High-resolution copy number variation analysis of schizophrenia in Japan.	共著	2016年10月	Mol. Psychiatry 22(3): 430-440
(論文) Juvenile social defeat stress exposure persistently impairs social behaviors and neurogenesis.	共著	2018年5月	Neuropharmacology 133: 23-37
(論文) Single-cell trajectory analysis of human homogenous neurons carrying a rare RELN variant.	共著	2018年7月	Transl. Psychiatry 8(1): 129
(論文) Dysfunction of Serotonergic and Dopaminergic Neuronal Systems in the Antidepressant-Resistant Impairment of Social Behaviors Induced by Social Defeat Stress Exposure as Juveniles.	共著	2018年9月	Int. J. Neuropsychopharmacol. 21(9): 837-846
(論文) Comparative Analyses of Copy-Number Variation in Autism Spectrum Disorder and Schizophrenia Reveal Etiological Overlap and Biological Insights.	共著	2018年9月	Cell. Rep. 24(11): 2838-2856
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
精神科薬剤師による基礎・臨床の架け橋となる取り組み		2018年9月	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
プロテオーム解析による統合失調症の末梢バイオマーカーの探索と臨床応用性の検証		2018年9月	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
III 学会および社会における主な活動			
2008年6月～現在	日本臨床精神神経薬理学会会員		
2008年10月～現在	日本薬理学会会員		
2009年5月～現在	日本生物学的精神医学会会員		
2010年5月～現在	日本病院薬剤師会会員		
2012年5月～現在	精神科臨床薬学(PCP)研究会会員		
2012年7月～現在	日本薬学会会員		
2014年1月～現在	日本神経精神薬理学会会員		
2016年4月～現在	OSCE 運営委員		
2016年4月～現在	SP 委員会		
2016年5月～現在	日本薬学教育学会会員		
2016年9月～現在	日本精神薬学会会員		
2017年4月～現在	実務実習指導薬剤師 WG 委員		
2017年4月～現在	薬学臨床系教員連絡会会員		
2017年4月～現在	実務実習教科担当教員会議委員		
2017年7月～2018年12月	第2回日本精神薬学会総会・学術集会事務局長		
2018年6月～2020年6月	精神科専門薬剤師部門試験委員会 委員		
2018年6月～2020年6月	精神科専門薬剤師部門試験問題作成 委員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	製剤学研究室	職名	助教	氏名	近藤 啓太
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
学生の理解度を高める講義資料の工夫			2013年6月～	実験実習において、実験の操作および原理などについてアニメーションを駆使した資料を用いて講義を行い、学生の理解度を高める工夫を行った。(物理系基礎実習(製剤))			
毎講義ごとの小テスト実施による予習の励行			2014年4月～	講義開始時にその日の講義に関連する内容の小テストを実施し、講義に対する予習の習慣化を図った。(薬学英語I)			
2 作成した教科書、教材、参考書							
物理化学実習書の執筆			2016年3月20日	物理系基礎実習で使用する学生用テキストの「V.粉体物性」および「VI.製錠と錠剤物性」の項目を分担執筆した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD研修会などの講習会への参加			2015年3月9日	学内で開催されるFDフォーラム等に参加し、講習会で習得した教授方法を講義等に取り入れて実践している。			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
(論文) Design of sustained release fine particles using two-step mechanical powder processing: Particle shape modification of drug crystals and dry particle coating with polymer nanoparticle agglomerate			共著	2013年9月	Int. J. Pharm., 453: 529-532		
(論文) Preparation of sustained-release coated particles by novel microencapsulation method using three-fluid nozzle spray drying technique			共著	2014年1月	Eur. J. Pharm. Sci., 51: 11-19		
(論文) Development of a novel pelletization technique through an extremely high-shear process using a mechanical powder processor to produce high-dose small core granules suitable for film coating			共著	2015年4月	Int. J. Pharm., 483: 101-109		
(論文) Spheronization mechanism of pharmaceutical material crystals processed by extremely high shearing force using a mechanical powder processor			共著	2016年10月	Eur. J. Pharm. Biopharm., 107: 7-15		

(論文) Mechanical particle coating using polymethacrylate nanoparticle agglomerates for the preparation of controlled release fine particles: The relationship between coating performance and the characteristics of various polymethacrylates	共著	2017年10月	Int. J. Pharm., 532: 318-327
2 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
V型混合機による乾式錠剤コーティング法の開発		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
球形添加剤を用いた凍結粉碎技術の開発		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
茶葉の優れた分散性を有するインスタント抹茶錠の製剤設計		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
乳幼児用成形ミルクの硬度と法改正に及ぼす原料粉ミルクの粒度の影響		2018年5月	日本薬剤学会第33年会
乾式粉碎・複合化技術による多様な溶出挙動を有する薬物微細粒の設計		2018年7月	第64回日本薬学会東海支部大会
機械的せん断処理装置による結晶セルロース微小球形粒子の設計		2018年7月	第64回日本薬学会東海支部大会
V型混合機を用いた乾式錠剤コーティング法の確立		2018年10月	第35回製剤と粒子設計シンポジウム
乾式粉碎・被覆化技術 (Dry mill, Dry coat) による放出遅延のない苦味マスキング粒の設計		2018年10月	第35回製剤と粒子設計シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
2008年10月～現在	粉体工学会 一般会員		
2009年2月～現在	日本薬学会 一般会員		
2009年4月～現在	日本薬剤学会 一般会員		
2014年1月～現在	製剤機械技術学会 一般会員		
2014年1月～現在	PLCM シンポジウム 会場運営		
2014年10月～現在	日本薬学会学術誌 (Chem. Pharm. Bull., Bio. Pharm. Bull.) Reviewers		
2014年12月～現在	粉体工学会学術誌 (Adv. Powder Technol.) Reviewers		
2015年4月～現在	Int. J. Pharm.誌 Reviewers		
2016年5月	日本薬剤学会第31年会 会場責任者		
2016年9月～現在	化学工学会 正会員		

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	衛生化学研究室	職名	助教	氏名	青木 明
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
新しい実習内容の導入			2017年10月～	衛生試験法に準拠した食品成分の検出法に加えて、新たに、HRM（高分解能融解曲線）分析を用いた食肉の鑑別法を実習項目として導入することで、より応用的・実践的な実習となるように工夫した。（分析系応用実習（衛生化学））			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD 研修会等への参加			2016年10月15日～16日	「第58回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」に参加			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻号数）等の名称		
(論文) Transactivation of the human retinoid X receptor by organotins: use of site-directed mutagenesis to identify critical amino acid residues for organotin-induced transactivation.			共著	2015年5月	Metallomics 7: 1180-1188		
(論文) Male hypogonadism causes obesity associated with impairment of hepatic gluconeogenesis in mice.			共著	2016年4月	Biol. Pharm. Bull. 39: 587-592		
(論文) Ligand activity of group 15 compounds possessing triphenyl substituent for the RXR and PPAR γ nuclear receptors.			共著	2016年10月	Biol. Pharm. Bull. 39: 1596-1603		
(論文) Selenium uptake through cystine transporter mediated by glutathione conjugation.			共著	2017年1月	J. Toxicol. Sci. 42: 85-91		
(論文) Metabolomic analysis uncovered an association of serum phospholipid levels with estrogen-induced mammary tumors in female ACI/Seg rats.			共著	2018年5月	Toxicol. Lett. 288: 65-70		
2 学会発表（評価対象年度のみ）				発表年・月	学会名		
Development of IL-8 GFP assay using CRISPR/Cas9 genome editing				2018年6月	アジア毒性学会第8回国際会議		
Serum metabolomic analysis for understanding mammary tumorigenic mechanisms induced by long-term estrogen				2018年6月	アジア毒性学会第8回国際会議		

treatment in female ACI/Seg rats		
CRISPR/Cas9 システムを利用した UCP1 レポーター細胞株の作製と解析	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
腸管内分泌細胞における苦味受容体のシグナル伝達に関する研究	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
ノンターゲットメタボローム分析による乳がん関連代謝物の検索	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
香料および関連化合物による TRPA1 活性化の種差に関する研究	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部 総会・大会
ゲノム編集技術を用いた IL-8 GFP assay の開発	2018年7月	第45回日本毒性学会 学術年会
血清リゾホスファチジルコリンによるヒト乳がんMDA-MB-231細胞増殖促進機構の解析	2018年7月	第45回日本毒性学会 学術年会
内在性プロモーターを利用した脱共役タンパク UCP1 レポーターアッセイ系の開発	2018年9月	フォーラム2018:衛生薬学・環境トキシコロジー
褐色脂肪細胞の活性化機構に対するショウガ科由来成分の影響	2018年9月	フォーラム2018:衛生薬学・環境トキシコロジー
消化管内分泌細胞に発現する苦味受容体および Gα タンパク質の解析	2019年3月	日本薬学会第139年会
メタボロミクス解析により明らかになったマンガン曝露依存的なヒトアストロサイトのアミノ酸代謝異常	2019年3月	日本薬学会第139年会
3T3-L1 細胞を用いた UCP1 レポーターアッセイ系の構築と UCP1 発現制御機構の解析	2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動		
2010年7月～現在	日本薬学会会員	
2012年4月～現在	日本毒性学会会員	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	生理学研究室	職名	助教	氏名	都築 孝允
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
パワーポイント講義資料の作成			2018年10月～	教科書や最新の情報をまとめたパワーポイントファイルを講義の1週間前までにポートフォリオにアップロードし、講義の予習を促した(機能形態学Ⅱ)。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
特になし							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
FD研修会等への参加			2018年10月13日	「地域を支える人材育成プラットフォーム事業 5大学合同FD」に参加			
FD研修会等への参加			2018年10月31日	「第20回FDフォーラム」に参加			
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
(論文) Voluntary exercise can ameliorate insulin resistance by reducing iNOS-mediated S-nitrosylation of Akt in the liver in obese rats			共著	2015年7月	PLoS One. 10(7): e0132029		
(論文) 運動によるインスリン抵抗性の改善に関する新たな分子メカニズム			共著	2015年9月	基礎老化研究 39(3): 29-32		
(論文) Attenuation of exercise-induced heat shock protein 72 expression blunts improvements in whole-body insulin resistance in rats with type 2 diabetes			共著	2017年1月	Cell Stress & Chaperones. 22(2): 263-269		
(論文) Effects of voluntary running exercise on bone histology in type 2 diabetic rats			共著	2018年2月	PLoS One. 13(2): e0193068		
(論文) Body temperature elevation during exercise is essential for activating the Akt signaling pathway in the skeletal muscle of type 2 diabetic rats			共著	2018年10月	PLoS One 13(10): e0205456.		
2 学会発表(評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名		
Treadmill exercise training protect against metabolic dysfunction and diaphragm weakness in obese diabetic rats				2018年4月	Experimental Biology 2018		
High-fat diet augments muscle atrophy by changes of muscle atrophy-related genes in mice				2018年4月	Experimental Biology 2018		
Effects of heat stress treatment and leucine supplementation on age-related muscle loss in mice				2018年4月	Experimental Biology 2018		

Long-term physical inactivity exacerbates hindlimb unloading-induced soleus muscle atrophy in young rats	2018年6月	American College of Sports Medicine 65th Annual Meeting
ジフェニルアルシン酸ばく露によるヒト小脳由来アストロサイトの異常活性化：細胞増殖亢進とMAPキナーゼ活性化	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
アストロサイト系細胞におけるジフェニルアルシン酸によるグルタミン酸分泌亢進とその意義	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
PlexinA1 遺伝子欠損マウスにおける統合失調症様行動	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
肥満マウスにおけるキサンチンオキシダーゼの阻害は一過性運動による骨格筋の糖代謝関連シグナル伝達に影響を与えない	2018年9月	第73回日本体力医学会大会
性ホルモン関連遺伝子多型と骨格筋ミオシン重鎖アイソフォームとの関連	2018年9月	第73回日本体力医学会大会
伸張性運動を行うタイミングの違いがラットヒラメ筋の肥大に及ぼす影響	2018年9月	第73回日本体力医学会大会
III 学会および社会における主な活動		
2011年1月～現在	日本健康体力栄養学会 会員	
2011年5月～現在	日本体力医学会 会員	
2014年4月～現在	日本基礎老化学会 会員	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	医薬品情報学 研究室	職名	氏名	
名城大学			助教	酒井 隆全	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
シミュレーション症例の作成			2018年4月～	講義で学習した疾患と薬物療法を題材にシミュレーション症例を作成し、e-PDE システムにアップロードすることで、学生の復習を促した (薬物治療マネジメント)	
実習内容の改善			2018年11月～	より臨床的に汎用される医薬品について学習できる実習とすることを企図し、改訂薬学教育モデルコア・カリキュラムに定められた疾患における模擬症例を新規に作成し、実習に導入した (物理系応用実習(医薬品情報))	
2 作成した教科書、教材、参考書					
特になし					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
薬剤師国家試験における症例問題の効果的な学習方法の検討 —シミュレーション学習システム e-PDE を利用—			2018年9月1日	薬物治療マネジメントに用いられているシミュレーション学習システム e-PDE の学習効果について、第3回日本薬学教育学会大会で報告した	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
FD 研修会等への参加			2018年6月29日	「第8回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議」に参加	
FD 研修会等への参加			2018年7月18日～19日	「第68回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海」に参加	
薬学共用試験			2018年9月～12月	OSCE 委員として領域4の補助・結果管理などを担当	
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Prevalence, determinants, and reasons for the non-reporting of adverse drug reactions by pharmacists in the Miyagi and Hokkaido Regions of Japan.			共著	2015年9月	Adv. Pharmacoepidemiol. Drug Saf. 4:191.
(論文) Knowledge of and perspectives on pharmacovigilance among pharmacists in the Miyagi and Hokkaido regions of Japan.			共著	2016年2月	J. Pharmacovigil. 4: 192.

(論文) Exploring Risk Factors that Contribute to the Onset of Ritodrine-Associated Serious Adverse Drug Reactions.	共著	2016年12月	J. Pharmacovigil. 4: 224.
(論文) Signal of Miscarriage with Aripiprazole: A Disproportionality Analysis of the Japanese Adverse Drug Event Report Database.	共著	2017年11月	Drug Saf. 40: 1141-1146.
(論文) The Effectiveness of Counseling Using Preventative Informational Sheets with Climate and Environmental Data from Insurance Pharmacies in Preventing Worsened Asthma Symptoms.	共著	2018年12月	Yakugaku Zasshi. in press.

2 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
日本の有害事象自発報告データベース (JADER) を用いた学術論文の実態調査	2018年6月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
薬剤師の在宅医療への取り組み—療法士と比較して—	2018年6月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
薬剤性心不全の早期発見のための危険因子及び自覚症状の探索	2018年6月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
危険因子及び自覚症状からの副作用推測式サポートシステムの構築 (第2報)	2018年6月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
妊婦への薬物療法による新生児薬物離脱症候群の発現と患者背景の特徴	2018年7月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
日本の有害事象自発報告データベース (JADER) を用いた研究のあり方に関する検討	2018年7月	第21回日本医薬品情報学会総会・学術大会
国家試験から見た薬剤師が社会から求められている知識—看護師国家試験と比較して—	2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
薬剤師国家試験における症例問題の効果的な学習方法の検討—シミュレーション学習システム e-PDE を利用—	2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
終末期がん患者における在宅療養と病院療養の医療費に関する費用対効果	2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
市販直後調査の現状とその評価 ～SGLT2 阻害剤を例に～	2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
後発医薬品のシェアに影響を与える要因の探索—処方数量を基にした検討—	2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
社会が必要としている薬剤探索に関する研究 — リドカイン外用剤—	2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会

III 学会および社会における主な活動	
2012年4月～現在	愛知県薬剤師会 妊婦・授乳婦医薬品適正使用推進研究班 委員
2015年7月～2017年9月	愛知県薬剤師連盟 組織強化委員
2017年7月～2018年3月	愛知県薬剤師会 総務部会 組織強化検討分科会 オブザーバー
2017年7月～2018年3月	愛知県薬剤師会 地域保健部会 オブザーバー
2018年3月～2018年8月	「医薬品相互作用研究」誌において Reviewer として1報の査読を担当
2018年4月～現在	日本薬剤疫学会 薬剤疫学とデータベースタスクフォース 委員
2018年6月～現在	日本病院薬剤師会 インタビューフォーム検討会 委員
2018年10月～現在	「医薬品情報学」誌において Reviewer として1報の査読を担当

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績					
大学名	講座名	生体機能分析学 研究室	職名	氏名	足田 清美
I 教育活動					
教育実践上の主な業績			年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫					
複数ヶ所での実験の流れのデモンストレーション			2013年4月～	1年生入門実験2と2年生分析系基礎実習(分析化学)担当。EAの学生による実験室内複数ヶ所でのデモンストレーション。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
2年生分析系基礎(分析化学)実習テキスト(共著)			2013年4月1日	実験方法と注意事項	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
特になし					
II 研究活動					
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称
(論文) Phenolic constituents from stem bark of <i>Erythrina poeppigiana</i> and their inhibitory activity on human glyoxalase I.			共著	2014年7月	J. Nat. Med., 68, 636-642
(論文) Inhibitory Effect of Isoflavones from <i>Erythrina poeppigiana</i> on the Growth of HL-60 Human Leukemia Cells through Inhibition of Glyoxalase I.			共著	2015年9月	Nat. Prod. Commun., 10, 1581-1584
(論文) Potent apoptosis-inducing activity of erypoeigin K, an isoflavone isolated from <i>Erythrina poeppigiana</i> , against human leukemia HL-60 cells.			共著	2018年1月	J. Nat. Med., 72, 260-266
(論文) Effect of resveratrol dimers and tetramers isolated from vitaceous and dipterocarpaceous plants on human SIRT1 enzyme activity			共著	2018年11月	Nat. Prod. Commun. 13, 1531-1534
(論文) Structural analysis of the inhibitory effects of polyphenols, (+)-hopeaphenol and (-)-isohopeaphenol, on human SIRT1			共著	2018年12月	Biofactors, doi: 10.1002/biof.1479
2 学会発表(評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名
(S)-erypoeigin Kによるヒト白血病細胞株 HL-60 に対するアポトーシス誘導活性				2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会

脂肪分化におけるレギュカルチンの機能的役割の解析	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
レギュカルチン発現誘導化合物による炎症性メディエーターの産生抑制効果	2018年6月	第64回日本薬学会東海支部大会
植物由来レスベラトロールオリゴマーの白血病細胞株 HL-60 の細胞増殖に対する効果	2018年9月	第91回日本生化学会大会
PC12 細胞におけるアミロイド β 誘導性の細胞内ストレスに対する regucalcin の保護作用	2018年11月	第41回日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動		
1993年4月～現在	日本農芸化学会会員	
1994年1月～現在	日本薬学会会員	
1999年5月～現在	日本生化学会会員	
2006年5月～現在	日本神経化学会会員	

(基礎資料 15) 専任教員の教育および研究活動の業績

専任教員の教育および研究活動の業績							
大学名	名城大学	講座名	分析センター	職名	助手	氏名	酒井 達子
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年月日	概要			
1 教育内容・方法の工夫							
分析センター利用説明会を開催			2007年4月～	高度な教育と研究活動を支援するために設置された全学共同利用施設である名城大学分析センターを教員や学生に周知するため、毎年、分析センター利用説明会を開催している。			
2 作成した教科書、教材、参考書							
分析センター利用説明会で配布する資料			2007年4月～	分析センター利用説明会で使用したパワーポイントで作成した資料。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
特になし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
特になし							
II 研究活動							
1 著書・論文等の名称			単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻号数)等の名称		
(論文) Multi-imaging of cytokinin and abscisic acid on the roots of rice(<i>Oryza sativa</i>) using matrix-assisted laser desorption/ionization mass spectrometry			共著	2017年9月	J. Agric. Food Chem., 65, 7624-7628		
2 学会発表(評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名		
特になし							
III 学会および社会における主な活動							
1993年3月～現在		日本分析化学会 有機微量分析研究懇談会 委員会 委員					
1995年5月～現在		日本分析化学会 有機微量分析研究懇談会 標準試料検定小委員会 委員					
2004年5月～2013年2月		日本分析化学会 有機微量分析研究懇談会 標準試料検定小委員会 委員長					
2013年4月～現在		日本質量分析学会 中部談話会 世話人					
2017年3月～2019年2月		日本分析化学会 有機微量分析研究懇談会 委員会 委員長					